

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 160

津島遺跡 3

北池・南池地点の発掘調査

2001

岡山県教育委員会

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 160

津島遺跡 3

北池・南池地点の発掘調査

2001

岡山県教育委員会



1 北池地点全景 1963年3月（北東から）（近藤撮影）



2 南池地点全景 1962年12月下旬（南東から）（近藤撮影）



1 南池豎穴住居3（北から）（近藤撮影）



2 南池豎穴住居11（南から）（近藤撮影）



1 南池豎穴住居 6・7 (東から) (近藤撮影)



176



177



178

2 南池H区土壌 3 (近藤撮影) と出土遺物

卷頭図版4



1 南池北2 A区出土弥生時代前期壺 (227)



2 南池J区出土弥生時代前期壺 (350)



635



634



116



583

3 調査区・遺構出土弥生時代後期土器

序

岡山県中央部をほぼ南北に貫いて流れる旭川は、河口近くの両岸に広大な岡山平野を形成しています。この肥沃な平野には、いにしえより人々の生活の跡が絶えることなく、多数の遺跡の存在が知られており、重要な遺跡も少なくありません。現在の岡山県総合グラウンドを中心とする津島遺跡も、弥生時代の遺跡として戦前からよく知られていました。

津島遺跡が縄文時代晩期から古墳時代にわたる複合遺跡であることが認識されたのは、北池・南池地点の調査の成果によるところが大であります。昭和37年の岡山国体開催に向けての総合グラウンド内整備に伴って、北池・南池が掘削されました。掘削は瓦粘土の採掘を兼ねていて、そこからはおびただしい遺物と遺構が現れました。この現状を憂慮した岡山県内の考古学研究者は、岡山県教育委員会に現状を訴え対応を求めましたが、県教育委員会は人員の点でも費用の点でもただちに対応できない状態が続きました。これに対して鎌木義昌氏・近藤義郎氏を中心とした県内の考古学研究者、倉敷考古館職員、岡山市内の中・高校の職員や生徒の有志、岡山大学教育学部および法文学部の学生有志が、本務のかたわら休日などの時間を割いて献身的に緊急の調査に着手されました。その尽力により津島遺跡の重要性が世に知られることになったのです。

昭和35年から38年にかけて実施された第1次から4次の発掘調査により、弥生時代前期・中期の微高地、弥生時代後期の集落の存在を明らかにすることとなり、また弥生時代前期の土器はもっとも古い一群に位置づけられるとして注目されていました。

このたび、第60回国民体育大会に係る発掘調査とともに、津島遺跡の意義を明らかにするために過去の成果もまとめるべきとの考えが出てまいりました。そこで、過去の調査参加者の意見を拝聴した結果、全面的に協力が得られることになりましたので、ここに念願の報告書刊行にこぎつけることができました。

報告書刊行にあたりましては、当時の調査担当者の近藤義郎氏をはじめとする県内の考古学研究者、岡山市内の中・高校の旧職員や旧生徒、岡山大学教育学部旧学生の有志にご足労を願い、御討議していただくと共に資料の提供をしていただきました。上記の諸氏・諸機関の指導・協力に対し、厚く御礼申し上げます。

平成13年3月

岡山県古代吉備文化財センター

所長 正岡睦夫

例 言

- 1 本報告書は、津島遺跡北池・南池地点の発掘調査をまとめたもので、岡山県総合グラウンド内の津島遺跡発掘調査報告書としては3冊目にあたる。
- 2 遺跡は岡山市津島一帯に広がるが、中心は岡山市いずみ町に所在する岡山県総合グラウンドで、発掘調査地点はその北東部にあたる。
- 3 調査地点の名称は、北側で三角池・小池とも呼称された池を「北池地点」、南側でスポーツの塔がある池を「南池地点」とする。
- 4 北池・南池地点の発掘調査は、第1次調査は1960（昭和35）年3月と6月～7月、10月に実施されている。第2次調査は、岡山大学医学部根岸 博教授（故人）が主体となり、1961（昭和36）年3月11日～4月25日、第3次調査は、岡山県教育委員会が主体となって1962（昭和37）年12月25日～1963（昭和38）年1月13日、第4次調査も岡山県教育委員会が主体となって1963（昭和38）年3月21日～3月31日の期間で実施した。いずれの調査も鎌木義昌（故人）・近藤義郎の両氏が調査担当者となり、岡山大学教育学部および法文学部学生有志、倉敷考古館職員、岡山市内の中・高校の職員や生徒、そのほか県内の考古学研究者が共同して実施された。
- 5 発掘調査の内容については、当時の調査担当者の一人近藤義郎氏をはじめ、間壁忠彦・西川宏・岡本明郎・田仲（西尾）満雄・出宮徳尚・難波俊成・春成秀爾・高橋 護・河本 清・葛原克人諸氏の指導、助言を得ました。記して感謝いたします。
- 6 報告書の作成にあたっては、調査担当者の近藤義郎および旧津島遺跡調査団の諸氏のほか、岡山大学考古学研究室、岡山理科大学、瀬戸内考古学研究所、倉敷考古館、調査に参加された研究者諸氏、岡山県遺跡保護調査団などの関係諸機関、諸氏から指導・協力を得ました。記して感謝の意を表します。
- 7 本書に掲載した図面は、旧津島遺跡調査団によって作成されたもので、近藤義郎氏保管のものと間壁忠彦氏保管のものを使用した。なお、掲載した図面については、作成者名を図面下に明記した。
- 8 調査時の写真については、近藤義郎氏、難波俊成氏の撮影されたものを使用した。
- 9 報告書作成、全体編集は岡山県古代吉備文化財センター職員氏平昭則が担当し、高畑知功、島崎東の協力を得て平成12（2000）年度に行った。
- 10 報告書の執筆は、第2章を正岡陸夫（岡山県古代吉備文化財センター所長）、第3章第1節を松本和男（岡山県教育庁文化課長代理）が担当し、それ以外は氏平が行った。
- 11 遺物写真については江尻泰幸氏の協力と援助を受けた。
- 12 遺物の自然科学分野における鑑定・分析については下記の諸氏に依頼し、有益な教示を得た。また、土器の胎土分析については加えて報告文をいただいた。

石器・石製品の石材鑑定 妹尾 護（倉敷芸術科学大学）
土器の胎土分析 白石 純（岡山理科大学）
- 13 本報告書に関係する出土遺物ならびに図面・写真類は、表1のとおり保管されている。
- 14 『津島遺跡2』で収載すべき重要な遺物があらたに確認されたので、今回の報告書に補遺編として掲載している。

凡 例

- 1 本報告書で使用した方位は磁北であるが、挿図に記載のないものは実測図に記載がないものである。ただし第2図のみは方位に真北を用いている。
- 2 本報告書で使用した高度は海拔高であり、挿図に記載のないものは実測図に記載がないものである。海拔高の計算は、南池調査で仮原点とされた、南池東側に位置する街灯のねじから導き出した。現在の仮原点の測定値は海拔4.350mである。
- 3 本報告書の第1図に使用した地図は、国土地理院発行の1/25000地形図「岡山北」・「岡山南」を複製・加筆したものである。
- 4 本報告書の遺構と遺物実測図の縮尺は、一部に例外があるが以下のように統一している。

遺構

竪穴住居・土層断面 (1/60) 井戸・土壙 (1/30)

遺物

土器 (1/4) 土製品 (1/3) 金属製品 (1/2)

玉類 (1/2・1/1) 石器・石製品 (1/2・1/3)

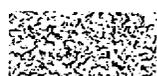
遺物写真については種類の違いによって、おおよそ2/1～1/8の縮尺に合わせている。

- 5 本報告書に掲載した遺物番号は、土器、土製品、石器・石製品、金属製品、玉類、骨角器に分けて通し番号をつけ、土器以外については下記の記号を番号の前に付している。

土製品：C 石器・石製品：S 金属製品：M

玉類：B 骨角器：H

- 6 本報告書における土器の色調は、『標準土色帖 (2000年度版)』(農林水産省・農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修) によっている。
- 7 遺構平面図にスクリーントーンで示した内容は以下の通りである。



炭化米



焼土

- 8 本報告書にもちいた弥生時代から古墳時代前期の遺構・遺物の時期については津寺遺跡における編年に準拠し、古墳時代後期の須恵器は田辺昭三編年、それ以降は一般的な政治史区分と西暦を併用している。

正岡陸夫「第5節 時期区分について」『津寺遺跡5』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告127
1998年

田辺昭三『須恵器大成』1981年 角川書店

本文目次

序

例 言

凡 例

本文目次

第1章 地理的・歴史的環境	1
第2章 発掘調査の状況と体制	4
第1節 発掘調査の状況	4
第2節 発掘調査の体制	5
第3章 報告書の作成	7
第1節 報告書作成の契機	7
第2節 報告書作成の経過	8
第3節 報告書作成の体制	9
第4章 調査の概要	11
第1節 北池地点の調査	11
1 調査の様子と調査区名称	11
2 層序	15
3 弥生時代後期と古墳時代の遺構	15
4 古代以降の遺構	17
5 時期不明の遺構	17
6 その他の遺構・調査区出土遺物	20
第2節 南池地点の調査	20
1 調査の様子と調査区名称	20
2 層序	25
3 弥生時代後期と古墳時代の遺構	31
4 時期不明の遺構	50
第3節 調査区出土遺物	52
第4節 包含層出土遺物	90
第5章 まとめ	97
付 載 武道館建設当初予定地と北池・南池地点出土土器の胎土分析	99
補遺編 武道館建設当初予定地出土遺物	123

挿図目次

第1図	調査区周辺主要遺跡分布図 (1/25,000) ……………	3	第40図	1・2・13区遺構配置図 (S=1/100) ……	30
第2図	総合グラウンド内北池地点・南池地点調査 区位置図 (S=1/2,000) ……………	10	第41図	竪穴住居1断面図 (S=1/60) ・出土遺物 ……………	31
第3図	北池地点調査区配置図 (S=1/500) ……	11	第42図	竪穴住居2 (S=1/60) ……………	32
第4図	D区西壁断面図 (S=1/60) ……………	12	第43図	竪穴住居2第1面出土遺物1 ……………	33
第5図	J区断面図 (S=1/60) ……………	12	第44図	竪穴住居2第1面出土遺物2 ……………	34
第6図	H区断面図 (S=1/60) ……………	12	第45図	竪穴住居2第2面出土遺物 ……………	35
第7図	Q区断面図 (S=1/60) ……………	12	第46図	竪穴住居2出土遺物 ……………	35
第8図	N区北壁断面図 (S=1/60) ……………	12	第47図	竪穴住居2の下層出土遺物 ……………	36
第9図	A～D区、O～Q区遺構配置図 (S=1/200) ……………	13	第48図	竪穴住居3 (S=1/60) ……………	37
第10図	土壙1出土遺物 (S=1/4・1/3) …………… ……………	13	第49図	竪穴住居3出土遺物1 ……………	38
第11図	土壙2 (S=1/30) ……………	14	第50図	竪穴住居3出土遺物2 ……………	39
第12図	土壙2・3出土遺物 ……………	14	第51図	竪穴住居3出土遺物3 ……………	40
第13図	土壙3 (S=1/30) ……………	14	第52図	竪穴住居3B出土遺物1 ……………	41
第14図	土壙4 (S=1/30) ・出土遺物 ……………	14	第53図	竪穴住居3B出土遺物2 ……………	42
第15図	井戸1 (S=1/30) ……………	16	第54図	竪穴住居3B出土遺物3 ……………	43
第16図	井戸1出土遺物 ……………	16	第55図	竪穴住居3B出土遺物4 ……………	44
第17図	溝1出土遺物 ……………	17	第56図	竪穴住居3の下層出土遺物 ……………	45
第18図	柱穴列1 (S=1/60) ……………	17	第57図	竪穴住居3B出土鉄器 ……………	45
第19図	土壙5 (S=1/30) ……………	18	第58図	竪穴住居4・5出土遺物 ……………	45
第20図	土壙6 (S=1/30) ……………	18	第59図	竪穴住居6・7 (S=1/60) ……………	46
第21図	土壙7 (S=1/30) ……………	18	第60図	竪穴住居6出土遺物 ……………	46
第22図	北池遺構・調査区出土遺物 ……………	19	第61図	竪穴住居7出土遺物 ……………	47
第23図	南池地点調査区配置図 (S=1/500) ……	21	第62図	竪穴住居8出土遺物 ……………	47
第24図	南池地点第2次調査調査区配置図 (S=1/500) ……………	22	第63図	竪穴住居9出土遺物 ……………	47
第25図	南池地点調査区名称と断面位置図 (S=1/400) ……………	23	第64図	竪穴住居10出土遺物 ……………	47
第26図	北3A区西壁断面図 (S=1/60) ……………	24	第65図	竪穴住居11 (S=1/60) ・出土遺物 ……	48
第27図	北3B区南・西・北壁断面図 (S=1/60) ……………	24	第66図	竪穴住居11の下層出土遺物 ……………	48
第28図	北5A区南・北壁断面図 (S=1/60) ……	24	第67図	土壙1 (S=1/30) ・出土遺物 ……………	49
第29図	16区断面図 (S=1/60) ……………	24	第68図	土壙2 (S=1/30) ・出土遺物 ……………	50
第30図	第3カット断面図 (S=1/60) ……………	25	第69図	土壙3出土遺物 ……………	51
第31図	第4カット断面図 (S=1/60) ……………	25	第70図	土器棺1 ……………	51
第32図	南池地点第3次調査調査区配置図 (S=1/500) ……………	26	第71図	土壙4 (S=1/30) ……………	51
第33図	B・C区北壁断面図 (S=1/60) ……………	27	第72図	南池北2A区出土遺物1 ……………	53
第34図	C区東壁断面図 (S=1/60) ……………	27	第73図	南池北2A区出土遺物2 ……………	54
第35図	C'区西壁断面図 (S=1/60) ……………	27	第74図	南池北2A区出土遺物3 ……………	55
第36図	E区西壁断面図 (S=1/60) ……………	27	第75図	南池北2A拡張区出土遺物1 ……………	55
第37図	H区西壁断面図 (S=1/60) ……………	27	第76図	南池北2A拡張区出土遺物2 ……………	55
第38図	C'・D区断面図 (S=1/60) ……………	28	第77図	南池北2A拡張2区出土遺物1 ……………	56
第39図	L～S区西壁断面図 (S=1/60) ……………	29	第78図	南池北2A拡張2区出土遺物2 ……………	56
			第79図	南池北2A拡張2区出土遺物3 ……………	57
			第80図	南池北2A拡張2区出土遺物4 ……………	58
			第81図	南池北2B・2D区出土遺物 ……………	58
			第82図	南池8トレンチ・北3B区出土遺物 ……	59
			第83図	南池C区・C'区出土遺物 ……………	59
			第84図	南池J区東出土遺物 ……………	59
			第85図	南池J区西出土遺物 ……………	60

第86図	南池J区南出土遺物	61	第110図	A・B区出土遺物	81
第87図	南池J区出土遺物1	62	第111図	C・C'・D区出土遺物	82
第88図	南池J区出土遺物2	63	第112図	E・F区出土遺物	83
第89図	南池J区出土遺物3	64	第113図	南池北2A拡張区出土遺物	84
第90図	竪穴住居9の下層出土遺物1	65	第114図	南池J区出土遺物	84
第91図	竪穴住居9の下層出土遺物2	66	第115図	南池北2A区・北2B区出土石製品	85
第92図	竪穴住居9の下層出土遺物3	67	第116図	南池北4B・北4C区、4・6区出土 石製品	86
第93図	南池6トレンチ出土遺物1	68	第117図	C区・C'区など出土石製品	87
第94図	南池6トレンチ出土遺物2	69	第118図	南池6トレンチ出土石製品	88
第95図	南池7トレンチ・第4カット出土遺物	70	第119図	南池8トレンチ出土石製品	88
第96図	南池8トレンチ出土遺物	71	第120図	南池J区出土石製品	89
第97図	南池8トレンチ・北4C区・北6区 出土遺物	72	第121図	竪穴住居9の下層出土石製品	89
第98図	南池北2B・北2C区出土遺物	72	第122図	調査区出土土製品	90
第99図	南池北4B・北6区・第3カット出土遺物	72	第123図	包含層出土遺物1〈弥生時代前期〉	91
第100図	南池J区出土遺物	72	第124図	包含層出土遺物2〈弥生時代中期〉	92
第101図	南池1・2区出土遺物	73	第125図	包含層出土遺物3〈弥生時代中期〉	93
第102図	南池4区出土遺物1	74	第126図	包含層出土遺物4〈弥生時代後期 以降〉.....	93
第103図	南池4区出土遺物2・北池4区 出土遺物	75	第127図	包含層出土石製品1・骨角製品	94
第104図	南池5～9区出土遺物	76	第128図	包含層出土石製品2	95
第105図	南池10区出土遺物1	77	第129図	包含層出土石製品3	95
第106図	南池10区出土遺物2	78	第130図	包含層出土土製品・鉄器・玉類	96
第107図	南池11～13・15区出土遺物	78	第131図	銅鐸形土製品	96
第108図	南池16～18区出土遺物	79			
第109図	南池19・20区出土遺物	80			

表 目 次

表 1	本報告書で使用した北池・南池地点出土遺物 および図面・写真等の保管先と資料の種類	表 4	石製品一覧表
表 2	土器観察表	表 5	金属製品一覧表
表 3	土製品一覧表	表 6	玉類・骨角製品一覧表
		表 7	新旧遺構名対照表

巻頭図版目次

巻頭図版 1-1	北池地点全景 1963年 3月 (北東から)	2	南池 H区土壙 3と出土遺物
2	南池地点全景 1962年 12月下旬 (南東から)	巻頭図版 4-1	南池北 2 A区出土 弥生時代前期壺 (227)
巻頭図版 2-1	南池竪穴住居 3 (北から)	2	南池 J区出土 弥生時代前期壺 (350)
2	南池竪穴住居 11 (南から)	3	調査区・遺構出土 弥生時代後期土器
巻頭図版 3-1	南池竪穴住居 6・7 (東から)		

図 版 目 次

図版 1-1	南池調査風景 1961年 3～4月 (東～南東から)
2	南池調査風景 1961年 3～4月 (北西～西から)
図版 2-1	北池土壙 2
2	北池土壙 3
3	北池土壙 4
図版 3-1	北池井戸 1 (南から)
2	北池柱穴列 1 (東から)
3	南池竪穴住居 2 第 1 面遺物出土状況
図版 4-1	竪穴住居 2 第 2 面遺物出土状況
2	竪穴住居 2 (東から)
3	南池竪穴住居 3・4・5 検出状況 (東から)
図版 5-1	竪穴住居 3 (東から)
2	竪穴住居 3 柱穴内遺物検出状況 (西から)
3	作業風景 (竪穴住居 3 実測)
図版 6-1	南池竪穴住居 6・7 (北西から)
2	南池竪穴住居 11 (南西から)
3	竪穴住居 11 の柱穴と土壙 1
図版 7-1	南池 C'、D、E 区調査風景 (南から)
2	南池 C' 区遺物検出状況
3	南池 10 区遺物検出状況
図版 8	北池井戸 1・調査区、竪穴住居 2 出土遺物
図版 9	竪穴住居 2・3 出土遺物
図版 10	竪穴住居 3 出土遺物
図版 11	竪穴住居 3 出土遺物
図版 12	竪穴住居 3・竪穴住居 9・土壙 2・北 2 A 区出土遺物
図版 13	南池北 2 A 区出土遺物
図版 14	南池北 2 A 区・北 2 B 区・8 トレンチ・J 区出土遺物
図版 15	南池 J 区出土遺物
図版 16	南池 J 区・竪穴住居 9 の下層出土遺物
図版 17	竪穴住居 9 の下層出土遺物
図版 18	南池 8 トレンチ、包含層出土遺物
図版 19	遺構・調査区出土石製品
図版 20	調査区・包含層出土石製品・土製品

第1章 地理的・歴史的環境

岡山県中央部をほぼ南北に貫いて流れる旭川は、河口近くの両岸に広大な岡山平野を形成した。

その岡山平野北部、半田山山塊の南に広がる津島遺跡周辺は現在一見平坦な地形であるが、それは近現代の造成や、近代までの絶え間ない開墾のたまものである。加速的に開発が進んだのは第2次世界大戦終了後で、それまでは1907（明治40）年に設置された陸軍第17師団の練兵場のため開発が及ぶこともなく、さらにそれ以前は一面に水田が広がるのどかな風景であった。

津島遺跡周辺が遺跡と紹介されたのは、昭和の初期頃であった。昭和6年発行の『吉備考古』第9号で「岡山市上伊福字絵図発見弥生式土器ノ破片」と題して分銅形土製品の絵が掲載されている（註1）。現在の絵図遺跡に相当しようか。

戦後初期の様子は『岡山市史』に詳しい。それによると津島遺跡は上伊福練兵場南部遺跡と呼称されていたことがわかる。また1950（昭和25）年2月に2日間、グラウンドの東南部で発掘調査が実施され、弥生後期前半の上東式土器、酒津式土器や土師器が出土した（註2）。

総合グラウンド建設に伴う工事が始まると、それに伴って遺物が出土し、津島遺跡は注目を集めるようになった。銅鐸形土製品が拾得されたのは1957（昭和32）年以前といわれている（註3）。また今回整理した遺物の中にも1958（昭和33）年の注記がある土器が存在する。いずれも発見地点は明確ではないが、これらにより弥生時代後期から古墳時代の遺跡であることがわかり始めたのである。

津島遺跡が縄文時代晩期から古墳時代にわたる複合遺跡であることが認識されたのは、今回報告する1960（昭和35）年～63（昭和38）年の北池・南池地点の調査成果による（註4）。遺跡の名称は津島グラウンド遺跡（註2）、津島総合グラウンド遺跡（註5）と記載された。

以下に、津島遺跡の周辺についてこれまでの発掘調査の成果にもとづき簡略に述べる。

縄文時代は前期から後期の朝寝鼻貝塚（註6）、中期から晩期の津島岡大遺跡がある。津島岡大遺跡では後期の炉、貯蔵穴（註7）など生活痕跡がみられる。

縄文時代晩期といわれている津島江道遺跡（註8）の水田には疑問の意見もあるが、弥生時代前期になると津島岡大遺跡（註9）、北方下沼～地藏遺跡（註10）、津島遺跡（註11）で用・排水路を巡らせ畦畔で区画された水田が認められる。弥生時代前期の水田以外の遺構は津島遺跡（註12）（註13）、津島岡大遺跡（註14）で確認された。

弥生時代中期の遺跡では、集落の中心は津島遺跡の南側に移っていくようである。南方遺跡（註15）では河道から大量の木製品が出土したことによって大いに注目されるようになったが、微高地上には住居、その周辺には水路・土墳墓といった土地利用の様相が判明している。北方横田遺跡（註10）では中期中葉の水田と水路が検出されている。中期後半ではさらに南の鹿田遺跡（註16）、津島遺跡（註17）などでも集落が確認できる。

弥生時代後期から古墳時代初頭は、津島遺跡の周辺はもとより、その南側の平野部でも遺跡の数が増大していることが挙げられよう。津島江道遺跡（註18）では住居のうち3分の1から刻骨や加工された骨などが出土し、特異な集落であったことがうかがえる。また鹿田遺跡（註16）では多量の炭・焼土とまとまった量の製塩土器が検出された遺構が存在し、製塩が行われていたことがわかる。その

他に伊福定国前遺跡（註19）などが挙げられる。

弥生時代後期終末から古墳時代には平野周辺の丘陵上に墳丘墓や古墳が造営される。都月坂墳墓群（註20）、七つ坑墳墓群（註21）がその代表的なものである。平野部では墳長約150mの神宮寺山古墳（註22）が4世紀末から5世紀前半に築造されるが、それ以降古墳は減少していく。

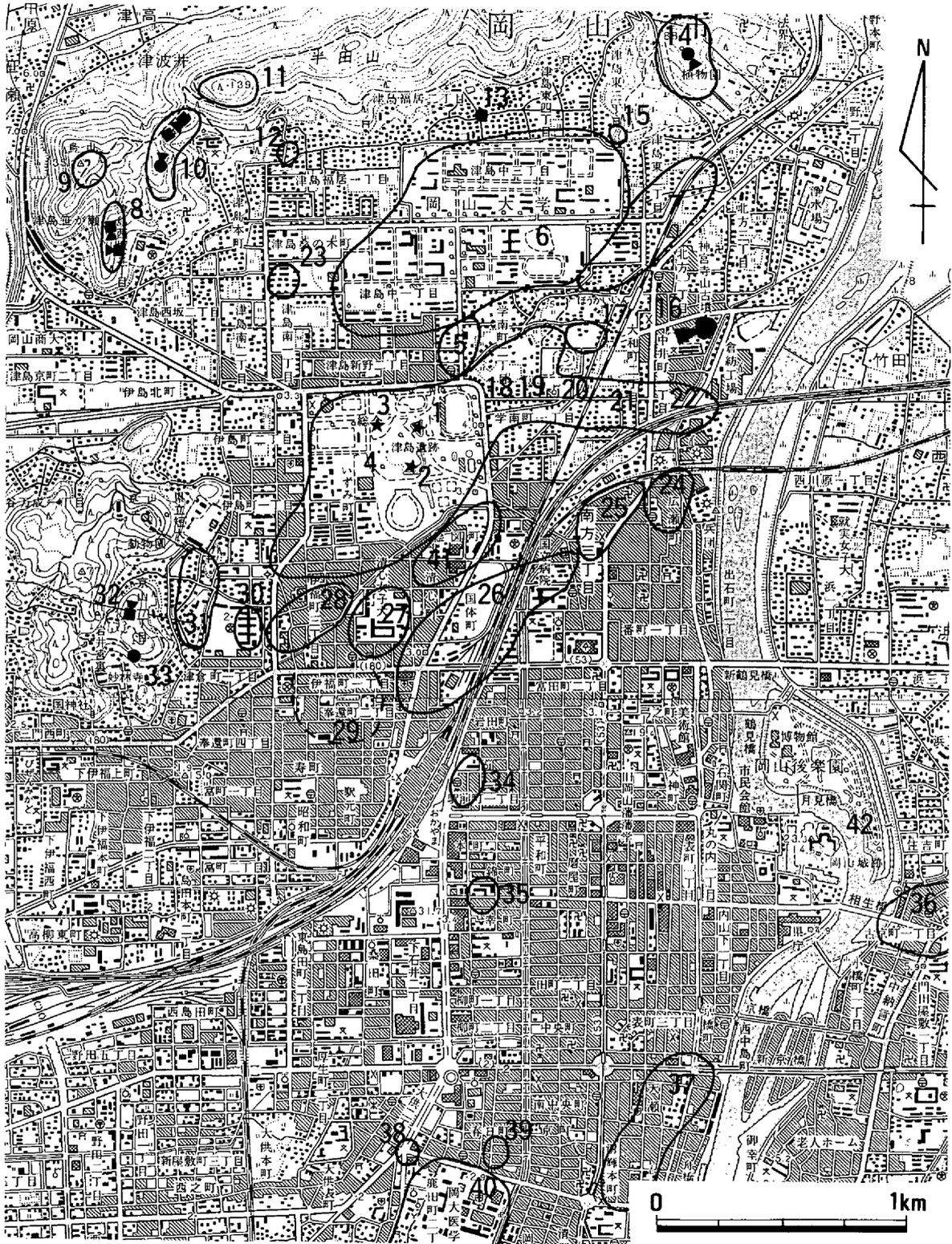
古墳時代の集落では後半期を中心に津島遺跡（註13）（註17）などがあるが、津島江道遺跡（註23）・北方下沼遺跡（註10）で鍛冶関連と考えられる遺構・遺物が存在する集落が見られる。

古代では津島遺跡（註13）、津島岡大遺跡（註7）（註9）（註14）、北方下沼～地蔵遺跡（註10）で条里関係と推定される溝が見られる。また津島江道遺跡（註18）では官衙的性格をもつとされる掘立柱建物が見られている。

中世では伊福定国前遺跡（註19）、鹿田遺跡（註16）で掘立柱建物などが確認され、水田域が広がっていったものと思われる。

註

- (註1) 『吉備考古』第9号 吉備考古會 1931（昭和6）年6月
- (註2) 鎌木義昌「第1編 原始時代」『岡山市史 古代編』 1962年
- (註3) 梅原末治「新出土の銅鐸の鍍范片其他」『古代學研究』25 古代學研究會 1960年8月
- (註4) 近藤義郎「津島遺跡と武道館事件」『岡山史学』第22号 1968年12月
- (註5) 西尾満雄「岡山市津島綜合グランド遺跡の調査」『考古学研究』7-2（第26号）1960年10月
- (註6) 富岡直人ほか『岡山市津島東3丁目 朝寝鼻貝塚発掘調査概報』加計学園埋蔵文化財調査室 発掘調査報告書2 1998年
- (註7) 小林青樹・野崎貴博編『津島岡大遺跡10』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第14冊 1998年など。
- (註8) 「津島江道遺跡」『日本における稲作農耕の起源と展開－資料集－』日本考古学協会静岡大会実行委員会、静岡県考古学会 1988年
神谷正義「最古の水田」『吉備の考古学的研究』上 1992年
- (註9) 山本悦世編『津島岡大遺跡3』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第5冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 1992年など。
- (註10) 岡田 博編「北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地蔵遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』126 岡山県教育委員会 1998年
- (註11) 岡本泰典「岡山県陸上競技場改修に伴う発掘調査」『岡山県埋蔵文化財報告30』岡山県教育委員会 2000年
- (註12) 平井 勝編「津島遺跡2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』151 2000年
- (註13) 島崎 東・渡邊恵里子編「津島遺跡1」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』137 1999年
- (註14) 土井基司・山本悦世編『津島岡大遺跡6』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第9冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 1995年など。
- (註15) 扇崎 由・安川 満「上伊福・南方（済生会）遺跡（南方蓮田調査区Ⅰ・Ⅱ）」『岡山市埋蔵文化財調査の概要』1994・1995年度 岡山市教育委員会 1996・1997年
- (註16) 山本悦世編『鹿田遺跡1』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第3冊 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 1988年
- (註17) 杉山一雄編「津島遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』145 岡山県教育委員会 1999年
- (註18) 高畑知功「津島江道遺跡」『岡山県埋蔵文化財報告18』岡山県教育委員会 1988年
- (註19) 杉山一雄編「伊福定国前遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』125 岡山県教育委員会 1998年
- (註20) 近藤義郎「都月坂二号弥生墳丘墓」「都月坂一号墳」『岡山県史』第18巻考古資料編 1986年
- (註21) 七つ坑古墳群発掘調査団編『七つ坑古墳群』 1987年
- (註22) 鎌木義昌「神宮寺山古墳」『岡山県史』第18巻考古資料編 1986年
- (註23) 草原孝典「津島江道（岡北中）遺跡」『岡山市埋蔵文化財調査の概要』1997年度 岡山市教育委員会 1999年



1. 北池地点 2. 南池地点 3. 武道館建設当初予定地 4. 津島遺跡 5. 津島新野遺跡 6. 津島岡大遺跡
7. 津島江道遺跡 8. 七つ坑古墳群 9. 烏山城跡 10. 都月坂墳墓群 11. 半田山城跡 12. 津島福居遺跡
13. お塚様古墳 14. 一本松古墳群 15. 朝寝鼻貝塚 16. 神宮寺山古墳 17. 散布地 18. 北方下沼遺跡
19. 北方横田遺跡 20. 北方中溝遺跡 21. 北方地藏遺跡 22. 北方藪ノ内遺跡 23. 散布地 24. 広瀬遺跡
25. 南方遺跡 26. 南方遺跡 27. 上伊福九坪遺跡 28. 上伊福遺跡 29. 散布地 30. 伊福定国前遺跡
31. 上伊福西遺跡 32. 津倉古墳 33. 妙林寺古墳 34. 散布地 35. 散布地 36. 古京遺跡 37. 天瀬遺跡
38. 散布地 39. 散布地 40. 鹿田遺跡 41. 絵図遺跡 42. 岡山城跡

第1図 調査区周辺主要遺跡分布図 (1/25,000)

第2章 発掘調査の状況と体制

第1節 発掘調査の状況

岡山で初めて開催された第17回国民体育大会に関連した工事中に多量の遺物が出土した。そのため、岡山県内の考古学研究者によって遺跡の保存に向けた取り組みと緊急の発掘調査が行われた。40年程前のことであり、当時の状況を十分に把握できなかったが、『考古学研究』26・28・29（1960～1961）等後に掲げる文献を参考にして発掘調査状況をまとめた。また、2000年8月23日に、当時の発掘調査関係者にご多忙中であるにもかかわらずお集りいただき、調査状況、遺跡の内容等について、指導、教示をいただいた。さらに、近藤義郎氏をはじめ、西川宏氏、間壁忠彦氏、高橋護氏、春成秀爾氏から当時の記憶を呼び起こしながら詳細な教示をいただいた。深甚の謝意を表したいと思う。

津島グラウンドは、旧練兵場遺跡として、古くから知られていた遺跡であった。戦後、運動公園としての整備が進められ、野球場の建設などで弥生土器の出土を確認されていた。1960年、国民体育大会に関連する施設整備が行われ、津島グラウンドのほぼ中央部に当たるところに2つの池が掘削され、多量の遺物が出土した。池の掘削は、瓦粘土の採掘を兼ねて実施されたようである。

この状況を知った岡山県内の考古学研究者は岡山県教育委員会へ実状を伝え、対応を要請されたが、直ちに対処できなかったことから、1960（昭和35）年3月、むざむざ遺跡が破壊されることを危惧した岡山大学医学部解剖学教室職員、倉敷考古館職員をはじめ県内考古学関係者は一致団結して、緊急の調査に着手された。この調査を第1次として、その後第4次にわたる発掘調査が行われた。

第1次の調査は、小規模な文字どおりの緊急対応であったが、多量の炭化米の入った貯蔵庫群や弥生時代の竪穴住居、小ピットを検出し、弥生時代前期から後期末までの多量の土器を確認されたのであった。

第2次調査は、発掘調査主体を岡山大学医学部教授根岸博氏とし、鎌木義昌、近藤義郎両氏が発掘担当者となり、県内研究者が参加して、1961（昭和36）年3月11日から同年4月25日に実施された。南池を中心にトレンチ調査を行い、粘土採掘跡の断面で確認された竪穴住居、土坑、包含層の調査が実施された。4次にわたる調査の中で、最も規模の大きな調査であった。調査結果については、『考古学研究』29号に概要が報告されている。

それによると、根岸博岡山大学医学部教授を団長に、岡山大学医学部解剖学教室職員有志、岡山大学法文学部史学科研究室職員有志、倉敷考古館職員、岡山大学教育学部・法文学部学生有志、岡山市内中・高校の職員・生徒との共同調査として、延べ900人が参加して行われた。調査の結果、縄文時代晩期から古墳時代の複合遺跡であることが確認され、弥生時代前期から同中期においては狭い自然堤防上において遺物を確認し、弥生時代後期には土砂の堆積によって広い平地が形成され、竪穴住居16～17軒、籾の貯蔵穴3基などを検出されている。

これらの調査成果については、1962年10月27・28日に奈良学芸大学で開催された日本考古学協会昭

和37年度大会において、鎌木義昌氏、近藤義郎氏、西川宏氏、間壁忠彦氏、岡本明郎氏、高橋護氏の連名で「津島総合グラウンド遺跡の調査報告―特に弥生文化前期の遺物について―」として報告された。

第3次調査は、岡山県教育委員会が国庫補助を受けて、鎌木義昌、近藤義郎両氏に依頼して、1962（昭和37）年12月25日から1963（昭和38）年1月13日に実施された。調査は第2次調査関係者が引き続いて担当された。南池の中央部に南北方向のトレンチを設定し、南端部を西方へL字形に延長されている。これによって、連続した土層断面の調査が行われ、地形復元の資料が得られた。

第4次調査は、北池を中心に、1963年3月21日から同年3月31日に実施された。調査は第2次調査以来の関係者が引き続き担当された。

緊急調査の後、岡山県教育委員会などと調査関係者の協議が行われ、瓦粘土の採掘は中止し、現状のまま水を溜めて池とすることが話し合われ、現在に至っている。1次から4次にわたる発掘調査は、いずれも岡山県内の研究者が本務のかたわら休日等の時間を割いて献身的に実施されたものであり、第3次調査において、一部、岡山県教育委員会が国庫補助を受けることができたが、ほとんど手弁当に近い状態での調査であった。

また、岡山県教育委員会には、遺物収蔵施設がなかったため、調査関係者で出土遺物や調査資料を分散して保管していただかざるをえなくなり、その後も、残念ながら県の予算的な対応がとられなかったため報告書の刊行もできないまま今日を迎えた。今回、当時の調査関係者からご理解とあたたかい指導をいただき、ようやく報告書の刊行ができるようになったしだいである。なお、北池発掘区採土の花粉分析を専門家に依頼したが、結果の報告を受けていない。

第2節 発掘調査の体制

津島遺跡北池・南池の発掘調査は、鎌木義昌氏、近藤義郎氏を中心に進められ、第1次から第4次の発掘調査参加者は、次のとおりである。これらの調査に参加された方のお名前をもれなく明示する事によって、昔日のご尽力に対して感謝の微意を表したいと考え、近藤義郎氏から預かった図面からそうした方々の名前を調べ、当時の関係者にも尋ねたが、今や名字しか分からない方もあり、また遺漏があるかもしれない。どうかご容赦くださるようお願いしたい。

津島遺跡第1次調査

発掘調査担当者 鎌木義昌、近藤義郎

1960年3月の参加者

鎌木義昌 近藤義郎 潮見 浩 西川 宏 高橋 護 鷹羽千明 高重詔一

1960年6月から7月、10月の調査参加者

鎌木義昌 近藤義郎 潮見 浩 西川 宏 岡本明郎 高橋 護 村上幸雄
西尾満雄

第2章 発掘調査の状況と体制

津島遺跡第2次調査

発掘調査主体 岡山大学医学部教授 根岸 博

発掘調査担当者 鎌木義昌 近藤義郎

1961年3月11日から同年4月25日の参加者

鎌木義昌	近藤義郎	水内昌康	潮見 浩	角田 茂	西川 宏	間壁忠彦
間壁葎子	岡本明郎	高橋 護	村上幸雄	中力 昭	西尾満雄	鷹羽千明
葛原克人	永田敬三	横山 勲	高重詔一	井上義重	高橋恵美子	林 義昌
難波俊成	出宮徳尚					

津島遺跡第3次調査

発掘調査主体 岡山県教育委員会

発掘調査担当者 鎌木義昌 近藤義郎

1962年12月25日から1963年1月13日の参加者

鎌木義昌	近藤義郎	角田 茂	西川 宏	間壁忠彦	間壁葎子	岡本明郎
高橋 護	河本 清	西尾満雄	井上義重	竹林榮一	木村祀子	春成秀爾
瓶井里美	村上幸雄	今井久子	黒崎孝子	小川	高田	

津島遺跡第4次調査

発掘調査主体 岡山県教育委員会

発掘調査担当者 鎌木義昌 近藤義郎

1963年3月21日から同年3月31日の参加者

鎌木義昌	近藤義郎	角田 茂	西川 宏	間壁忠彦	間壁葎子	高橋 護
岡本明郎	西尾満雄	竹林榮一	高橋恵美子	岩崎範子	木村祀子	春成秀爾
中藤康俊	出宮徳尚	大山	多賀	亀山	石田	山県

津島遺跡北池・南池地点ほか関連参考文献

- 梅原末治「新出土の銅鐸の銹范片其他」『古代学研究』25 古代学研究会 1960年8月
- 西尾満雄「岡山市津島総合グランド遺跡の調査」『考古学研究』7-2（第26号）1960年10月
- 近藤義郎「岡山市津島総合グランド遺跡」『考古学研究』7-4（第28号）1961年3月
- 「発掘参加の皆様へ」1号 岡山市運動公園遺跡調査団 1961年3月
- 西尾満雄「岡山市津島運動公園遺跡の発掘」『考古学研究』8-1（第29号）1961年6月
- 鎌木義昌「第1編 原始時代」『岡山市史 古代編』1962年
- 鎌木義昌・近藤義郎・西川 宏・間壁忠彦・岡本明郎・高橋 護「7. 津島総合グラウンド遺跡の調査報告」
- 『日本考古学協会昭和37年度大会研究発表要旨』 日本考古学協会 1962年10月
- 鎌木義昌「山陽地方Ⅱ」小林行雄・杉原荘介編『弥生式土器集成 本編』1 1964年
- 近藤義郎「津島遺跡と武道館事件」『岡山史学』第22号 1968年12月
- 近藤義郎「津島遺跡」『岡山県史 考古資料編』1986年7月
- 出宮徳尚「津島遺跡の発掘」『近藤義郎 岡大40年』 『近藤義郎岡大40年』編集委員会 1990年5月
- 宇垣匡雅・古市秀治・乗岡 実「集成2 特殊器台・特殊壺」『吉備の考古学的研究』上 1992年11月

第3章 報告書の作成

第1節 報告書作成の契機

2005（平成17）年に開催される第60回国民体育大会の主会場は、岡山市いずみ町の岡山県総合グラウンド陸上競技場で開催されることが決定した。会場の決定に至る経緯については、すでに「津島遺跡1」（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告137）、「津島遺跡2」（岡山県埋蔵文化財発掘調査報告151）において詳細に記しており参照していただきたい。

津島遺跡は、第1章で述べたように先学の諸氏によって遺物の出土が報告されるなど、県南における代表的な弥生時代の遺跡として広く知られていた。特に岡山県が第17回国民体育大会開催時の施設を建設した時、津島総合グラウンドのほぼ中央部に位置するスポーツの塔の池（報告書では南池）とその北に所在する三角池（報告書では北池）で瓦粘土の採取を兼ねて掘削された際に遺物が多量に出土し、県教育委員会に発掘に対応する人員・予算ともなかったためやむなく県内の考古学研究者による緊急の発掘調査をお願いした。

このような状況での調査であり、県の予算的な対応などができず、報告書の刊行も果たされないままになっていた。しかし、調査終了後、関係者によって出土遺物、図面、写真等の整理が行われるとともに、これらの資料についても調査担当者が分散して保管する状況で今日に至っていた。

このたび、第60回国民体育大会の主会場として、県総合グラウンド陸上競技場が改修されるにあたって文化庁、県内外の考古学研究者と協議したところ、津島遺跡は重要な遺跡であり、保護・保存を図っていくべきだという強い意見が出された。しかし、津島遺跡全体の性格や遺構の広がりを確認し、全体の保存を図る中で、陸上競技場の改修が可能かどうか判断する必要もあり、これまでに実施された発掘調査の報告書を作成して、津島遺跡の意義を明確にすることも要請された。

津島遺跡は我が国の水稻耕作開始期の実態を最初に確認したことで、学史的にも著名な遺跡であり、現在、一部が国指定史跡として保存されている。その重要性を考えるならば、報告書の刊行は、調査関係者、行政当局にとっても長年の懸案であった。平成9年9月29日に開催された第1回津島遺跡検討委員会で委員からの提案があったのを契機に、県教育委員会では過去に調査を実施した担当者や文化庁に相談すると共に、当時の調査関係者に対して報告書作成の協力が可能か否かについて打診したところ、報告書刊行について全面的に賛意を得ることができたため、報告書を作成する運びとなったのである。

過去の発掘調査は、1960（昭和35）年～1963（昭和38）年に実施された北池・南池地点の調査と1968（昭和43）、1969（昭和44）年に実施された武道館建設当初予定地の調査に大別されるが、調査報告書は当初平成11（1999）年度に1冊にまとめて刊行する計画であった。しかしながら、出土遺物が多量に存在し、図面、写真等の関係資料の収集、整理に十分な時間を要することから、平成11年度は1968、1969年度に実施した武道館建設当初予定地の整理と報告書を刊行した。平成12（2000）年度は1960年～1963年に調査された北池・南池地点の整理と報告書を刊行することにした。

報告書の作成は近藤義郎氏をはじめ当時の調査関係者の指導・教示を得ながら、岡山県古代吉備文化財センターが作成したものである。発掘調査関係者の意に充分添えなかったことが多々あると思われるが、お許し願いたい。

第2節 報告書作成の経過

北池・南池地点の調査に関わる資料は、調査に参加された方々、あるいはその方々が属されていた機関に保管されていることから、まず保管先と資料の内容を把握する作業から始めた。

このような状態であったのは、報告書作成の契機にも記したとおり、県教育委員会には遺物収蔵施設が存在しなかったため、調査に参加された方々と関係機関に分散して保管していただくしか方法がなかったのである。これまで保管していただいた各位、各機関に対し、深く御礼を申し上げる所である。

遺構・遺物の整理は4月から進め、まず遺物の注記と図面に記された年月日と資料から、調査の実施状況と図面・遺物の関連を把握することから始めた。具体的には、第1次調査から第4次調査で作成された図面を調査次ごとにまとめ、出土した遺物の調査次を明らかにすることであった。

上記の作業と併行して、遺物の整理を行った。遺物は保管先において全て洗浄済みであったが、長い年月を経過したために改めて再洗浄を実施すると共に、調査区ごとに並べ直した。

さらに調査区ごとに遺物の接合・復元を行った。この時、ほとんど調査区ごとに接合を実施したが、一部近接していると判断できた調査区の間では調査区をまたいで接合が可能となった事例もある。復元の終了したものから順次実測に着手し、その合計は、岡山大学保管遺物が土器457点、石器37点、土製品19点、鉄器3点、玉類・骨角器それぞれ1点ずつで、瀬戸内考古学研究所保管の遺物は土器410点、石器42点、土製品9点、玉類2点で、山陽学園保管遺物が土器11点を数えることとなった。

図面では全体図と個々の遺構図・調査区断面図の整合を図ることに腐心した。遺構については、近藤義郎氏保管図面が大部分を占めるが、できる限り多くの図面を製図し掲載するよう心がけたことは言うまでもない。

報告書の作成については、昨年度実施された『津島遺跡2』報告書の作成と同様に、遺物と遺構の整理がある程度進んだところで当時調査に参加された方々にご意見をうかがいながら作業を進めることが大切だと考え、平成12(2000)年8月23日に「津島遺跡発掘調査報告書打ち合わせ会議」を開催した。最初に当時の調査担当者を代表して近藤義郎氏から、当時の調査担当者の尽力・苦勞を思うならば、鋭意やった事が文献となって役に立つことを期待し、報告書の作成についてはできるだけ協力していかなければならないという旨の発言があった。続いて資料を用いて報告書作成について進捗状況と今後の作業予定について説明し、出席者から当時の見解や意見をいただいた。

報告書打ち合わせ会議を受けて、さらに報告書作成作業を進めたが、平成12年11月に山陽学園に北池・南池地点出土の遺物が若干残っていることが判明し、借用して実測するという作業を加えた。

原稿の執筆にあたっては、むろん当時の見解を尊重し、遺構の記載も実測図の記述をなるべく忠実にたどるよう心がけた。しかし理解不足から不適切な表現が存在したり、あいまいな表現に終始した部分も多いかと思う。教示・助言をいただきながら、それを生かしきれなかった点を恐れると共に、ご寛容くださるようお願いしたい。

第3節 報告書作成の体制

報告書作成にあたっては、調査担当者である近藤義郎氏をはじめ、当時の津島遺跡調査担当者に指導・助言をいただきました。ここにそのお名前を記して御礼を申し上げます。

近藤 義郎 間壁 忠彦 西川 宏 岡本 明郎 田仲 (旧姓西尾) 満雄
出宮 徳尚 難波 俊成 春成 秀爾 高橋 護 河本 清 葛原 克人

上記の方々の他にも、岡山大学考古学研究室、岡山理科大学、瀬戸内考古学研究所、倉敷考古館、山陽学園、岡山県遺跡保護調査団の諸機関・諸団体・諸氏からは便宜と助言を得ました。記して感謝の意を表します。

2000 (平成12) 年度

岡山県教育委員会

教育長 黒瀬 定生

岡山県教育庁

教育次長 宮野 正司

文化課

課長

松井 英治

課長代理

佐々部和生

課長代理 (埋蔵文化財係長)

松本 和男

文化財保護主査

福本 明

主任

奥山 修司

岡山県古代吉備文化財センター

所長

正岡 睦夫

次長

能登原 巧

総務課

総務課長

小倉 昇

課長補佐 (総務係長)

安西 正則

主査

山本 恭輔

調査第一課

調査第一課長

高畑 知功

課長補佐 (第二係長)

島崎 東

文化財保護主任

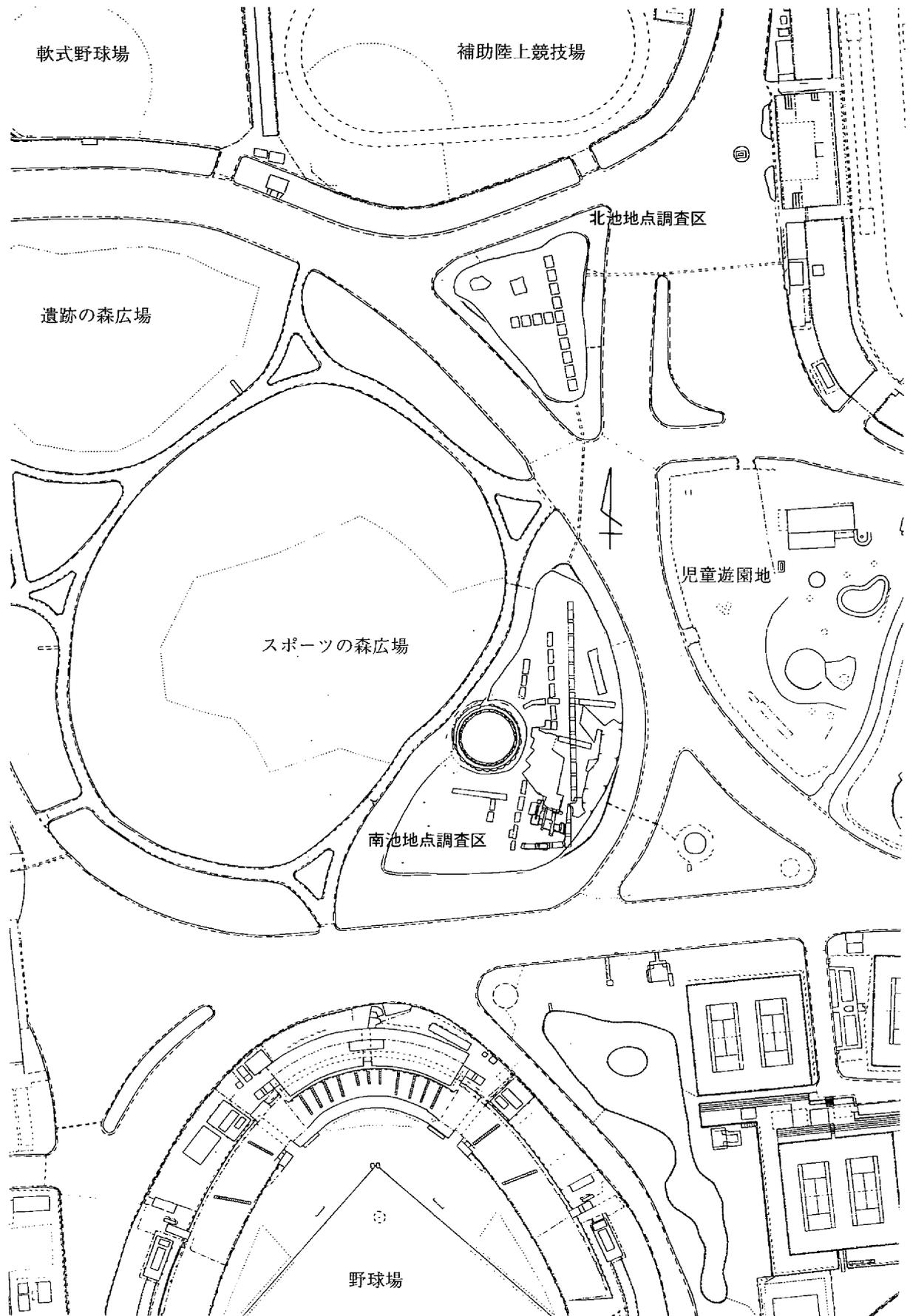
氏平 昭則

(報告書担当)

表1 本報告書で使用した北池・南池地点出土遺物および図面・写真等の保管先と資料の種類

保管先	資料の種類 (内容)	数量
岡山県古代吉備文化財センター	図面 (遺構図・土層図・トレース図・参考図)	104枚
岡山大学考古学研究室	遺物 (土器・石器・土製品・植物遺体)	360箱 (1)
	写真 (カラーリバーサル)	127枚
瀬戸内考古学研究所	遺物 (土器・石器・土製品・植物遺体)	44箱
倉敷考古館	図面 (土層図・参考図)	3枚
山陽学園	遺物 (土器)	5箱
難波俊成	写真 (35mm白黒)	132枚
春成秀爾	参考図・関係文献	12編

註1 岡山大学の遺物は木箱 (整理箱の約1/2の大きさのものが多く)、他は整理箱換算。



第2図 総合グラウンド内北池地点・南池地点調査区位置図 (S=1/2,000)
(竹林・中藤・西尾・山県・今井・井上・岡本・黒崎・春成)

第4章 調査の概要

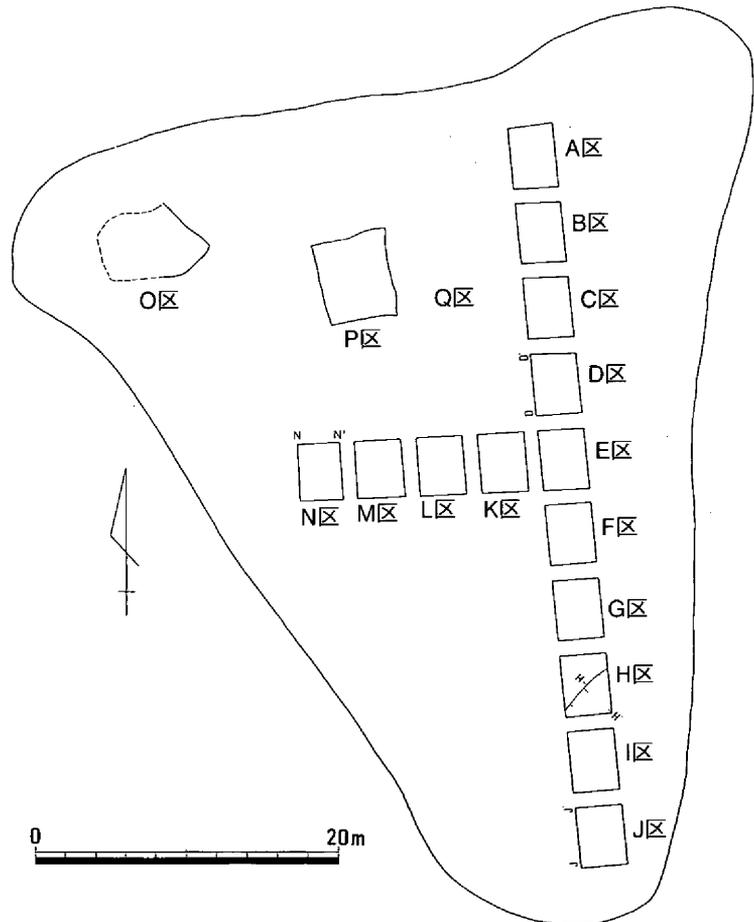
第1節 北池地点の調査

1 調査の様子と調査区名称

北池・南池地点の調査期間は発掘届けの上では1961（昭和36）年3月26日～4月30日と1962（昭和37）年12月25日～1963（昭和38）年3月31日までの2回である。しかし実測図などの日時を拾ってみると、両地点合わせ、調査延期などを含め実質的には4回の調査がおこなわれたと前の諸頁で明言されている。第1次調査は北・南池で1960（昭和35）年3月と6月～7月、10月に実施されている。第2次調査は北・南池で1961（昭和36）年3月11日～4月25日、第3次調査は南池のみで1962（昭和37）年12月25日～1963（昭和38）年1月13日、第4次調査は北池のみで1963（昭和38）年3月21日～3月31日と記されている。第2次が発掘届けの前半、第3・4次が後半に相当するというふうに整理しておきたい。

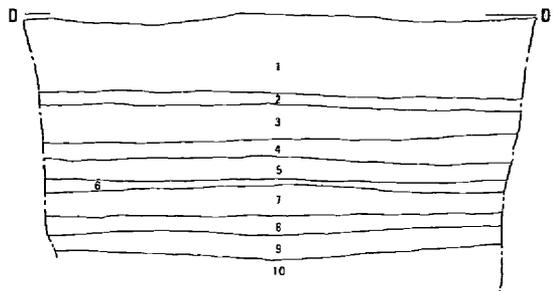
北池地点の第1次調査は、既に池の護岸工事が広範に及び、現地での記録処置などほとんど困難な状況にあった中で、応急措置としての対応を余儀なくされながらも、かろうじて記録をとどめる作業に取り組んだ様子が推測される。図化できなかったが、このとき炭化米や焼土を含む土壌と思われる遺構が1基検出されている。北池地点の第2次発掘では、『考古学研究』27によると炭化物の貯蔵庫群が発見されたと記載されているが、そのうちの2基が土壌6・7である。

図示した調査区は第4次調査で設定されたもので、調査区名は調査時の名称をそのまま使用している。規模は、各調査区4m×3mの長方形を呈している。名称は南北を先に北からA～J区、東西はE区から西側へ向かってK～N区と呼称し、O・



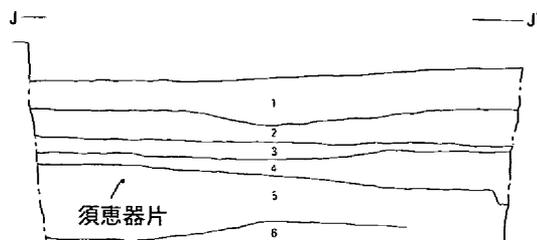
第3図 北池地点調査区配置図 (S=1/500)
(竹林・中藤・西尾・山県)

第4章 調査の概要



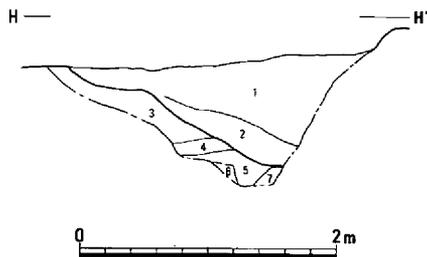
- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 褐色シルト | 6. 黄褐色粘土 (若干暗灰色ぎみ) |
| 2. 暗褐色粘質シルト | 7. 黄褐色～灰色粘土 |
| 3. 褐色シルト | 8. 灰色粘土 (薄い砂層を含む) |
| 4. 暗褐色～褐色シルト | 9. 砂 (薄い粘土層をかむ) |
| 5. 黄褐色粘土 | 10. 暗灰色砂 |

第4図 D区西壁断面図 (S=1/60)
(竹林・西尾)



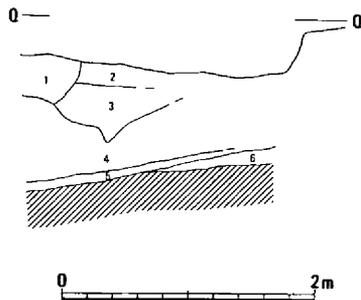
1. 黄灰色粘質シルト
2. 黄褐色と黄灰色の混ざったような色シルト粘土
3. 砂
4. 粘土層 (植物の根?が酸化して茶褐色となって縦にのびている)
5. 暗灰色粘土
6. 暗黒色粘土

第5図 J区断面図 (S=1/60)
(竹林・西尾)



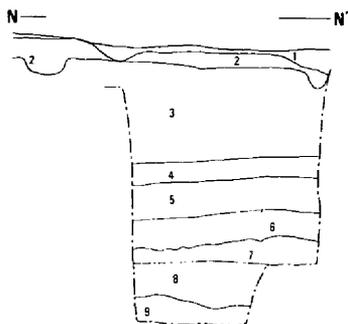
1. 粘質シルト (灰褐色)
2. 粘土 (淡褐色)
3. 粘質シルト (淡褐色) 第2層
4. 第3層粘土 (暗褐色)
5. 粘質シルト (淡灰褐色)
6. 粘質シルト (淡褐色)
7. 粘土 (灰色. 茶褐色粘土が球状に入る)

第6図 H区断面図 (S=1/60)
(大山・西尾)



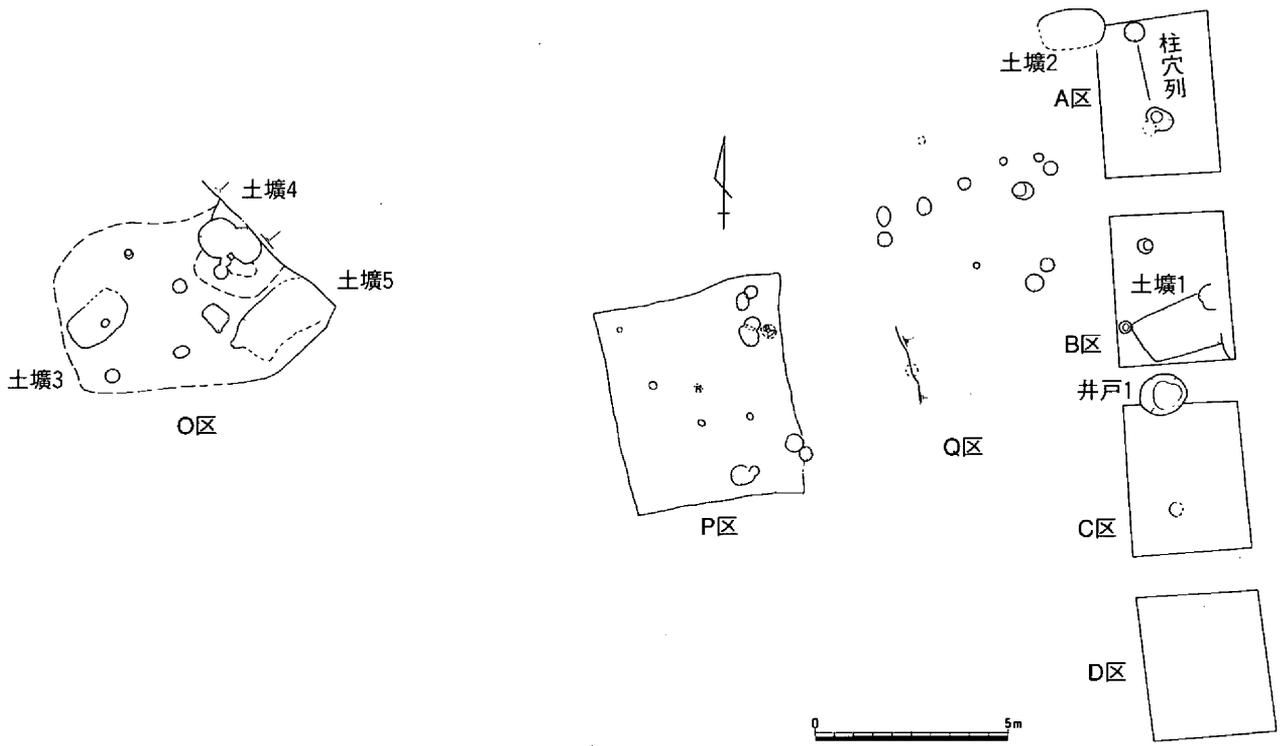
1. 黒褐色ピット弥生を包含
2. 褐色粘質土
3. 灰褐色砂 (微砂. 細砂が上部に多)
4. 褐色土 (弥生中期. 炭化物含)
5. 灰褐色砂 (土器なし)
6. 黒褐色有機土

第7図 Q区断面図 (S=1/60)
(角田・西尾)

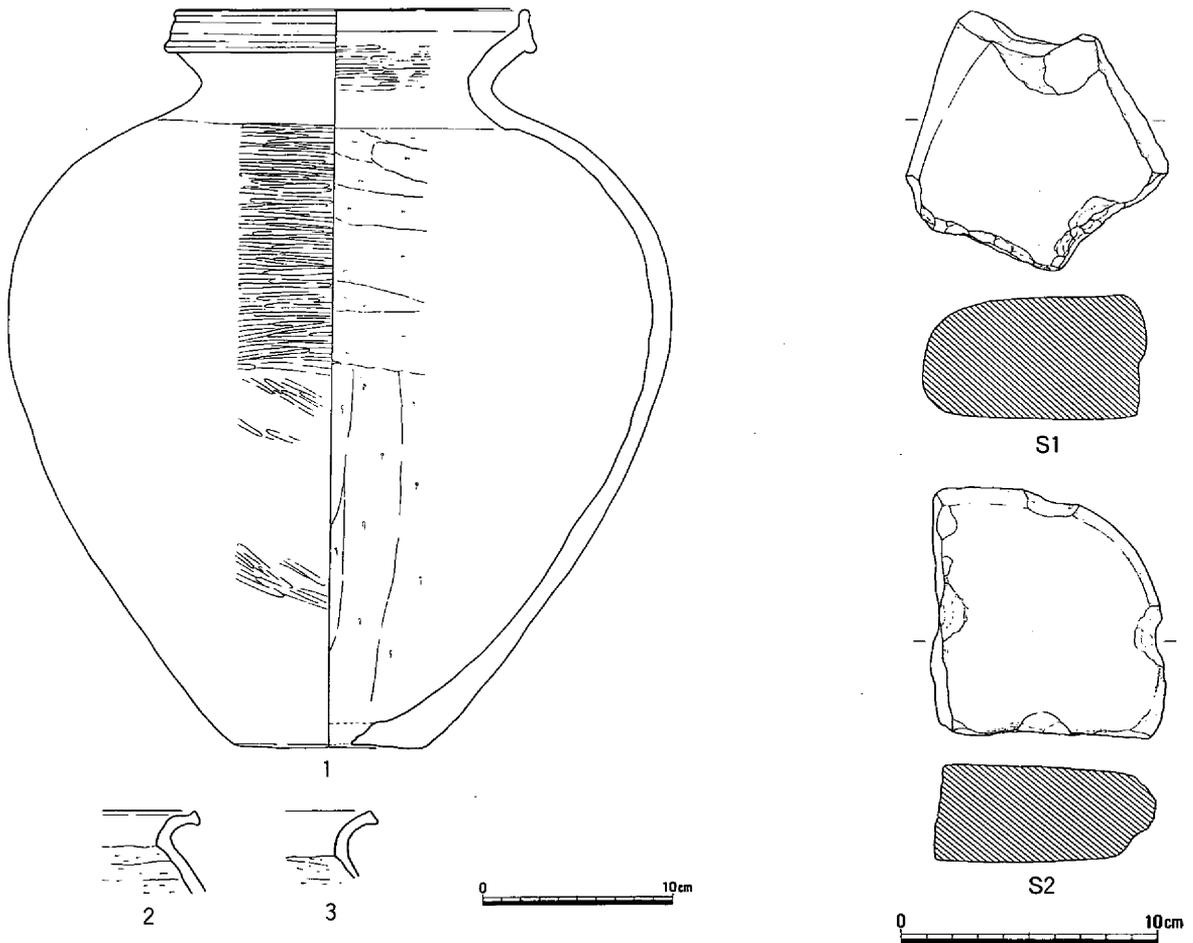


1. かくらん
2. 茶褐色有機土 (後期)
3. 黄褐色
4. 茶褐色バンド
5. 黄褐色
6. 緑黄色をおびかけた粘質土
7. 黄色粘土
8. 青灰色粘土 (下ほど灰色)
9. 青灰色砂

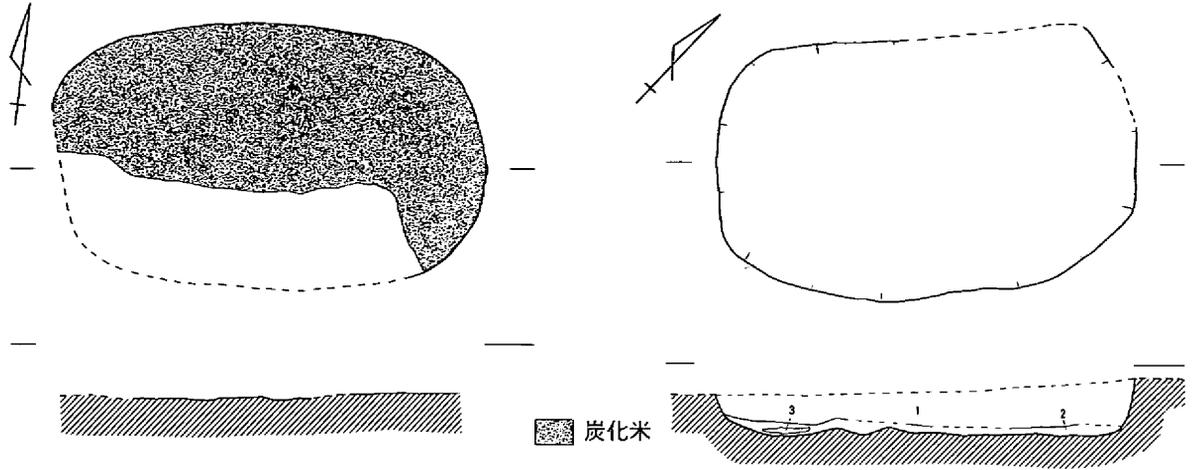
第8図 N区北壁断面図 (S=1/60) (第4次調査津島遺跡調査団)



第9図 A～D区、O～Q区 遺構配置図 (S=1/200) (近藤・西尾)

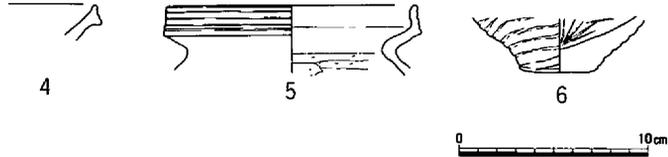


第10図 土壇1 出土遺物



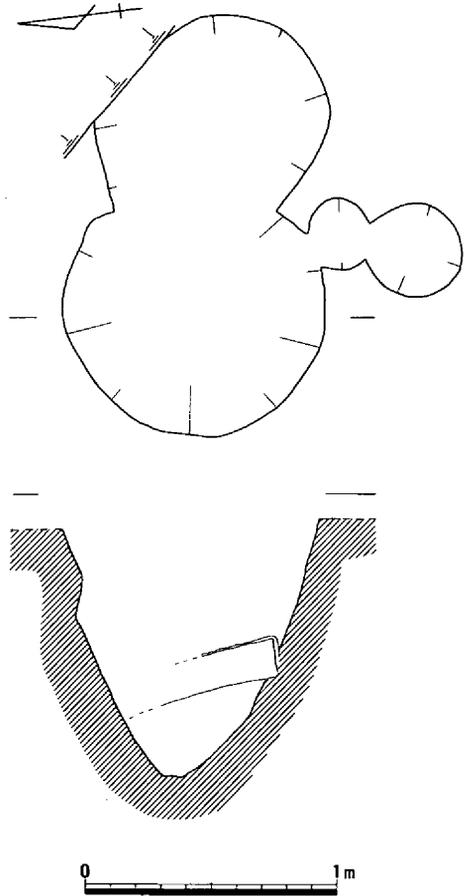
第11図 土壌2 (S=1/30) (岡本・木村)

- 2. 土層より褐色の度合いが大きく焼土を含む
- 3. 焼土

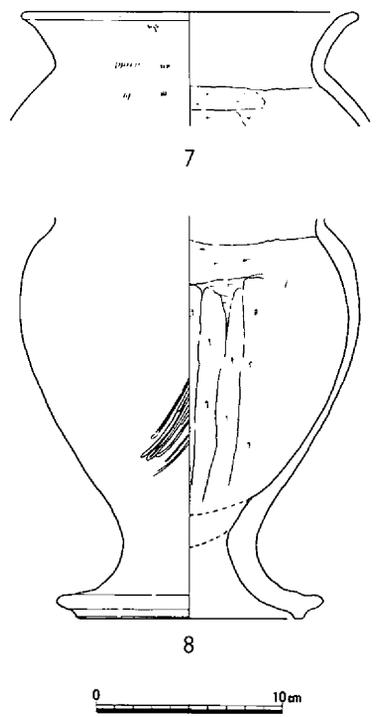


第12図 土壌2・3出土遺物

第13図 土壌3 (S=1/30)
(岩崎・木村・高橋恵美子)



第14図 土壌4 (S=1/30) (岩崎)・出土遺物



P・Q区はこれらとは別に設定されている。O・P区は範囲が不整形で、Q区は範囲がよくわからない。

調査時の写真などから、A～D区、N区、O～Q区の遺構検出面は池が掘削された状態のままであると思われる。M区より東、E区より南ではH区の溝1を除いて遺構は見られない。

遺物は、注記によるとB、C、E、F、H、J、N、O、Q区出土のものが存在する。量的にはQ区が整理箱に換算して2箱、B、C、E、O区がそれぞれ1箱程度、残りの調査区では少量である。北池全体の出土量としては、南池に対してあまりにも量が少なすぎる。その理由としては、1つに調査区名が南池第3次調査と同じであるため、南池の遺物と混在している可能性があること、2つ目に池の掘削時に削平された分が南池より大きかった可能性があること、3つ目に北池の南側は河道・水田など遺物出土の少ない部分が多かったことなどを挙げられるかもしれない。

2 層序

北池の調査区で土層が図化されているのは5つの調査区にとどまる。

D区は残存表面マイナス1.7mで砂層に達する。調査時には第3・4層と第5・6・7層は一まとめの層として考えられている。微高地の縁辺部と思われる堆積であるが、土器や遺構の記述が見られないので断言は避けたい。J区は残存表面マイナス1mで須恵器を含む第5層に達している。堆積状況から、古墳時代後期以降の河道ではないか、と想定される。H区は後述するが、溝1の断面である。Q区は微高地の様相で、弥生時代後期の遺構など（第1～3層）と弥生時代中期の包含層（第4層）、さらに弥生時代前期の水田が存在する層（第6層）が見られる。断面の位置は不明である。実測図には、第5層が北に傾斜しそれに沿って第4層中に弥生中期の土器が見られる、と記載されている。また第6層が第5層に切られる形となっている。このことから、弥生時代中期には北側への下がりが存在していたものと考えられる。N区は第2層に弥生時代後期の層が残る。第2層中、図の向かって左端のくぼみは溝である、と原図に記述されている。第2層以下は漸移的に変化している様相を示し、残存表面からマイナス2mで砂層に達している。

3 弥生時代後期と古墳時代の遺構

土壌1（第9・10図）

B区に位置する隅丸方形の遺構で、検出面で長辺側2.1m、短辺側1.65mを測る。北西と北東隅を柱穴で、東側を攪乱で切られる。断面の形状と土層は不明である。遺物は土器が完形に近い1と小片、方形の石錘が2点出土している。出土土器から、弥・後・Ⅱ～Ⅲの時期が想定できる。

土壌2（第11・12図）

A区において北西隅に存在した楕円形の土壌で、検出面で東西1.7m、南北1.05mを測る。検出時に上部はほとんど削平され、わずかに炭化米の層が残っていた（スクリーントーンの部分）。そのため、掘り方の立ち上がりは確認できなかったものと思われる。原図では、南～南西側は復元線が図示してある。遺物の内図示できたのは4のみで、時期は弥・後・Ⅱ～Ⅲに相当する。

土壌3（第12・13図）

O区西側にある楕円形の土壌で、検出面で長辺側1.7m、短辺側1.03m、検出面からの深さ22cmを測る。土層の第1・2層は褐色系の色調を呈し、両層に焼土・炭が含まれていた。特に第1層下面中央には、炭化材が南北方向に沿って見られる部分があった。遺物は土器片で、図示したのは5・6で

第4章 調査の概要

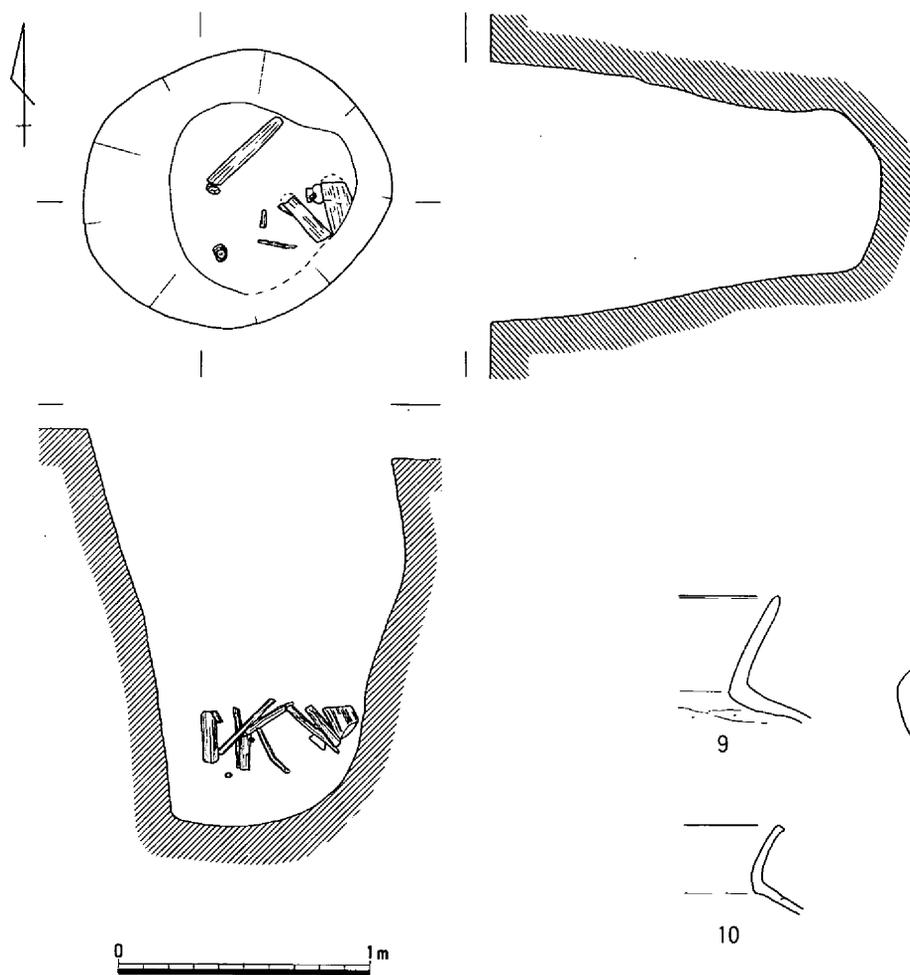
ある。6の甕底部はあまり見かけないが、おそらく畿内系であろう。出土土器は、弥・後・Ⅲ～Ⅳの時期を示している。

土壙4 (第14図)

〇区東側にある円形が連なったような遺構で、検出面で長辺側1.67m、短辺側最大1.04m、検出面からの深さ1mを測る。形状から、土壙というよりは柱穴が4基切り合ったものと推定できる。土層は図示した断面では不明である。長方形の物体が記載されているが、詳細はわからない。遺物には土器があり、図示できたのは2点である。8は類例が少ないが、台付きの甕になるものと思われる。出土土器は、弥・後・Ⅱ～Ⅲの時期であろう。

井戸1 (第15・16図)

C区とB区の間が存在し、検出面で南北1.1m、東西1.2mを測り、正円形というよりやや楕円形を呈する。検出面からの深さは1.56mを測る。土層は不明である。埋土中の木材には、表面だけ炭化したものと全く炭化していないものが見られ、それらの間にほぼ完形品の11が存在する。また、底面には植物遺体と土器片が見られた。遺物の土器は、11以外いずれも破片である。11は胴部に穿孔が1つある。これらの出土土器から、この井戸は古・前・Ⅲに埋没したといえる。



第15図 井戸1 (S=1/30) (春成)

第16図 井戸1 出土遺物

4 古代以降の遺構

溝1 (第3・6・17図)

H区にその一部が見つかった溝である。北西側の肩は、調査区北東隅と南西隅を結ぶ線として検出された。幅は不明で、南東側の肩は少なくともH区外にあるものと思われ、深さは検出面から90cmを測る。その堆積土は2層に分かれる。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、少量の中世の土器がある。いずれも摩耗が激しく、図示できたのは13のみである。時期はおそらく12~13世紀前半ころのものであろう。この溝出土の遺物は調査区内のものと区別されたかどうか不明で、13は土器の注記から推定して溝から出土した可能性が高いと判断される。

5 時期不明の遺構

柱穴列1 (第18図)

A区で見つかった2基の柱穴から想定される柱穴列である。両柱穴の芯心距離は2.3mを測り、主軸はほぼ南北である。遺物は見られない。

土壌5 (第19図)

O区の南東側に存在した土壌である。検出面で推定長2.5m、推定幅1.4mで、深さは10cmを測る。平面も断面も不整な形状をなす。土層は不明で、出土遺物も見られない。

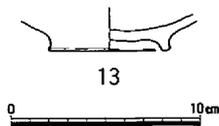
土壌6 (第20図)

第2次調査で確認した、位置不明な土壌である。検出面では推定長2.1m、推定幅1.5mで、深さは最大17cmの方形の土壌である。平面図の点々のスクリーントーンは焼土を、別のスクリーントーンは炭化米の散在する範囲を示している。

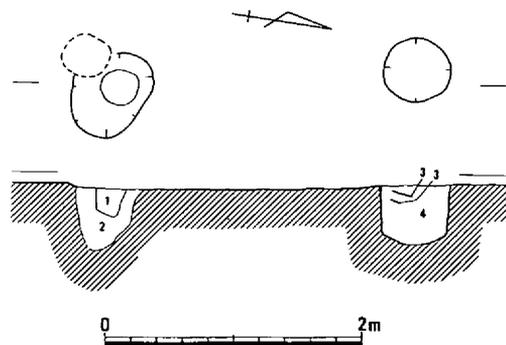
掘り方の、北西側の肩と南西肩は立ち上がりが見えない。また図で向かって右上にある窪みは、この遺構と別の柱穴の可能性が高い。原図にはA-A'断面中央は攪乱が入る、という記載がある。土層は不明、出土遺物は見られない。

土壌7 (第21図)

第2次調査時に検出され、やはり位置不明の土壌である。中央部と南側に攪乱が入り、東・南の掘り方が不明である。平面形は方形で、検出面で推定長2.3m、推定幅1.35m、深さは30cmを測る。断面は方形をなし、炭化米と焼土が折り重なっている様子が観察できる。出土遺物は不明である。

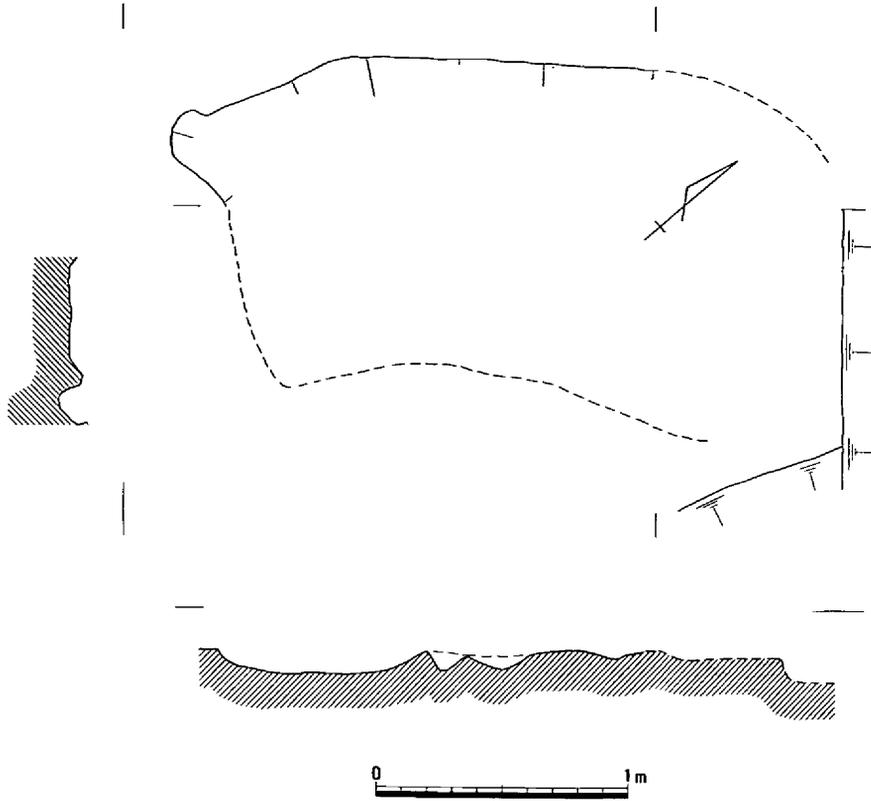


第17図 溝1出土遺物

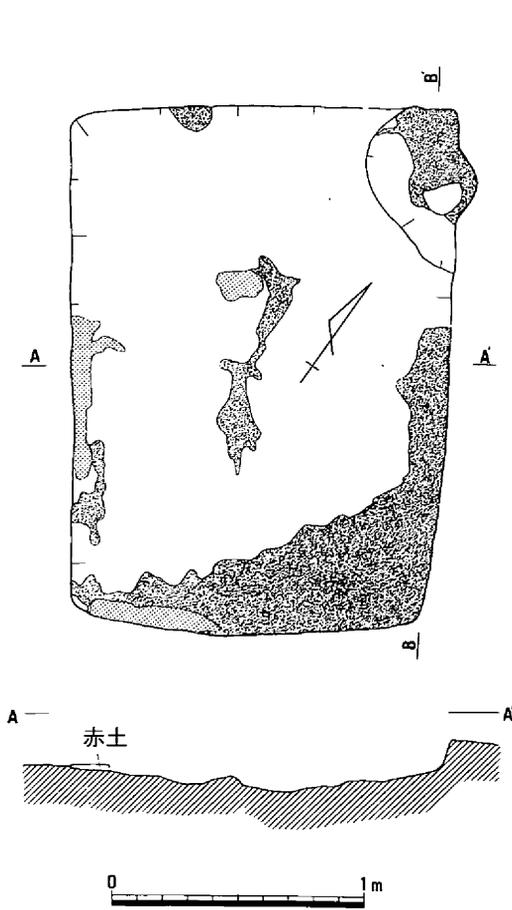


1. 黒灰色 炭若干
2. 黒土と褐色土の混合土
3. 灰
4. 黒色土と黄褐色土の混合土

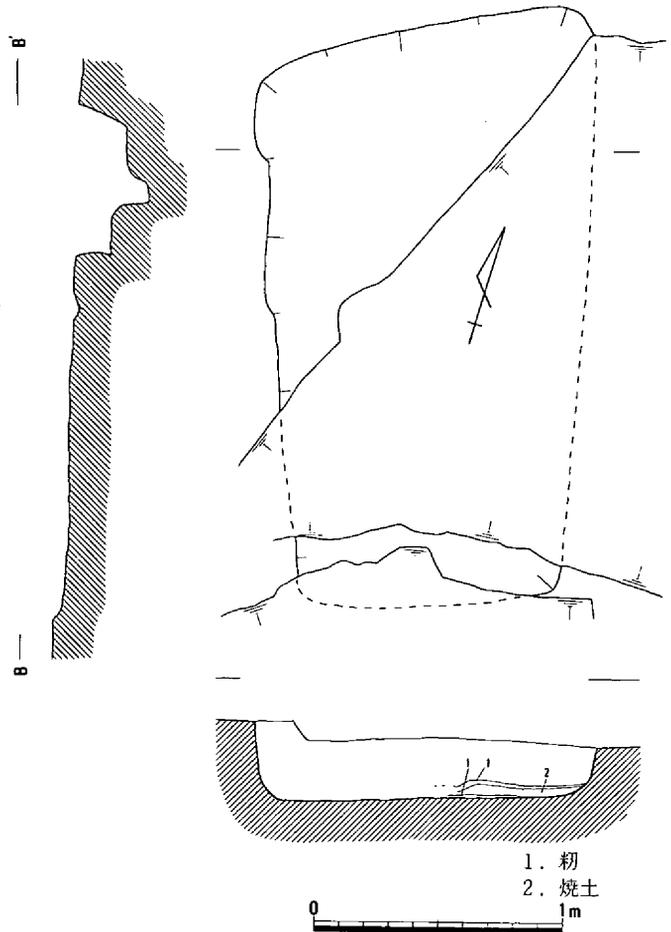
第18図 柱穴列1 (S=1/60) (近藤・岩崎)



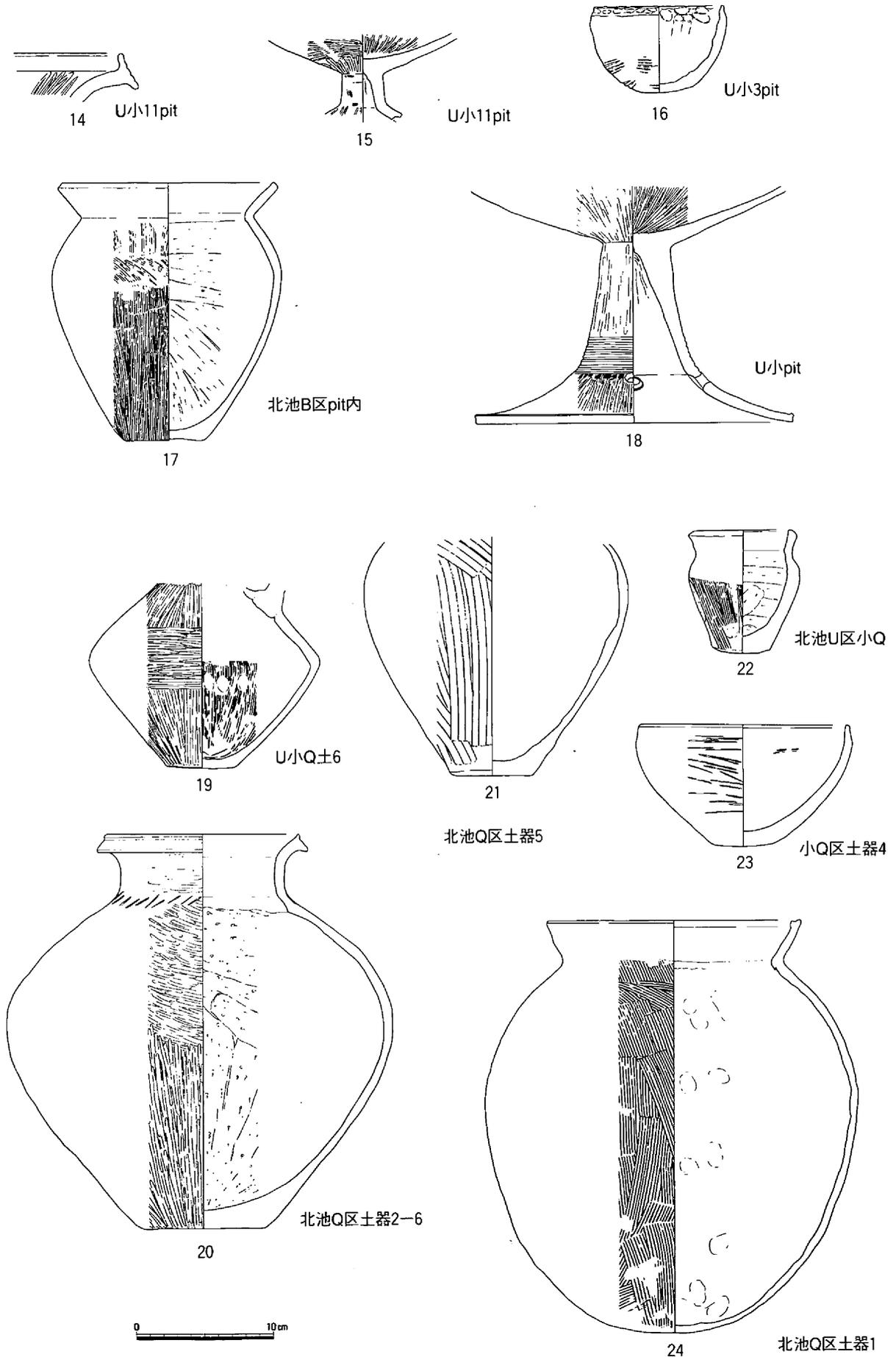
第19図 土壌5 (S=1/30) (木村・高橋恵美子)



第20図 土壌6 (S=1/30) (鷹羽)



第21図 土壌7 (S=1/30) (西尾)



第22図 北池遺構・調査区出土遺物

6 所在不明遺構・調査区出土遺物

ここでは図面上に存在が確認できなかった遺構の出土遺物と調査区出土遺物を扱う。

14・15は11pit、16は3 pit出土遺物である。いずれの遺構も種類としてはおそらく土壙であろう。両方の遺構とも図面が確認できず、遺物のみ掲載することとなった。17はB区pitから出土した事実に違いはなく、「土壙1」出土と注記されているわけではないが、B区でこれに相当する遺構としては土壙1しか存在しないので、その可能性が高い。18は番号のわからないpit出土。19～24はいずれもQ区出土と思われる。時期は19は弥・中・Ⅲ、20～23が弥・後・Ⅱ～Ⅳ、24が古・前・Ⅲにあたる。

第2節 南池地点の調査

1 調査の様子と調査区名称

北池・南池地点の調査期間は発掘届け上1961（昭和36）年3月26日～4月30日と1962（昭和37）年12月25日～1963（昭和38）年3月31日の2回とされている。第1節でも述べたとおり、資料から4回の調査が想定される。このうち1960（昭和35）年3月と6月～7月、10月に実施された第1次調査、1961（昭和36）年3月11日～4月25日実施の第2次調査、1962（昭和37）年12月25日～1963（昭和38）年1月13日の第3次調査が南池の調査である。

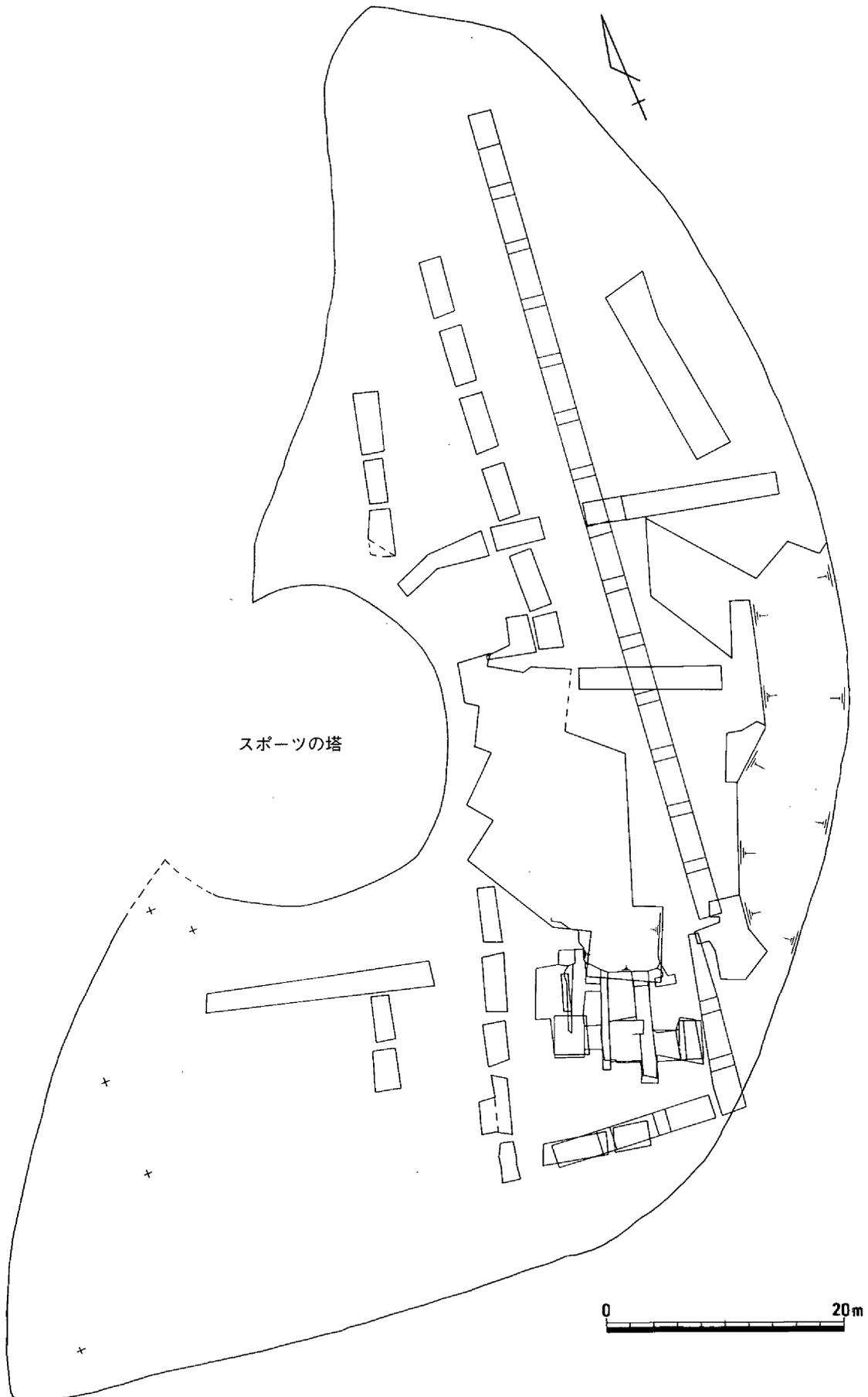
第1次調査は、全体図が明らかでないため不明な点が多い。調査され図面が残る遺構としては、土壙2が挙げられる。また、竪穴住居も確認されていたが、その数が多かったためほとんど掘り下げできず、検出された順に番号だけが振られたと思われる。第1次調査で図面が存在するのは竪穴住居6のみであるが、その調査時の番号（9号住居）から第1次調査では少なくとも9棟の住居が認められる。第2・3次発掘でもこの竪穴住居番号は継承され、検出順に番号が増加したようである。

調査区は第2次調査と第3次調査のものを示した。両発掘の全調査区を重ね合わせたのが第23図、第2次調査の調査区全図が第24図、調査区名をまとめたものが第25図である。ただし、竪穴住居2・3周辺は後に拡張されているらしい（第40図参照）。第2次調査では、調査区は任意のトレンチと池掘削が深い部分の断面（第3・4カット）に分けられる。トレンチはスポーツの塔付近を境に北側は「北」をつけ南側はそのまま、大まかな範囲ごとに1から番号を振り、さらに区分けが必要な時はA・B・Cとアルファベットをその後につけたと思われる。

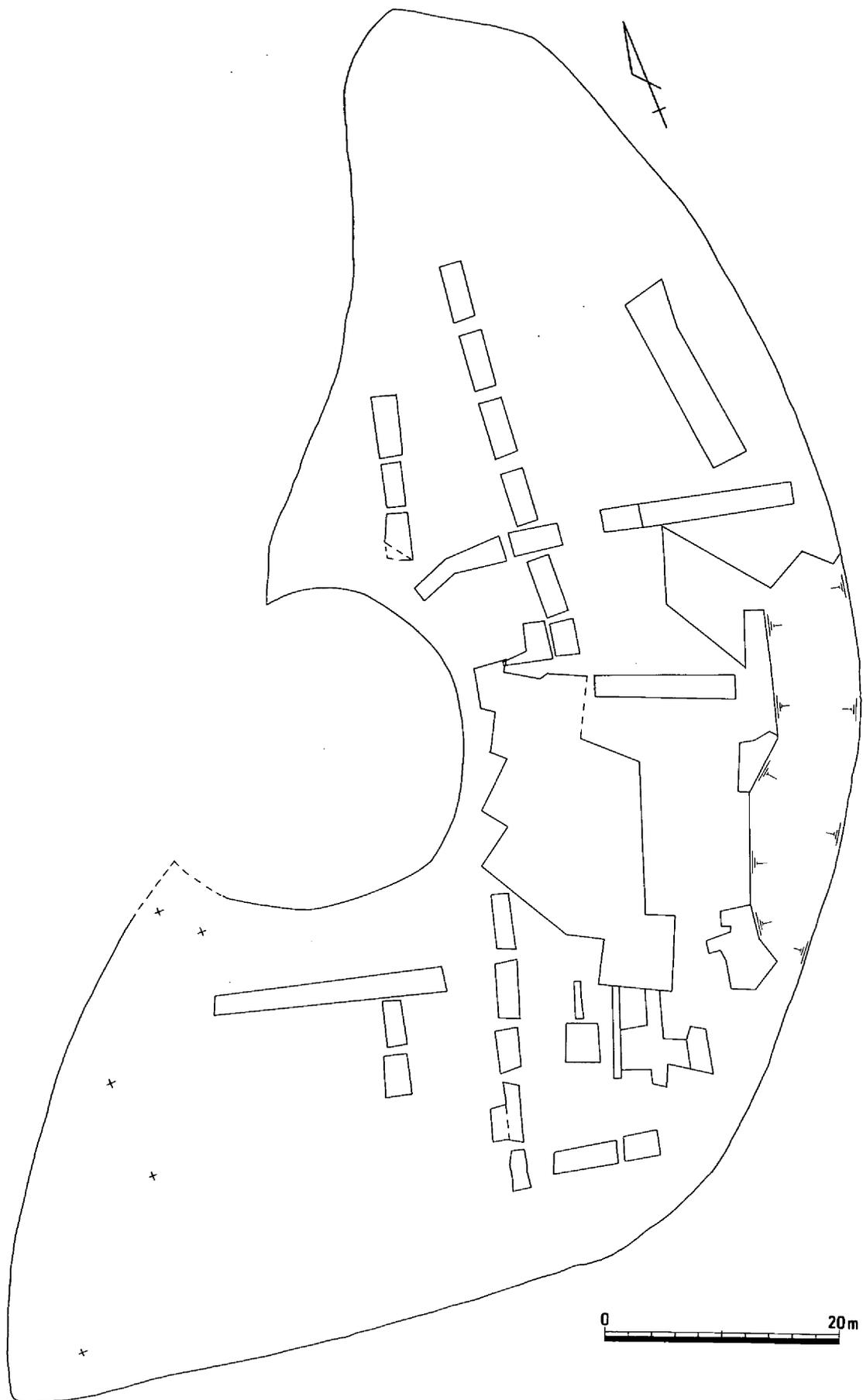
調査区の中には、名称の記載はあるが区画設定が不明な調査区（12・15区）、名称が2か所に記載される調査区（10区）、範囲は存在するが区分けが図示されていない調査区（14区、西側の10区と16～18区）、個別図面や遺物は存在するが全体位置が不明な調査区（北6区、北2D区、19・20区）が見られる。また、北2C区北東に存在する調査区は名称が不明である。

なお、池中央の第3・4カットがある部分と、池東端の竪穴住居1や13区が接している部分は、池の掘削が深く平面的に調査できなかった所であろう。スポーツの塔部分は、第1次調査に着手する前に工事が終了して発掘調査できなかったようである。

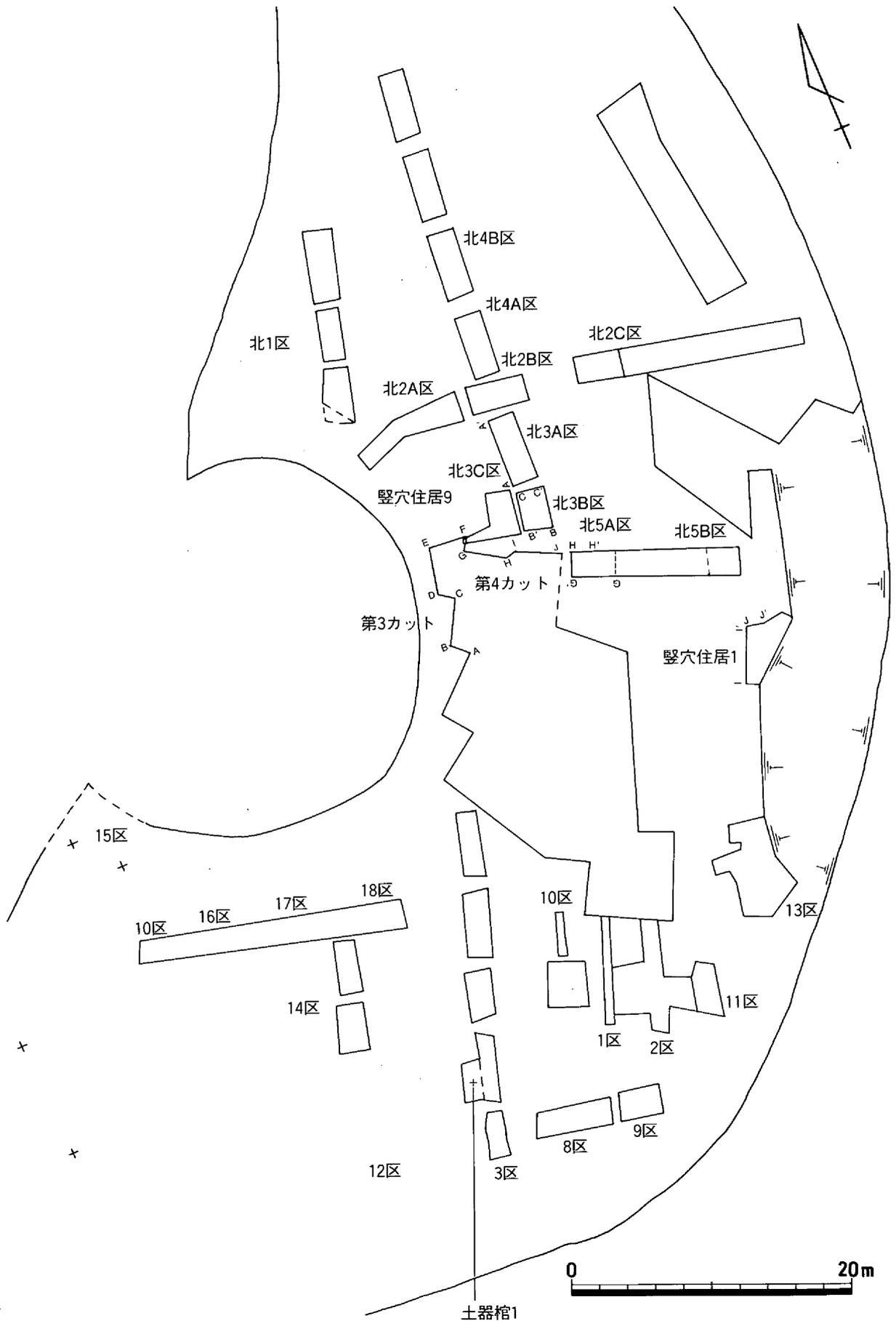
第3次調査では、第2次調査と異なり南北・東西方向へ調査区を新たに拡張・設定している（第32図参照）。基本は各調査区が4m×2mの範囲で、調査区の間は1mの土手を残し、土層観察ができ



第23図 南池地点調査区配置図 (S=1/500) (今井・井上・岡本・黒崎・西尾・春成)

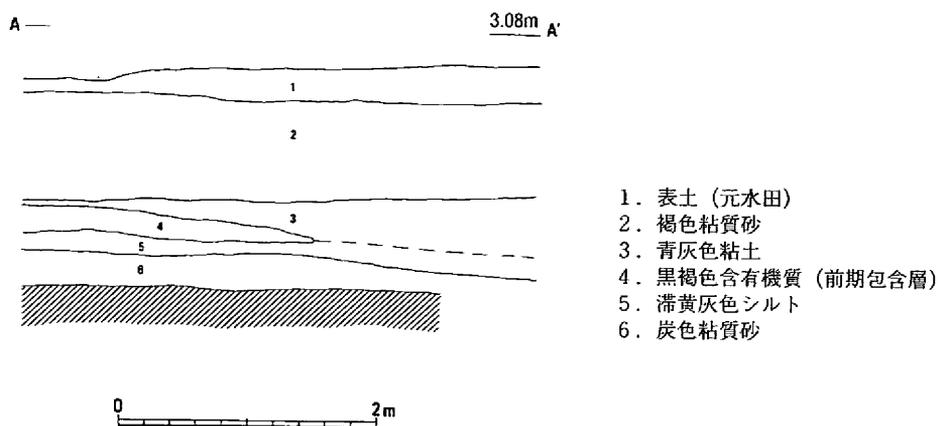


第24図 南池地点第2次調査調査区配置図 (S=1/500) (今井・井上・岡本・黒崎)

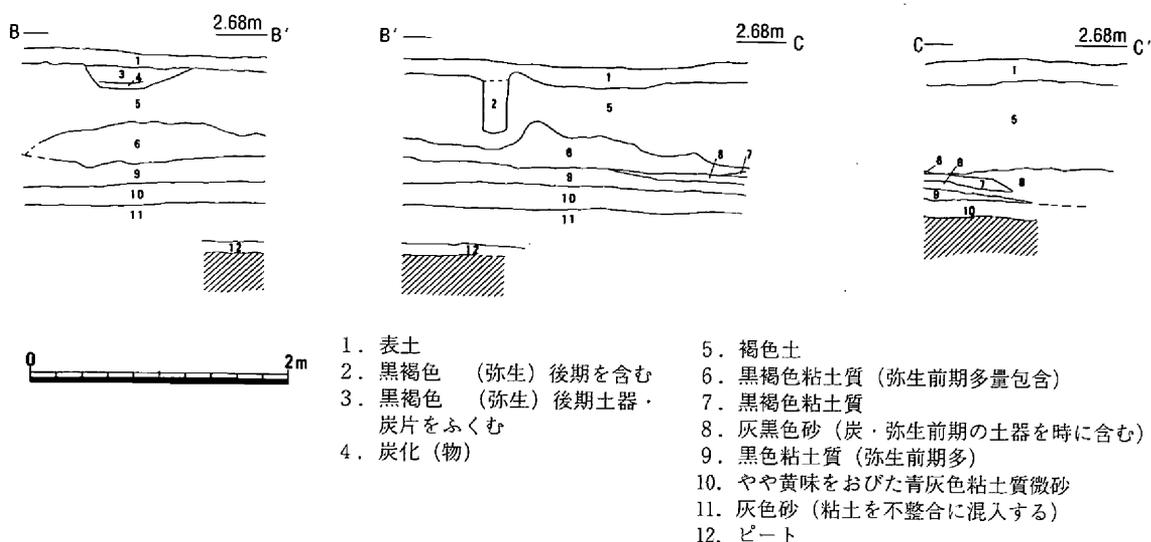


第25図 南池地点調査区名称と断面位置図 (S=1/400) (今井・井上・岡本・黒崎)

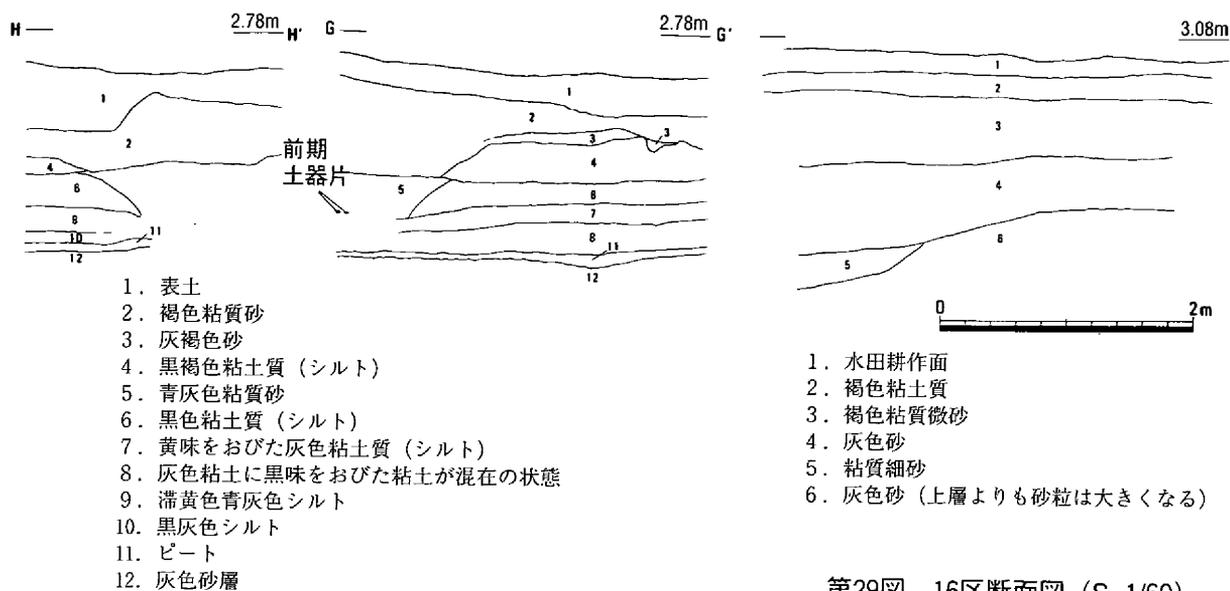
第4章 調査の概要



第26図 北3A区西壁断面図 (S=1/60) (井上・岡本・角田)

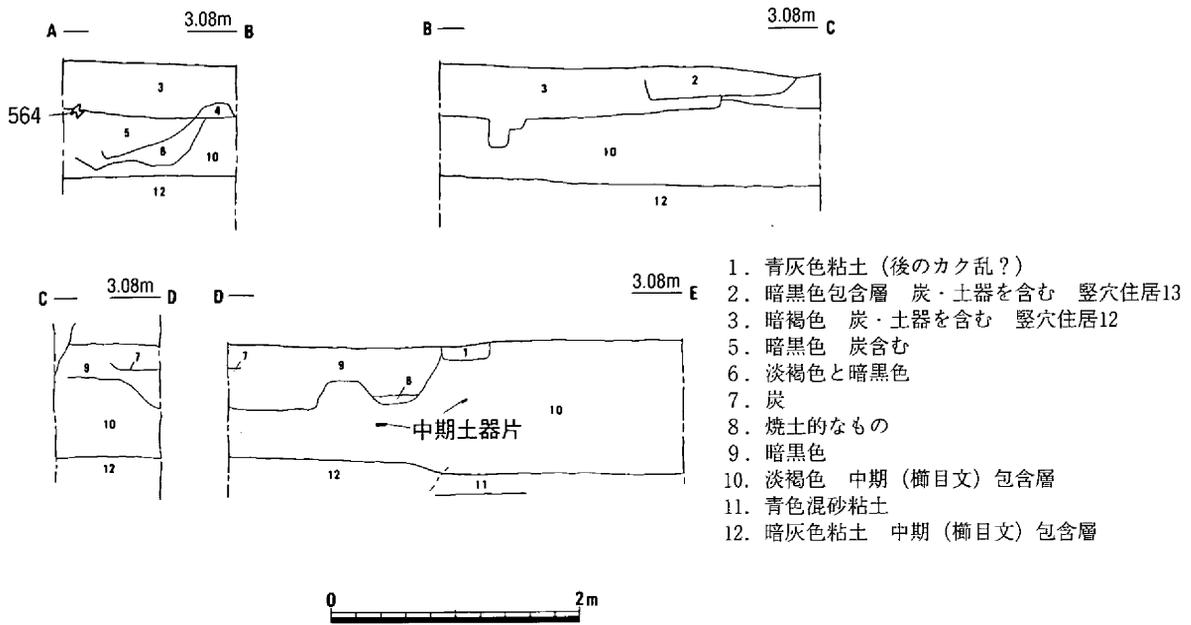


第27図 北3B区南・西・北壁断面図 (S=1/60) (近藤・角田・西崎)

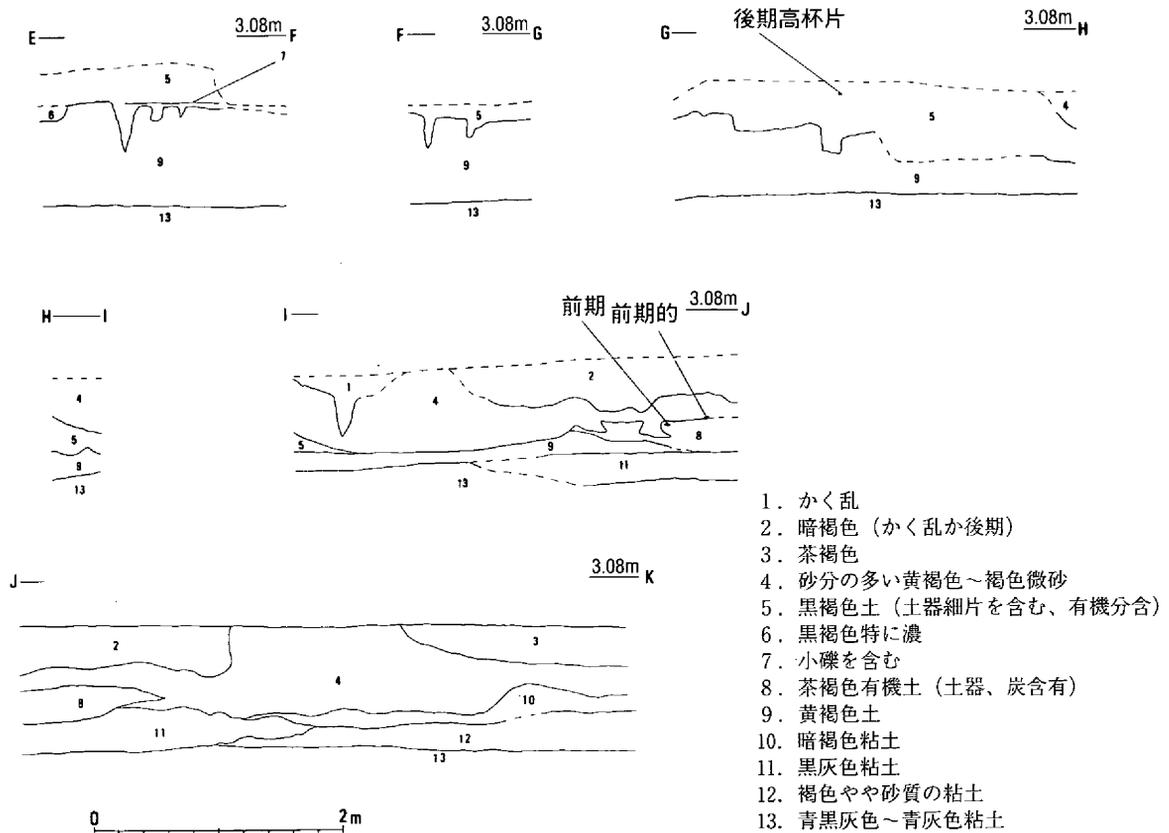


第28図 北5A区南・北壁断面図 (S=1/60)
(第2次調査津島遺跡調査団)

第29図 16区断面図 (S=1/60)
(井上・難波・林)



第30図 第3カット断面図 (S=1/60) (井上・西尾・間壁葎子)

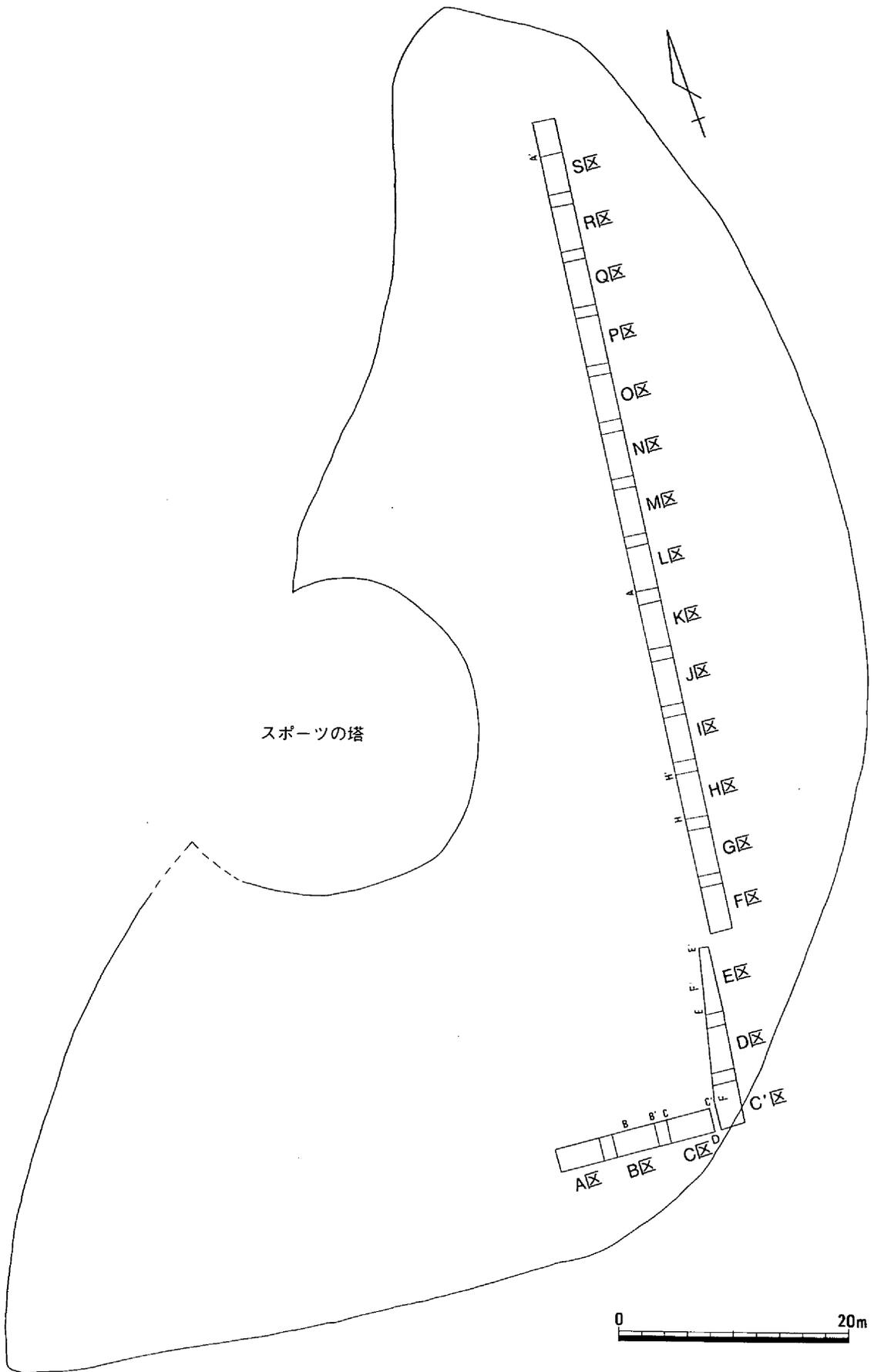


第31図 第4カット断面図 (S=1/60) (高橋恵美子・間壁忠彦・間壁葎子)

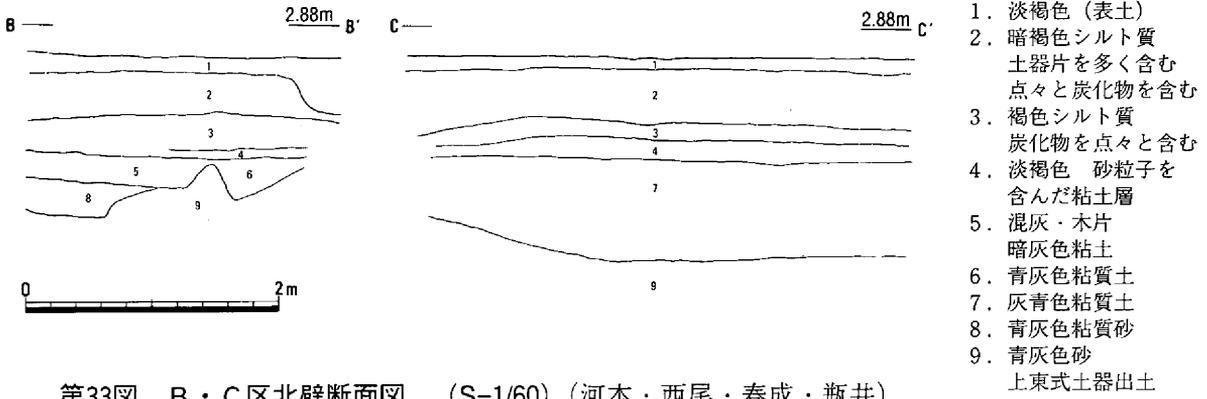
るよう配慮されている。東西を先に西からA～C区、C区の東側から北へC'～S区を設定している。

2 層序

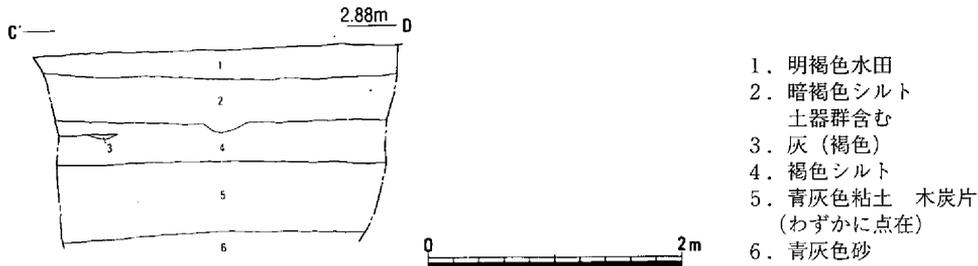
第2次調査の層序は、大部分が弥生時代後期の層が最上部に露出した状態から始まっている。北3 A区のように旧水田層が残る部分は、旧水田層以前に弥生時代後期の面まで削平されたと考えられる。



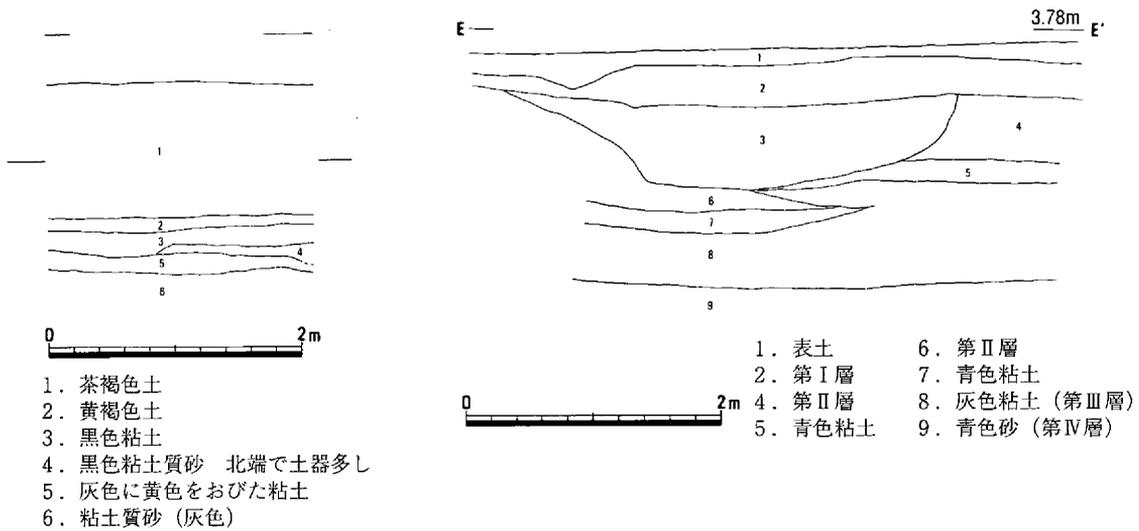
第32図 南池地点第3次調査調査区配置図 (S=1/500) (岡本・西尾・春成)



第33図 B・C区北壁断面図 (S=1/60) (河本・西尾・春成・瓶井)

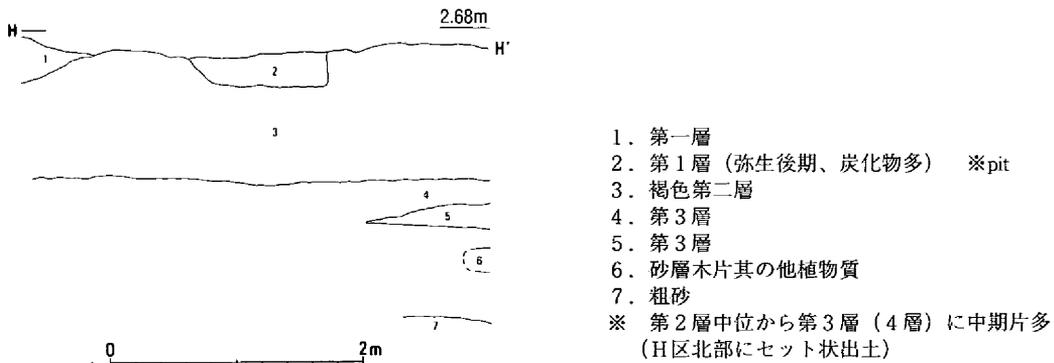


第34図 C区東壁断面図 (S=1/60) (河本・西尾)

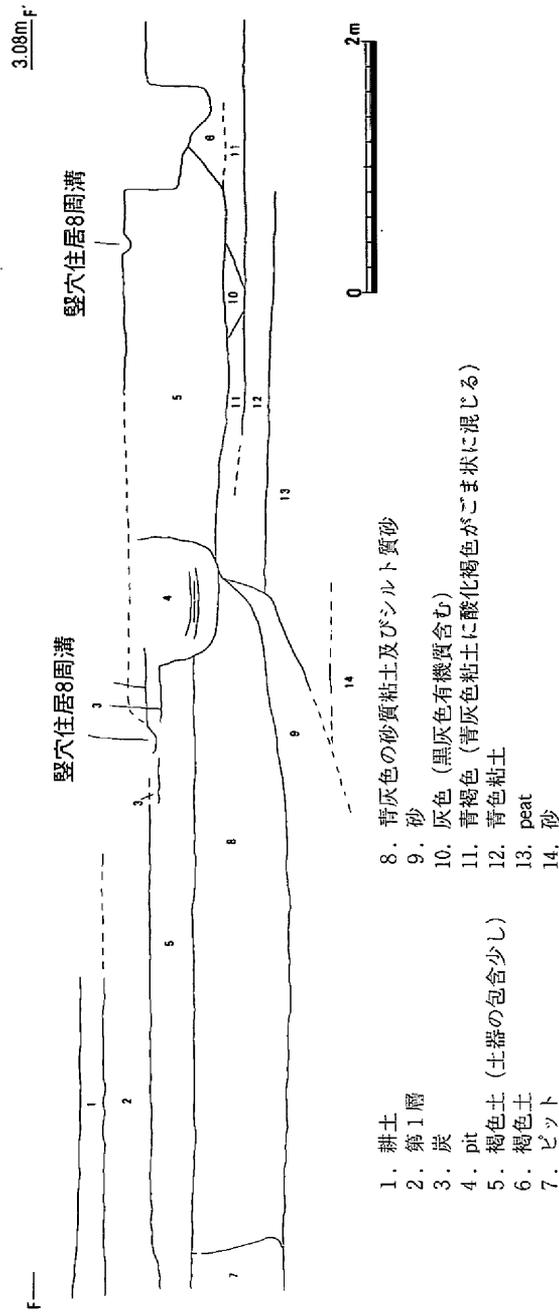


第35図 C'区西壁断面図 (S=1/60)
 (河本・高田)

第36図 E区西壁断面図 (S=1/60)
 (岡本・河本・西尾・村上)



第37図 H区西壁断面図 (S=1/60) (井上・角田)



L~S区 土層注記

- L区**
1. 攪乱
 2. 褐色土 (後期)
 3. 青灰色粘土 (前期)
 4. 黒色粘土 (前期)
 5. 灰色粘土
 6. 青灰色砂

- N区**
1. 褐色土 (上東の新式)
 2. 青い粘質砂 (ビシャ)
 3. 粘土
 4. 青色砂
 5. 青い粘土
 6. やや黒い土
 7. 黒色粘土 (前期)
 8. 粘土
 9. 砂

- O区**
1. 褐色土 (上東の新式)
 2. 青い粘質砂 (ビシャ)
 3. 青い粘質砂 (ビシャ)
 4. 黄砂
 5. 青い砂
 6. 少し荒い白青砂
 7. 青粘質
 8. 青砂

- P区**
1. 褐色土 (後期)
 2. 褐色砂
 3. 黒みをおびた砂
 4. 粘土
 5. 青い砂
 6. 青い粘質砂 (ビシャ)
 7. 黄砂
 8. 青い粘質砂
 9. 青やあらい砂 (中期の土器)
 10. 粘質砂

- Q区**
1. 黒褐色有機土 (後期)
 2. 包含層の段々青色になる部分の粘質土 (粘質土)
 3. 褐色土 (茶色) (無遺物)
 4. 黄色砂
 5. マンガンの褐色
 6. 灰黄色砂
 7. 青色砂
 8. 青色砂
 9. 小円礫砂 (中期包含層)
 10. 青灰色砂

第38図 C'・D区断面図 (S=1/60) (近藤)

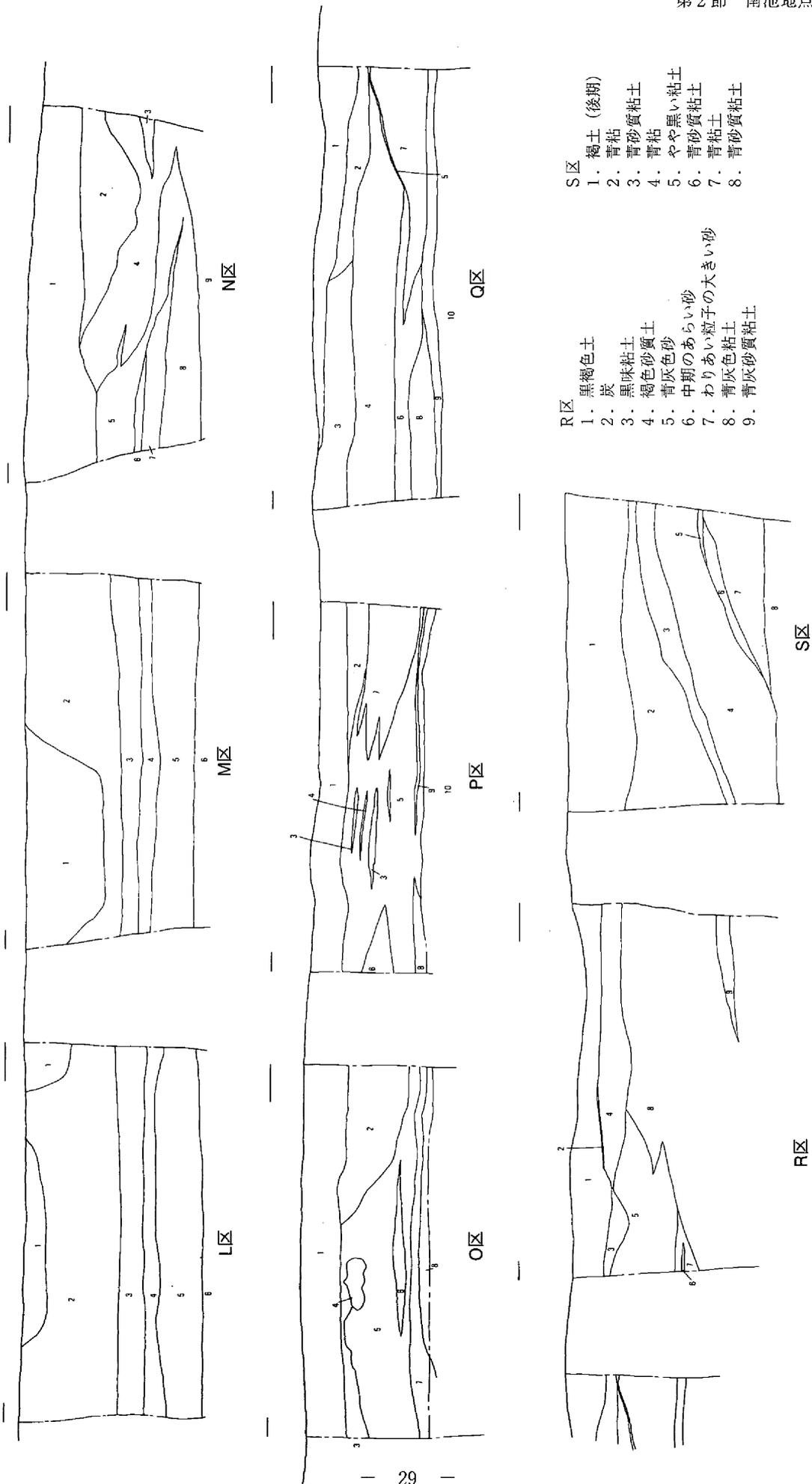
池掘削工事によってさらに深く掘削された部分も存在する。

第4カット東側のように黒褐色土層 (弥生時代後期包含層) が残る地点は少なく、弥生時代後期の遺構面は褐色土 (粘質微砂) 層に掘り込まれている。褐色土層は弥生時代後期の基盤層として南池中広範囲に存在している。この層は弥生時代中期以降に堆積したと考えられ、断面図中に土器片が図示されている。褐色土層は、50cmから所によっては1mというかなりの土量になる厚さに堆積している。褐色土層の下には、弥生時代前期の包含層黒褐色土 (粘土質) 層が存在する地点もある。その下は遺物を含まない青灰色粘土、灰色砂層が見られる。黒褐色土が観察される調査区は、北3A区と北3B区、第4カット東側である。

第3次調査の層序も、弥生時代後期面が露出した状態から始まる。

池の南東に位置するB・C区では、第9層から上東式土器出土との記載があり、弥生時代後期の遺物を含む河道であったことがうかがえる。ただし、D区とE区の間には竪穴住居11が位置し、その下層に土層1が存在するので、D区は弥生時代後期の微高地上にあたることはまちがいないだろう。C'・D区土層断面図 (第38図) での第9層下面がこの河道の肩口に当る可能性が高い。

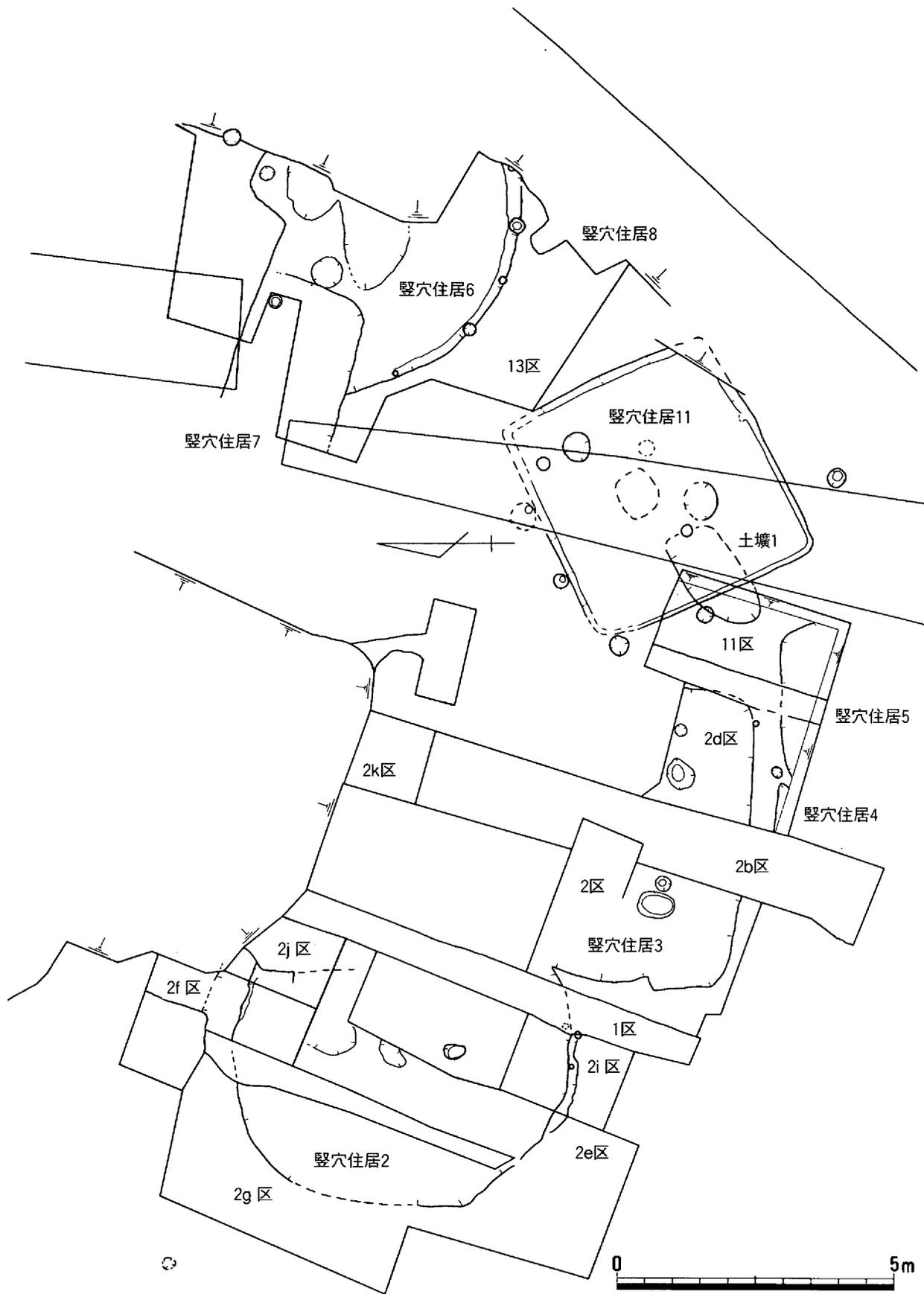
D区、H区、L~S区の褐色土は第2次調査層序でも確認した弥生時代後期の基盤層と思われる。



- R区
1. 黒褐色土
 2. 炭
 3. 黒味粘土
 4. 褐色砂質土
 5. 青灰色砂
 6. 中期のあい粒子の大きい砂
 7. わりあい粒子の大きい砂
 8. 青灰色粘土
 9. 青灰砂質粘土
- S区
1. 褐土 (後期)
 2. 青粘
 3. 青砂質粘土
 4. 青粘
 5. やや黒い粘土
 6. 青砂質粘土
 7. 青粘土
 8. 青砂質粘土



第39図 L～S区西壁断面図 (S=1/60) (第3次調査津島遺跡調査団)



第40図 1・2・13区遺構配置図 (S=1/100)
(近藤・潮見・小川・高重・鷹羽・西尾・春成・横山)

Q・R区では黒褐色土が褐色土の上に堆積している。R区でこの黒褐色土の直下に炭層が確認されていることから、黒褐色土は遺構の可能性が高い。D区～L区は弥生時代後期段階は微高地であったことがうかがわれる。

褐色土層の下には、N区～S区には弥生時代中期の土器を含む河道が存在する。P区のように検出面から1mで中期の包含層が見られる所もある。この河道は前期層の黒色粘土を切っている。黒色粘土はL・M区までは水平堆積を見せるが、N区で消失している。S区の第5層（やや黒い粘土）が黒色粘土に相当すると見ると、S区内に河道の斜面が存在することになる。

3 弥生時代後期から古墳時代前期の遺構

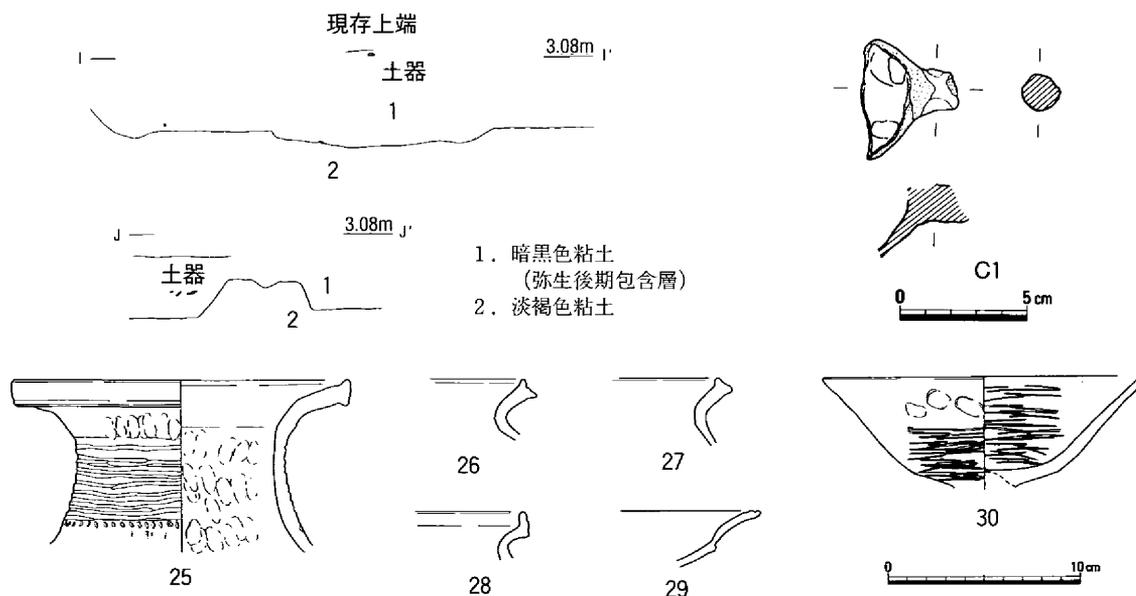
竪穴住居1（第25・41図）

13区の北に独立して検出された竪穴住居である。平面形や柱穴などの施設は不明で、おそらく住居の南東側の一部だけが調査できたものと推定される。断面図からすると、検出面からの深さは最大75cm、全長は4m以上と推測できる。竪穴住居1の掘り方底面は海拔高2.505mを測るが、他の住居と比べて、特に竪穴住居2より50cm高いなど、かなりの差があることが指摘できる。遺物のうち26・27は床面からの出土で、C1は椀状の本体に棒状の柄が付く土製品である。30だけは古・前・I～IIの時期であるが、床面の土器を尊重して住居の時期は弥・後・II～IIIの時期に相当するものと考えられる。

竪穴住居2（第42～47図）

南池の南、2区西側で検出された竪穴住居である。平面形は検出面で直径6.1mのやや多角形状に見える円形をなし、深さは最大20cmを測る。壁体溝も確認されている。住居中央に見える方形の範囲は未調査部分で、東側の方形範囲も同じである。北東側は池掘削の攪乱が入っている。住居2の北東は別の住居と思われる遺構に切られ、また東側は未調査部分のため不明である。

平面図住居内中央部に示した北西側の範囲は第2面上の土器密集範囲である。その東隣の遺構は、床面の炭化物を切っているとの注記がなされているが、住居の柱穴の可能性もある。中央部の楕円形状のものが中央穴で、炭化材が掘り方に架かった状態で検出されている。その他に図示したのは、第



第41図 竪穴住居1断面図（S=1/60）（西尾）・出土遺物

第4章 調査の概要

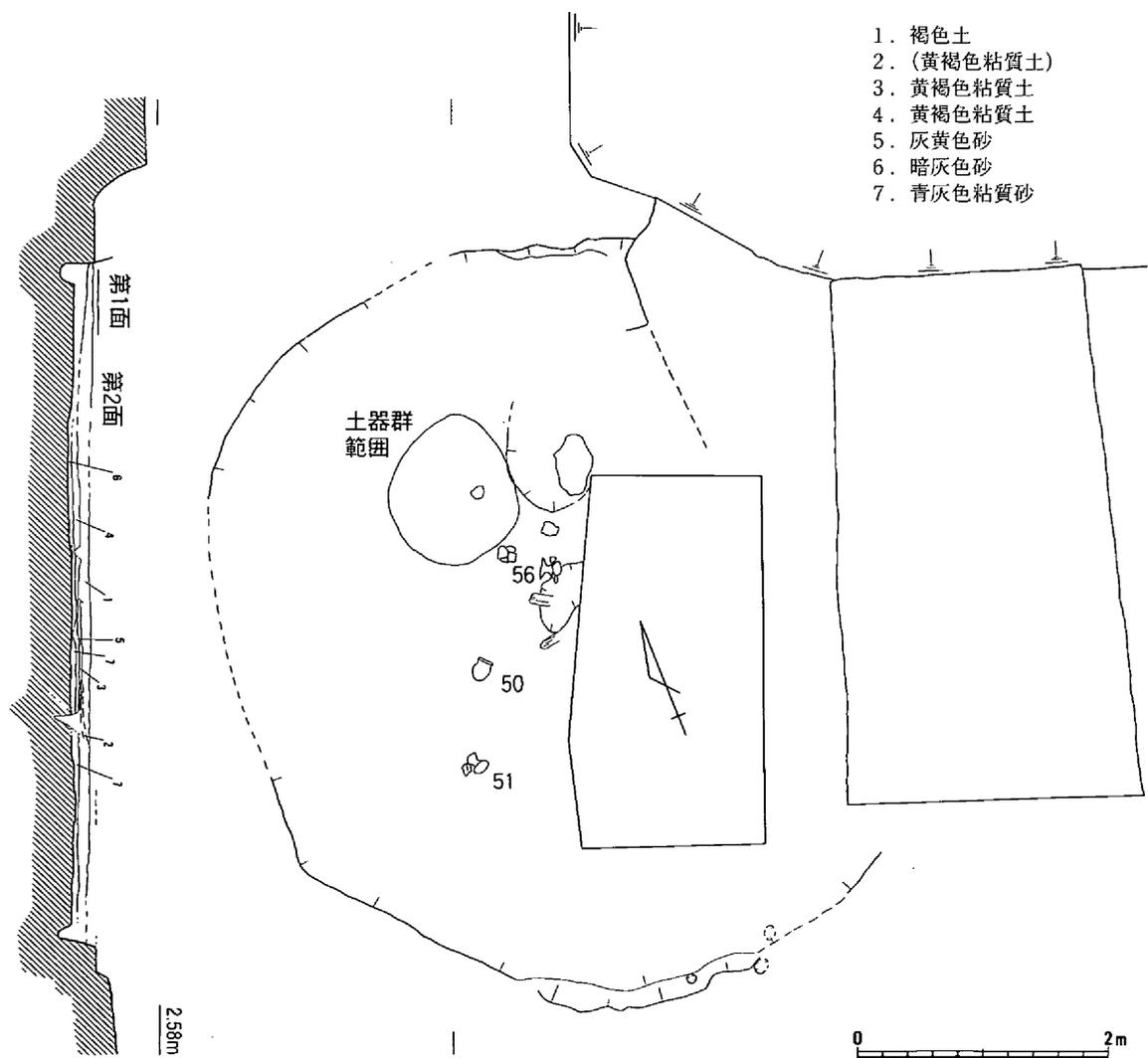
2面出土土器である。図面と掲載遺物が写真などによって照合できたものは、掲載番号を付してある。

土層断面では、第1～5層が埋土、第6・7層が貼り床と考えられる。埋土は黄色系の色調を呈し、狭い範囲で複数の水平堆積をなす。土層注記には記さなかったが、第3・5・7層の下面には炭化物の薄い層がはさまる状態を観察できた、と記録されている。

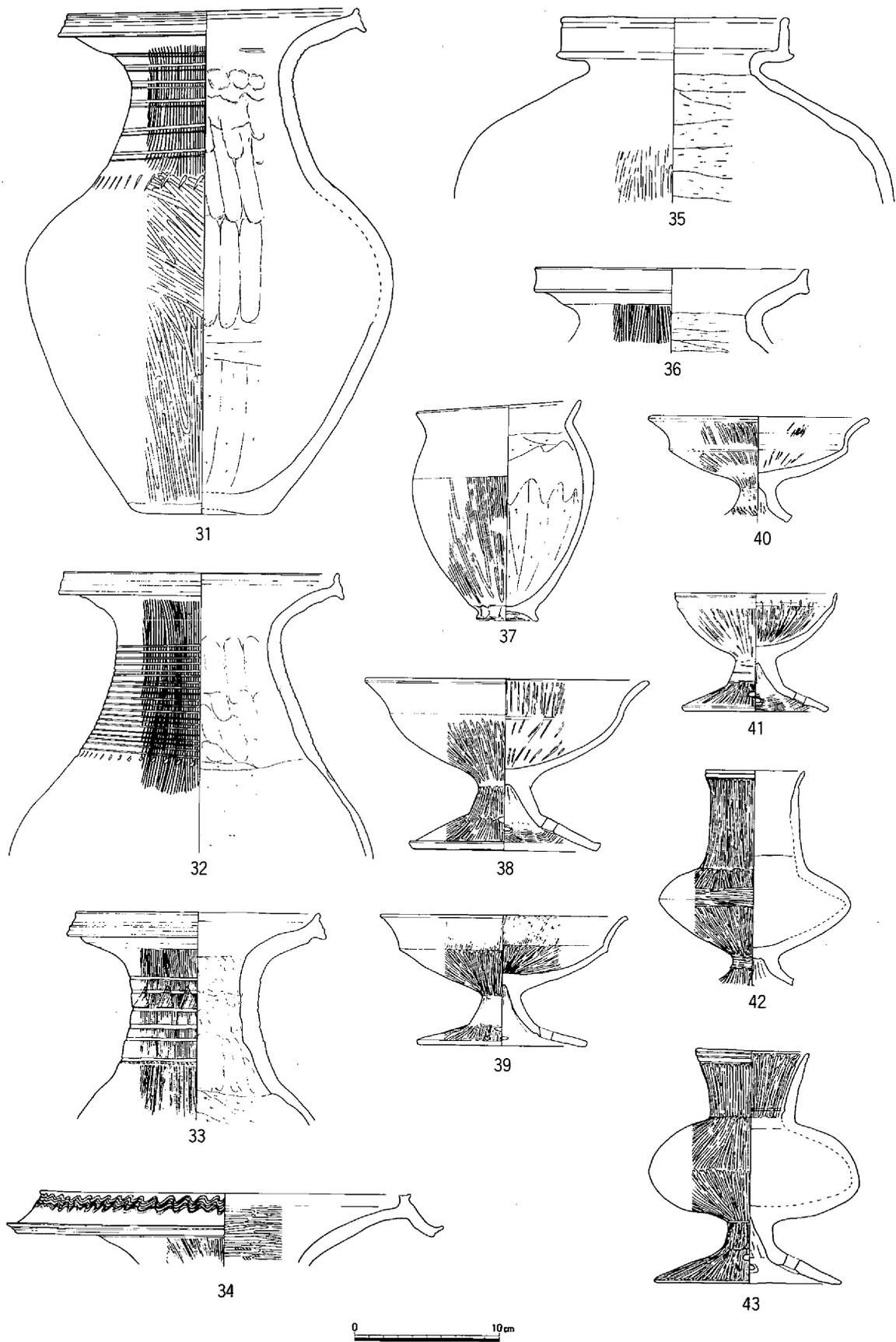
竪穴住居2の掘り方底面は海拔高1.975m、床面はそれより5～7cm高く2.03m程度であろう。

また土層断面には、住居2の北側の落ち込みは別の住居にあたる、という注記が見られる。この別の住居は平面図に記載がないが、もしその通りだとすると少なくとも第1面出土土器はこの住居2上面にある住居に属する可能性が高くなる。

さらに住居断面には示していないが、竪穴住居2の下には、第6・7層下10～18cmに炭化物の薄い水平な層が存在する。この住居2の下層は住居2の南端から北へ延び、ちょうど第2面土器群範囲の下で窪んで、焼土あるいは炭の層が7cmほど堆積している。この範囲は1.35mの長さで確認でき、北端は上へ上がっている。住居の下層出土遺物の内第47図に示したものはこの2つの層からの出土である。



第42図 竪穴住居2 (S=1/60) (小川・鷹羽・西尾)



第43図 豎穴住居2第1面出土遺物1

竪穴住居2からは多くの土器が検出されているが、それらは第1面・第2面に分けて丁寧に取り上げがなされている。住居断面図で第1・2面の層位を示している(第42図)。

第1面の出土状況は、写真を見る限り図版3の3枚目に示したように密集状態であったと思われる。この写真中央の台付直口壺は43である。第2面になると、図版4の1枚目のように配置がまばらになり、個体数も少なくなる。明らかにこの面は、埋積の時期差を物語っているようである。

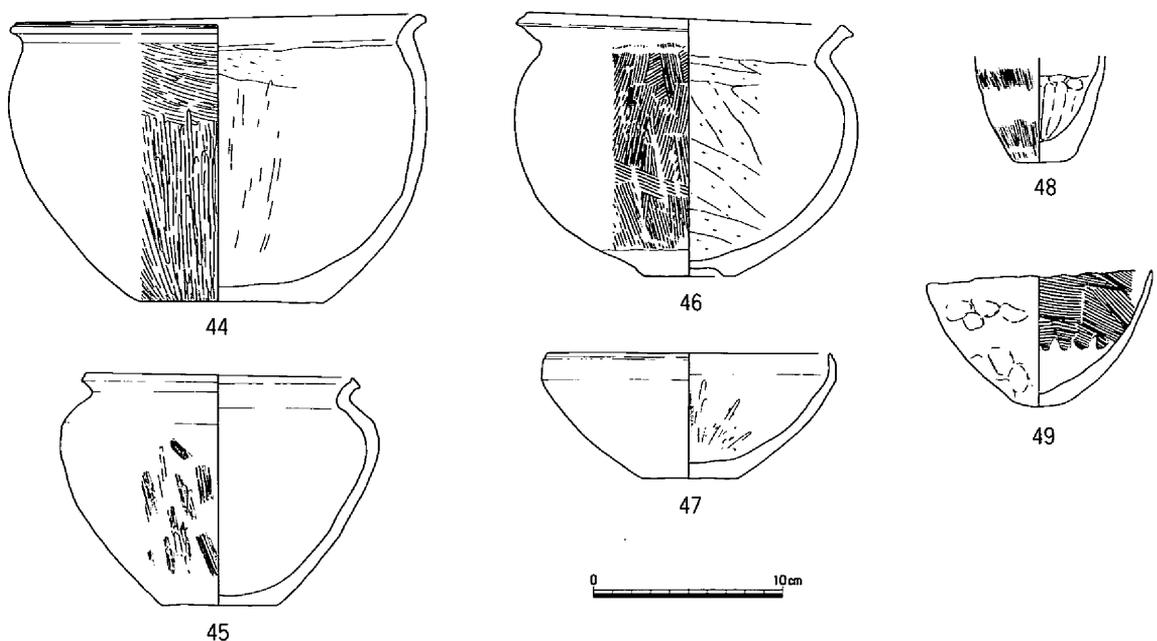
第1・2面の土器は、長頸壺、短頸壺、甕、高杯、鉢、台付直口壺が見られる。長頸壺は口縁端面の拡張は著しくなく、頸部は緩やかにハの字状に開き胴部に繋がるものである。一方短頸壺の口縁端面は、拡張が著しいものと少ないものが存在する。甕は口縁端面を拡張するものがあまり顕著には見られない。高杯は口縁部の伸長が著しくないが脚部は短くなり、胎土は精良である。また脚柱部が空洞のものがほとんどで、これは台付直口壺でも同じである。第2面の土器は、第1面の土器と型式差がないようで、甕、高杯、鉢、器台が見られる。口縁部端面を拡張する高杯51や器台56は類例が少ないようである。このような特徴から、第1・2面から出土の土器は弥・後・Ⅲの時期に相当し、第1・2面の時期差は小さいと考えてよい。

第46図の遺物は、63と65を除いて住居内出土である。63は住居下面からの出土である。残存状況は非常に悪い。65は第1面上からの掘り込み出土である。石器はほとんど見られず、S3の打製石包丁が唯一実測可能な石器である。

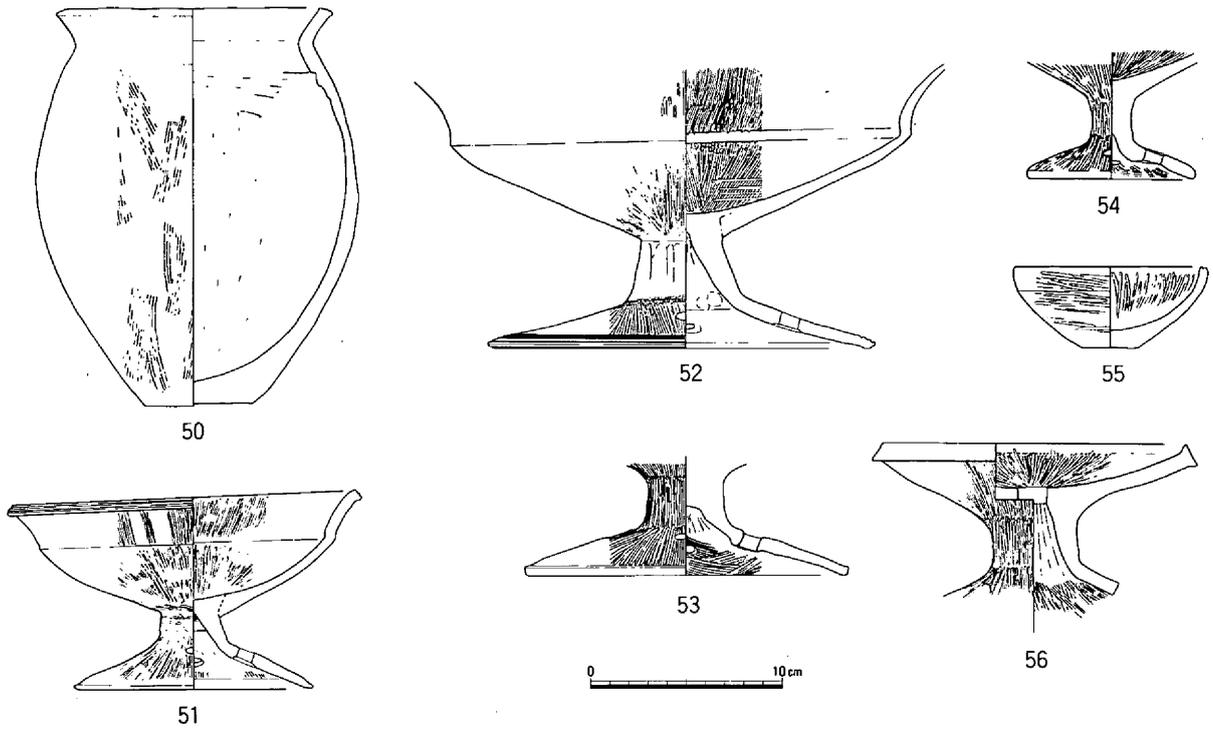
竪穴住居2の下層土器(第47図)は、第1・2面出土土器よりも古い傾向を示す。直接比較できるものは長頸壺しか存在しないが、頸部が直線状である。甕の口縁部拡張はやや広めで、肩は張らない。下層の土器は弥・後・Ⅱに相当する。

竪穴住居3(第48~57図)

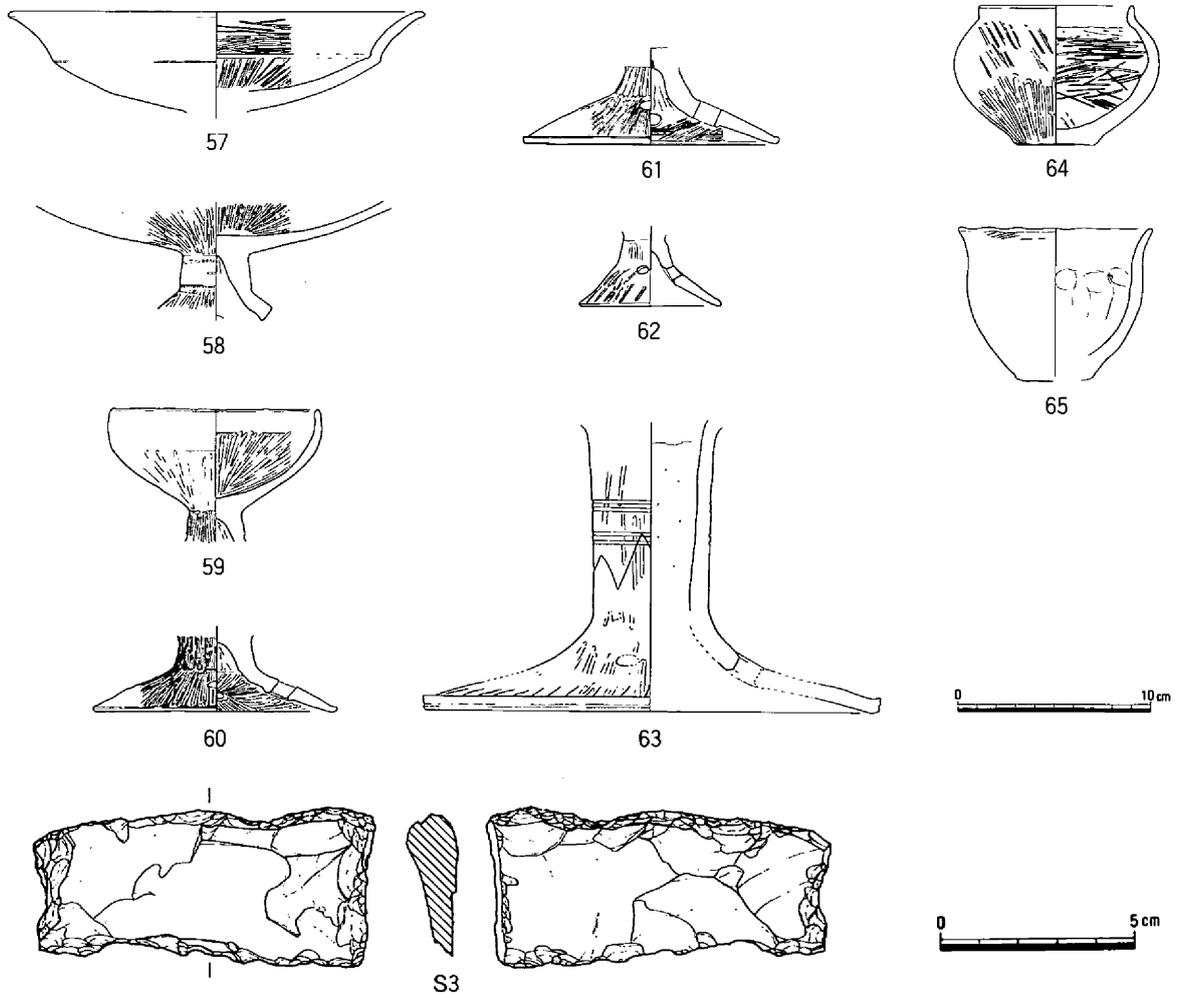
竪穴住居2の東に隣接する隅丸方形の住居で、検出面で東西幅5.3mを測る。調査区の設定上、住居の北・東辺が位置すると予測される北東・北西側は調査できず、南側半分のみ検出したにとどまる。東辺は復元線が図示されているが実体は不明と思われる。竪穴住居2との切り合い関係もよくわから



第44図 竪穴住居2第1面出土遺物2



第45図 竪穴住居 2 第 2 面出土遺物



第46図 竪穴住居 2 出土遺物

ない。

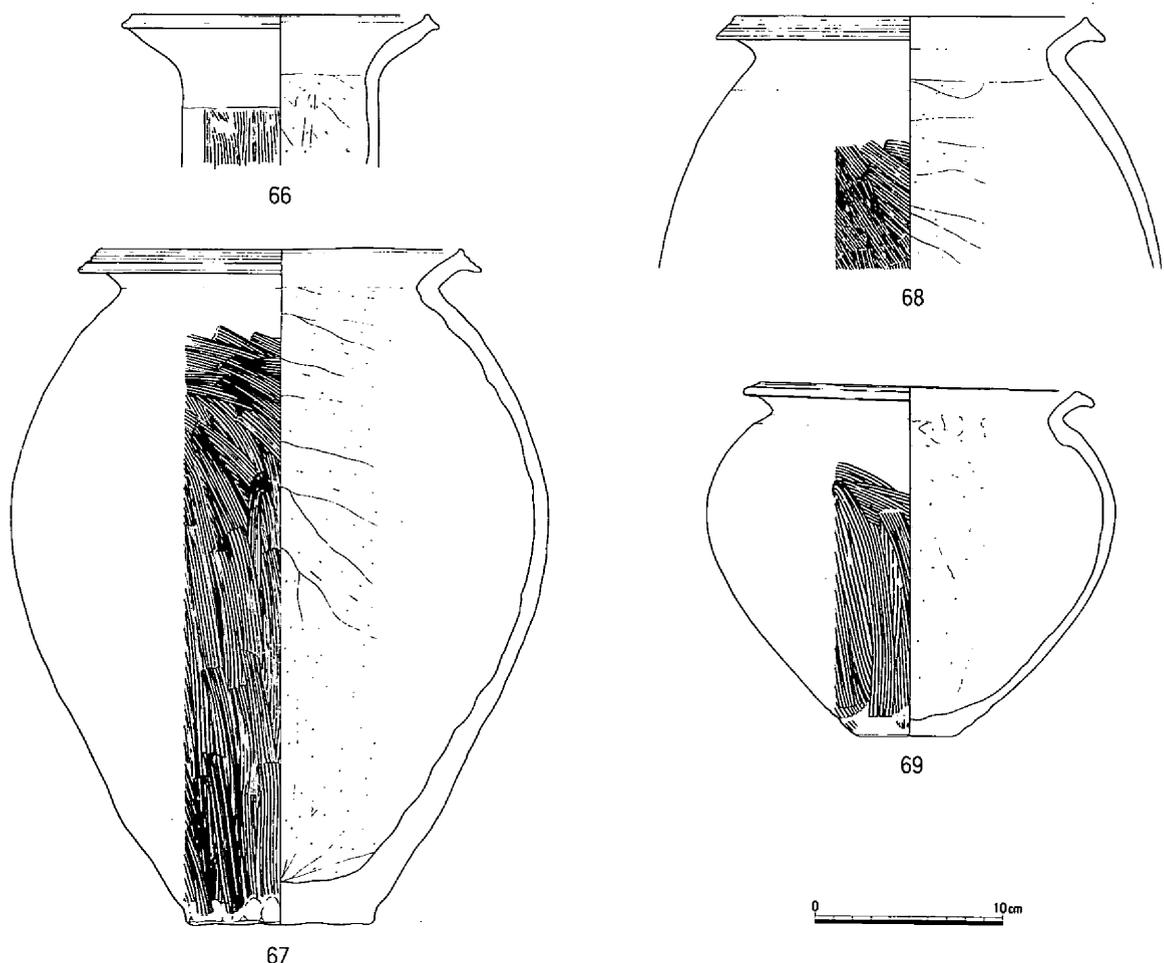
住居内には柱穴が4本検出され、その内もっとも西側の柱穴内には、完形品の壺1点が東側に口縁を向けて横倒しになった状態で見られたが、今その所在は不明である。他に、敲石らしい遺物が図示されている。

先に述べた住居内の最も西側の柱穴がこの住居に伴うとすれば、出土遺物から竪穴住居3は古墳時代初頭の時期に当たる。しかし、この住居の遺物中に古墳時代の遺物はほとんど見られず、後述するように弥生時代後期の遺物が主体を占めることから、この柱穴は住居より新しい遺構と考えた方が良さそうである。

また図面によると、竪穴住居3北側の池掘削による攪乱中に方形の線が記入され、その線が延長されて住居3の北西で曲がっている。この線には、住居3よりやや深い住居と思われるものの掘りこみ線、という記述がある。番号は付いていないが、住居3より新しい竪穴住居の可能性が高い。またこの線の西側は竪穴住居2を切っている。

竪穴住居3の遺物は、主に土器である。土器には竪穴住居3（実際にはh7）と3B（7b）という注記が見られたため、それぞれ別にして掲載した。

住居3の注記があるものは、形態にかなりのばらつきがある。長頸壺では、口縁端面を上下に著しく拡張する70・71、やや拡張する73・75、ほとんど拡張しない72・76などがあり、さらに頸部に沈線



第47図 竪穴住居2の下層出土遺物

を施すものと施さないものがある。甕の口縁部は端部上下の拡張が著しいものはなく、わずかにつまみ上げる81・82、面を作る程度になでる83、あるいは丸く収める85～88がある。胴部は肩の張らない、倒卵形を呈する。高杯は口縁が外反する89・90と椀形の91が見られる。

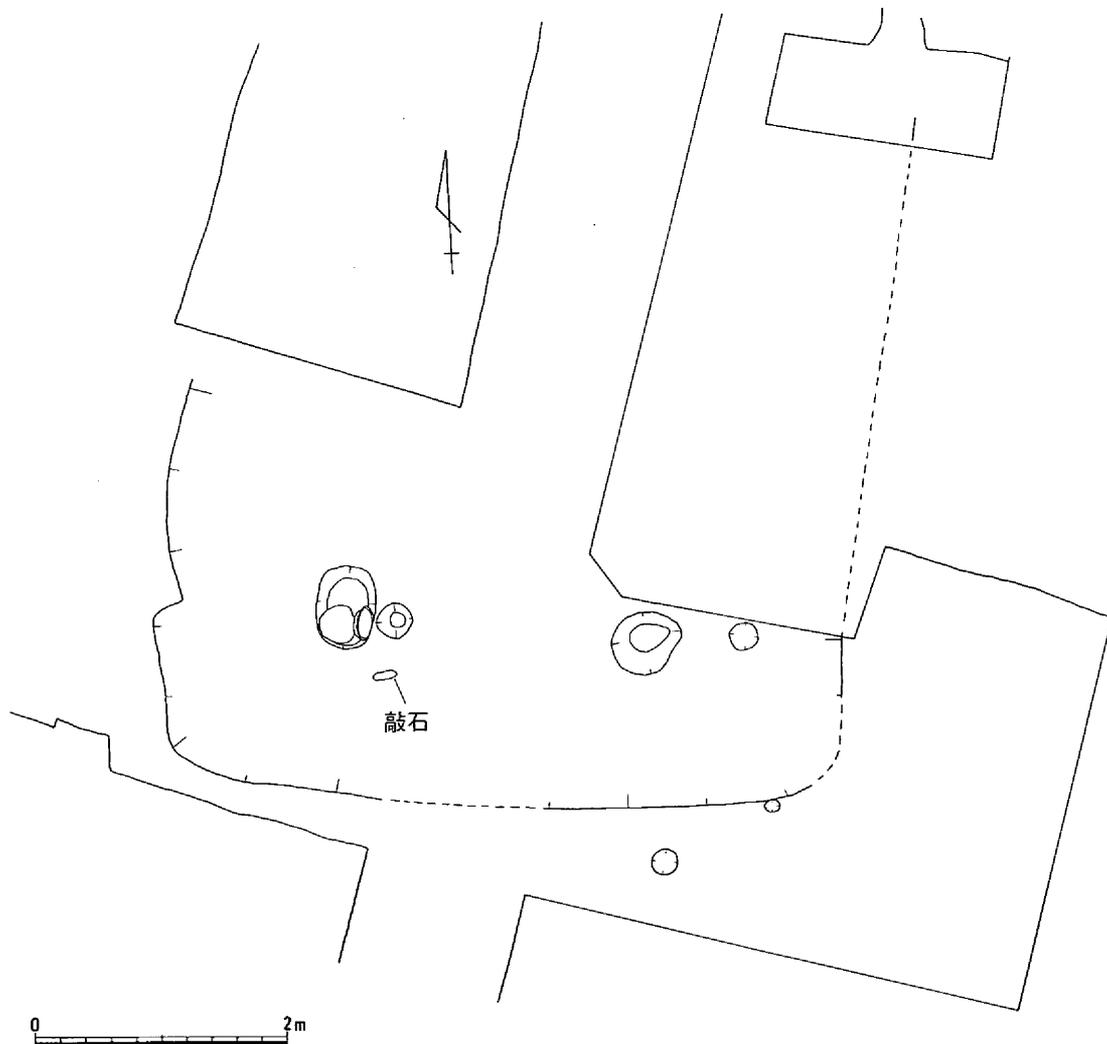
住居3Bの注記があるものは、完形品に近いものが多く見られる。長頸壺は頸部が直線的で、口縁端部の拡張はほとんどないか、少ない。短頸壺は口縁形態が様々だが、中には長頸壺と同様の装飾が見られる104もある。106は口縁端面の上部に綾杉状の文様が施される。甕は口縁端部をやや拡張する109・110、口縁端部を少しつまみ上げる112・117、外面をなでる程度の113・114と丸く収める115がある。いずれも内外面の調整には大きな差異がない。高杯は口縁の大きい119・120・121、小さい124・125と装飾高杯126が存在する。

竪穴住居3の下層から出土した遺物は、これまで説明した住居3出土遺物と同様の形態をもつ。そして、製塩土器134が見られる。また住居3Bの出土遺物として、刀子と思われる鉄器M1がある。

これまで見てきた土器により、竪穴住居3の時期は弥・後・Ⅱに属するものと考えられる。

竪穴住居4（第40・58図）

竪穴住居3の南に位置する遺構である。調査区中に北端が20cm×1mの範囲で検出されている。平面図には、西側のトレンチの断面でも存在が認識できる、という注記が書き込まれているが断面図



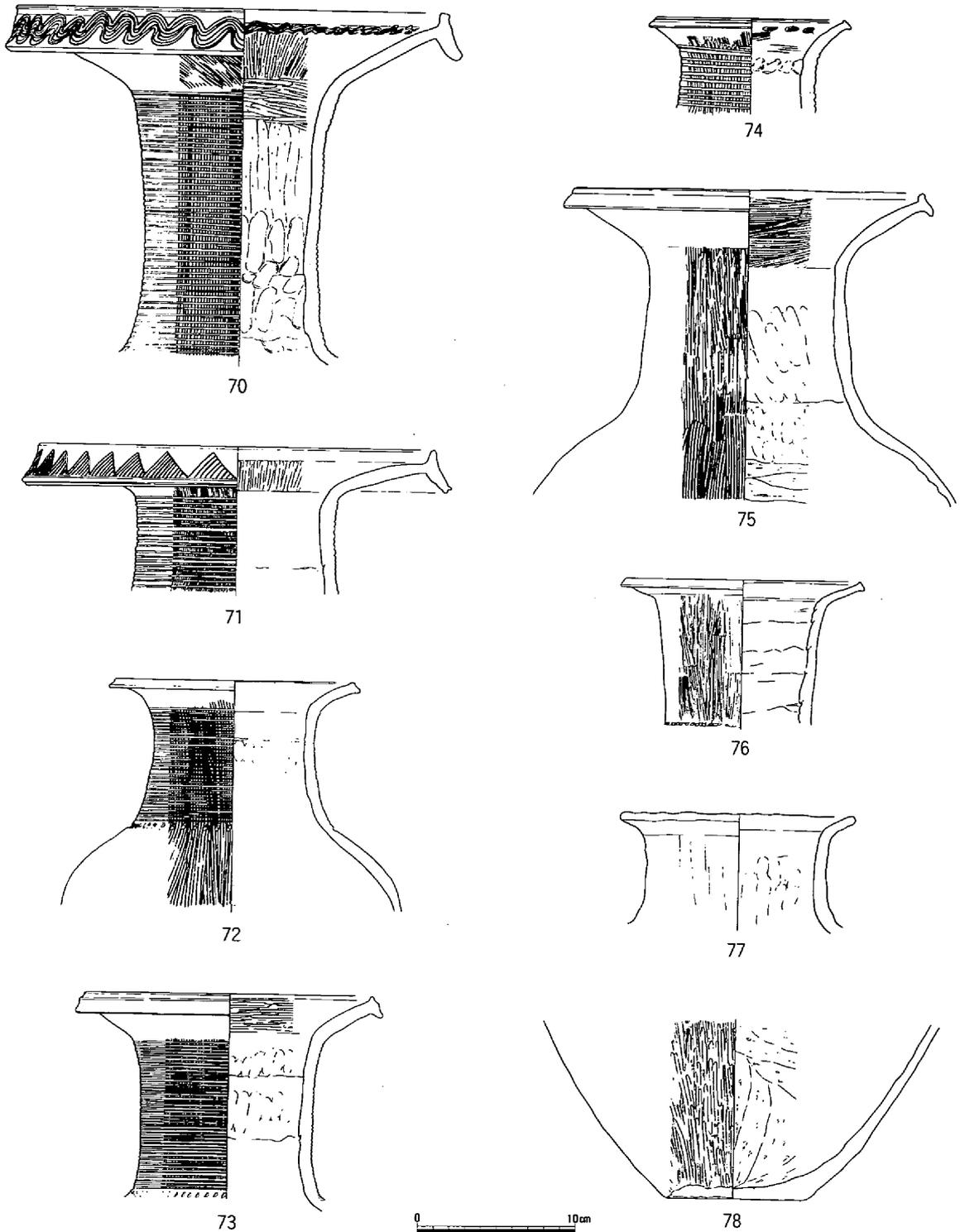
第48図 竪穴住居3 (S=1/60) (小川・鷹羽・西尾)

そのものは確認できていない。

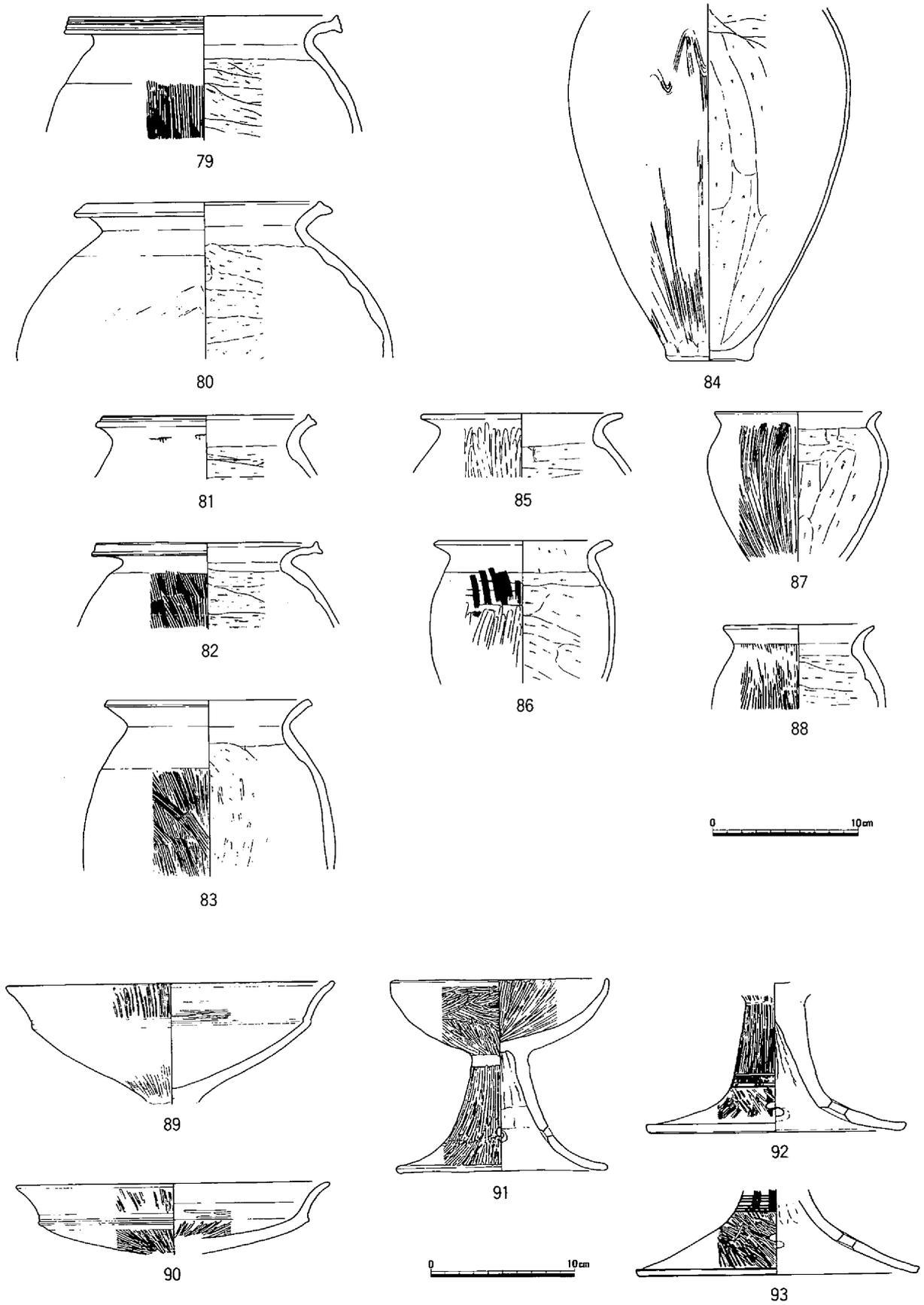
出土遺物は少量である。いずれも床面からで、135は甕の底部、136は器種不明の脚部である。時期は弥生時代後期の範囲に入るのであろう。

竪穴住居 5 (第40・58図)

竪穴住居 4 と同じく竪穴住居 3 の南、竪穴住居 4 の西に隣接する遺構である。調査区中に北端が90cm×2.8mの範囲で検出されている。検出された範囲で判断すると、隅丸方形の平面形と予測でき



第49図 竪穴住居 3 出土遺物 1



第50図 竪穴住居3出土遺物2

る。竪穴住居4と近い位置にあるので、切り合い関係がある可能性もあるが、調査区内では追求できなかったようである。この遺構の個別断面図は確認できなかったため、住居の可能性は高いが、これ以上詳細に報じきれない。

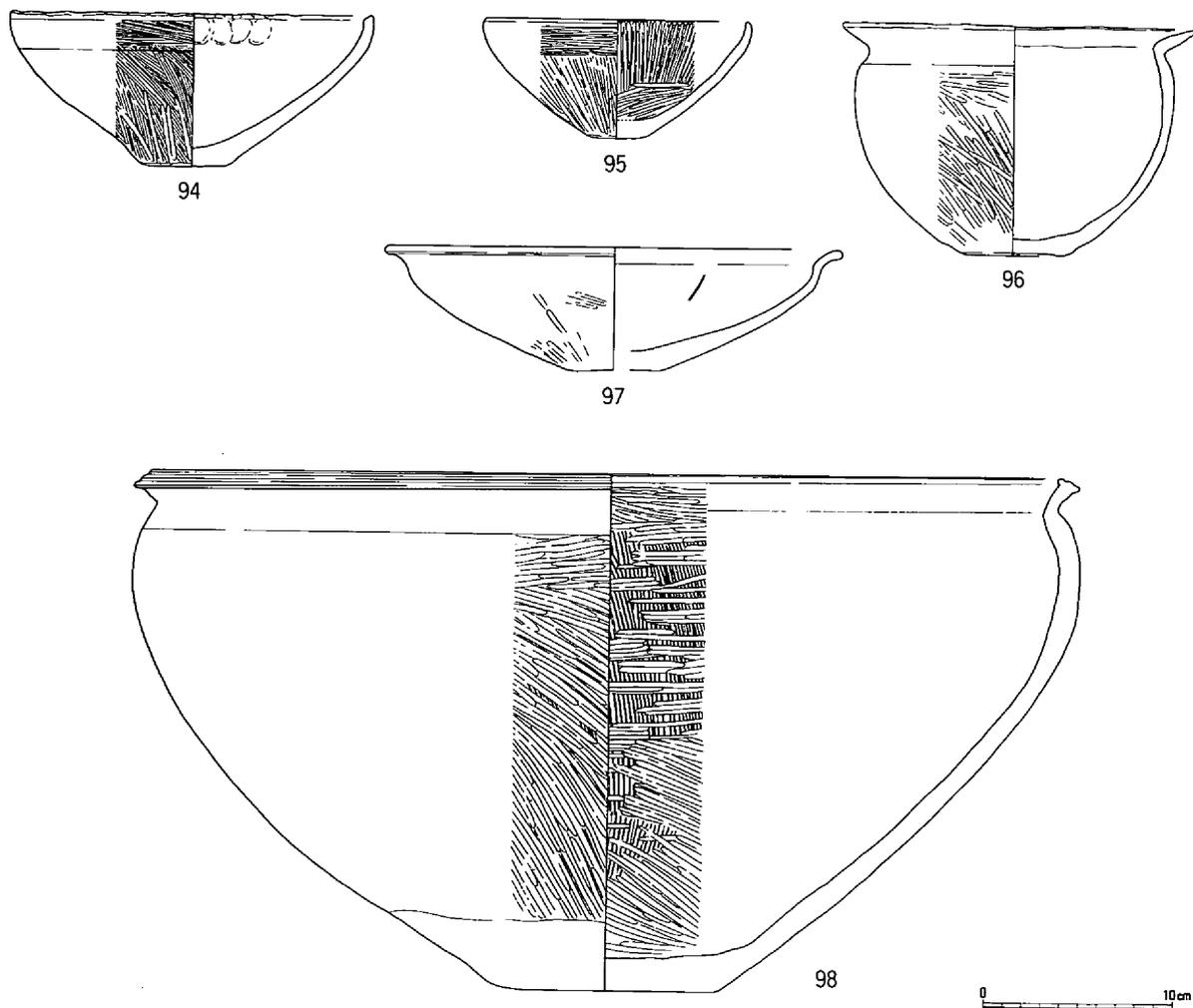
出土遺物は少量である。いずれも床面からで、137は甕の口縁部、138は高杯の口縁部である。少量の遺物で判断するのは困難だが、時期は弥・後・Ⅲを中心とするものと思われる。

竪穴住居6 (第59・60図)

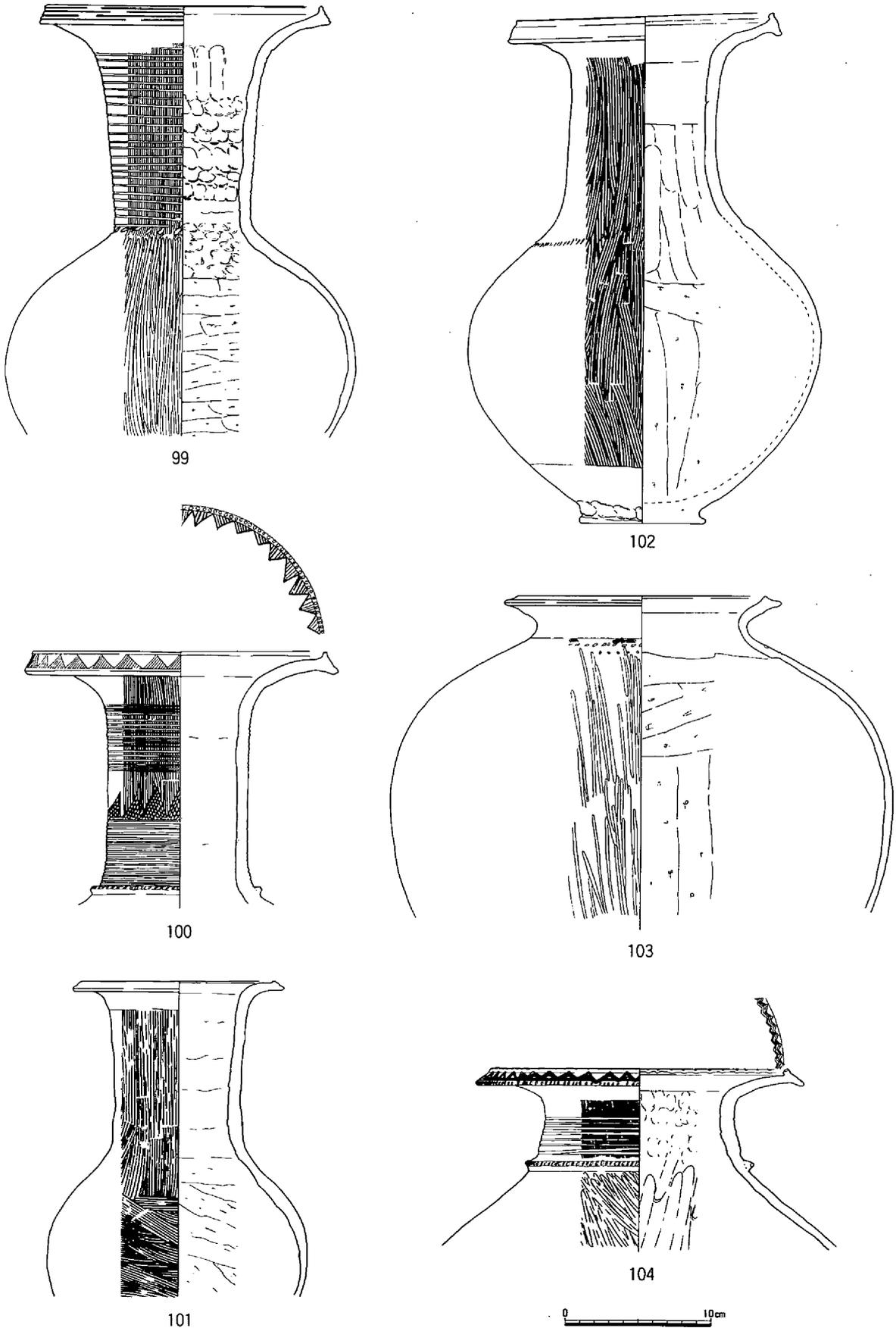
南池の13区に位置する円形の住居である。残存部分は検出面から深さ20cmを測り、直径6.4mが想定できる。北側と東側は池掘削の攪乱で削られ、西側は竪穴住居7が切っている。そのため南側の約1/4が残存しているにすぎない。南池東端の攪乱断面で検出されたのが調査の発端で、第1次調査で掘り下げが行われたが、完掘したのは第2次調査である。

住居内には柱穴2本と土壇2基が検出され、住居の掘り方に接して柱穴が5本見つかっている。住居内の土壇の内、北側は断面で深さ34cm、底面幅は28cmを測り、底面に焼土が見られ、中央穴の可能性が考えられる。南側のもは深さ25~27cm、南側斜面に焼土が確認されている。埋土の堆積状況から、北側の方が南側よりも新しいと考えられる。また住居内には2点の鉄器出土位置が示されているが、該当する遺物の行方がわからない。

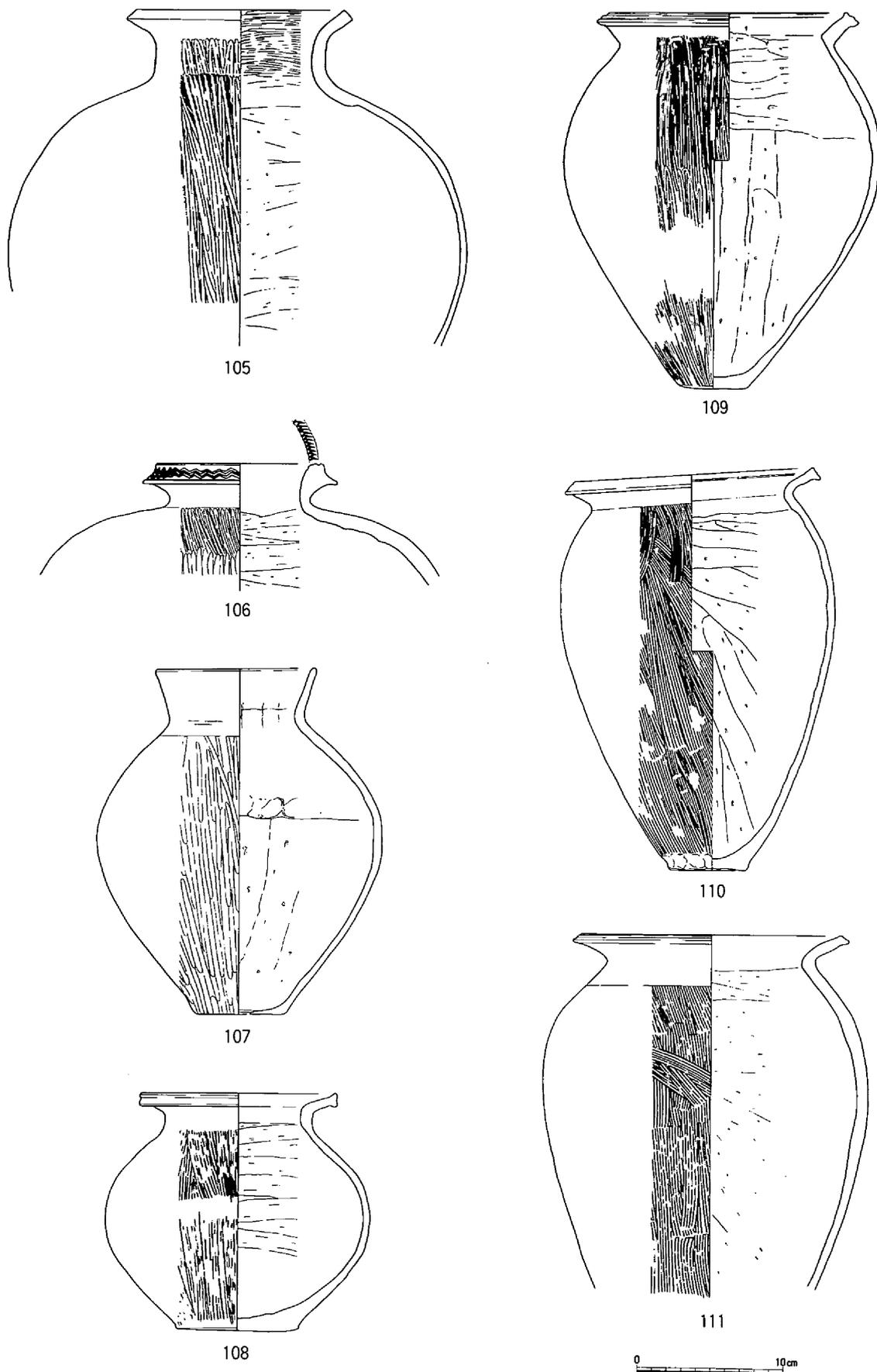
出土遺物は、土器・土製品・鉄器がある。土器はいずれも小片で、量は少ない。二重口縁の甕139



第51図 竪穴住居3出土遺物3



第52図 豎穴住居 3 B 出土遺物 1



第53図 豎穴住居 3 B 出土遺物 2

～143、高杯の脚柱部144・145と鉢がある。鉄器は中空で袋状の不明品M2、土製品は土錘の未製品C2である。土器の時期から、この住居は弥・後・Ⅳに該当する。

竪穴住居 7 (第59・61図)

竪穴住居 6 に接する方形の住居で、南北 2 m、東西 2.7 m の範囲で検出されている。深さや断面形状は不明である。柱穴が 1 本検出されたが、本住居に伴うかどうか不明である。

出土遺物は土器小片で、量は少ない。甕の口縁部 149、高杯の脚柱部 150・151、高杯の脚端部 152 が図示できる。時期は小片につき明言できないが、古・前・Ⅰ～Ⅱに当たるのではなかろうか。

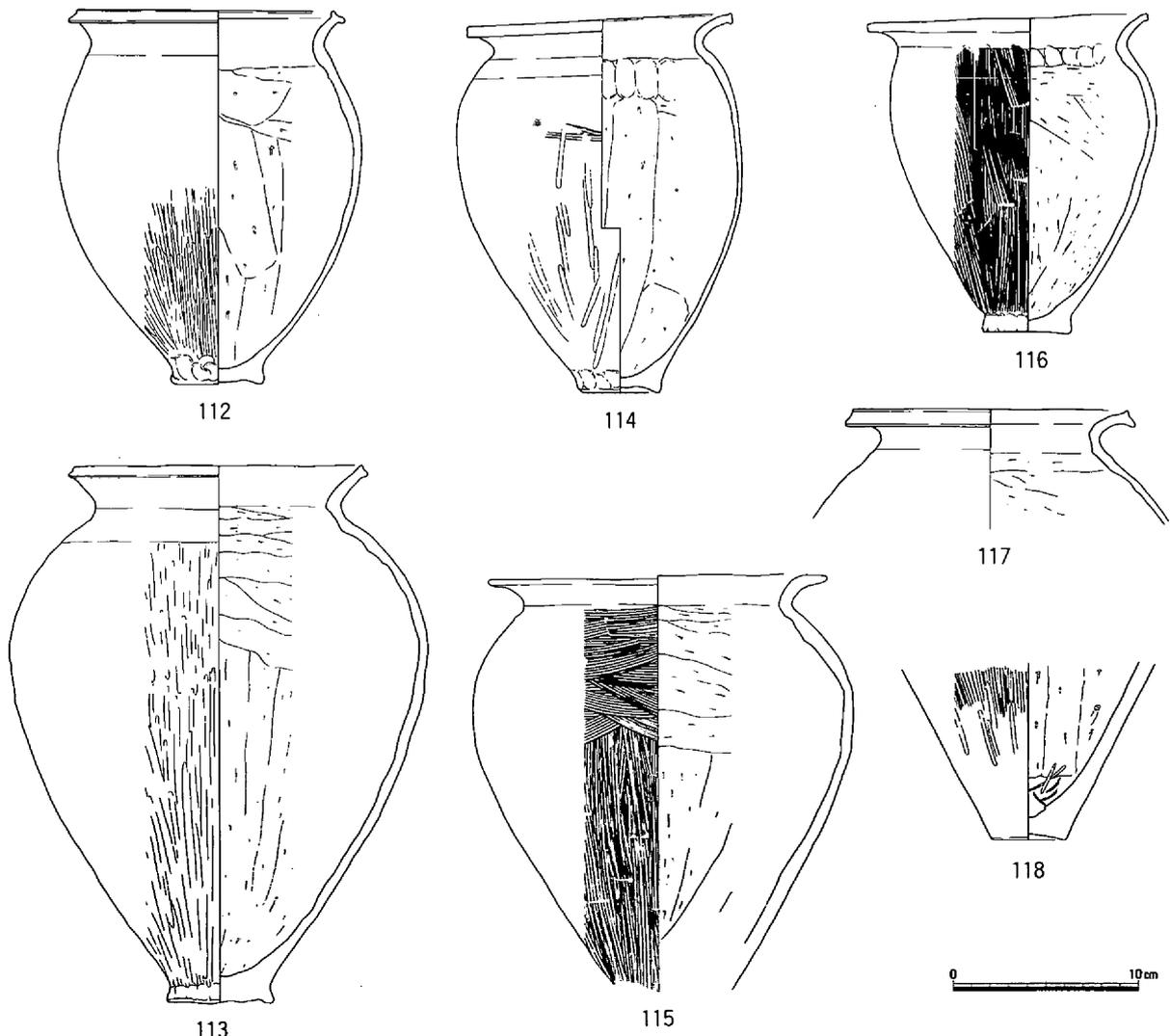
竪穴住居 8 (第40・62図)

竪穴住居 6 の南、攪乱断面で検出した遺構である。略図で 4 層の炭化物層とその下に焼土を伴う断面が書かれていることから、この遺構も竪穴住居跡の蓋然性が高い。遺物は土器が少量存在し、153 が甕口縁部、154 と 155 は底部である。時期は弥生時代後期から古墳時代初頭であろう。

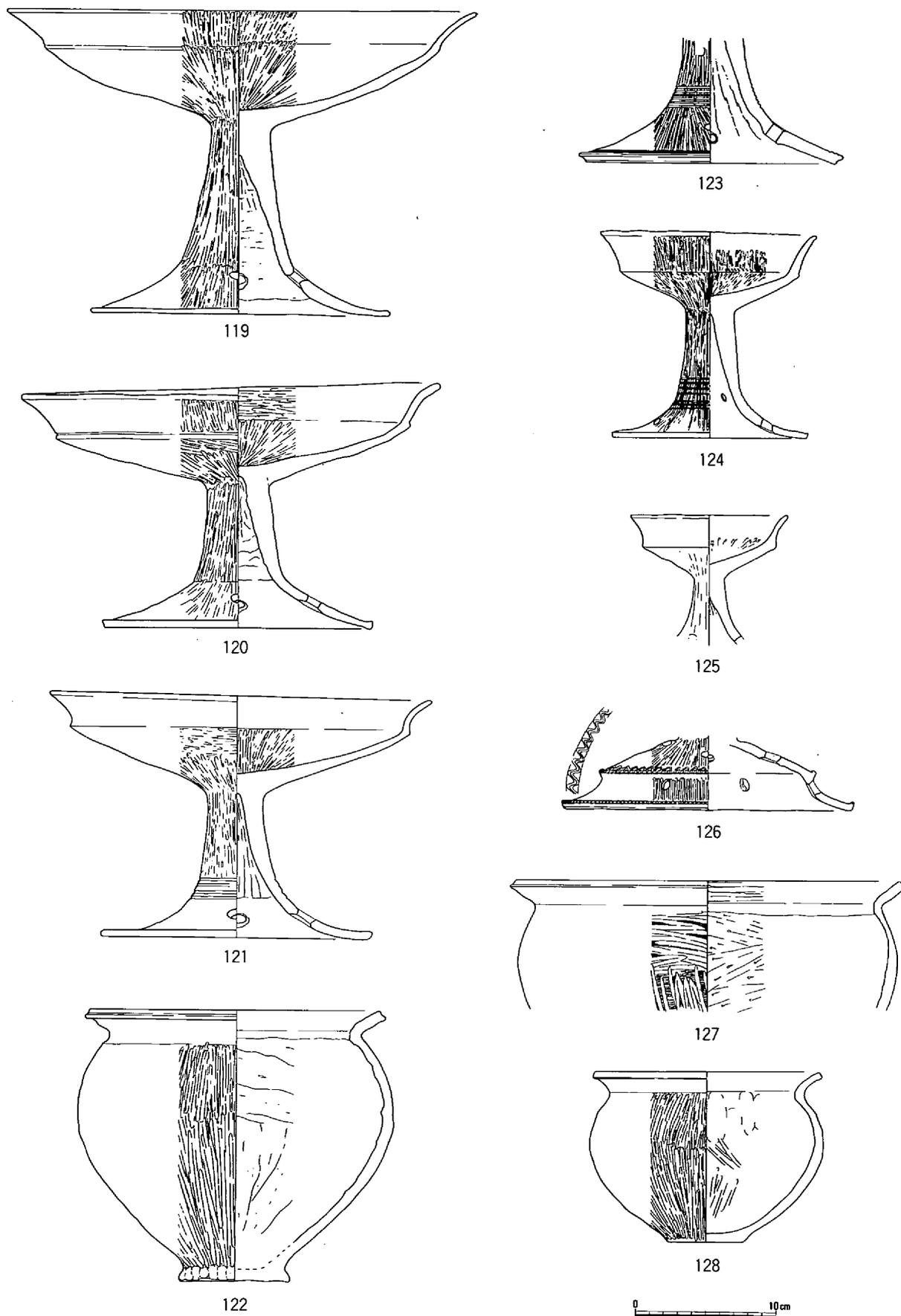
竪穴住居 9 (第63図)

スポーツの塔の東側で、北 2 A 区と北 3 C 区に囲まれた地点で検出された。資料中に、この住居が円形である、との記述が見られる。

また、この住居の床面から弥生時代前期の土器が多数出土した、といわれている。おそらく床面か



第54図 竪穴住居 3 B 出土遺物 3



第55図 豎穴住居 3 B 出土遺物 4

ら下が弥生時代前期の包含層であったと思われる。調査区出土遺物の項で説明する、竪穴住居9の下層出土遺物がそれに該当する。

図示した遺物は、この住居の出土として分類されていた遺物のうち、弥生時代後期の土器である。弥生時代前期の土器に比べ、後期の土器の数量は少ない。156・157は高杯である。158～161は鉢で、二重口縁の158や台付の160などが存在する。これらの遺物の時期は、弥・後・Ⅲ～Ⅳを示す。

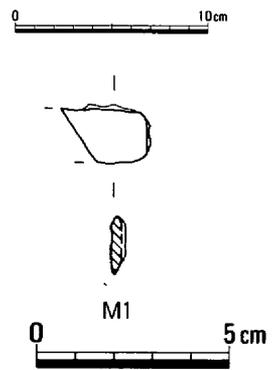
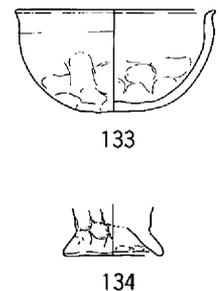
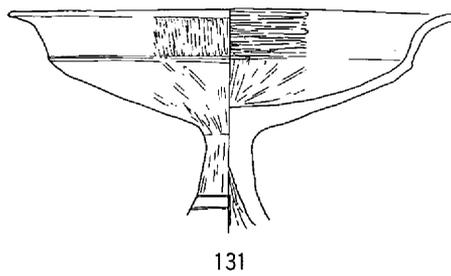
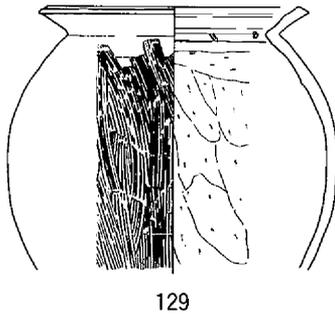
竪穴住居10（第64図）

位置、規模が不明の遺構であるが、竪穴住居と番号が注記された遺物の存在から、竪穴住居であろうと思われる。遺物の注記には、この遺構が南池20区に所在したように書かれているものも存在するが、その20区の位置はよくわかっていないため住居の位置も不明である。出土遺物は床面とされる黄褐色土層からの土器で、いずれも小片の163の壺、164の鉢がある。またガラス滓かと思われる排滓が若干であるが伴っている。時期は出土土器から弥生時代後期と考えられる。

竪穴住居11（第65・66図）

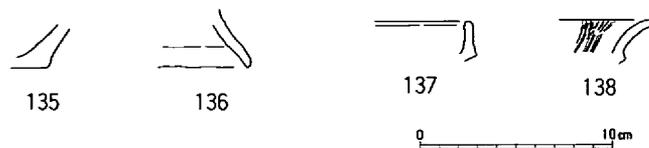
第3次調査のD区に位置する竪穴住居である。この住居は第2次調査で一部が調査区内で確認され、検出状況が実測された。続く第3次調査で住居全体が調査されている。

第3次調査の資料中には平面図、断面図と写真が存在する。そのうち完掘写真は、トレンチに沿った方向と住居の主軸方向の2種類が撮影されている。また断面図は2方向から実測され、柱穴のうち1つは別に作図されているなど、より精度の高い調査が追及されているように思われる。

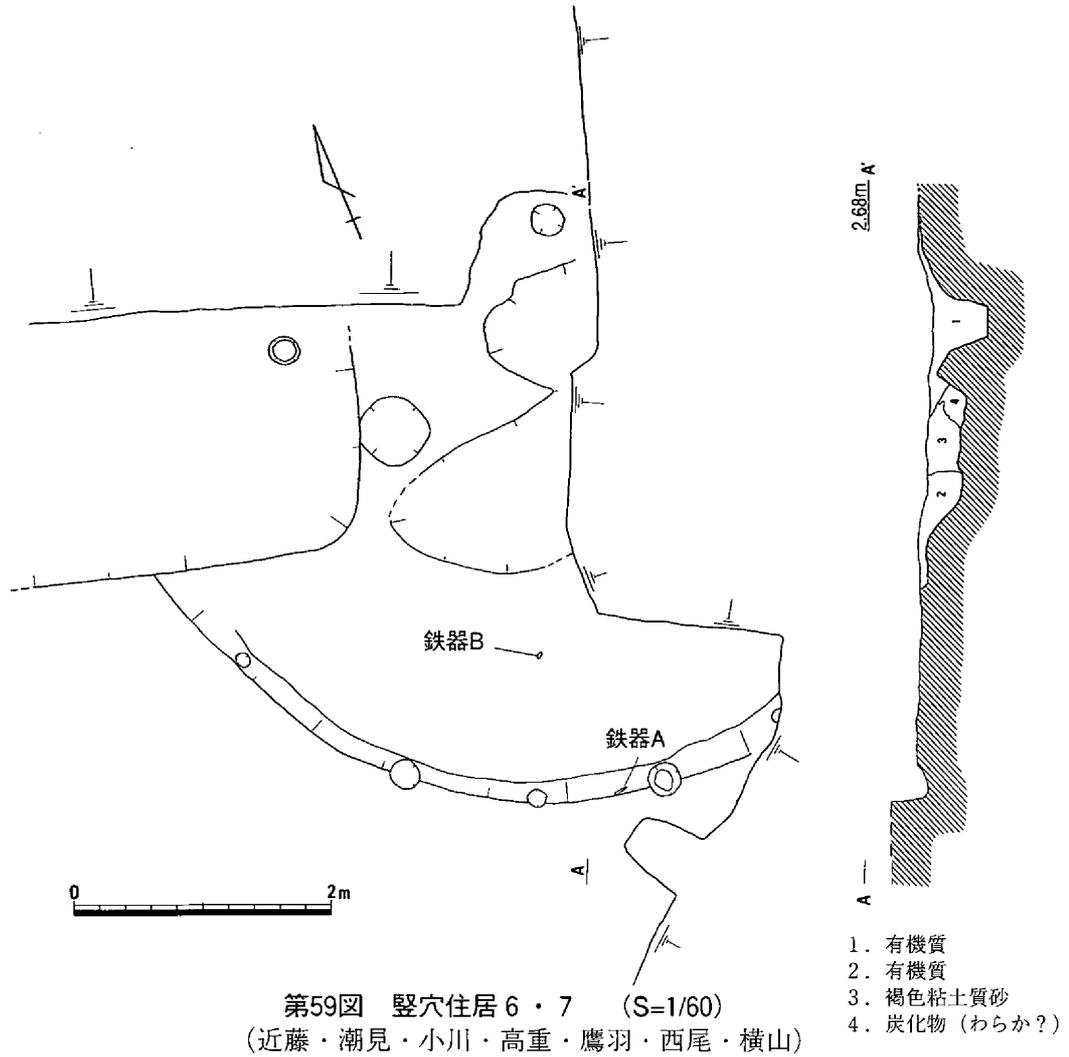


第56図 竪穴住居3の下層出土遺物

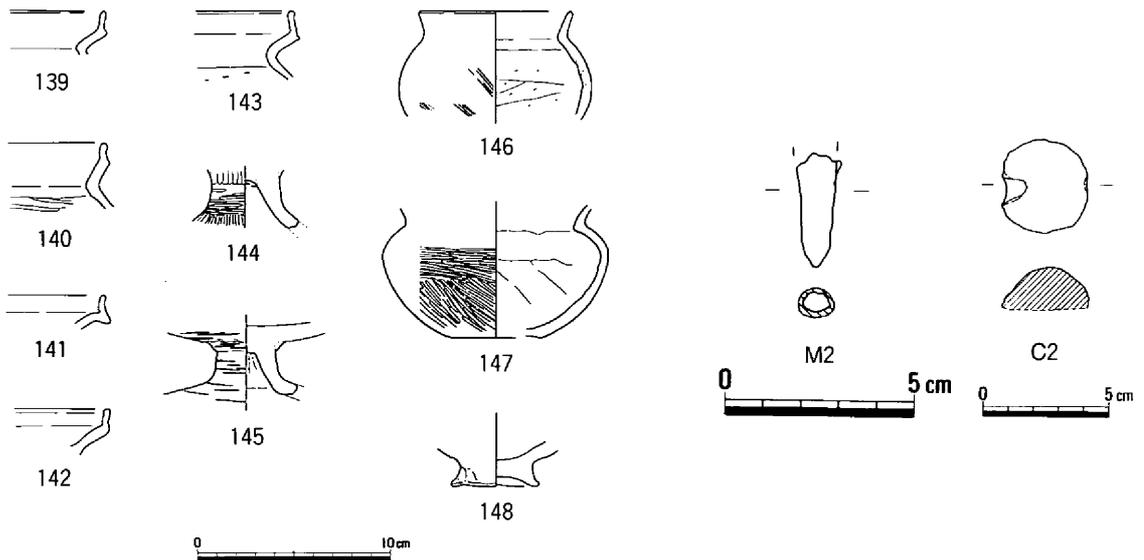
第57図 竪穴住居3B出土鉄器



第58図 竪穴住居4・5出土遺物



第59図 竪穴住居 6・7 (S=1/60)
(近藤・潮見・小川・高重・鷹羽・西尾・横山)

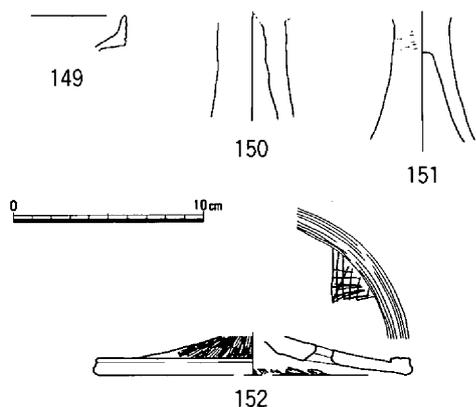


第60図 竪穴住居 6 出土遺物

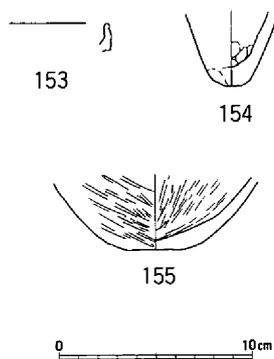
この住居は、一片が東西4.4m、南北4.25mの方形で、深さは検出面からほとんど残っていないように思われる。壁体溝は全周をめくり、その幅は最大で15cm、深さは最大で10cmを測る。住居の南東隅は池掘削による攪乱で切られている。

平面図中の遺構のうち、P1からP5までは柱穴である。番号のない中央の範囲は、炭化物がかなり集中する、と注記されている。柱穴のうち、P1の断面はB-B'、P2の断面はC-C'で示した。P1は直径が19cm、深さが床面から80cmを測る。土層の第1層が木質部と記載されている。P2は直径が28cm、深さが床面から最大95cmを測る。P2では土層断面で、木質部と水平に堆積する第2層が確認されている。P3の規模は直径22cm、深さが8cmで、埋土には焼土が混ざる、と記載されている。P4は直径50cm、深さが4cmでP5は直径65cmを測る。

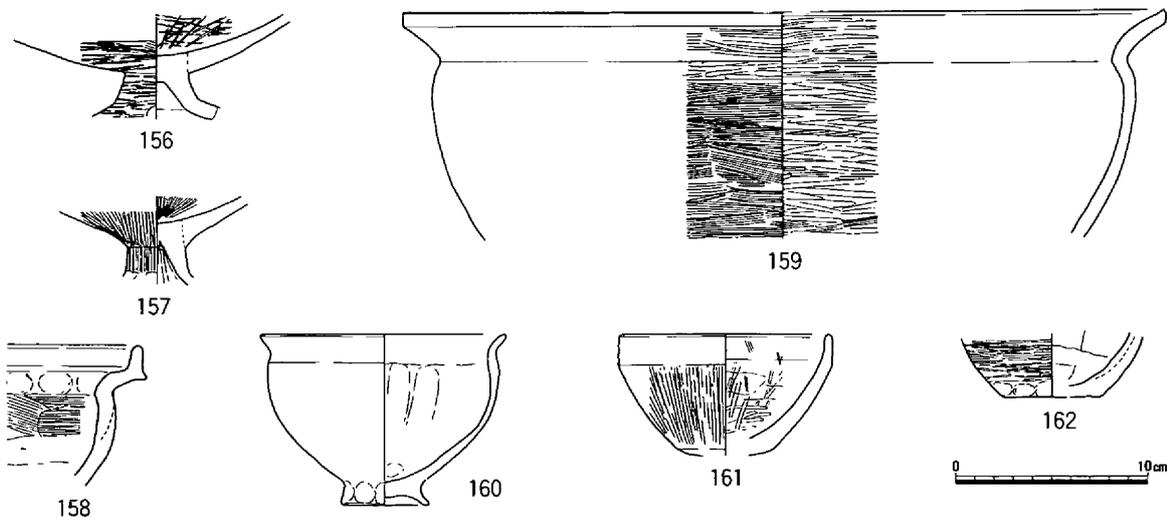
注記からこの住居に伴うとされる遺物には、166と167のように住居の下層出土と思われる土器が多く存在する。その中から本来この住居に伴うと考えられる土器を選びだしてみると、図示できたのは



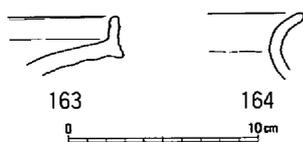
第61図 竪穴住居7出土遺物



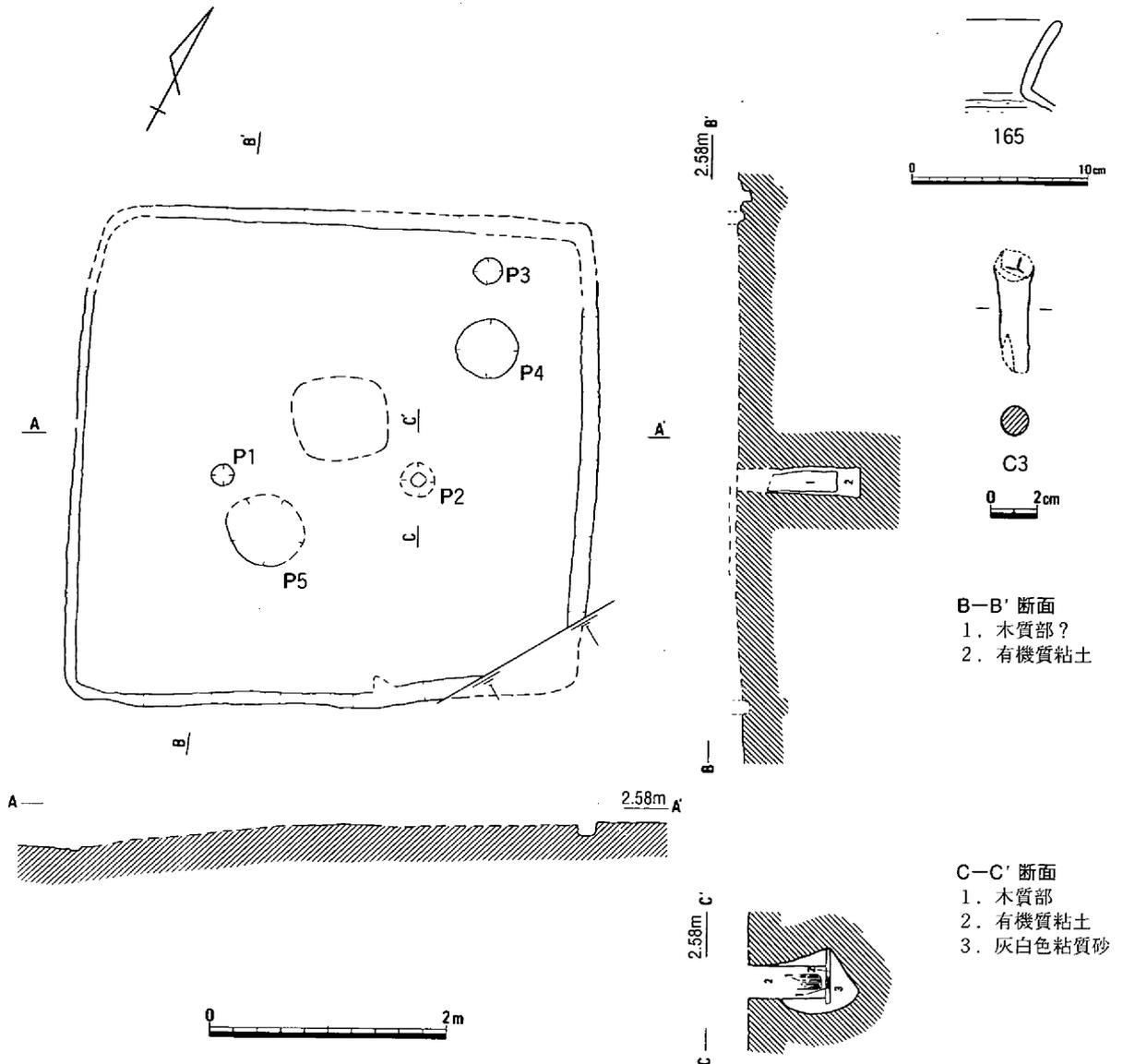
第62図 竪穴住居8出土遺物



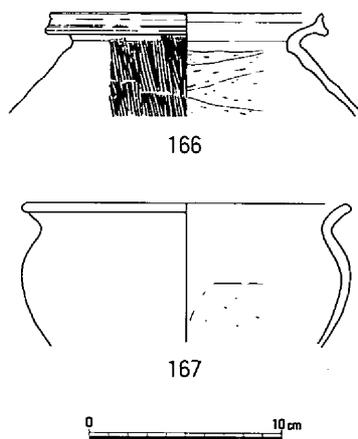
第63図 竪穴住居9出土遺物



第64図 竪穴住居10出土遺物



第65図 竪穴住居11 (S=1/60) (小川・西尾・春成)・出土遺物



第66図 竪穴住居11の下層出土遺物

165の甕のみである。165は壁体溝出土で、この土器の示す時期は古・前・Ⅲと考えられる。C3は住居に伴う可能性の高い土製品で、棒状の形態で上部には接合痕が存在し下部は欠損している。

土壌1 (第67図)

第3次調査で調査された土壌である。海拔高約2.3mで検出され、検出面で長さが約2.1m、幅約1mの楕円形をなす。深さは残存しているところで65cmを測る。土層は、最上部の第1層以外はシルト層または粘土層と炭化物および灰層とが交互に堆積した様子が観察された。

出土した遺物は土器である。土器に記載された注記より、埋土の層別に分けられて取り上げられ

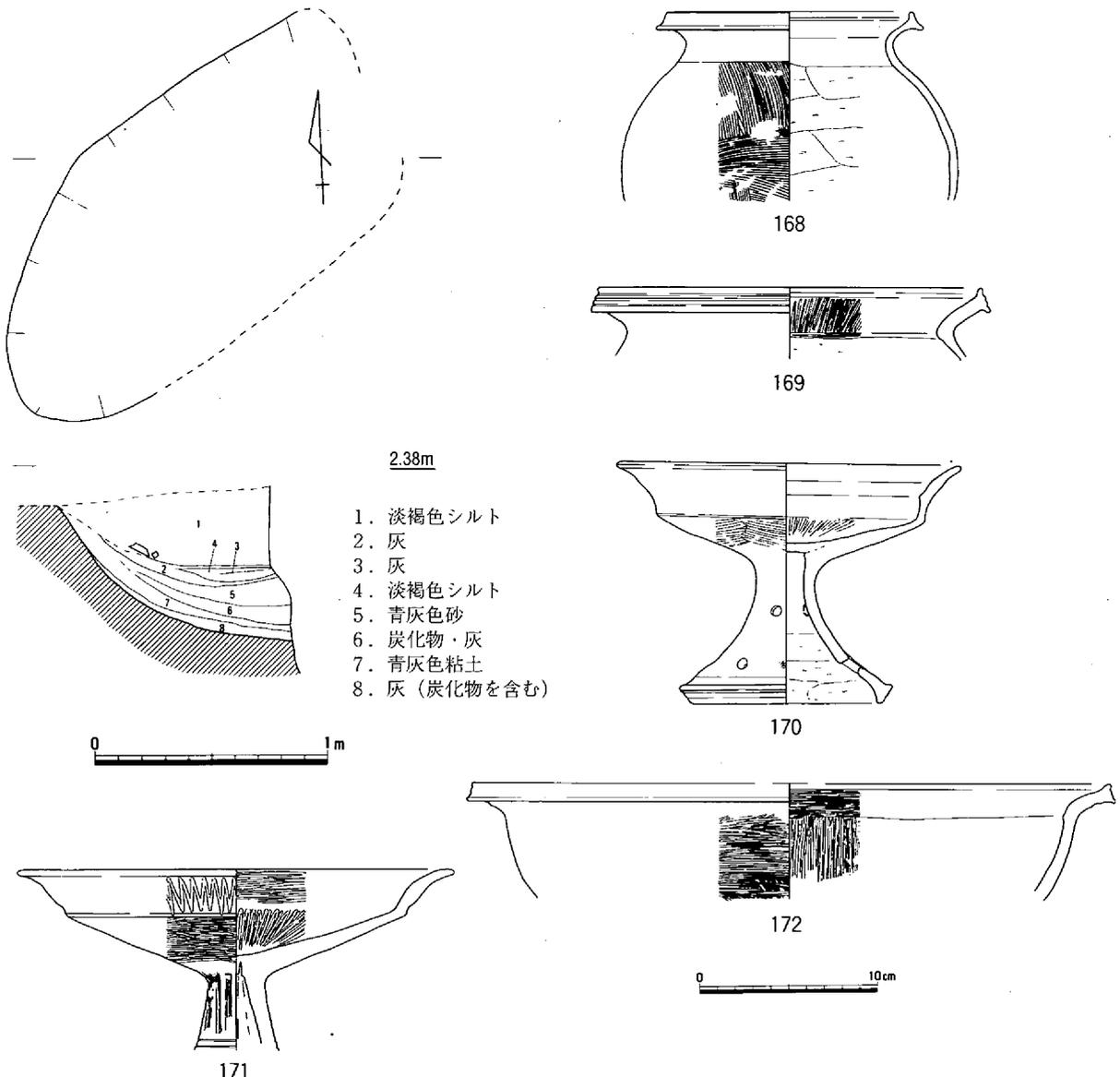
たことが考えられる。それによると、168は第2層から第4層にかけて、170と171は第2層から、169は第5層から、172は第6層から出土している。170・171はさらに同じ袋に収納されていた。これら土器の特徴は弥・後・Ⅱの時期を示していると思われ、土壌の埋没は短期間で生じたと考えられる。

土壌2 (第68図)

第1次調査で確認された、隅丸長方形の土壌である。検出面で長さ1.43m、幅1.17m、深さは30cmを測る。壁面はほぼ垂直で、底面も水平である。埋土は茶褐色の粘土層で、有機質と焼土が含まれる。平面のスクリーントーンの部分には、焼土の範囲が示されている。また平面図には炭化材が記録されている。炭化材のうち、最長のものは長さ80cmを測る。

遺構平面図の中には土器片も記入されている。中央の高杯はおそらく175ではないかと思われる。また鋸歯文のある土器片も図示されているが、173の一部かもしれない。

出土遺物としては、土器が存在する。図示した壺・高杯と、図示できなかったが小片の甕が見られる。これら土器は弥・後・Ⅲ～Ⅳの時期に相当する。



第67図 土壌1 (S=1/30) (小川・西尾・春成)・出土遺物

土壌3 (巻頭図版3、第69図)

第3次調査のH区で確認された遺構である。写真では、完形品の土器3個体が出土した状況が撮影されている。写真の中で、向かって左が178の手焙形土器、中央で直立しているのが176の甕、右で口縁を見せているのが177の甕である。土壌の規模は、撮影された土器の大きさと比較して、幅が1m程度、深さが30cm程度を測るのではないかと推測される。写真から判断すると、土壌の埋土は褐色で、周囲の黄色土と明瞭に区別されたのであろう。図示した出土遺物は、この3個体の土器である。甕の特徴がつかみにくいのが、弥・後・Ⅲ～Ⅳに所属するものであろう。

土器棺1 (第25・70図)

第2次調査の南池4区で調査された遺構である。4区西側に拡張された部分に位置する。日誌によると、壺と鉢が組み合わされた状態で検出され、壺はほとんど直立していた、と観察されている。また、4区には少なくとも別に2基の土器棺が確認された、という記載のなされた資料も存在する。この土器棺以外の土器棺は確認することができなかった。

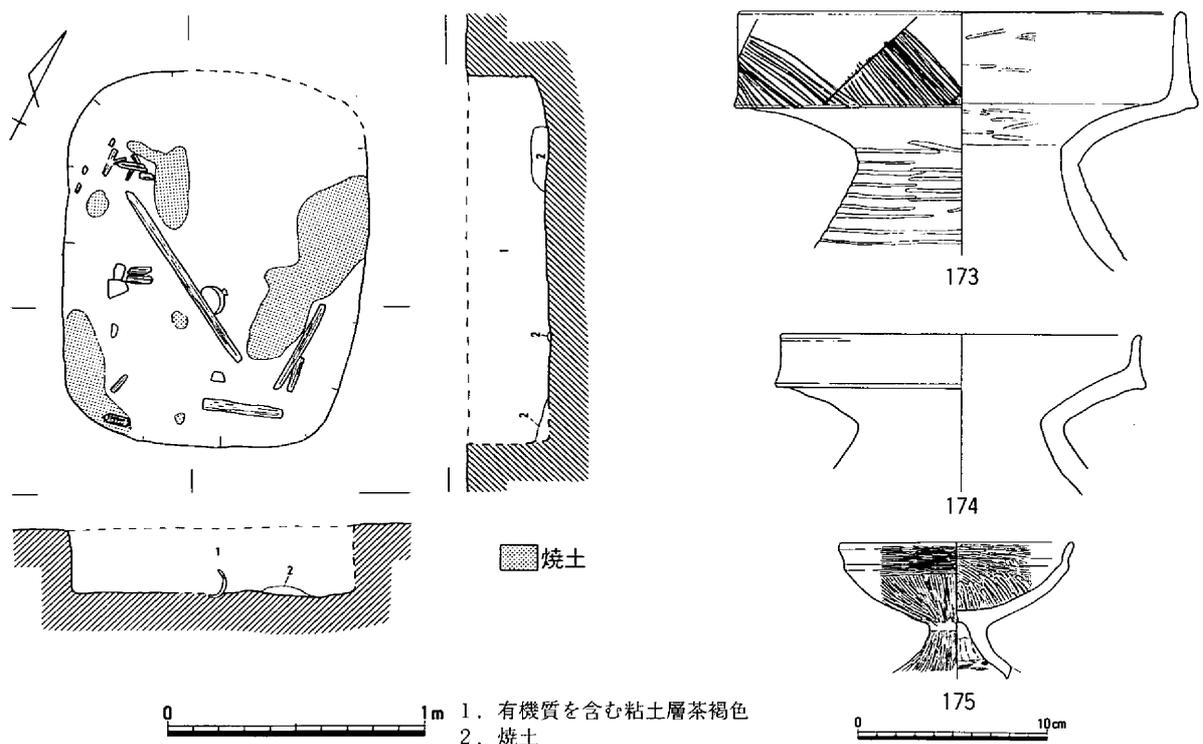
出土土器のうち、実測できたのは壺のみである。口縁部は存在しないため、時期がわかりにくいのが弥・後・Ⅲ～Ⅳの時期に相当するのではないだろうか。

4 時期不明の遺構

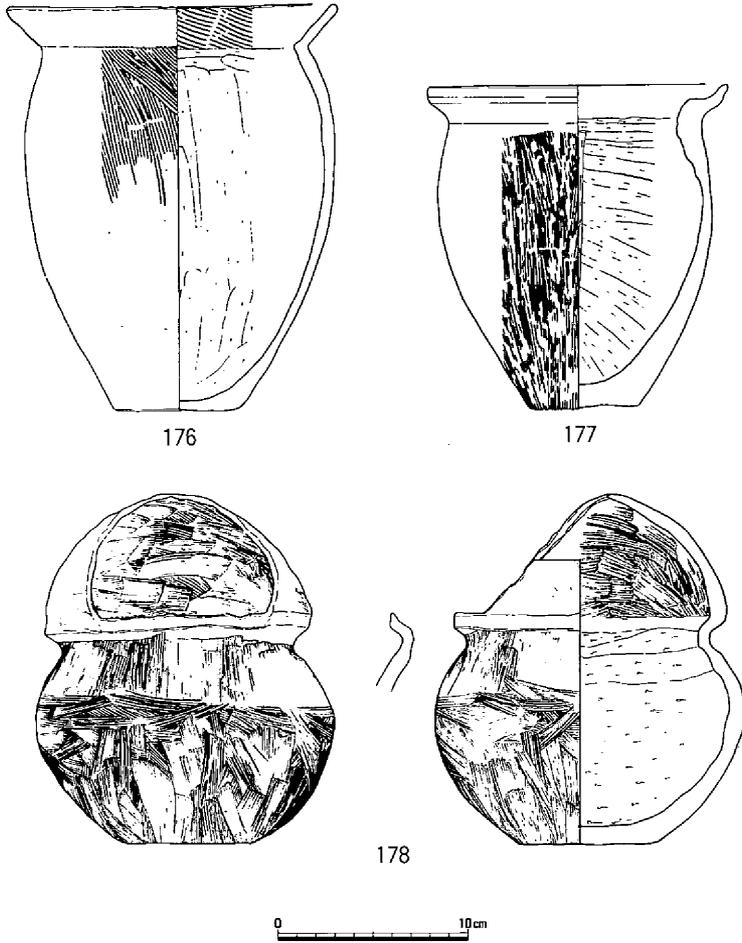
竪穴住居12・13 (第30図)

第2次調査の第3カット断面で検出された竪穴住居である。断面図の中では住居13が第2層に、住居12が第3層に相当し、住居13が住居12よりも新しい。池掘削がそれぞれの住居より深く及んだため、平面での確認ができなかったものと思われる。

断面図中A-B断面で、最も南端に高杯が実測されている。これが3カット出土遺物の中の564だ



第68図 土壌2 (S=1/30) (近藤)・出土遺物



第69図 土壌3出土遺物

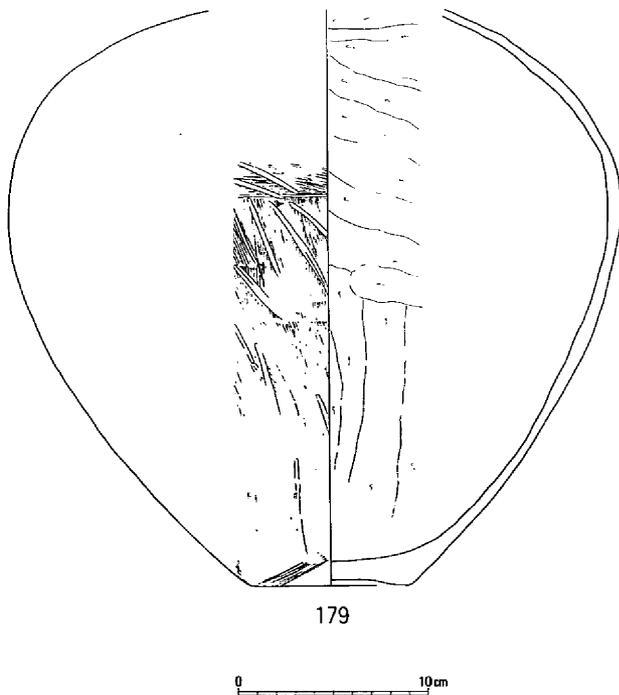
とすると、この遺物は竪穴住居12に伴う可能性が高いものと思われる。

土壌4 (第71図)

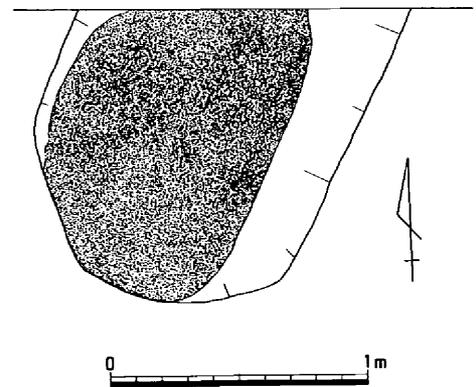
第3次調査B区で調査された遺構である。図面の北側が直線で切られていることから、B区の北辺に接して検出されたと思われる。検出面での幅は約1.2mを測る。

平面図のスクリーントーンの部分は、厚さ約5cmの炭化物層と記録されている。その内容は藁、木の実(微量)その他の植物繊維からなる、と注記されている。また図面には、土壌内からは上東式土器が密集して出土した、との注記もなされている。

出土遺物が当初確認できなかったが、B区出土遺物の内、685・686・693・694にはこの土壌出土の可能性のある「B pit」の注記が見られる。



第70図 土器棺1



第71図 土壌4 (S=1/30)
(岡本・河本・村上)

第3節 調査区出土の遺物

ここでは遺物に関する注記から、調査区出土と判断された遺物を中心に掲載した。南池地点に属する遺物が大半を占めるが、中には北池出土の可能性が高い遺物が一部に存在したので、その場合は北池と表記している。また、調査区名は判明したがその所属が北池地点であるか南池であるかの区別がつかない場合は、単に調査区名のみで呼称していることがあることをお断りしたい。

遺物は、まず土器を弥生時代前期から時期別に並べ、次に石器、最後に土製品を掲載した。たとえば弥生時代前期の土器や土製品といったそれぞれの項目は、さらに調査区ごとに分け、個体の詳細な説明は巻尾の遺物観察表に譲り、特徴的な遺物についてのみ記載している。

第72～80図が北2 A区出土土器である。遺物に関する注記を参考にすると、出土地点は北2 A区、北2 A拡張区、北2 A拡張2区の3つに分けられている。また、区ごとに出土層位を分けて取り上げられていたと思われ、北2 A区ではおそらく上から淡黄砂層、黒色粘土層直上、黒色粘土層という3つの層が、北2 A拡張区・北2 A拡張2区では上から褐色粘砂層下部、黒褐色包含層、黒色粘土層あるいは青黒色粘土層という3つの層が想定される。

第72～74図の北2 A区出土遺物で、淡黄砂層から出土したのは壺190、甕209、突帯文土器221、壺241である。黒色粘土層直上から出土したのは壺182・185・186・191・194・195、甕197・200～203・205・208・211～213、底部215～218であり、黒色粘土層は壺189、底部193・196、突帯文土器222～226である。黒色粘土層から比較的形状のわかる突帯文土器の出土が目につく。

第75～80図の北2 A拡張区・北2 A拡張2区出土遺物で、褐色粘砂層下部からは甕245・250・262・265が、黒褐色包含層からは壺184・188・235・236・238、甕243・247・248・251・252・257・260・261、底部270・271、壺275、突帯文土器276が出土している。青黒色粘土層からは壺237・240・242、甕246・249・253・255・256・259・263・264・266～268、蓋・鉢272～274が、黒色粘土層からは壺227、甕230・231、底部233が出土している。

北2 A区出土の弥生時代前期土器・突帯文土器で器種が確認できた破片を計数し、そのうちの口縁部をまとめたところ、全体の30パーセントが壺、68パーセントが甕、残り2パーセントが突帯文土器であった。

北2 A区180～196、北2 A拡張区227、北2 A拡張2区235～242が壺である。ほぼ全体がわかるものに、口縁部に段を持ち胴部に沈線と刻みを施す181、胴部に篋書きの木葉文を巡らせ完形の227が存在する。240は口縁部に穿孔がある。胴部の文様は綾杉文188など、木葉文190など、重弧文192、山形文242が見られる。188・227は『弥生式土器集成』に掲載された土器である。

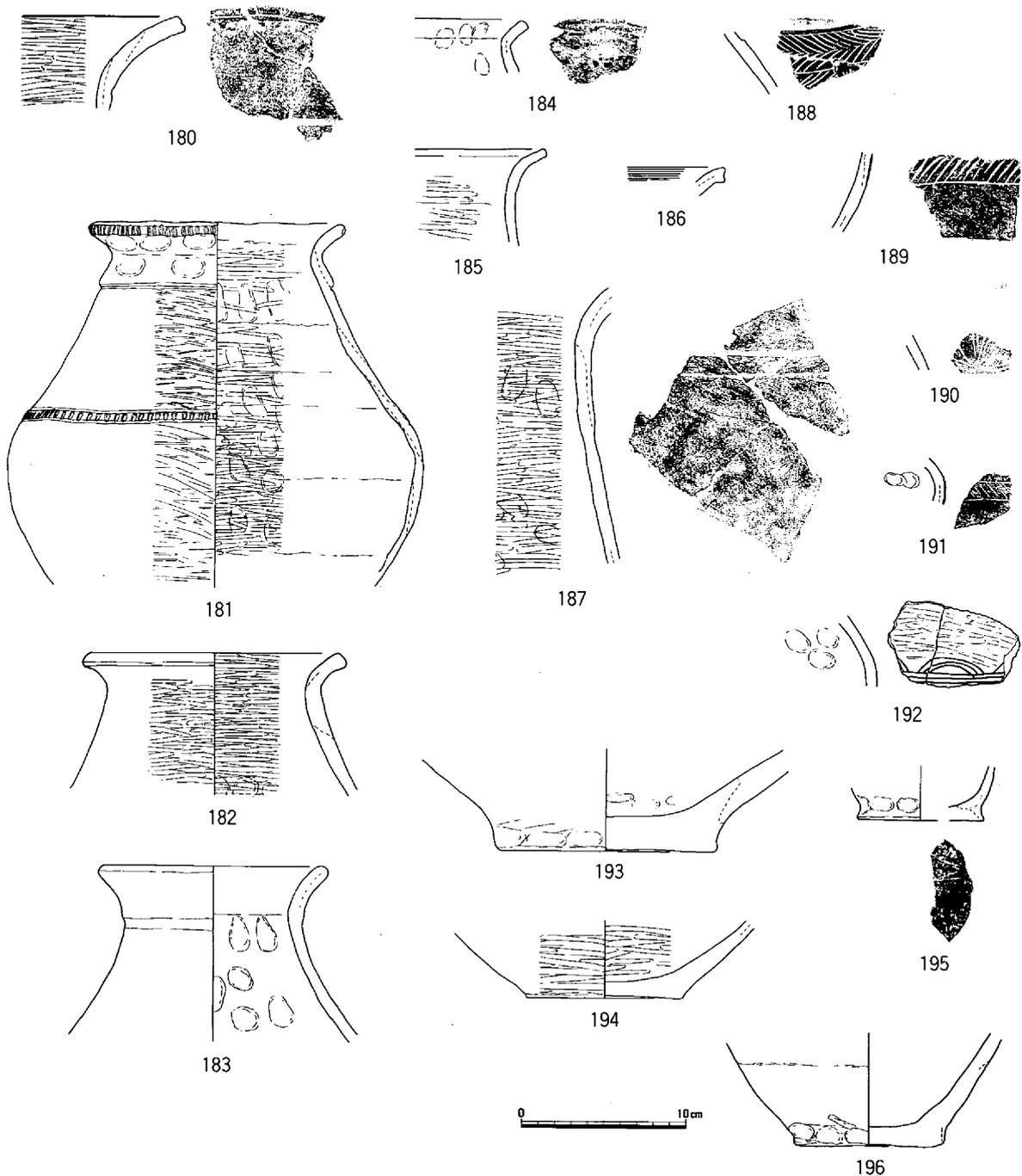
北2 A区197～219、北2 A拡張区229・230と232～234、北2 A拡張2区243～271が甕である。口縁部に段のある197～202・244～249など、沈線が1条の203・251～254など、沈線2条の255・256など、沈線2条の間に刺突がある243、口縁部から胴部が無文の211・258などが存在する。口縁端部の刻みは基本的に1重だが、口縁端面に2重の刻みがめぐる244・267なども少数派ながら見られる。

北2 A区220、北2 A拡張区228・231、北2 A拡張2区274は鉢である。228・274は内面ヘラミガキのため、鉢と判断した。231は蓋の可能性も考えられる。北2 A拡張2区272・273は蓋と考えられる。272は底部の可能性もあるが、調整が不明のため判断できなかった。

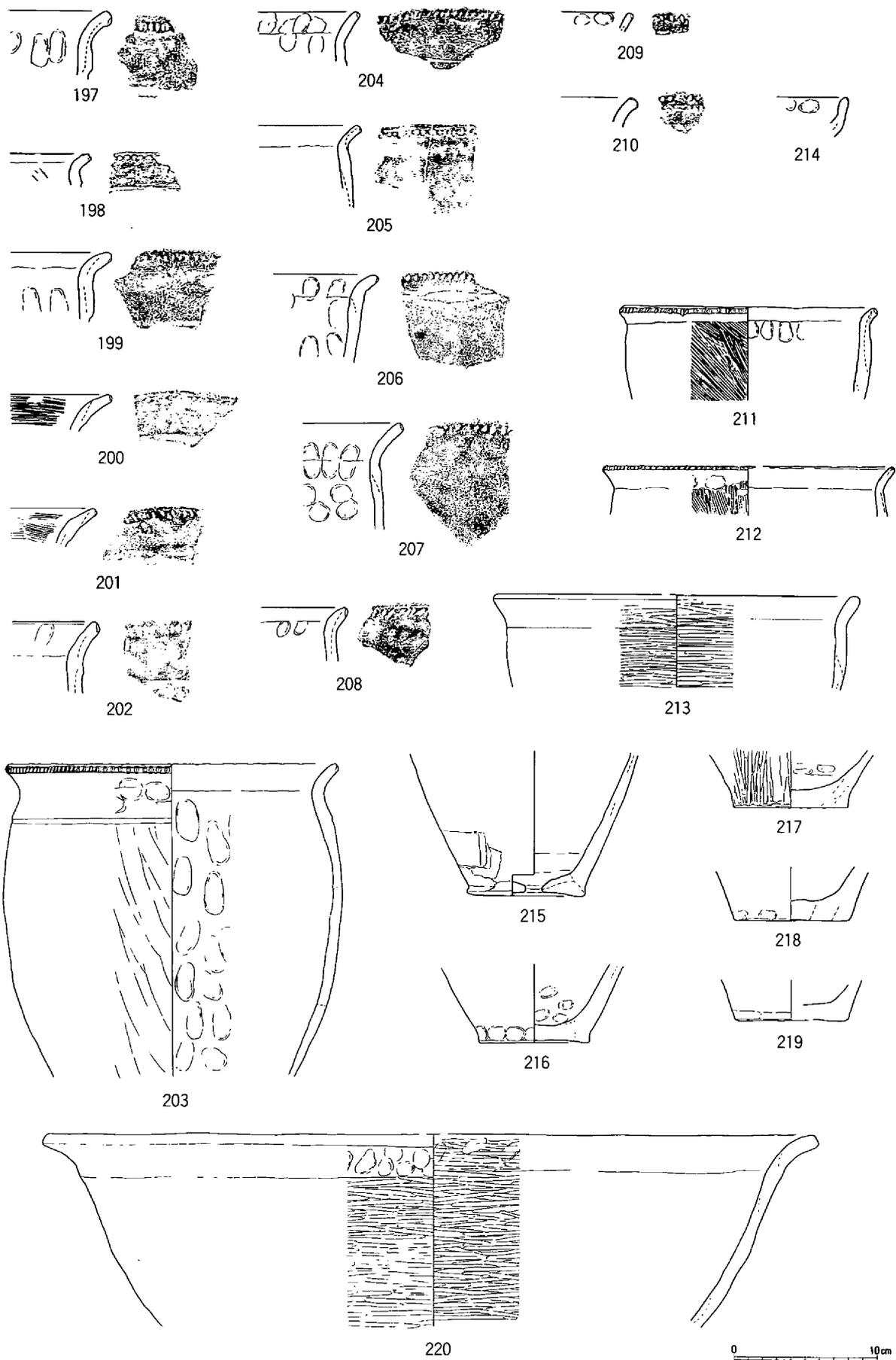
北2 A区221~226、北2 A拡張2区276・277は突帯文土器である。222~224、226はいずれも『弥生式土器集成』に掲載されている。275は突帯文土器の壺の可能性が高いと思われる。

第81図は南池北2 B・北2 D区出土の遺物である。北2 A区と比べ、残されている遺物の量は極端に少ない。278~280が北2 B区、281~283が北2 D区出土遺物である。

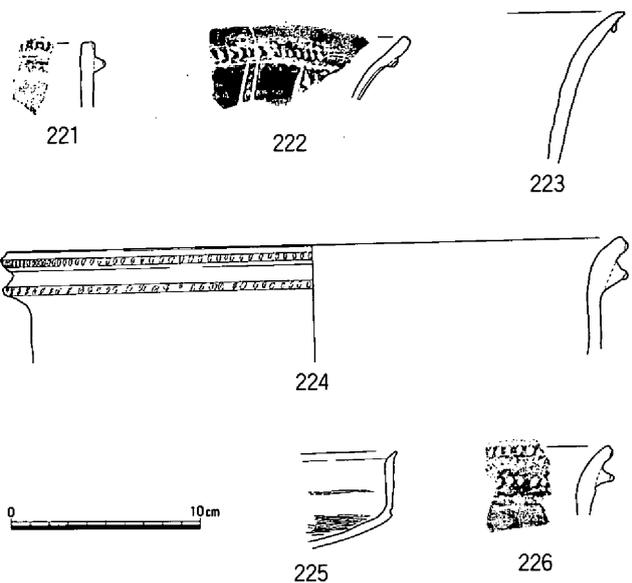
第82図は285が8トレンチA区、284・286が8トレンチC区、287は北3 B区出土である。弥生時代中期の項目で述べるが、8トレンチは南池北2区周辺の調査区であるといわれている。注記から285が青色粘土層、287が黒褐色土層出土とされる。284は沈線が施された壺の胴部で、285は削り出し突帯の中に刺突を施している。



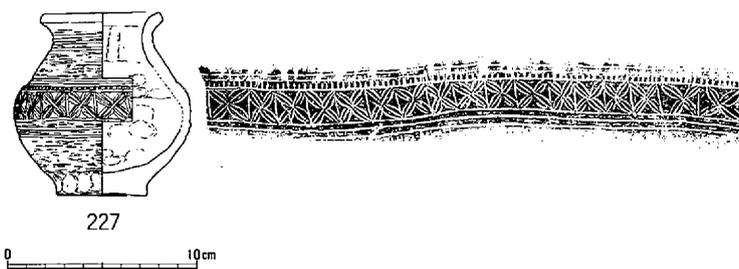
第72図 南池北2 A区出土遺物 1



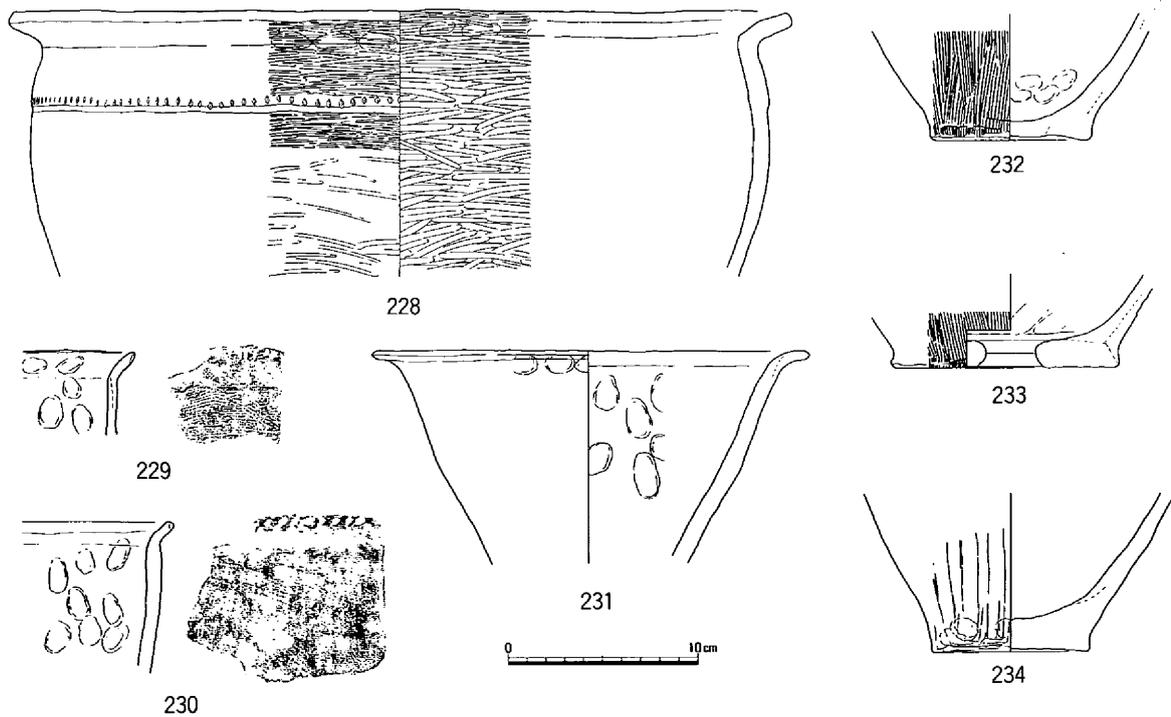
第73図 南池北2A区出土遺物2



第74図 南池北2 A区出土遺物3



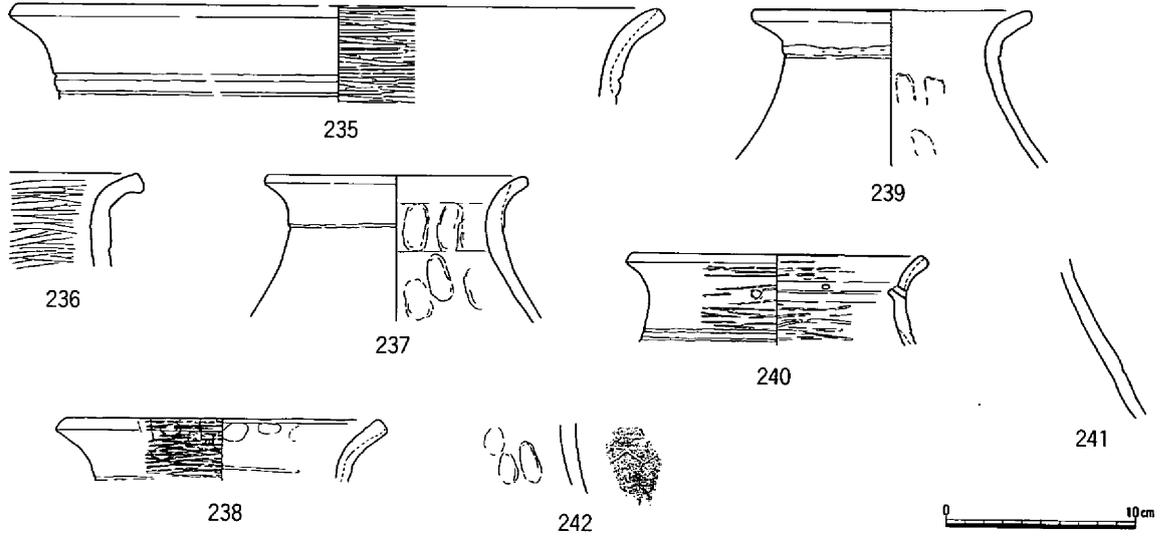
第75図 南池北2 A 拡張区出土遺物1



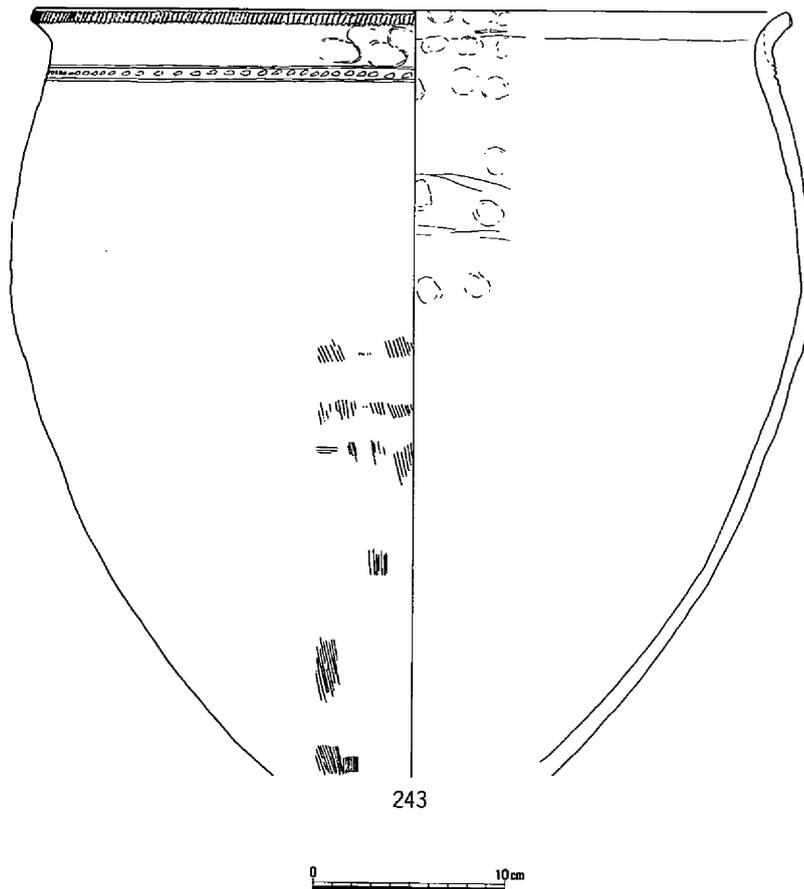
第76図 南池北2 A 拡張区出土遺物2

第4章 調査の概要

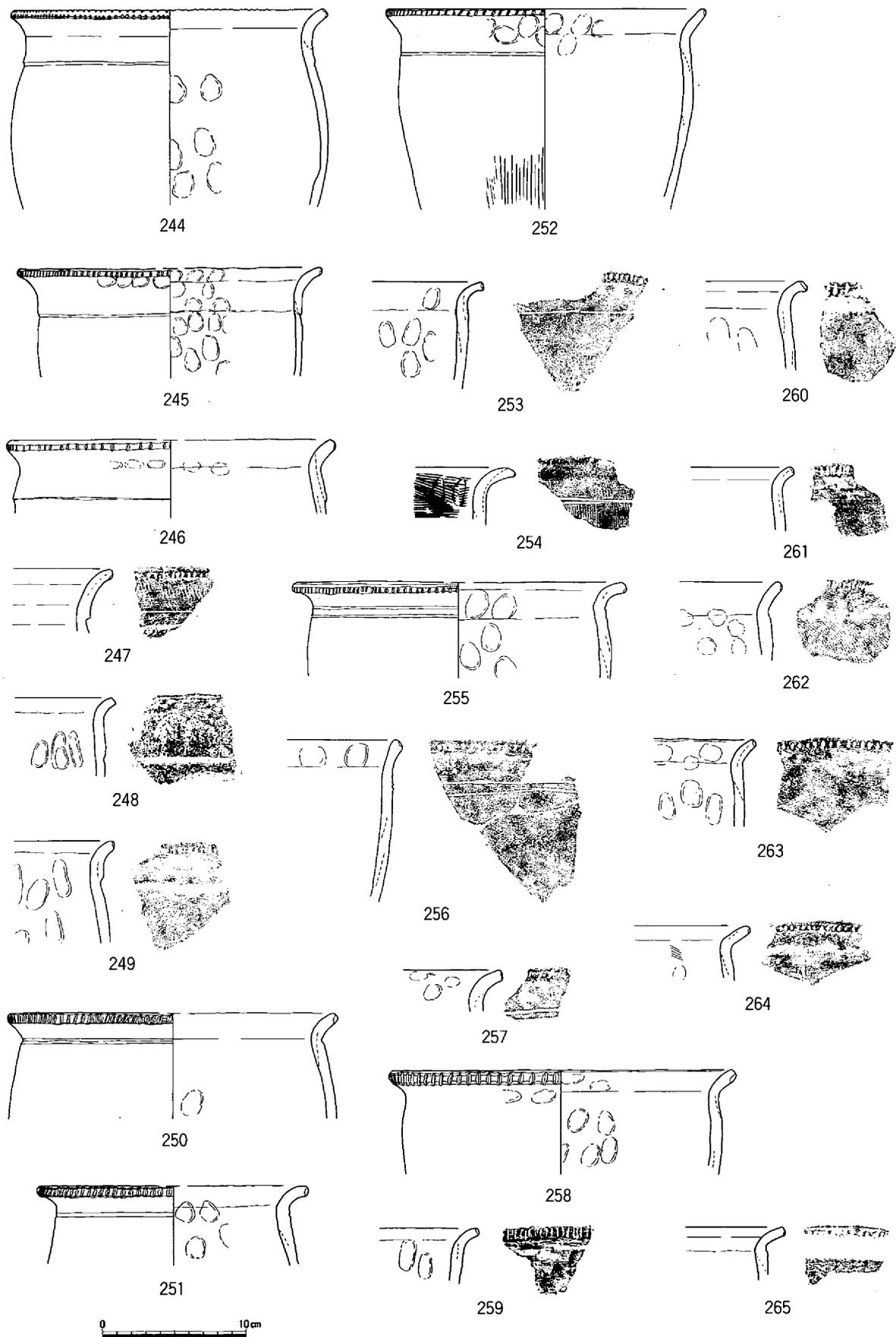
第83図は南池C区とC'区出土遺物である。291・293がC'区から出土、残りはC区からの出土である。C'区出土遺物は注記によると第3層出土とされているが、第35図のC'区土層断面図によれば第3層は黒色粘土であることがわかる。290は蓋であり、293は突帯文土器の深鉢で沈線が施されている。



第77図 南池北2 A 拡張2区出土遺物1



第78図 南池北2 A 拡張2区出土遺物2

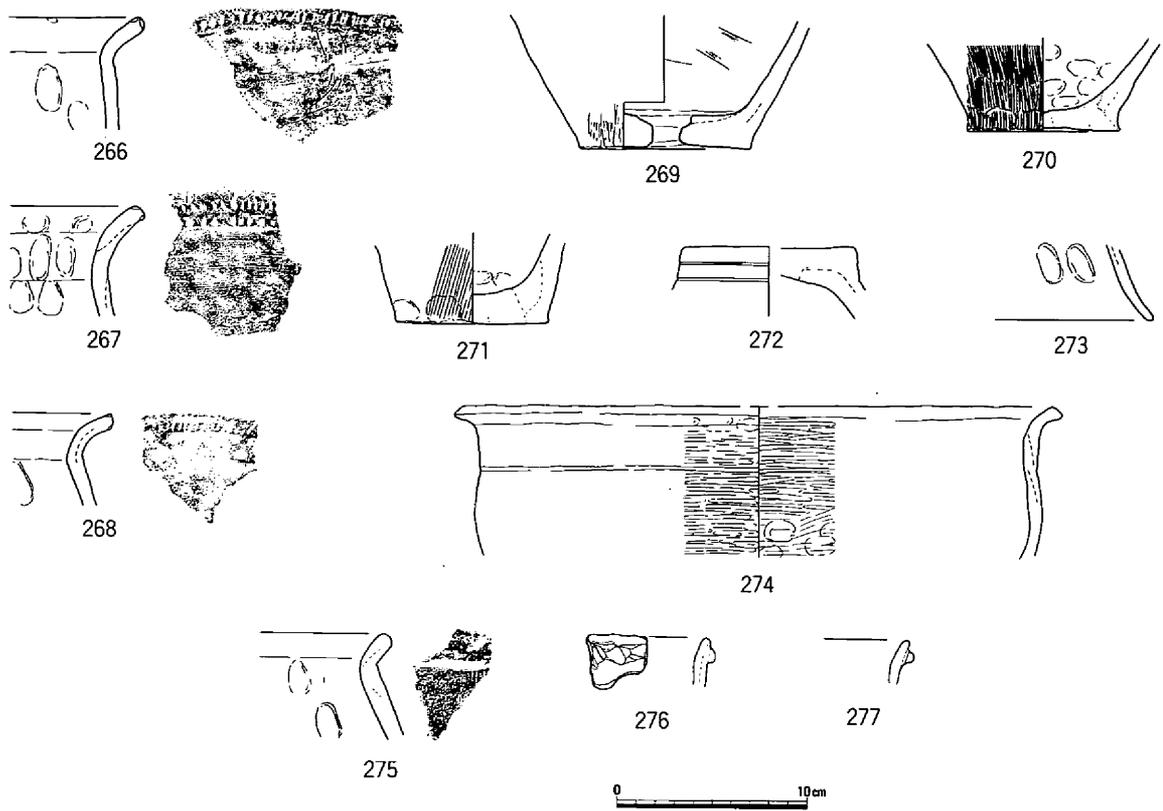


第79図 南池北2 A 拡張2区出土遺物3

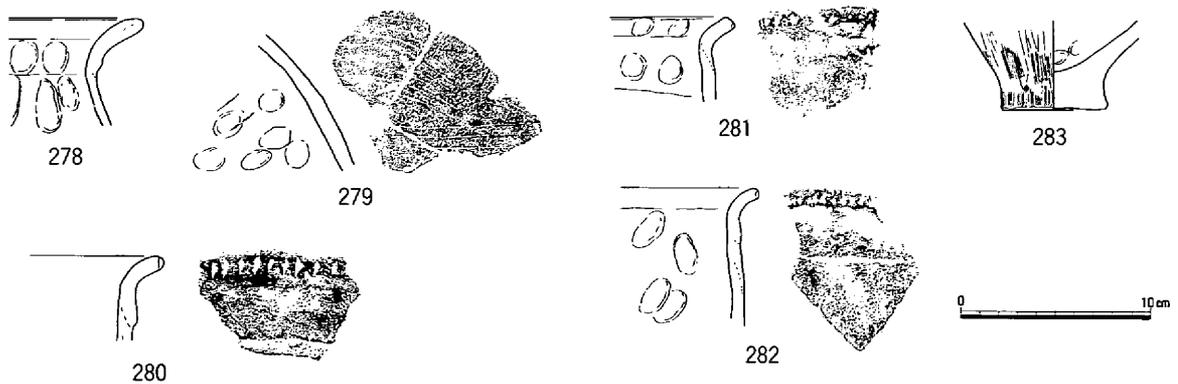
第84～89図は南池J区出土土器である。J区の土器は遺物に関する注記から東・西・南の3つとJ区としか記載がないものに分類される。J区遺物の出土層位は、J区東はほとんど黒土、J区のみ
の遺物では黒粘土、J区西・南ではほとんど青砂となっている。

また、J区出土の弥生時代前期土器・突帯文土器で器種が確認できた破片を計数し、そのうちの口縁部をまとめたところ全体の36パーセントが壺、57パーセントが甕、蓋が5パーセント、残り2パーセントが突帯文土器であった。

J区東294、J区西308～312と325～327、J区南333～337、J区347～360は壺である。頸部はハの字が多いが、333など頸部が直線状に近いものも存在する。文様は重弧文359・360がある。347は外傾接合が顕著である。350は完形品で、『弥生式土器集成』に掲載された。ごく細い沈線で直線4条とそ



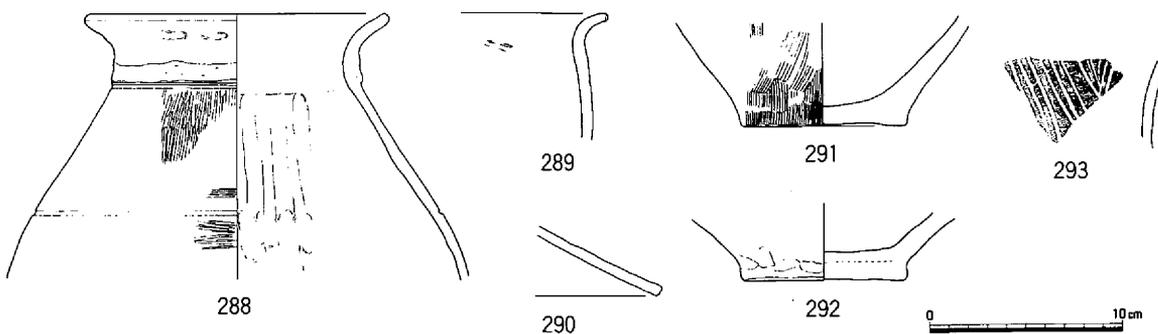
第80図 南池北2 A 拡張2区出土遺物 4



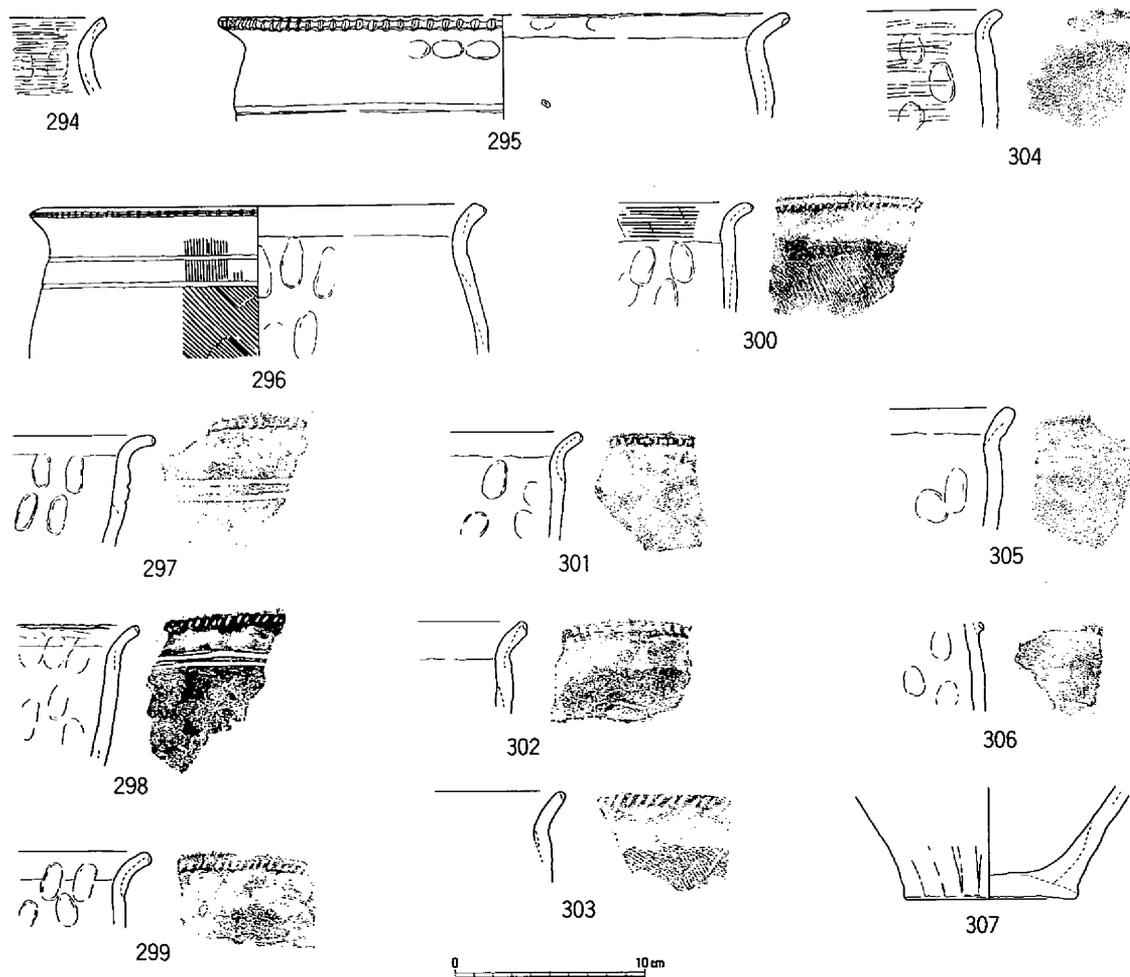
第81図 南池北2 B・2 D区出土遺物



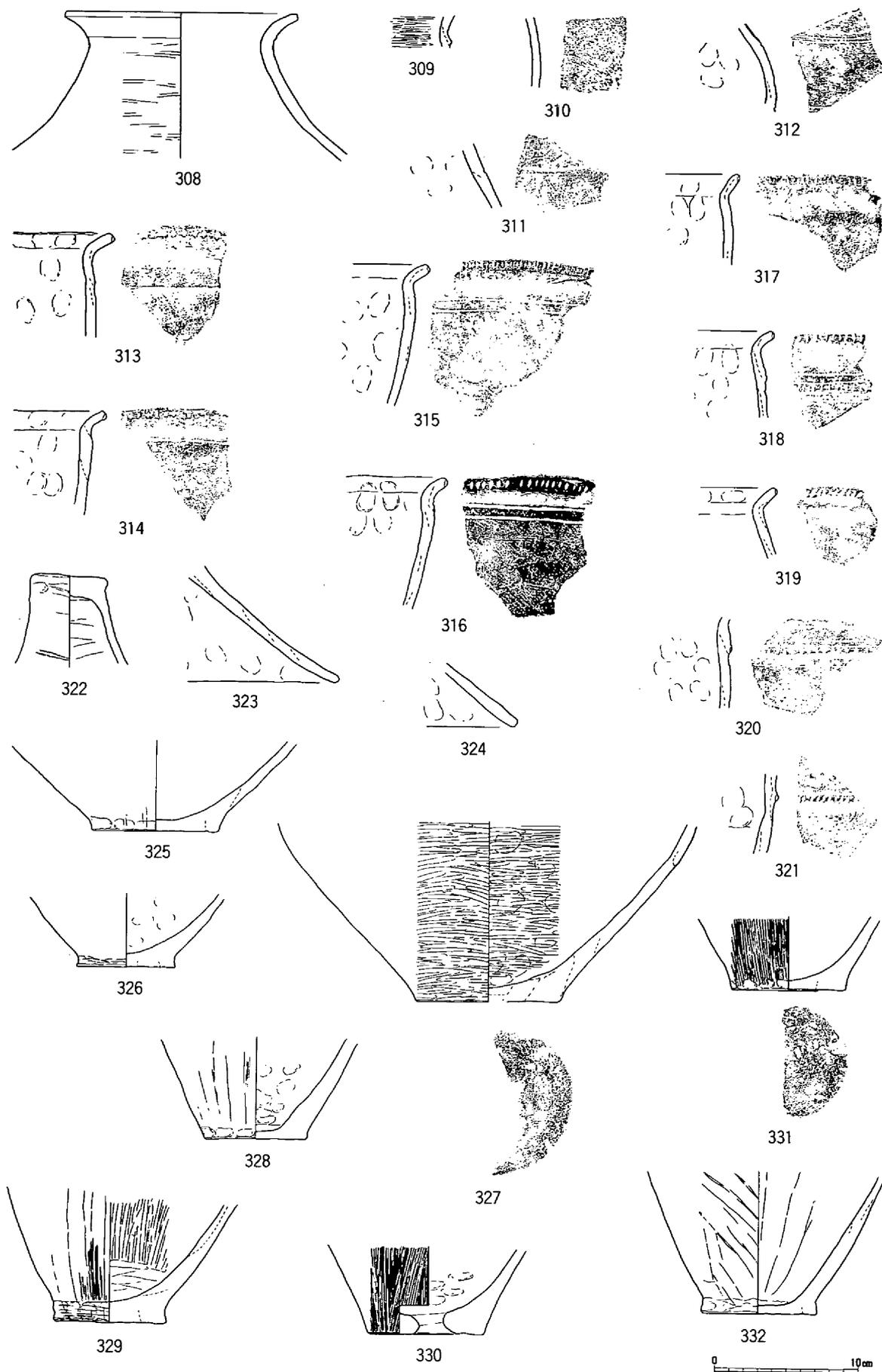
第82図 南池8トレンチ・北3B区出土遺物



第83図 南池C区・C'区出土遺物



第84図 南池J区東出土遺物

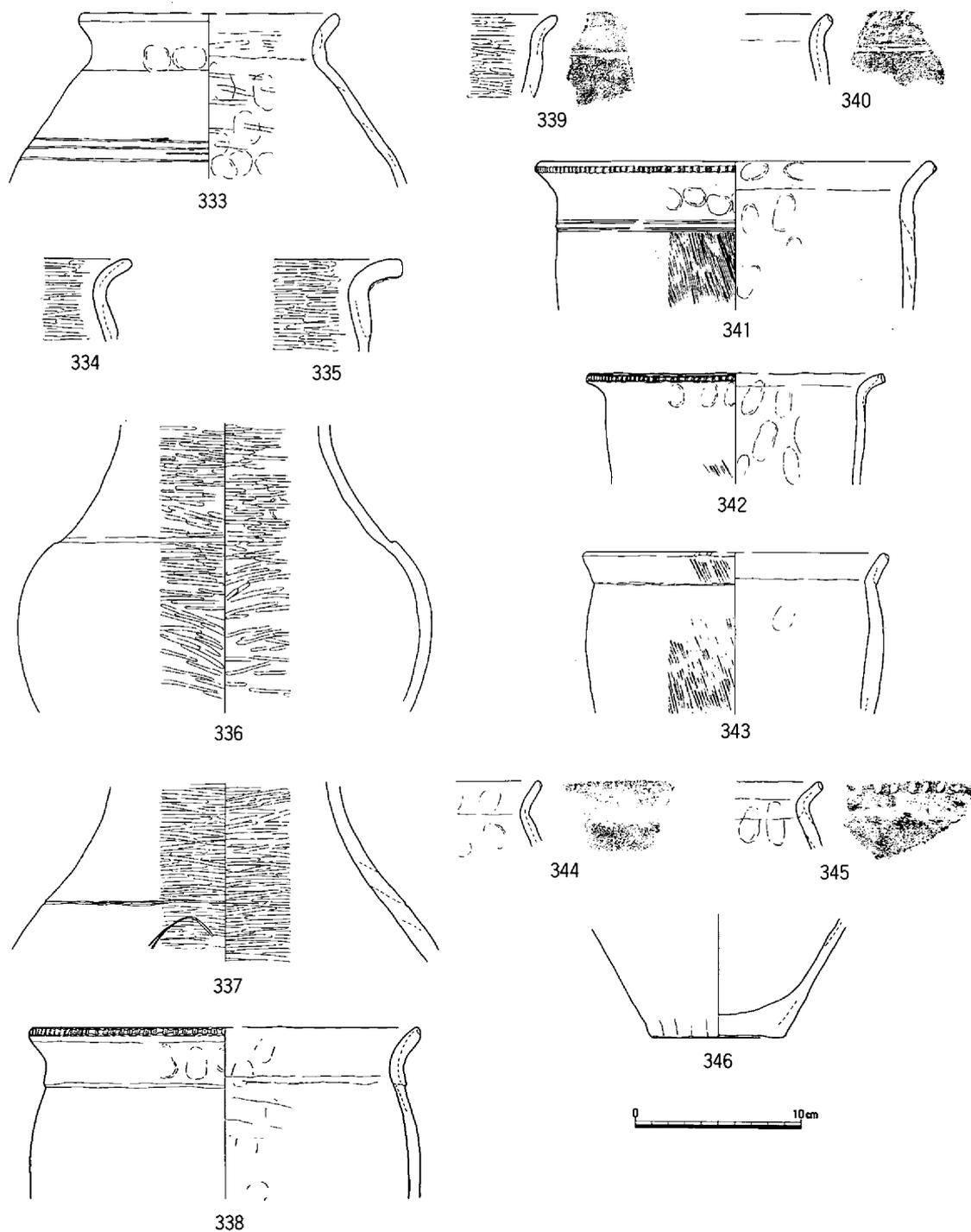


第85図 南池J区西出土遺物

の間を埋める斜線、上下の重弧文が描かれている。327は底面に粉の圧痕が残る。

J区東295・313など、J区西313～321、J区南338・340～346、J区361～337は甕である。口縁部に段を持つ295・313など、沈線1条の364など、沈線2条の296・316・366などと無文の342・371などが存在する。段と沈線を組み合わせた318・361は少ないようである。胴部では、段がありその上を刻む306・320・321、沈線の上に刺突のある376・377も見られる。

J区西322～324、J区379・380は蓋、J区南339とJ区378は鉢と思われる。J区391・392は突帯文土器の深鉢である。また、J区西331は底面に粉圧痕が、J区西316・329は内面に粉痕跡?が残る。



第86図 南池J区南出土遺物

第4章 調査の概要

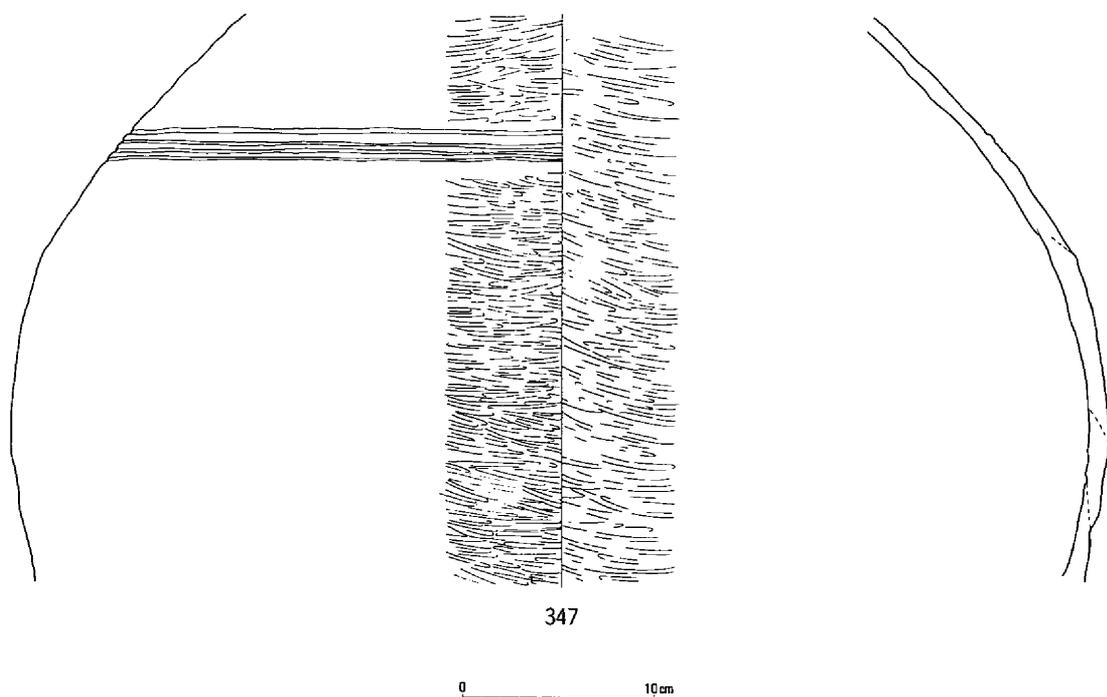
南池竪穴住居9の下層出土土器を第90～92図に示した。関係する注記では1区・2区とその他に分けられるが、まとめて掲載している。南池北2A区の状況を参照すると、層位はおそらく上から上部褐色砂、黒褐色包含層、黒土上部、黒土下部、青色砂粒の順と推定される。上部褐色砂は竪穴住居9の床面と重複すると記載され、壺397、高杯?457、底部466が出土した。黒褐色包含層からは壺393・400・406・412・416・418・420・421・424、甕426・430・432・437・441・443・445～447・450・451、突帯文土器459・461、底部462・463・471・477が出土している。黒土上部から出土したのは壺405・417・423、甕428・436・439・444・448・449、底部467・475・479で、黒土下部は壺401・419・422、甕440・456、鉢458、底部474・478である。青色砂粒層からの出土遺物は、壺394・395・398・399・404・410・411・413・414、甕429・431・434、蓋454・455、底部464・465・468・469・472・473・476である。

器種別に見ていくと、出土土器の393～425は壺である。頸部に張り付け突帯の397などがある。文様は斜線399・414、斜格子文416・417、綾杉文418、重弧文422・423、木葉文424・425がある。

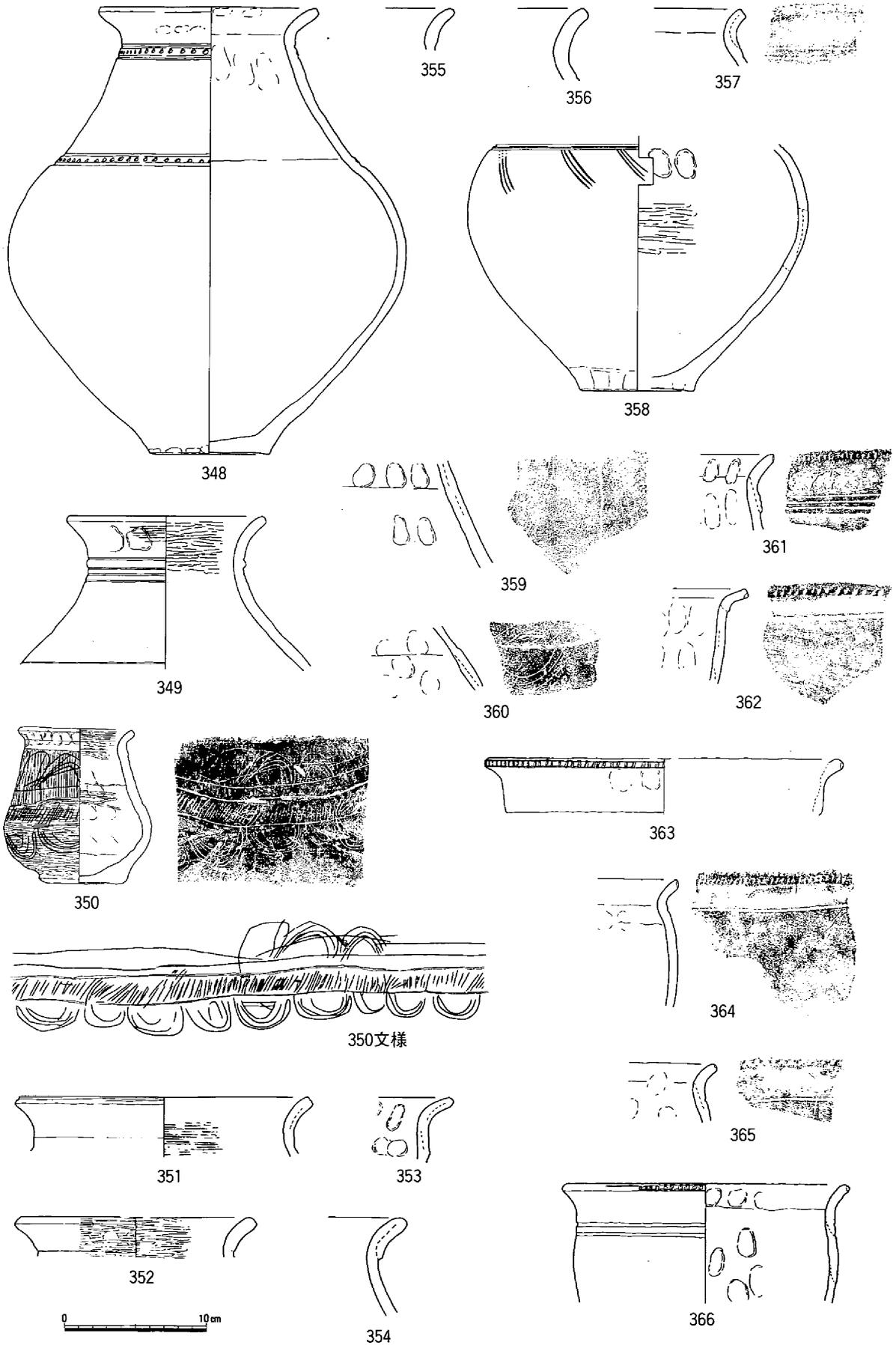
426～453は甕である。口縁部に段がある426・428～432、沈線1条の433、437・438のような無文のものが存在する。頸部には刻みがある426・427・435が見られる。胴部では、段の上を刻みが巡る451・453、沈線間に刺突がある450が存在する。

454・455は蓋で、454は外面に木葉文が施される。456～458は鉢と思われる。459～461は突帯文土器の深鉢である。底部のうち、468は底面に糊の圧痕が残る。

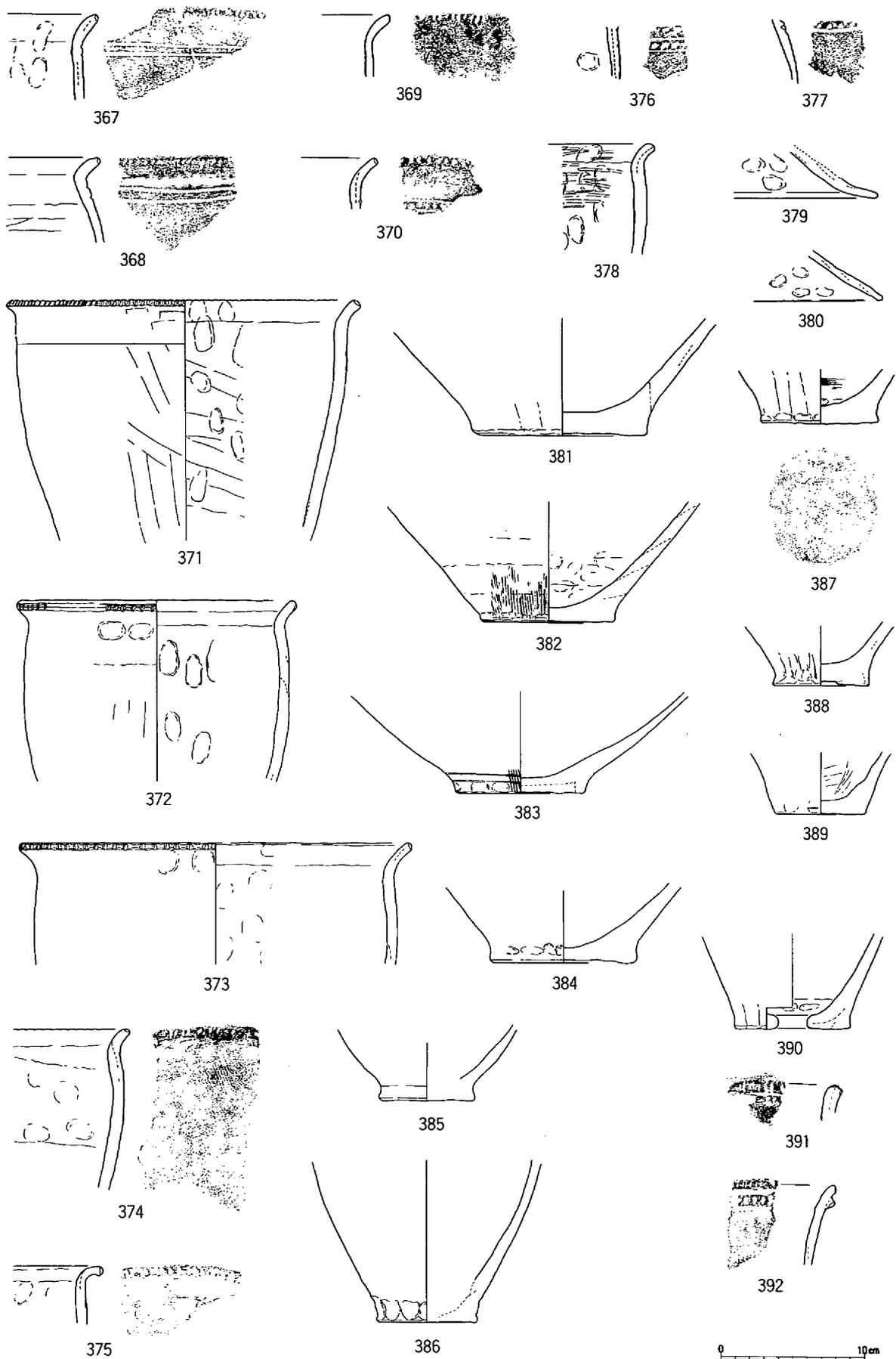
南池6トレンチと7トレンチは、8トレンチと同様南池北2区周辺に想定される調査区である。7トレンチ出土遺物の中には、注記に北2A区の層の続きという記載も存在し、近接する調査区であることがうかがえる。6トレンチの調査区は関係する注記からC-1区・C-2区と6トレンチのみの



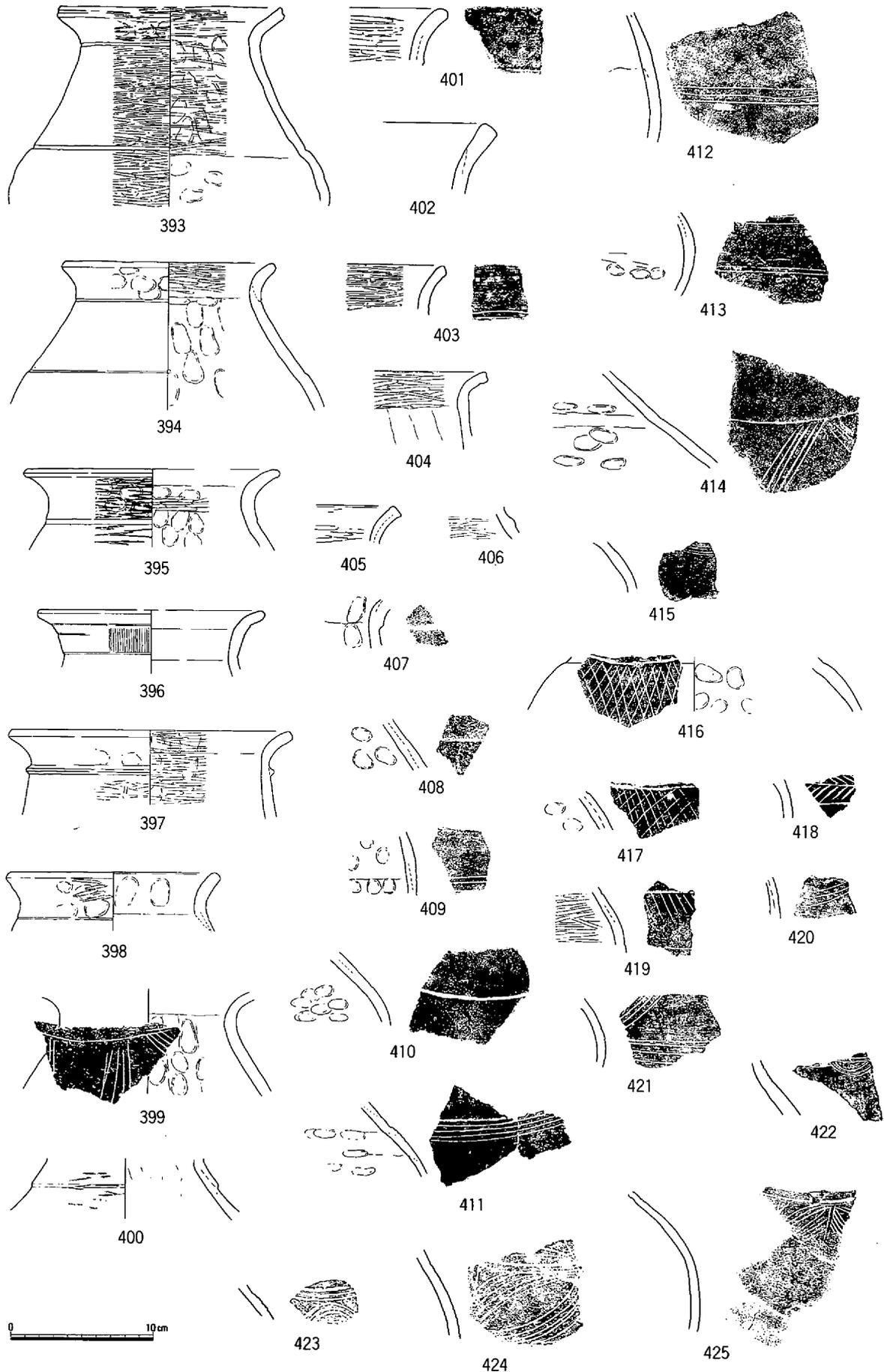
第87図 南池J区出土遺物1



第88図 南池J区出土遺物2



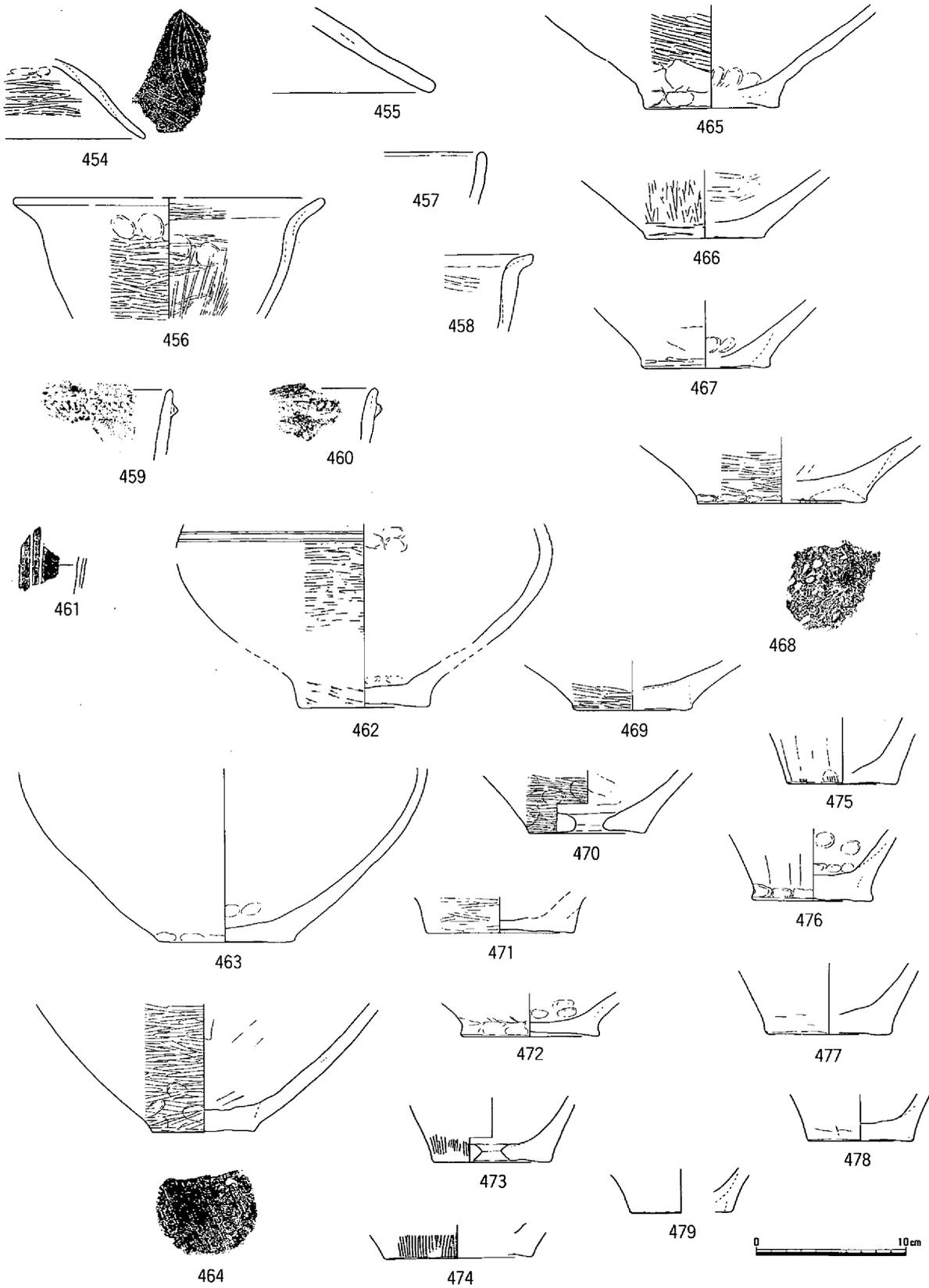
第89図 南池J区出土遺物3



第90図 竪穴住居9の下層出土遺物1



第91図 竪穴住居9の下層出土遺物2



第92図 竪穴住居9の下層出土遺物3 (S=1/4)

第4章 調査の概要

3つ、7トレンチは1区・2区と7トレンチのみの3つが存在する。南池北2A区などを参照すると、6トレンチの層位は上から砂質包含層（壺?488、甕493・496・498・511、突帯文土器514）、黒褐色包含層（壺480・481、甕489～492・497・499～502・504、蓋505・506、底部509、突帯文土器515・516・518）、黒褐色粘土（壺485、甕503、蓋505・506、突帯文土器517・519）と想定され、7トレンチでは上から黒褐色包含層（壺522、底部532）、青色砂層（甕524～528・530、底部533・536・537、高杯538）と想定される。

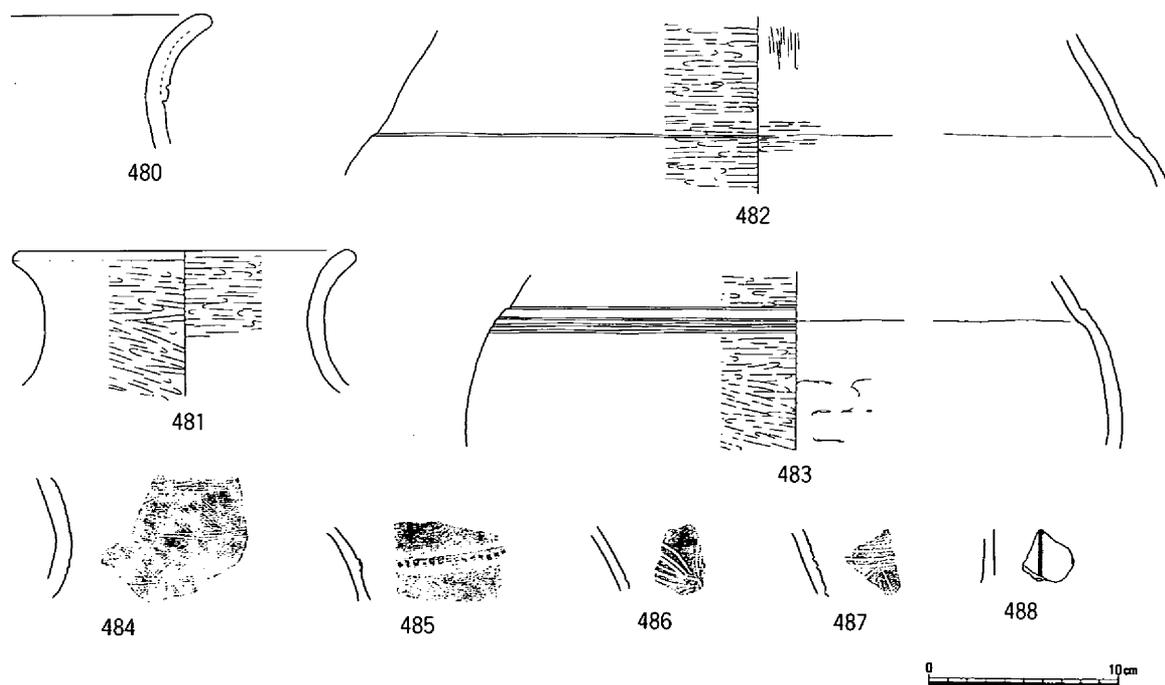
6トレンチの弥生時代前期土器・突帯文土器で器種が確認できた破片を計数し、そのうちの口縁部をまとめたところ全体の34パーセントが壺、54パーセントが甕、その他の器種が8パーセント、残り4パーセント（3個体）が突帯文土器であった。同じく7トレンチの弥生時代前期土器を調べたところ、口縁部の約46パーセントが壺、約54パーセントが甕であった。

6トレンチの480～488は壺である。488は小片であるが赤色顔料による線刻が認められる。489～504、511は甕である。512、513は縄文後期の土器、514～517は突帯文土器の深鉢、518・519は突帯文系の鉢と考えられる。

7トレンチ出土遺物の内、523は貼り付け突帯を持つ壺の胴部である。530は口縁部の下の段に刻みと、その下に沈線が認められる甕である。537は蓋の可能性も考えられる。538はおそらく高杯の口縁部であろう。

第95図の539～545は南池第4カット出土である。539が壺、540～542が甕、543は突帯文土器の深鉢である。遺物に関連する注記によると、その大部分の出土位置は第31図の第4カット断面図でG-HラインとI-Jラインの部分に当たる。

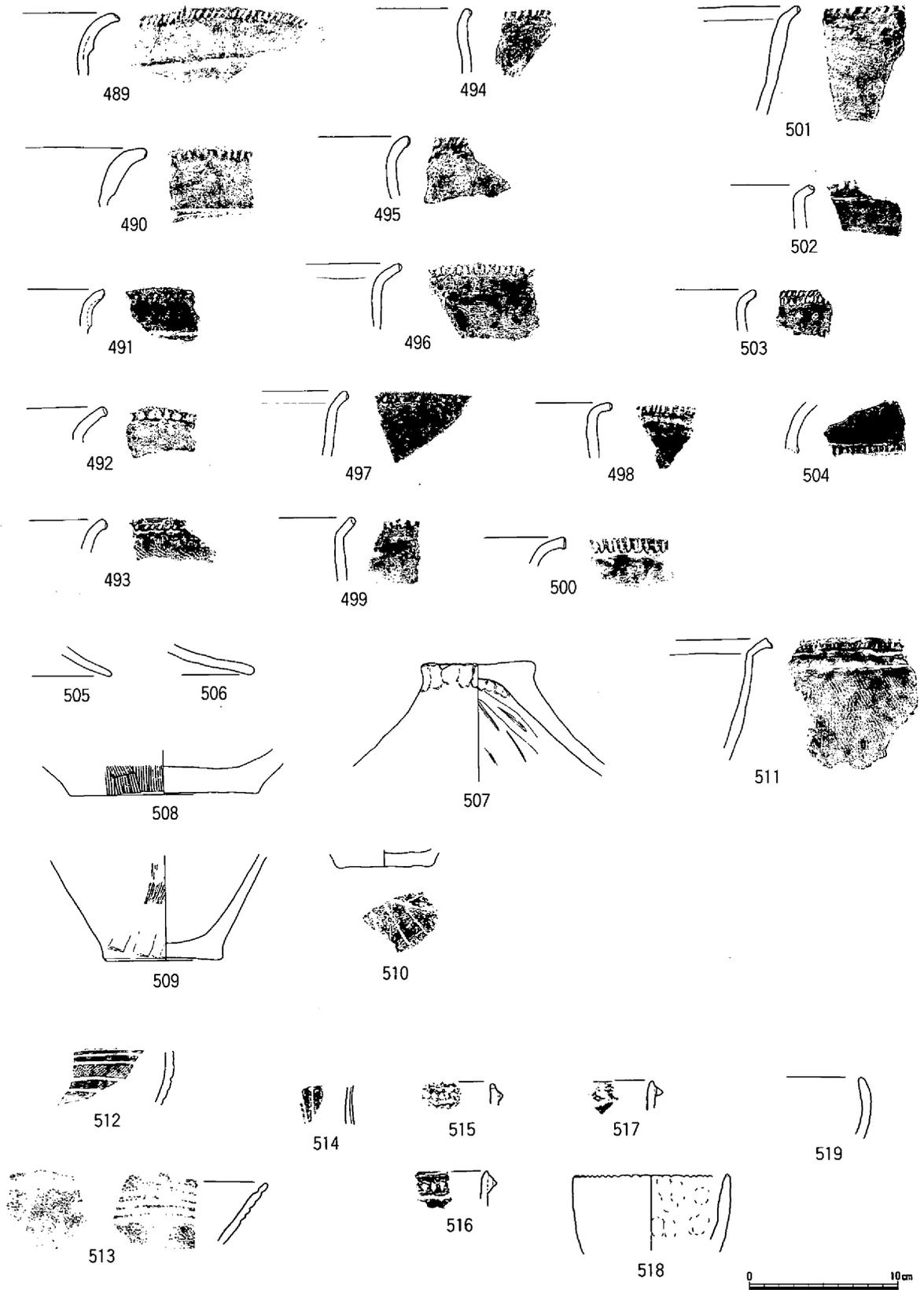
弥生時代中期の遺物は、南池では8トレンチ、北4C、北6区、J区で出土している。調査参加者からの聞き取りによると、北2A区の上層が6トレンチ、北2B区の上層が8トレンチの可能性があり、両トレンチ北側には弥生時代中期の土器を多く含む北へ下がる落ち込みが存在した、ということ



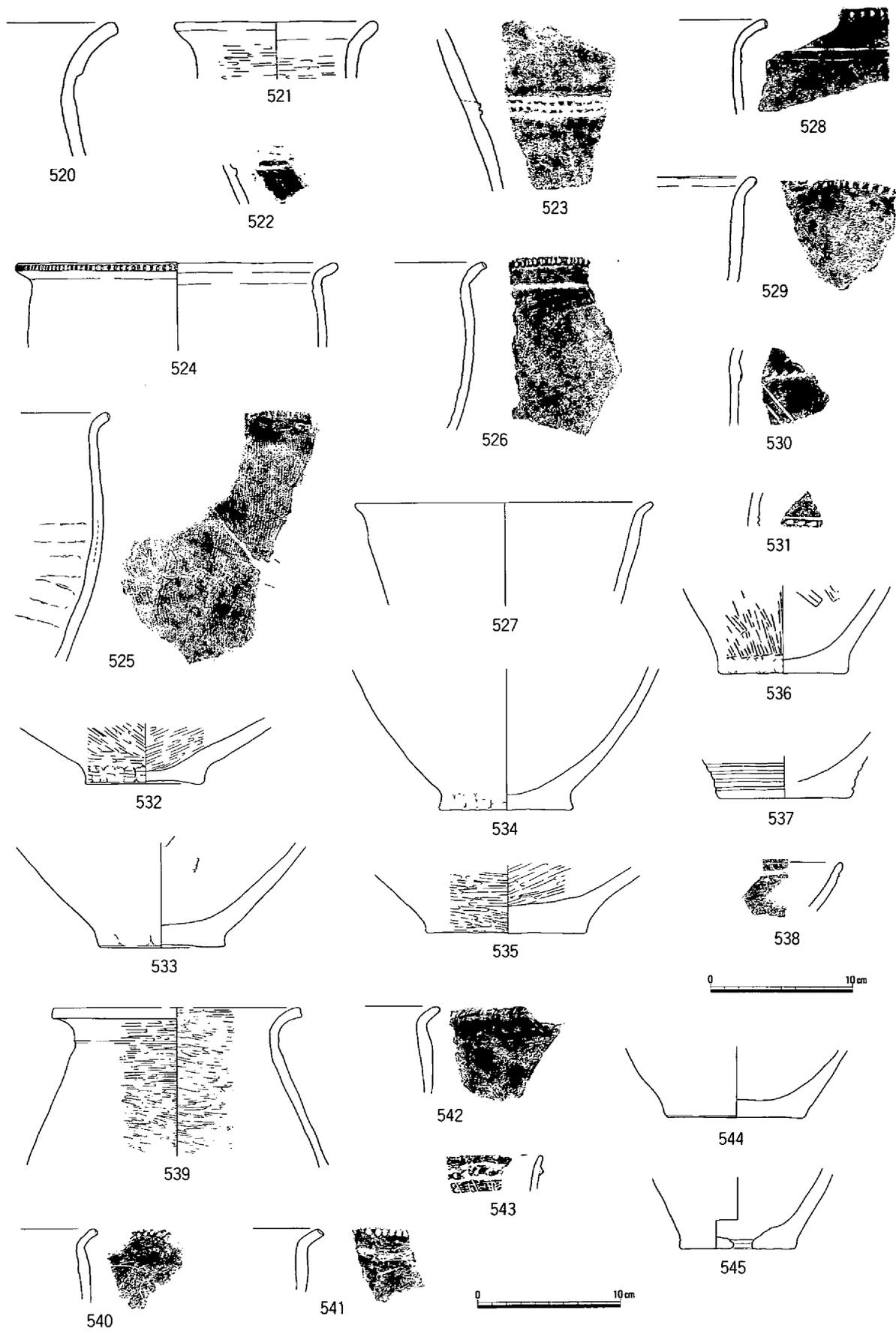
第93図 南池6トレンチ出土遺物1

である。さらに北2A区から南へ向かう緩やかな下がりが存在し、やはり弥生時代中期の土器が出土した、ともいわれている。

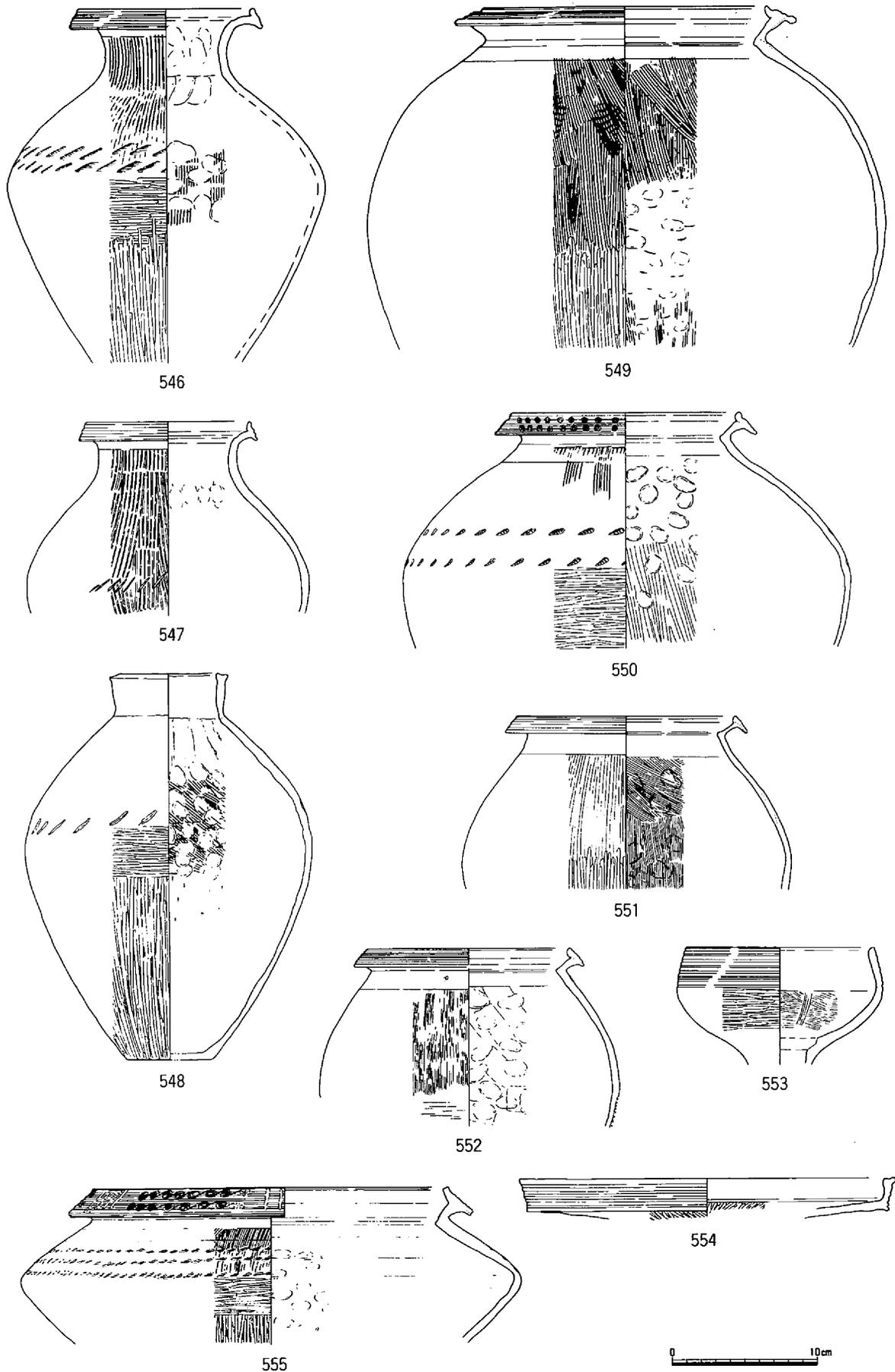
第96・97図は8トレンチ出土土器で、546～548が壺、549～552が甕、553・554が高杯で555・556が



第94図 南池6トレンチ出土遺物2



第95図 南池7トレンチ・第4カット出土遺物



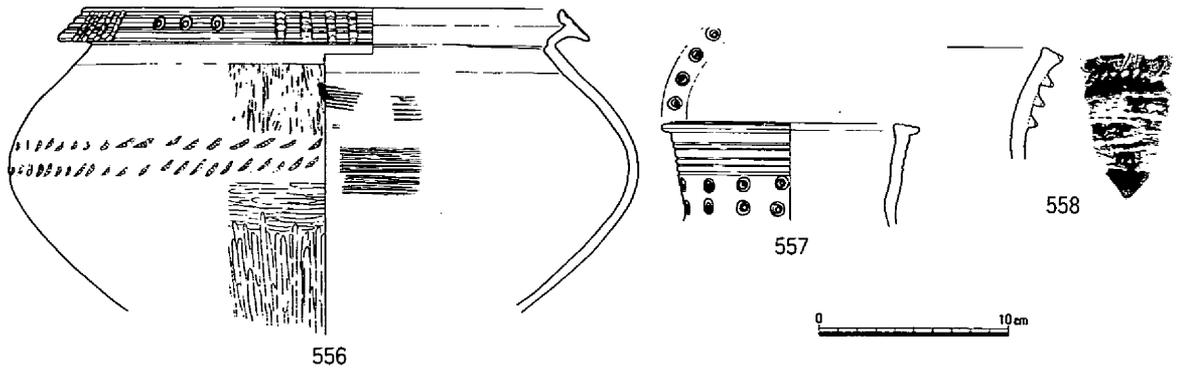
第96図 南池8トレンチ出土遺物

第4章 調査の概要

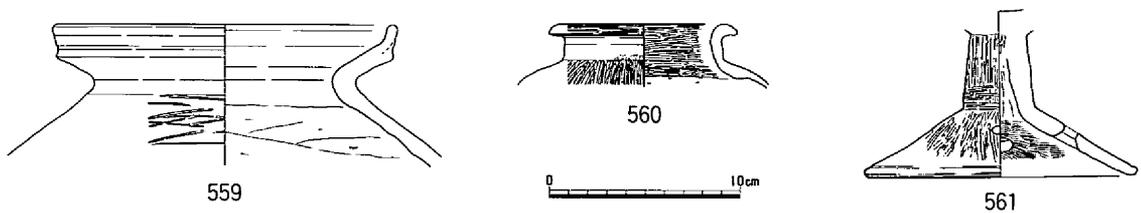
台付き鉢と思われる。第97図557は北4 C区、558は北6区出土のいずれも壺である。第100図567はJ区出土の甕である。これらの遺物の時期は、558が弥・中・Ⅱと考えられるほかは弥・中・Ⅲに比定できる。

弥生時代後期は、各調査区から土器の出土が見られる。中でも南池南側で多い。

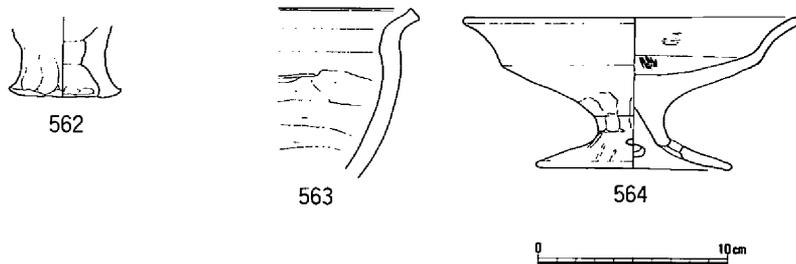
第98～100図は南池北側に属する調査区出土の土器を掲載した。南池北側では、北2 B区561、北2



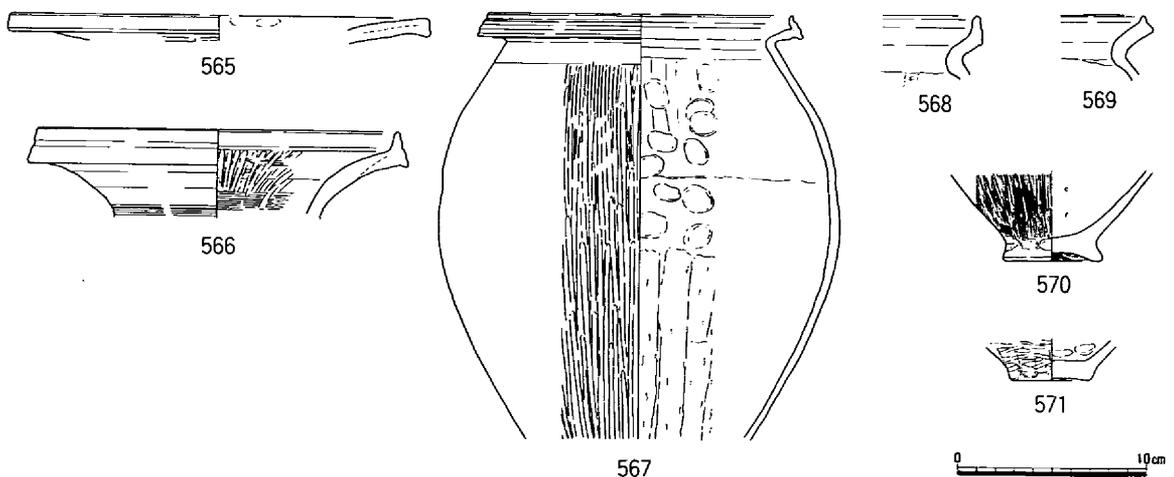
第97図 南池8 トレンチ・北4 C区・北6区出土遺物



第98図 南池北2 B・北2 C区出土遺物

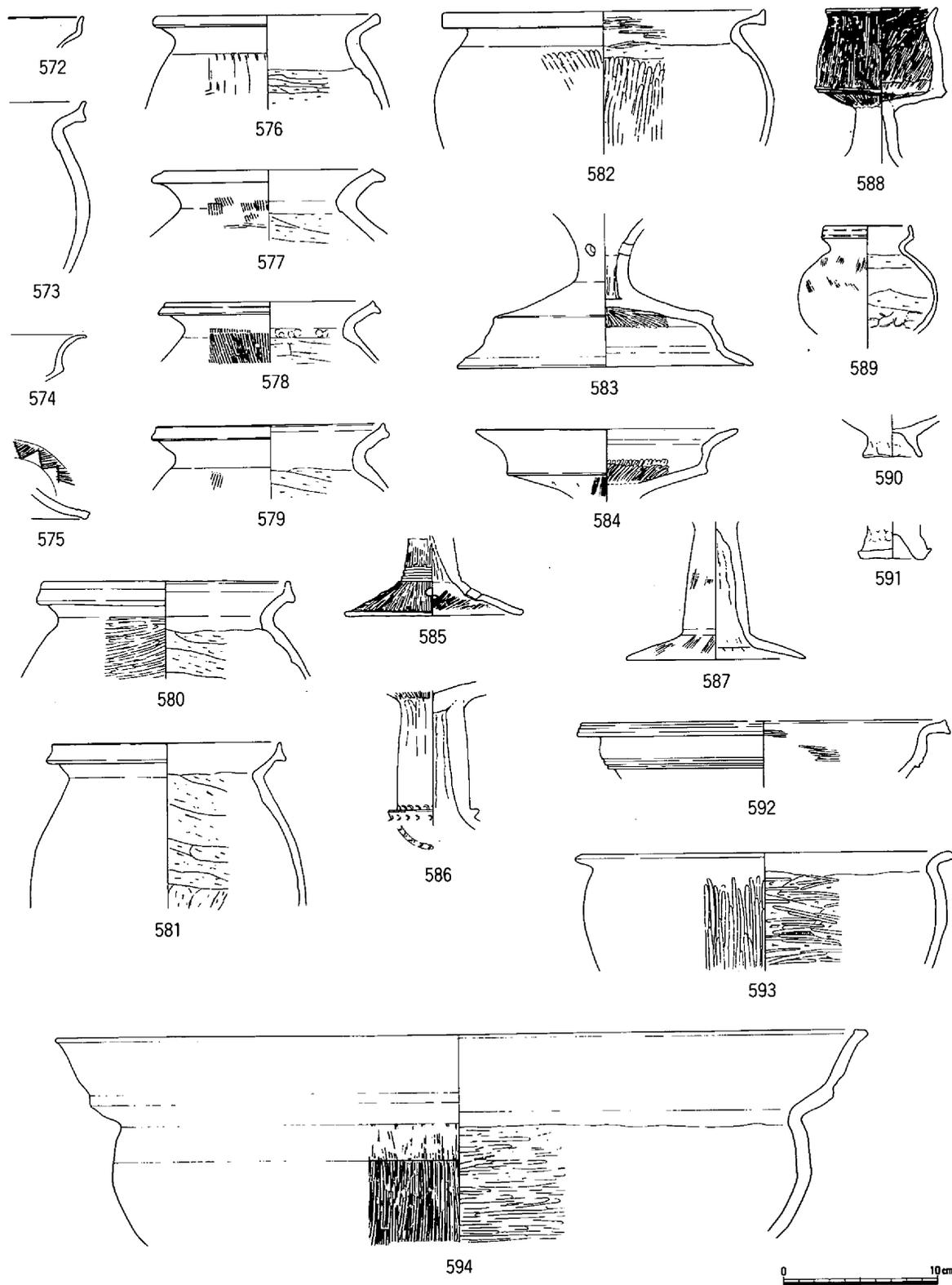


第99図 南池北4 B・北6区・第3カット出土遺物

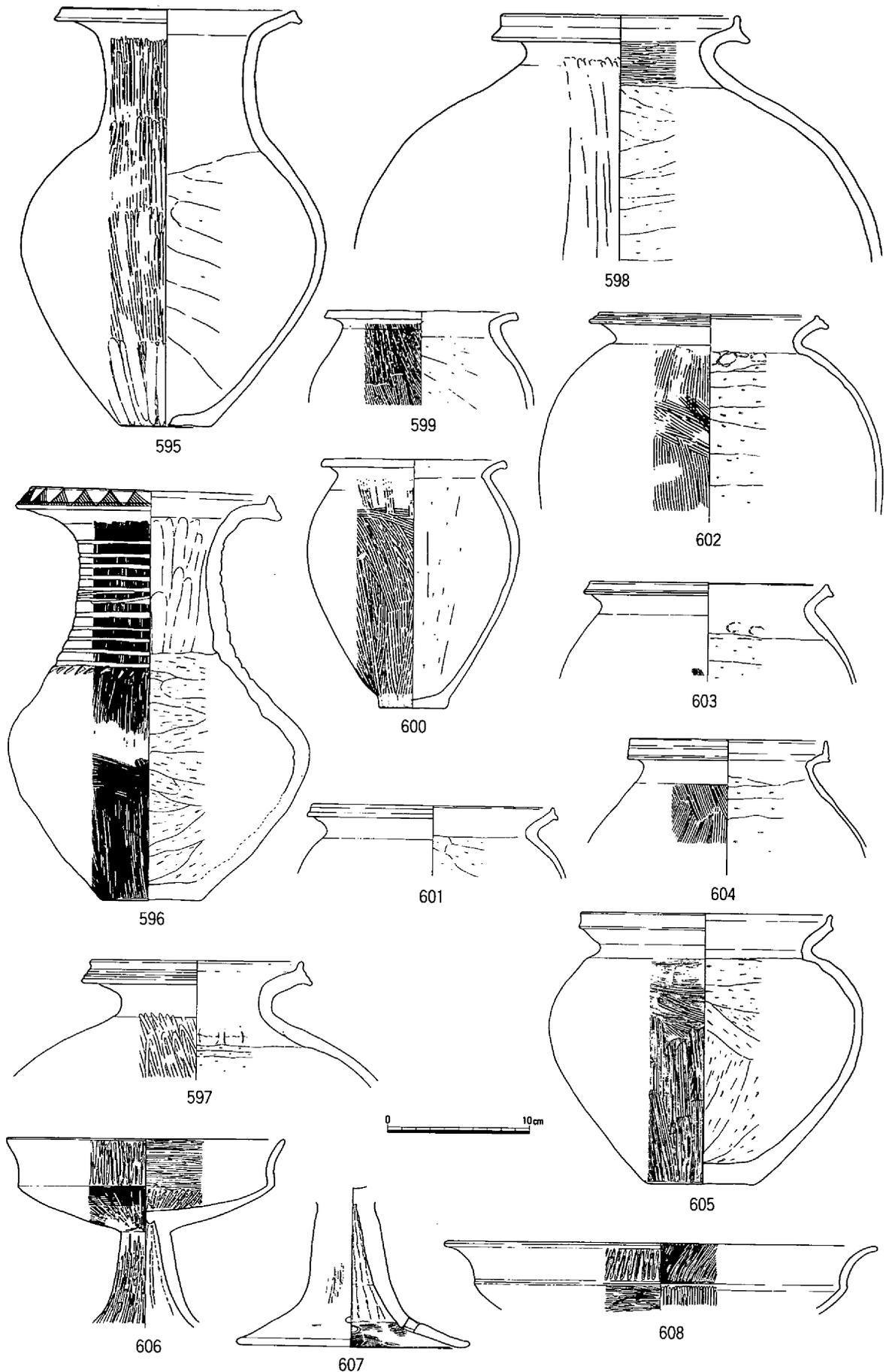


第100図 南池J区出土遺物

C区559・560、北4B区562、北6区563、第3カット564、J区565・566・568～571などが存在し、弥生時代後期の土器は少量である。北2C区の土器は、注記より調査時点の表土から出土したと思われる。また北2C区559の壺は北2B区出土の破片と接合している。



第101図 南池1・2区出土遺物

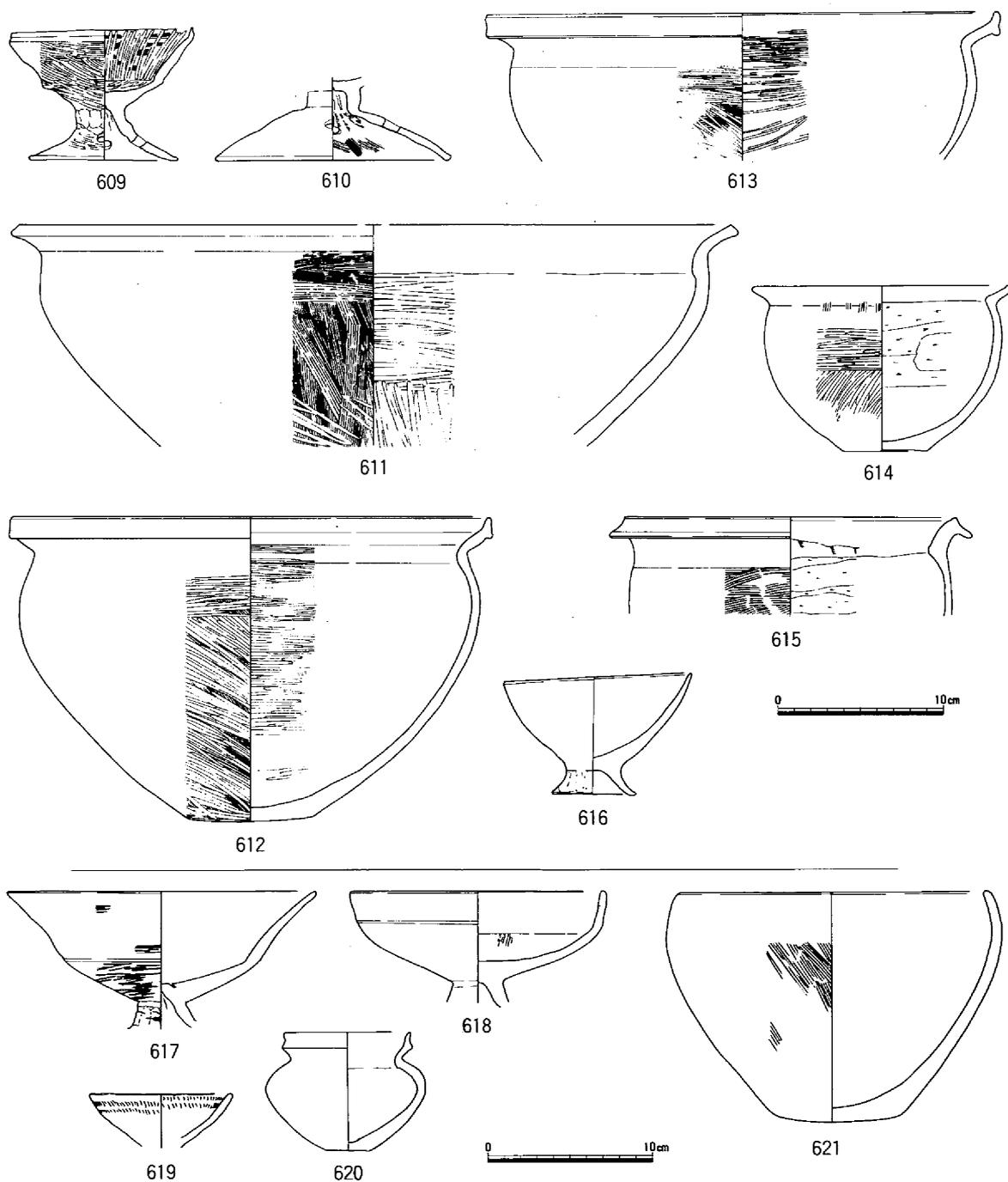


第102図 南池4区出土遺物1

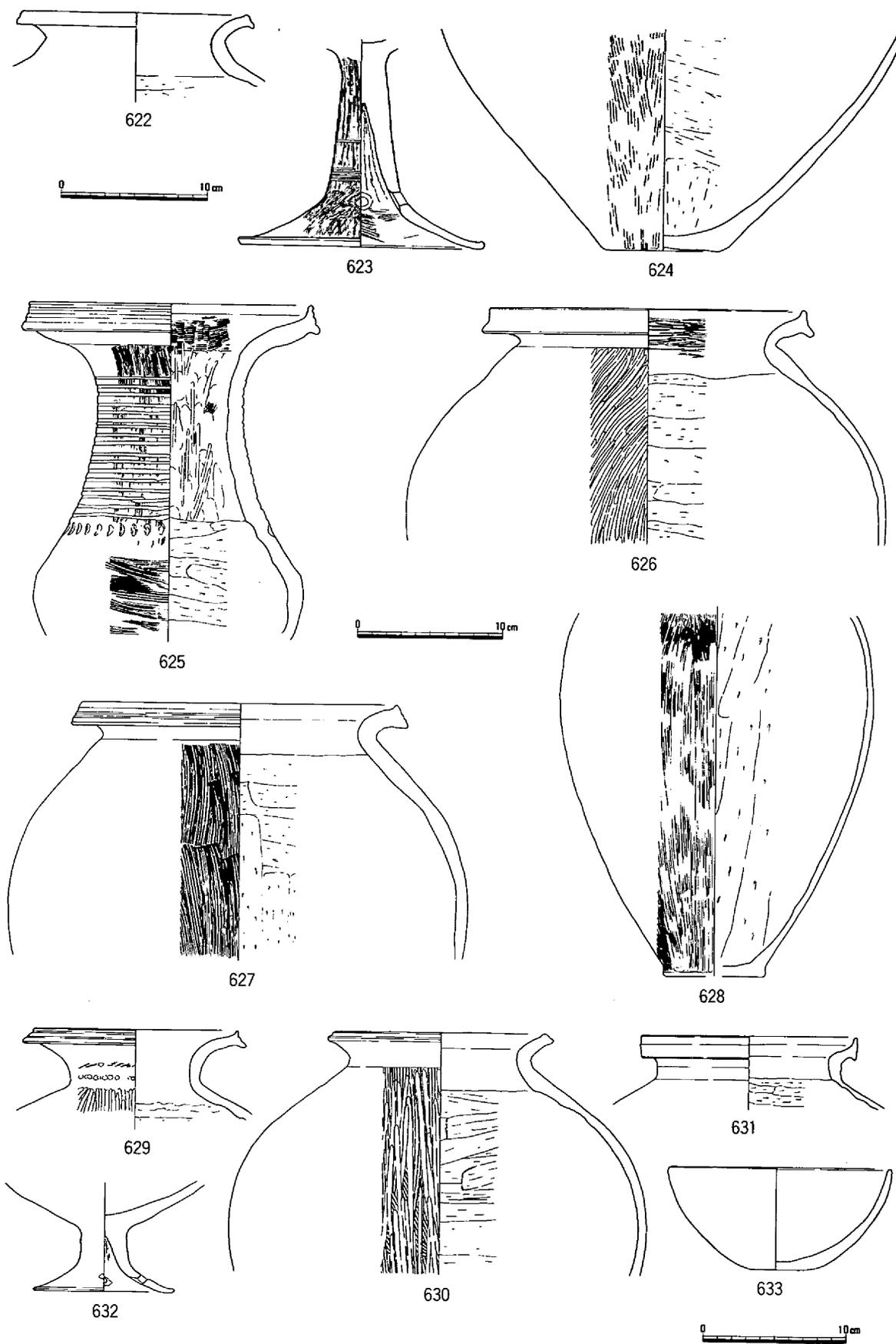
第101図に示した遺物が出土した南池1・2区は、竪穴住居2と3が検出された調査区である。住居の下層出土など住居関連の遺物が含まれる。587・589・594は土師器で、それ以外は弥生時代後期の土器である。583（巻頭写真参照）は口縁部内面に煤が円形に付着し、甕の蓋として転用された可能性が高い高杯である。

第102・103図の南池4区出土とした土器は、「U4」と注記のあるものを当てている。596はほぼ完形の壺である。また609の高杯は脚部と杯部で胎土が大きく異なる。これらの土器は弥・後・Ⅱ～弥・後・Ⅲの時期に相当する。

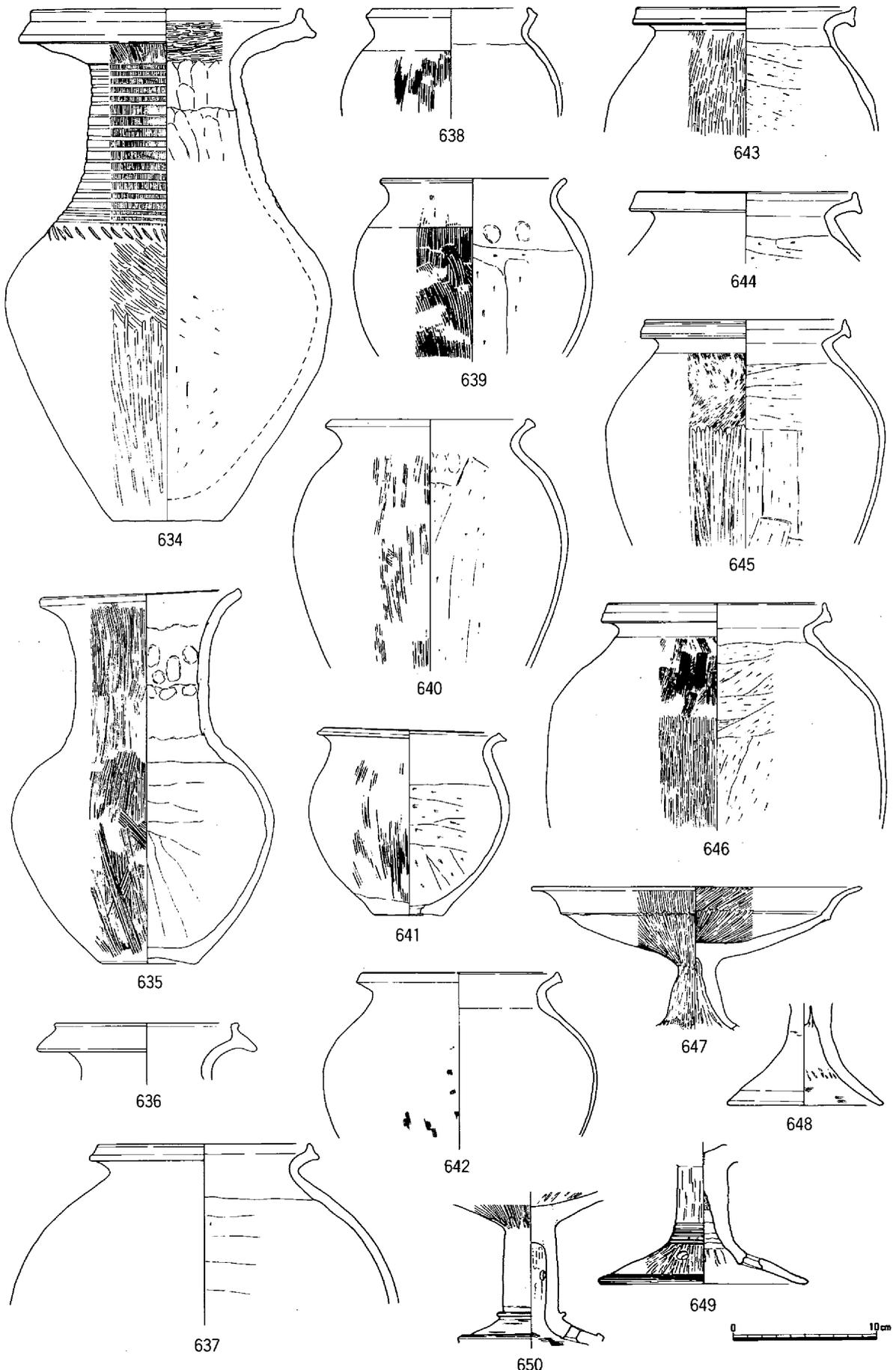
第103図617～621の北池4区出土とした土器は、「U小4」と注記されているものである。北池4区



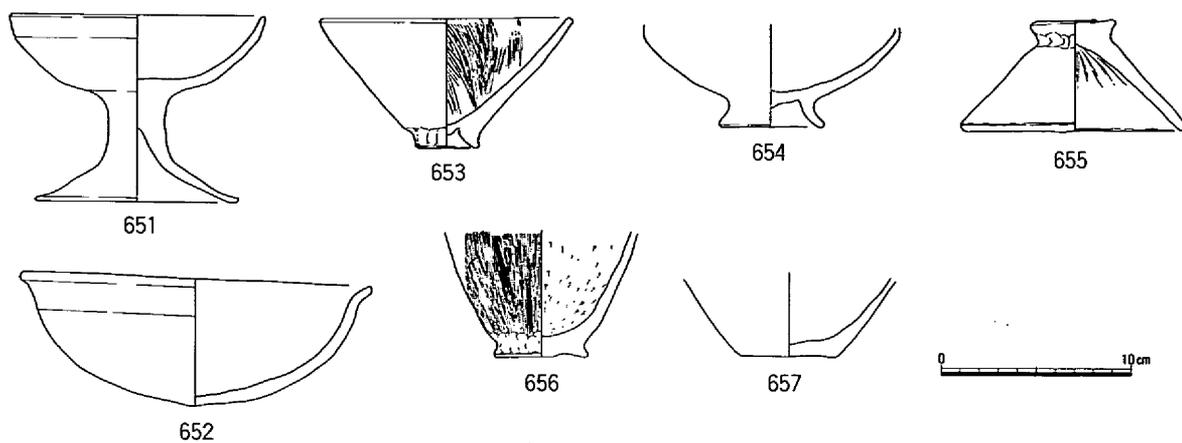
第103図 南池4区出土遺物2・北池4区出土遺物



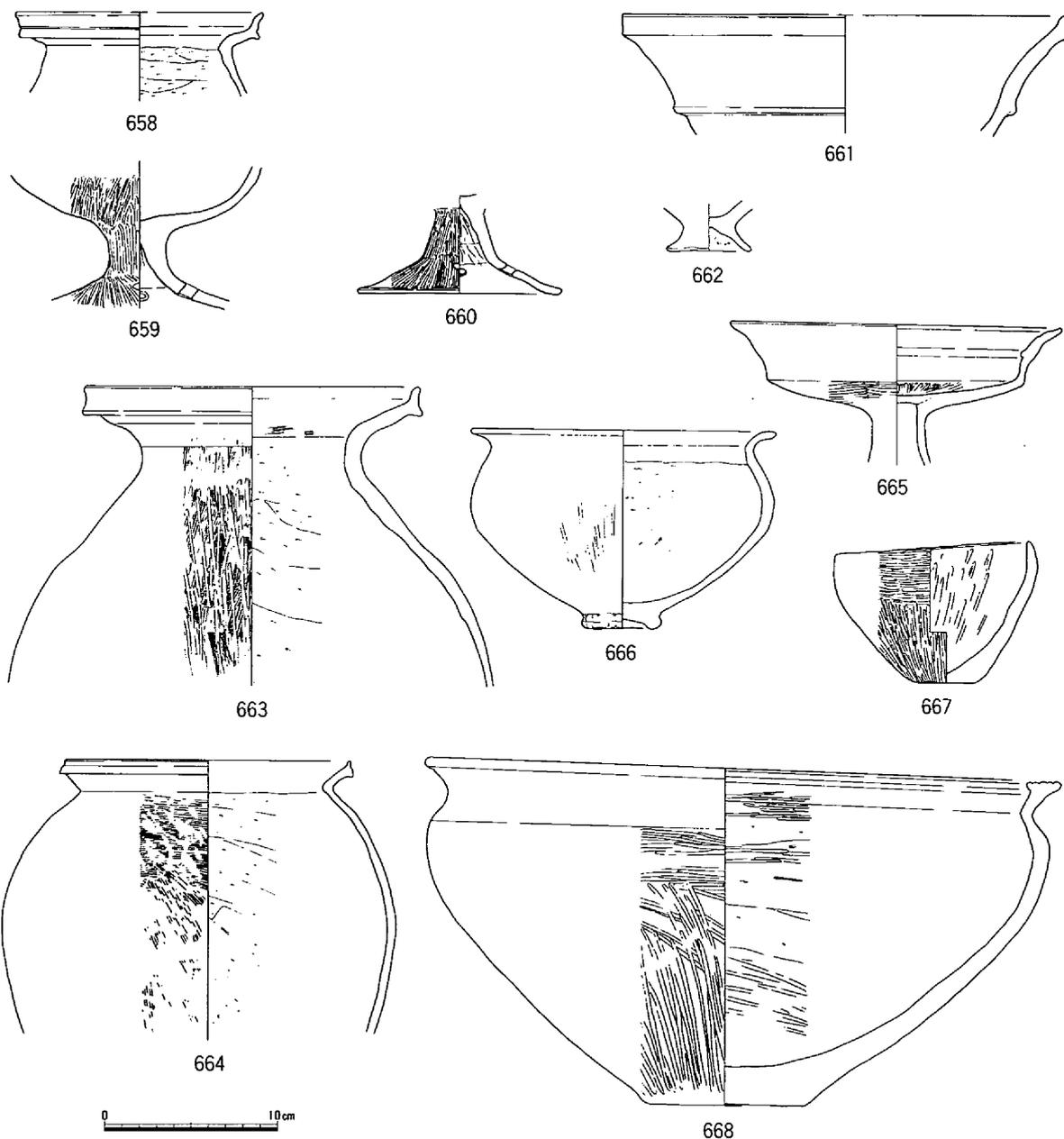
第104図 南池5～9区出土遺物



第105図 南池10区出土遺物 1



第106図 南池10区出土遺物 2



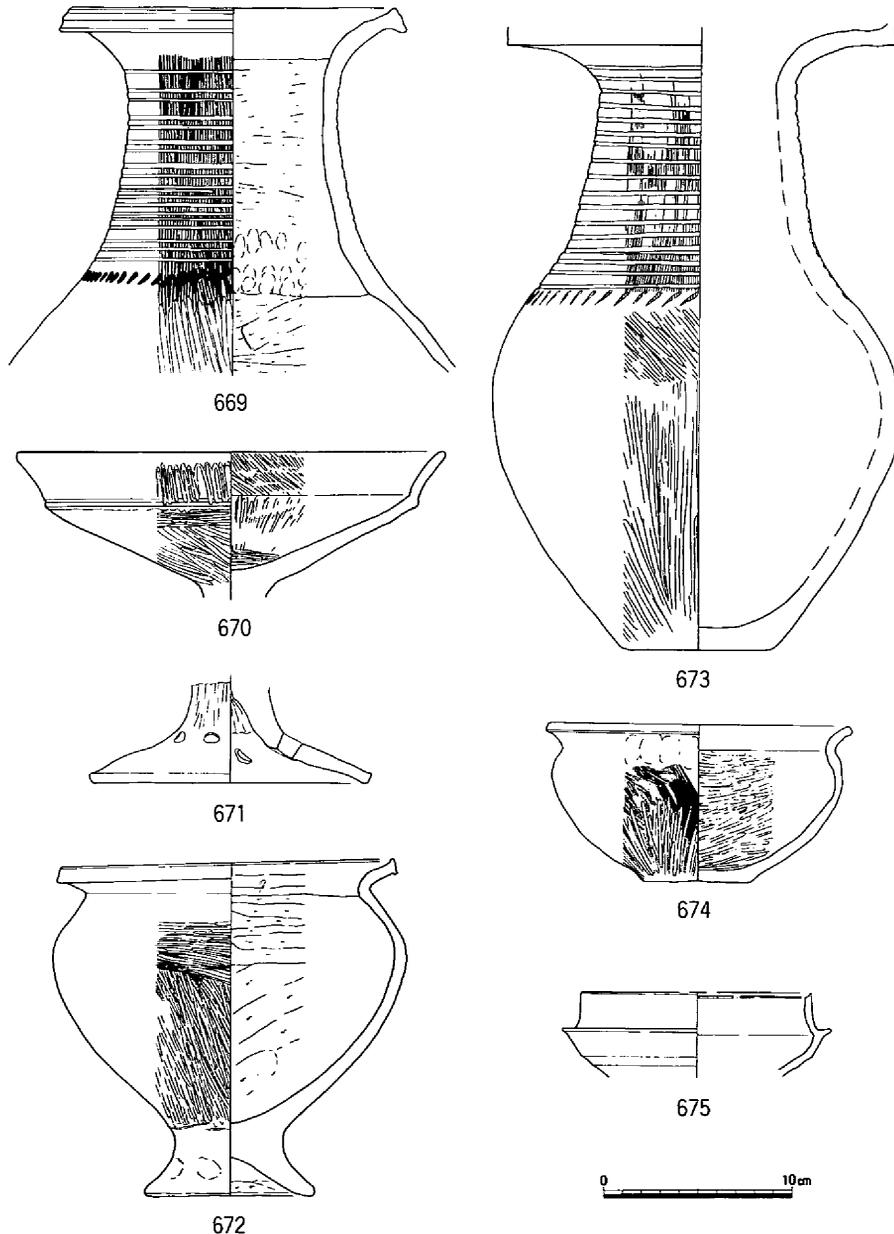
第107図 南池11~13・15区出土遺物

という調査区は、資料中からは確認されなかった。「U小4」は「U小4 pit」と同一の注記の可能性もあり、その場合は北池土壙1出土ということになる。ただし、ここで北池4区とした遺物は617のように弥・後・Ⅳの時期の土器を含み、北池土壙1出土土器と比べ新しいと思われる。

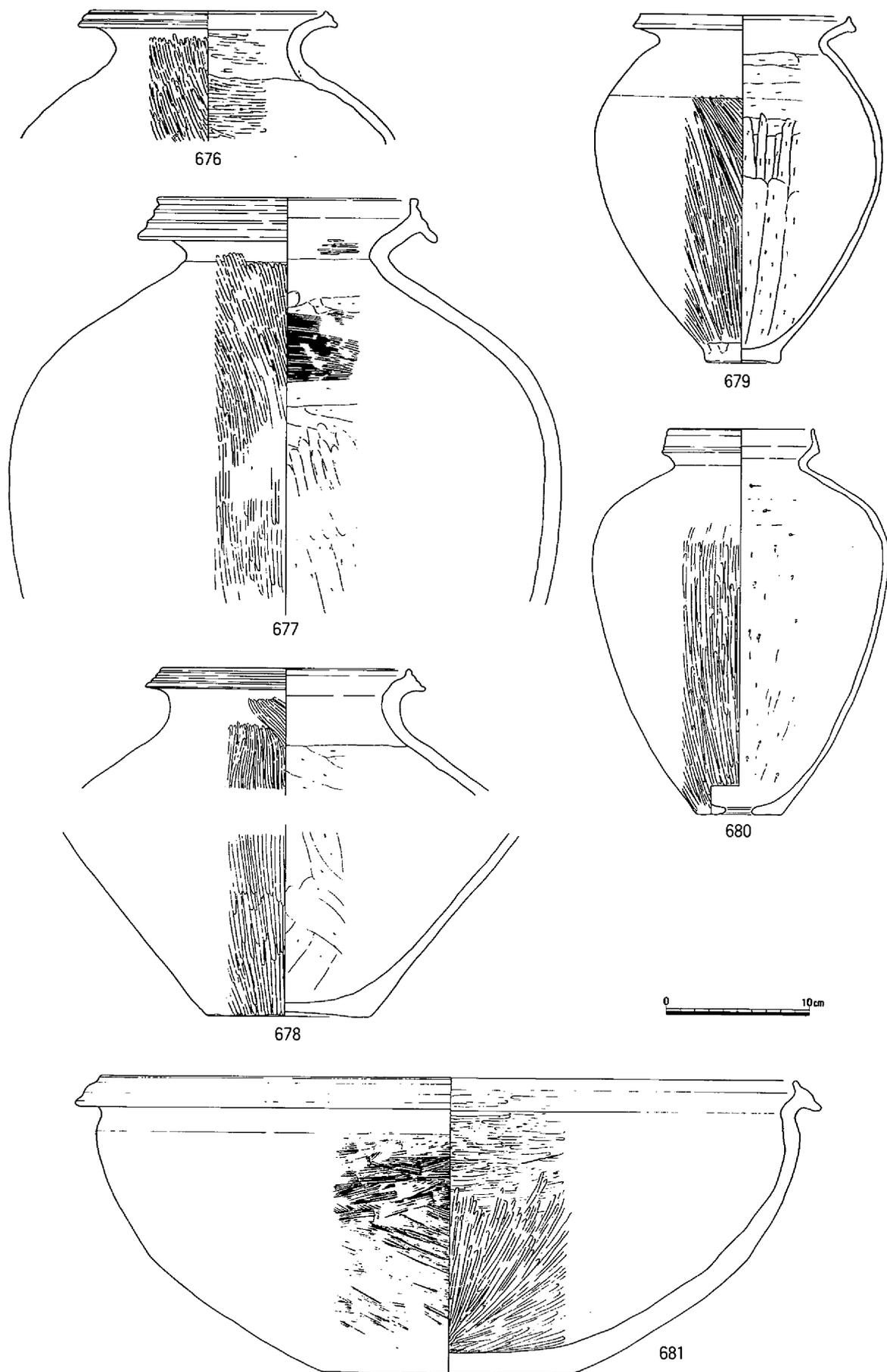
第104図には、南池の5～9区の土器を掲載した。622～624は5区、625～627は6区、628が7区、629～633は9区から出土した。これらの土器は弥・後・Ⅱ～弥・後・Ⅲの時期に比定できる。

第105・106図では、南池の10区の土器を載せている。調査時の資料によると、10区という調査区は2か所指示されている。1つは2区と重複する南北の調査区と、もう1つは南池南側の調査区の中で一番西端に位置するトレンチである。前者の場合は竪穴住居2と重複するが、整理作業中に両者の接合を試みることができなかつたので、10区が竪穴住居2と重複しているかどうかは追求できなかった。

土器は651が古墳時代の土師器である以外は弥生時代後期の土器である。655は蓋の可能性が高いと思われる。これらの土器は弥・後・Ⅱ～弥・後・Ⅲの時期に相当すると思われる。



第108図 南池16～18区出土遺物

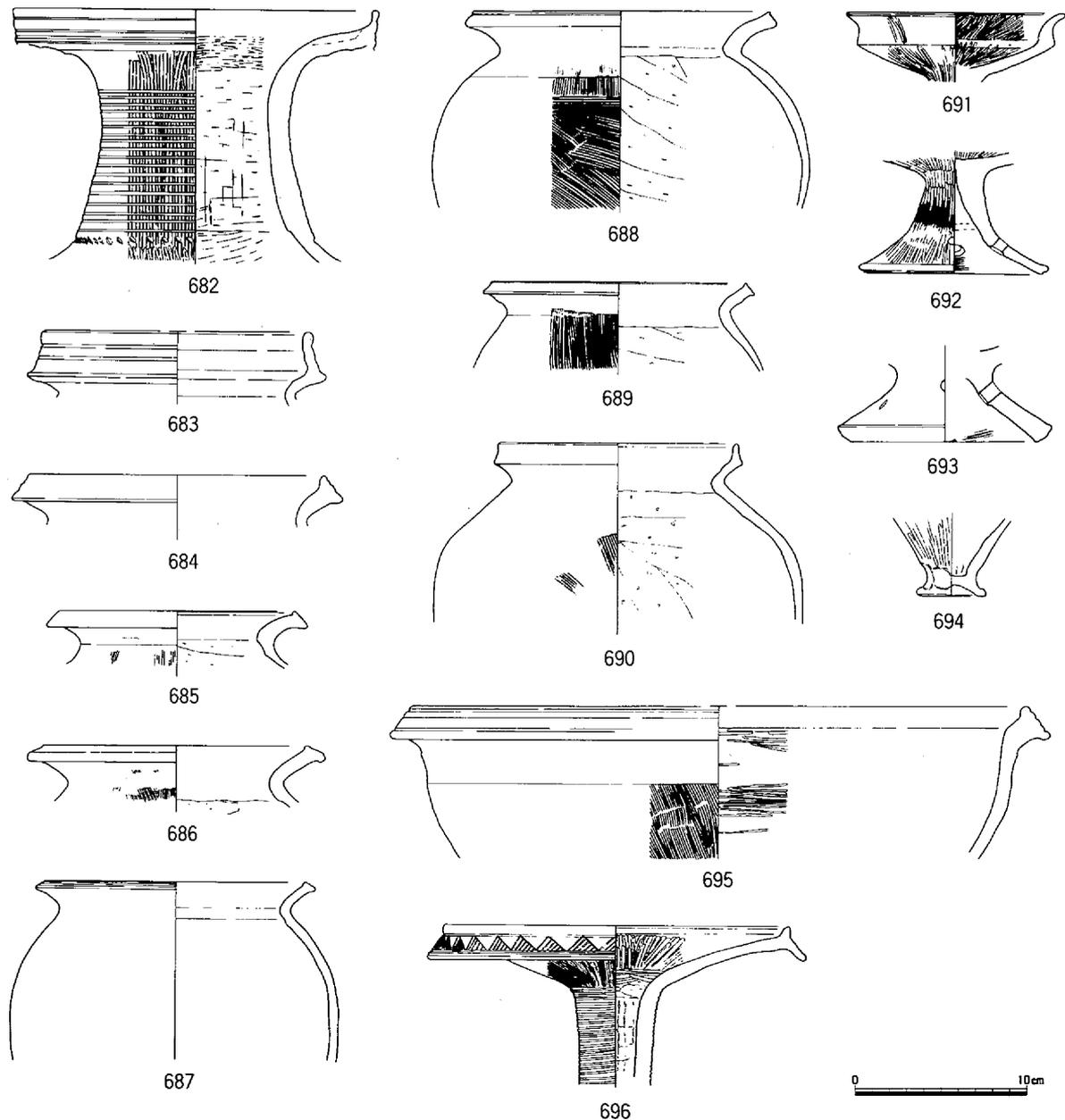


第109図 南池19・20区出土遺物

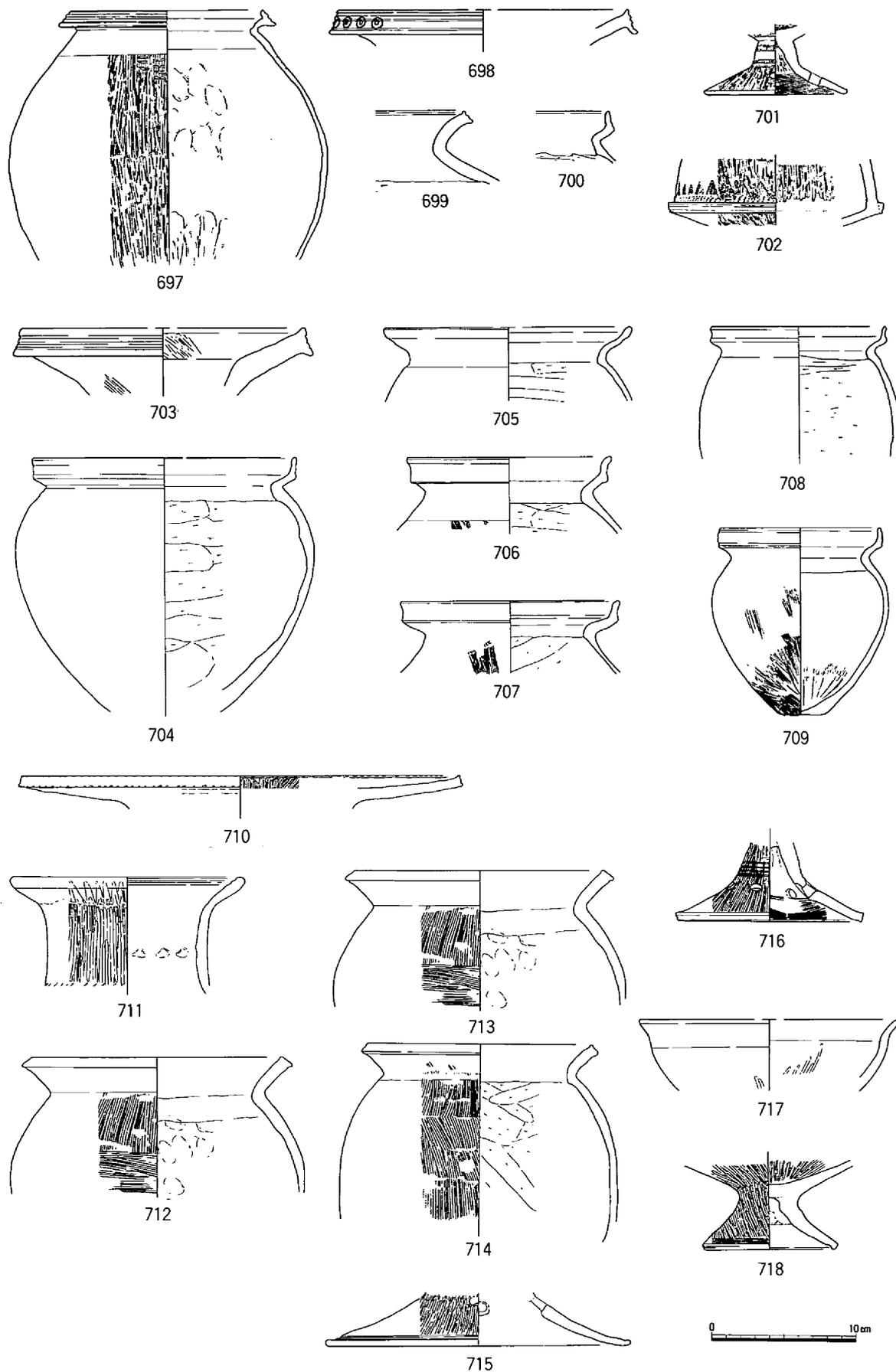
第107図で示した土器のうち、658・659は南池11区出土、660～662は南池13区出土、残りは南池15区出土である。661の壺は古墳時代前期に位置づけられる。668の鉢は弥・後・Ⅰの時期に該当すると思われ、他は弥・後・Ⅱ～弥・後・Ⅲの時期に比定できる。

第108図は669が南池16区、670～672、675が南池17区、673・674が南池18区出土である。第109図は676が南池19区、677～681が南池20区出土土器である。678は口縁部と底部が直接接合しないが、同一個体と判断した。680は堅穴住居10出土の可能性もある。第108～109図の土器は、675が須恵器の杯身で、TK23～47型式に相当する以外は弥・後・Ⅱ～弥・後・Ⅲに位置づけられる。

第110図はA・B区出土の土器で、690がA区でそれ以外がB区出土土器である。いずれも破片で、完形品は見あたらなかった。また、遺物の出土日付から、687～690は第1次調査で出土し、683～686、



第110図 A・B区出土遺物

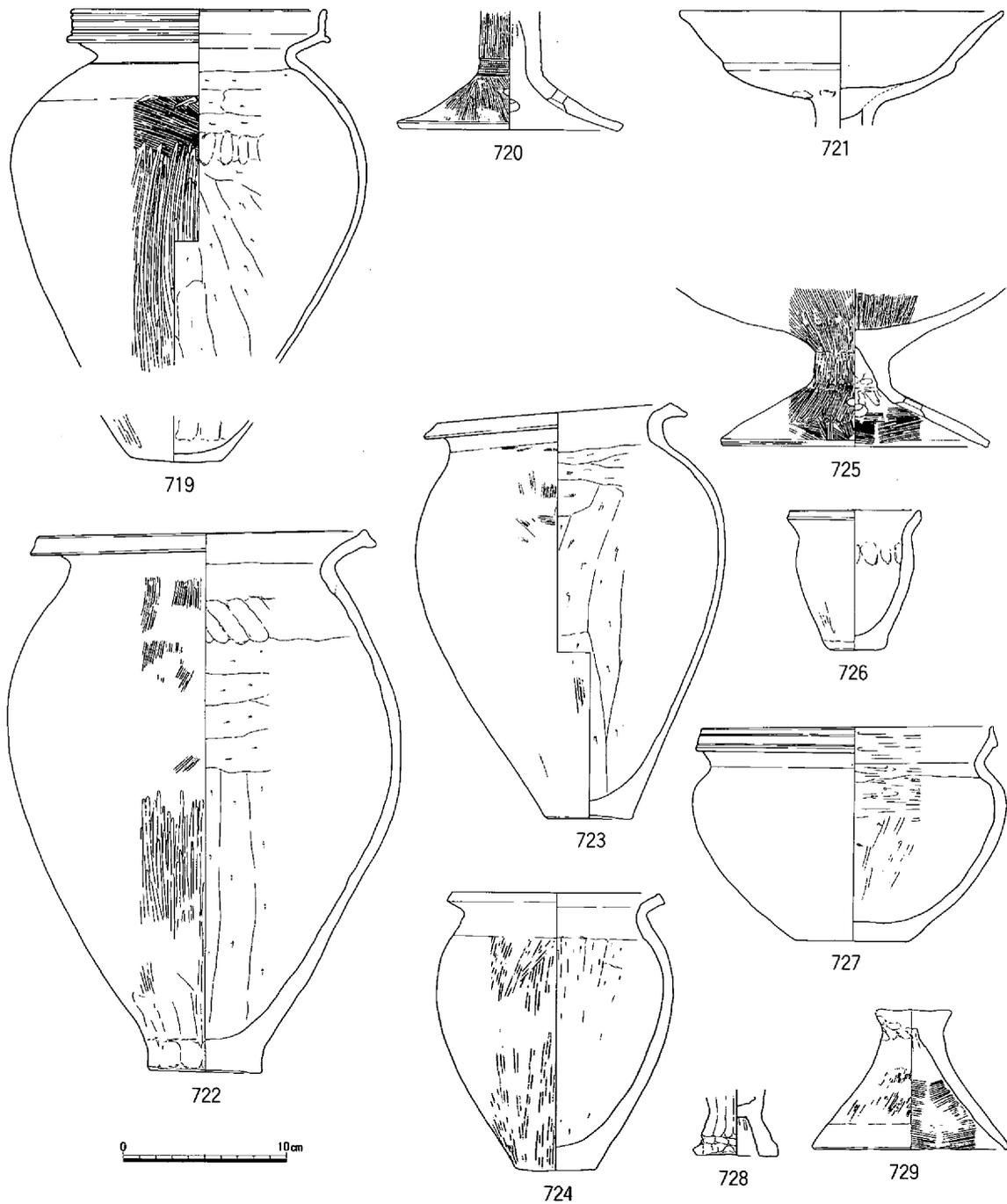


第111図 C・C'・D区出土遺物

691・693・694が南池の第3次調査で出土したことが判明した。第1次調査のA・B区が北池か南池のいずれであったかは追求することが困難である。

B区土壌4の項で述べたとおり、出土遺物の685・686・693・694は「B pit」の注記が見られることから、土壌4から出土した可能性がある。これらの土器は弥・後・IIの時期を示している。上記685・686・693・694以外の土器の時期は弥・後・II～弥・後・IIIであろう。

第111図はC・C'・D区出土の土器である。697・698はC区、699～709がC'区、710～715、717がC'区とD区両方の注記がある土器、716・718がD区出土土器である。遺物の出土日付から、C区



第112図 E・F区出土遺物

第4章 調査の概要

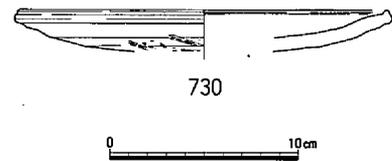
の697・698は第1次調査で出土し、それ以外が南池の第3次調査で出土したことが判明した。第1次調査のC区が北池か南池のどちらに位置していたのかは判別できなかった。

C'区出土遺物の内699～702には「C' pit」の注記があり、遺構から出土したことが考えられる。またC'区の遺物とC'区とD区両方の注記がある遺物703～715、717はおそらく竪穴住居11の下層に存在した土器溜まり（図版7-2参照）出土遺物と思われる。716は竪穴住居11床面との注記があるが、竪穴住居11の下層出土であろう。これらの土器の時期は、697が弥・中・Ⅲでそれ以外は弥・後・Ⅱ～弥・後・Ⅲを示している。

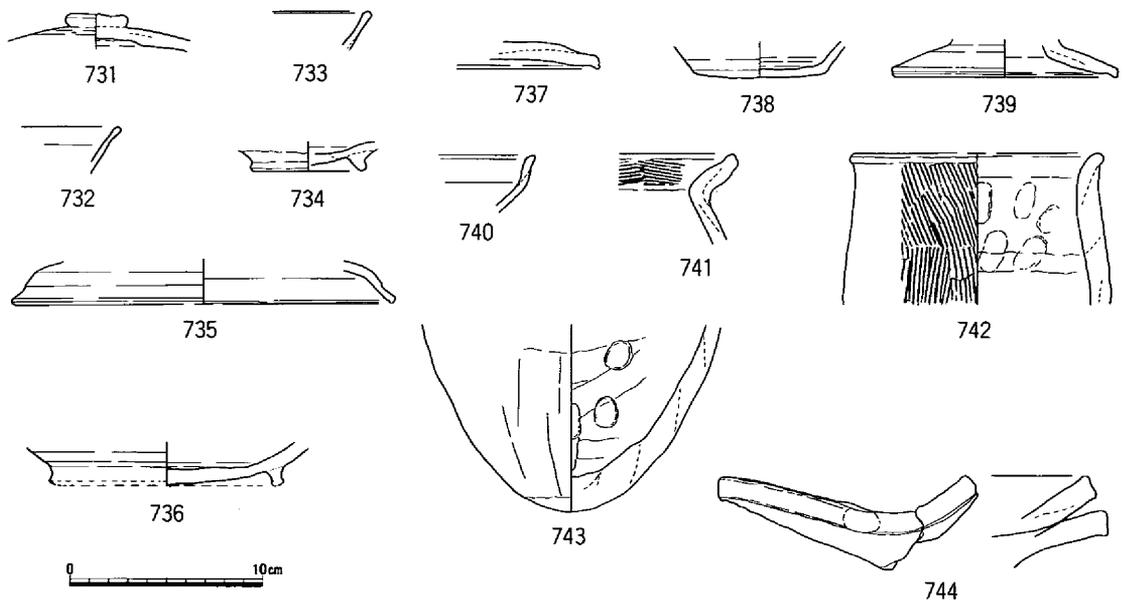
第112図はE・F区出土の土器である。719～721がE区、それ以外がF区出土土器である。E・F区出土の遺物は、出土日時から判断すると第1次調査時の出土が大部分で、南池第3次調査と北池第4次調査の出土遺物を少量含む。ここで取り上げているE・F区の土器のうち、721が第3次調査時の出土でそれ以外は第1次調査時の出土と考えられる。第1次調査のE・F区が北池か南池のどちらに位置していたのかは判別できなかった。また北池第4次調査のE・F区出土遺物は小片のため図示できなかった。これらの土器の時期は、弥・後・Ⅱ～弥・後・Ⅲである。

第113・114図には調査区出土で古墳時代以降の遺物を載せている。北池・南池地点では、池の掘削のため古墳時代より新しい層が残っていないものと思われた。しかし少数ではあるが、ここに紹介するとおり古代・中世の遺物が見られた。小片が多いが、奈良時代の精良な胎土を持つ土師器など特徴的な遺物がいくつか存在する。

730・735・737～743は奈良時代の土師器と考えられる。中でも730・735・737・739は胎土が赤色を呈し、精良な粘土を用いたものである。738・740は椀、741～743は甕で、器壁は厚く調整も粗いものである。



第113図 南池北2 A 拡張区出土遺物

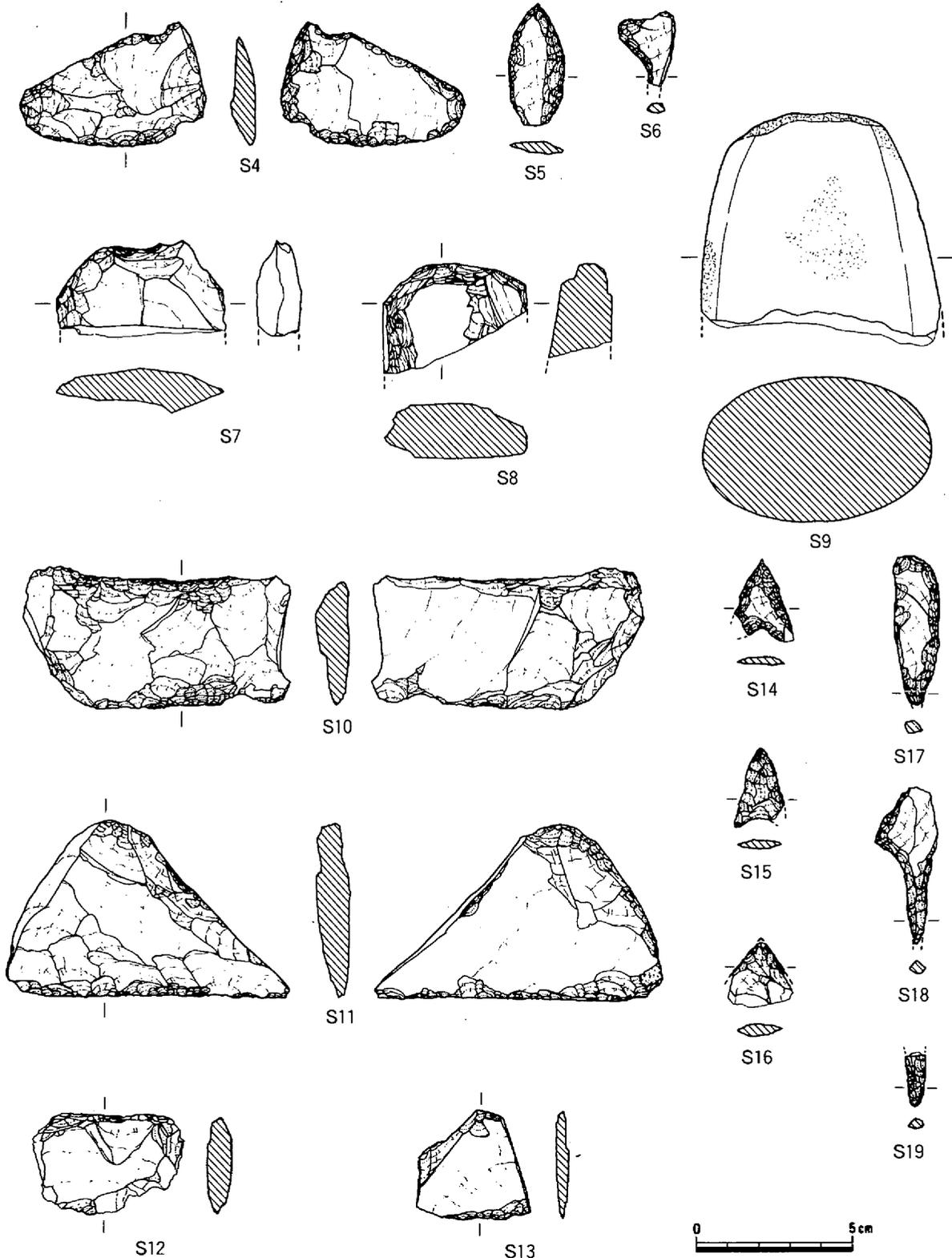


第114図 南池J区出土遺物

734は中世の椀であろう。

731~733、736は須恵器である。744は土師器である。

第115図からは調査区出土の石器と石製品を示した。第115図は南池北2A区・北2B区出土の石器で、北2A区から出土がS4~S9、北2A拡張区出土がS10・S16、北2A拡張2区出土がS11・



第115図 南池北2A区・北2B区出土石製品

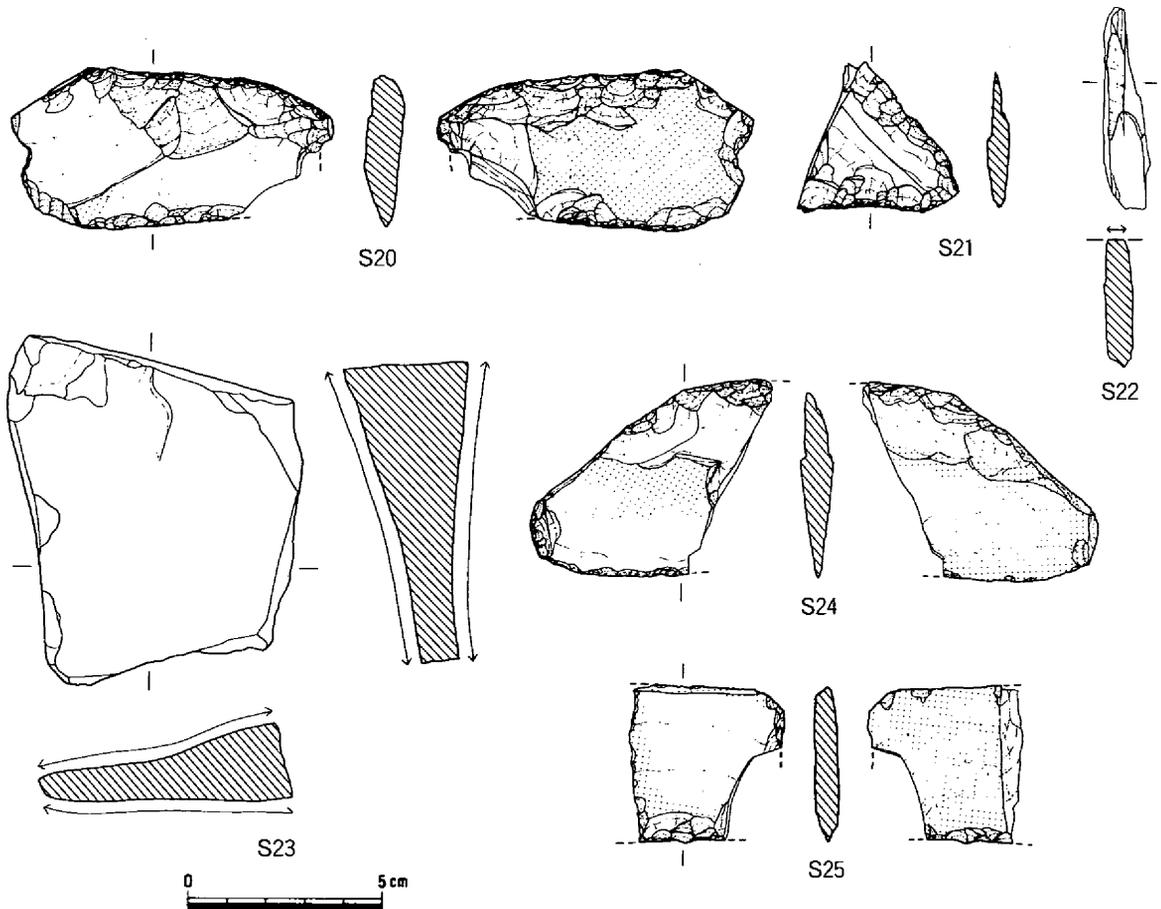
S12・S14・S15・S17～S19、北2B区出土がS13である。

主な器種としては、石鏃S5・S14～S16、石錐S6・S17～S19、石斧S8・S9、スクレイパーS10～S13が存在する。S7は表面に摩滅が見られるので、未製品ではないと思われる。S8は上部を剥離の後敲打で剥離痕を潰している。S18・S19は図面向かって下の刃部が摩滅している。

第116・117図には各調査区出土の石器を掲載した。S20は南池北4B区出土の石包丁で、スクリーントーンの部分は珪酸付着か摩滅を示している。S21は北4C区出土のスクレイパー、S22は北4C区出土の砥石片である。S24は南池4区出土、S25は南池6区出土のいずれも石包丁で、破損している。S26は南池C区出土で、磨製石包丁の未製品であろう。S29は南池C'区出土の播り石、S31はF区出土の敲石である。S30は南池D区出土の石包丁転用スクレイパーである。

第118図は南池6トレンチ出土の石器である。S34は磨製石包丁の破片で、『岡山市史』に掲載されたものである。S35は打製石包丁の破片で、スクリーントーンの部分に珪酸が付着している。S36～S39はスクレイパーで、S36には表面に摩滅の痕跡が見られる。S40～S43が石鏃、S44～S46は石錐である。S46は先端が欠損し、刃部の両側は摩滅している。第119図が南池8トレンチの石器で、S47・S48共にスクレイパーである。

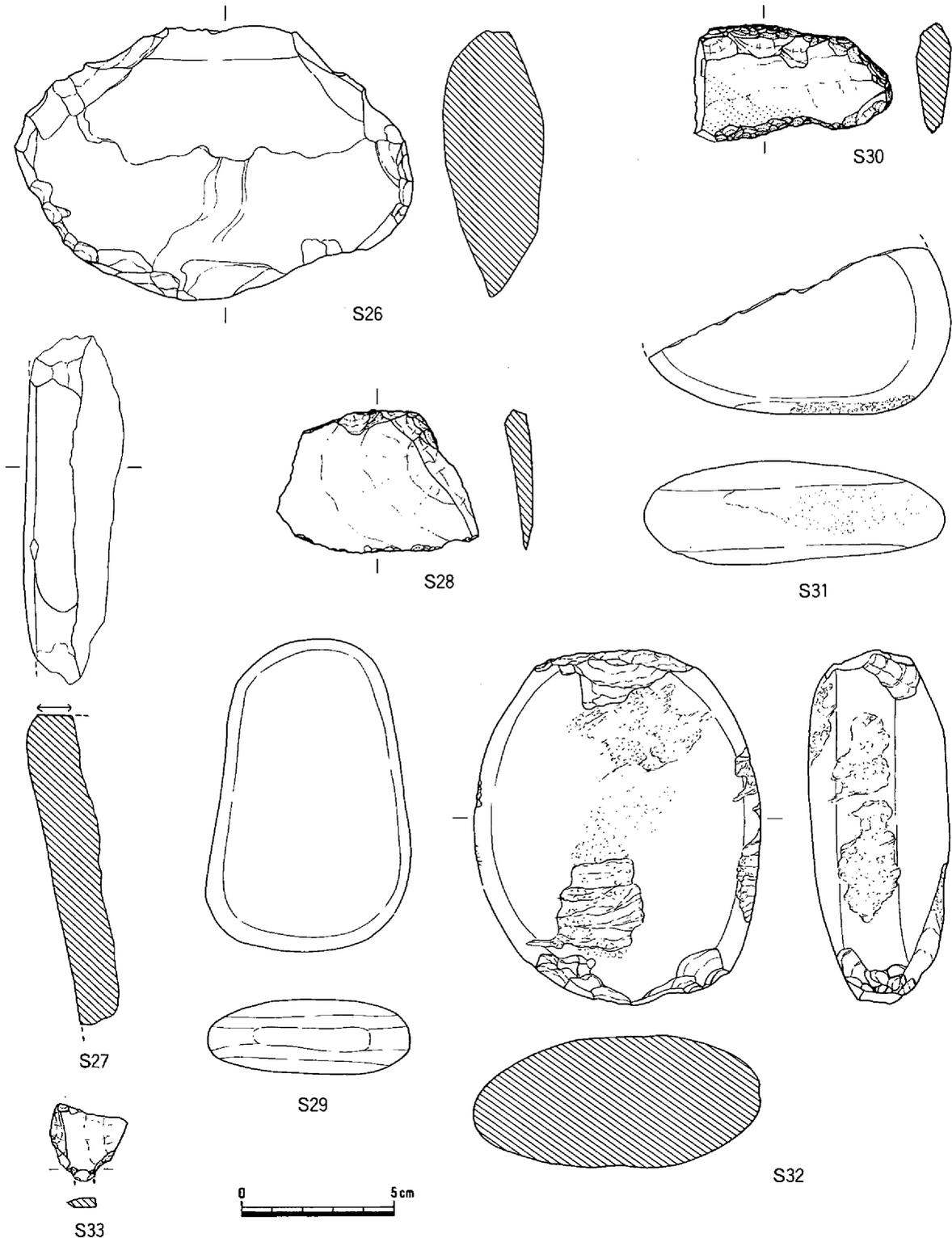
第120図が南池J区出土の石器である。S49は全体に風化しているが、磨製石斧の未製品と思われる。S50は欠損しているが、やはり石斧の未製品と考えられる。



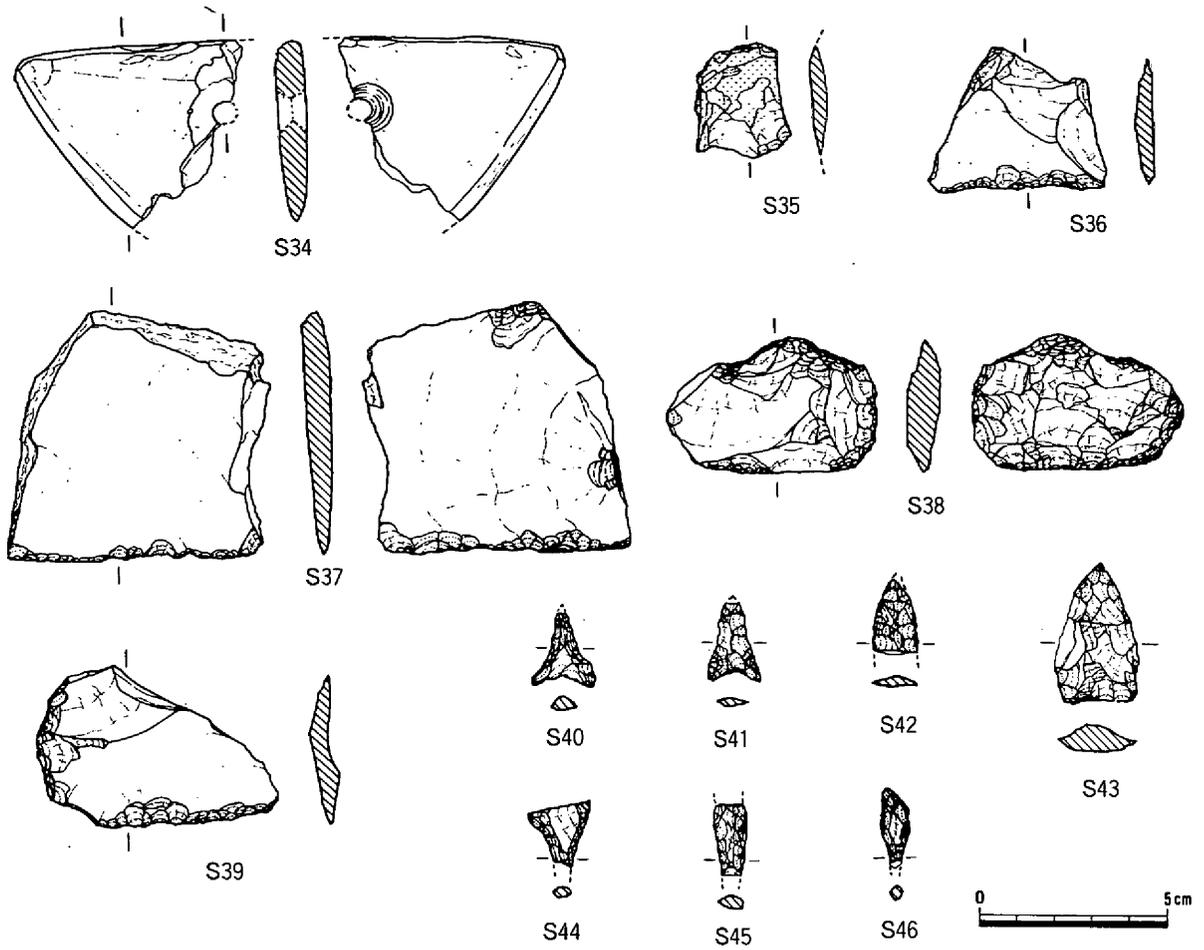
第116図 南池北4B・北4C区、4・6区出土石製品

南池竪穴住居9の下層の石製品を第121図に示した。S51は磨製石包丁の未製品と思われる。S54は石鍬と考えられ、両側縁の窪んだ部分は敲打で成形されている。B1は完形品の管玉である。

第122図には各調査区から出土の土製品を掲載した。C4～C8が紡錘車、残りは土錘である。出土地点はC4・C8・C9・C10が南池北2A区、C7が南池北4C区、C5が南池C区、C6が南池C’

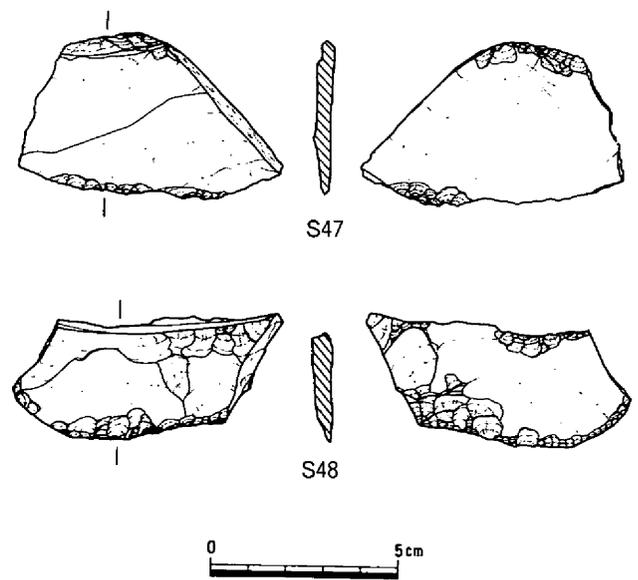


第117図 C区・C’区など出土石製品

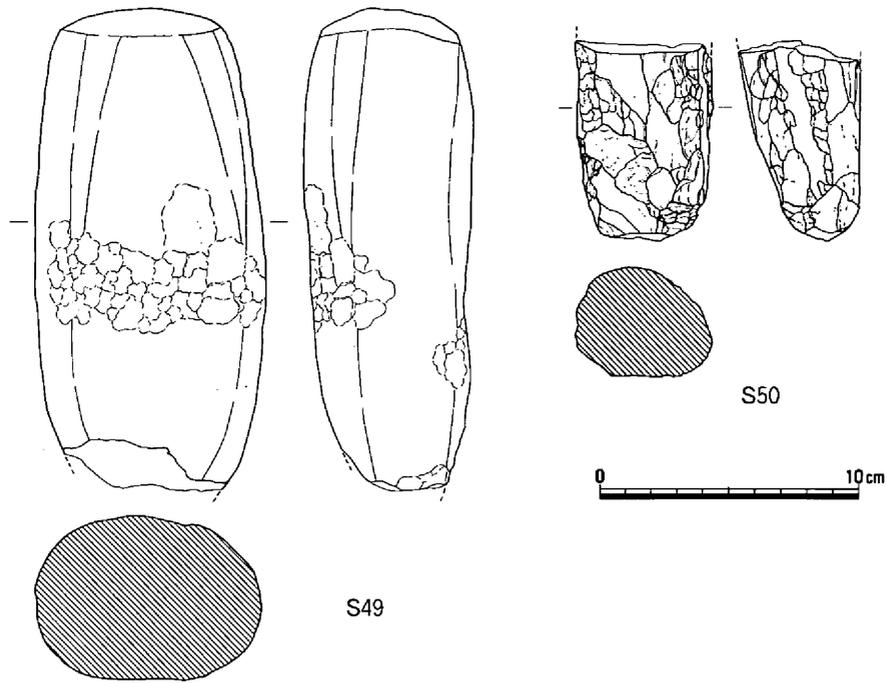


第118図 南池6 トレンチ出土石製品

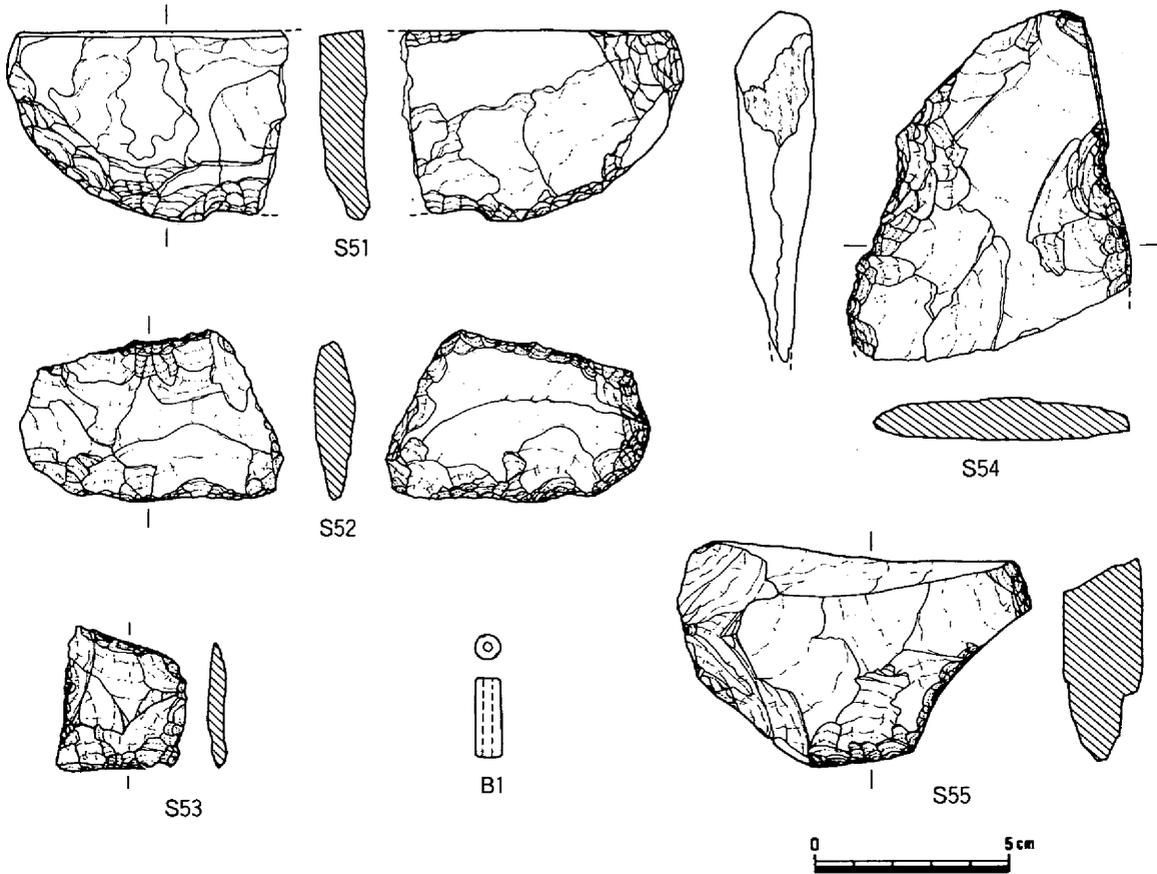
区、C13～C15が南池2区、C18が南池H区、C11・C12・C16・C17が南池J区である。C8・C10は『岡山市史』に掲載された遺物である。C7は土器片転用の紡錘車である。



第119図 南池8 トレンチ出土石製品



第120図 南池J区出土石製品



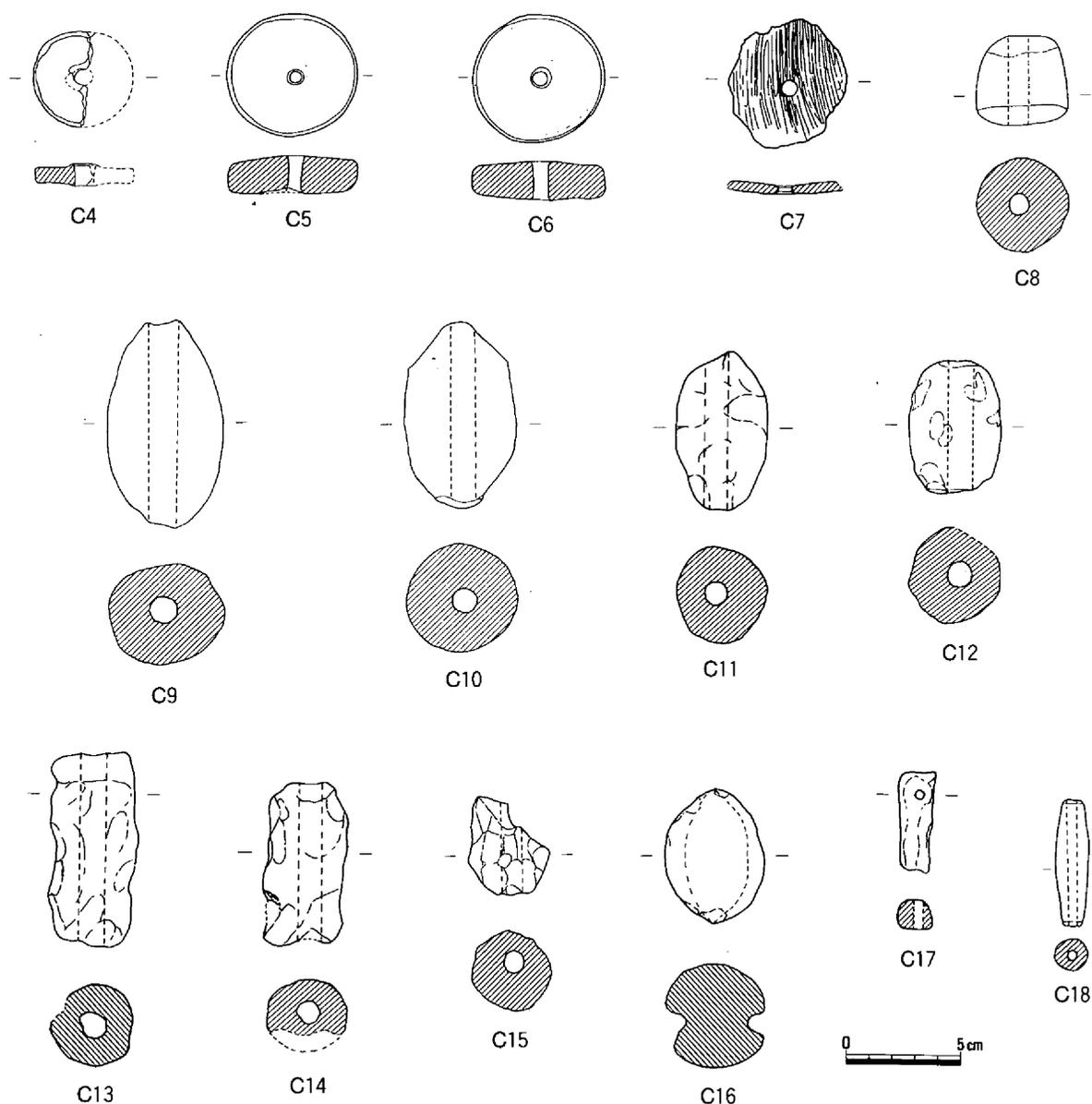
第121図 竪穴住居9の下層出土石製品

第4節 包含層出土遺物

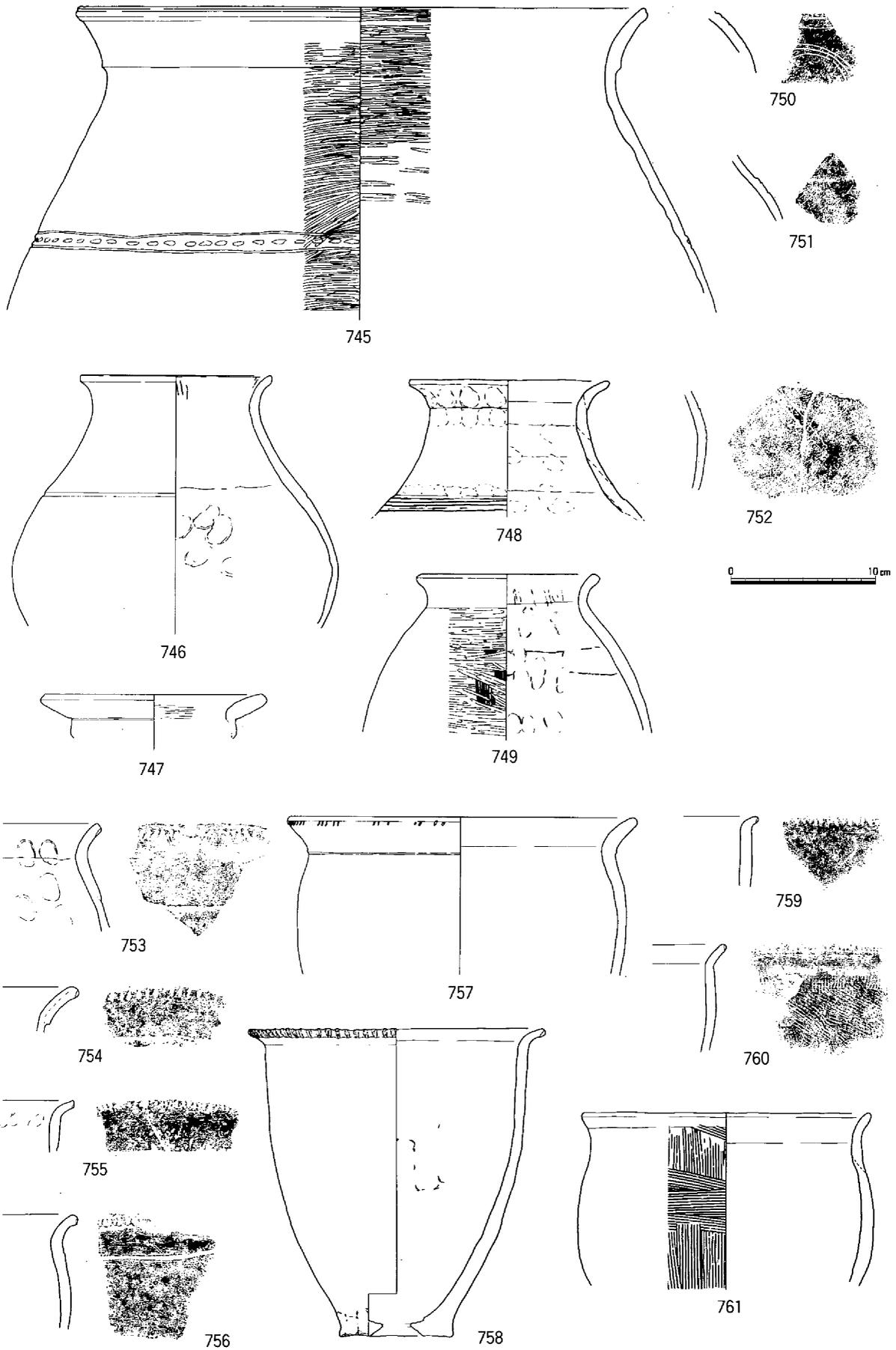
第123図から第130図までは包含層出土遺物である。遺物に注記が存在しないもの、注記は存在するが出土位置が不明なものをここで扱っている。

第123図には弥生時代前期の土器を集めた。745～752は壺である。745の壺は、肩部に沈線を2条施しその間を刺突する。746は口縁部内面に沈線3条が縦に入る。749は他と形態が異なる壺で、焼成も良好である。胎土は761に似る。750は重弧文、751・752は斜格子文が見られる。753～761は甕である。完形まで復元できたのは758しか存在しない。749・761は瀬戸内考古学研究所収蔵資料で、包含層出土遺物ではあるが弥生時代前期の可能性が高いとしてここに載せている。

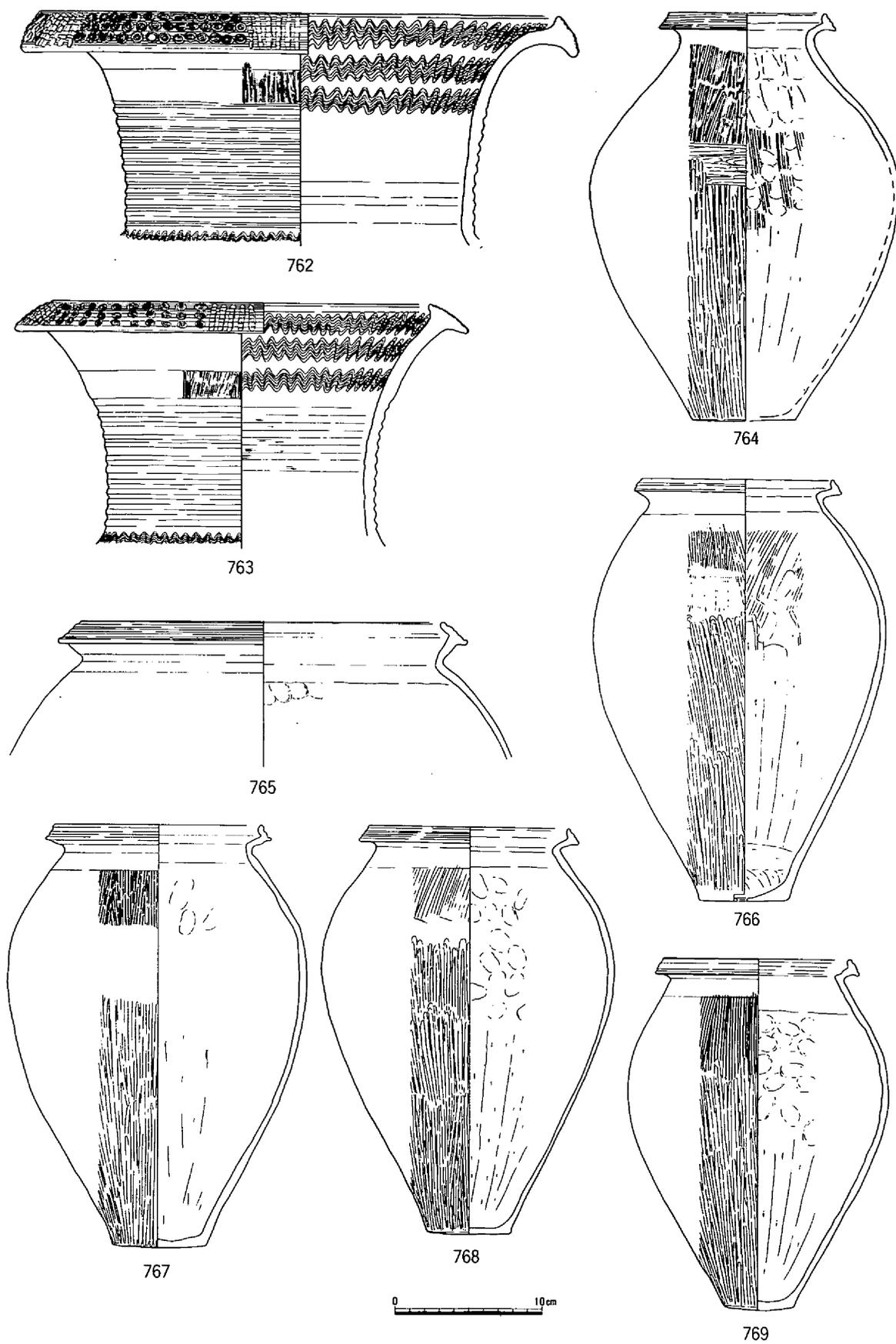
第124・125図には弥生時代中期の土器を載せている。ここに掲載した773・774以外の遺物は瀬戸内考古学研究所保管資料で、包含層出土遺物としているがおそらく南池北2区付近出土の可能性が高い



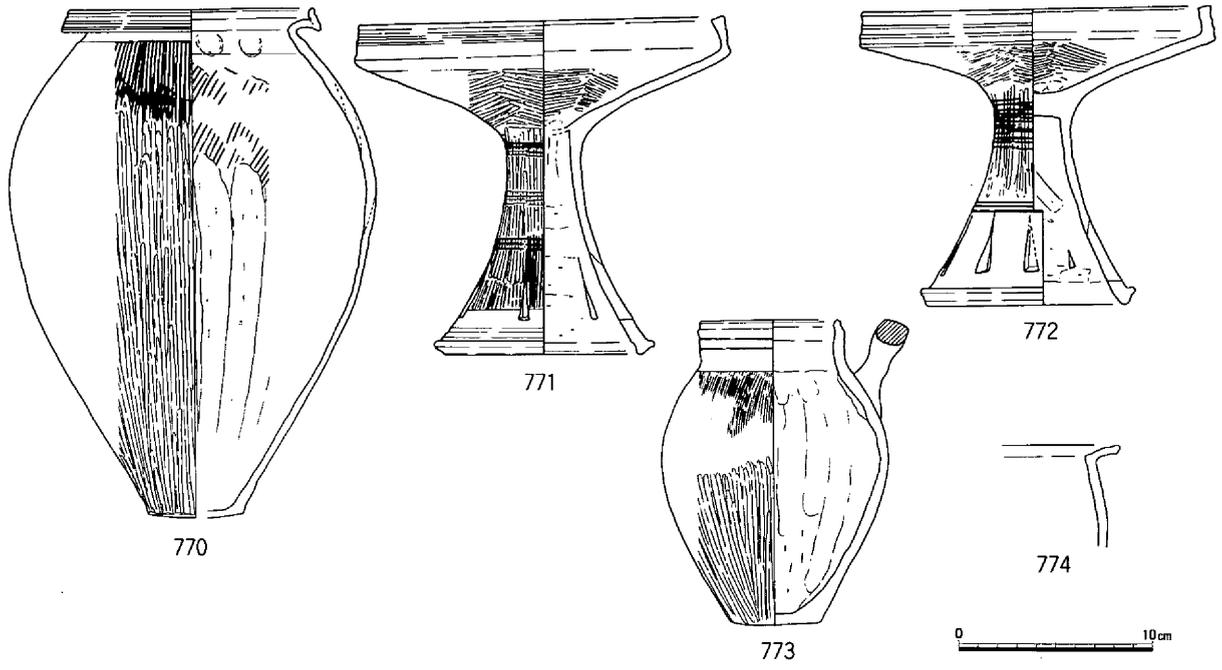
第122図 調査区出土土製品



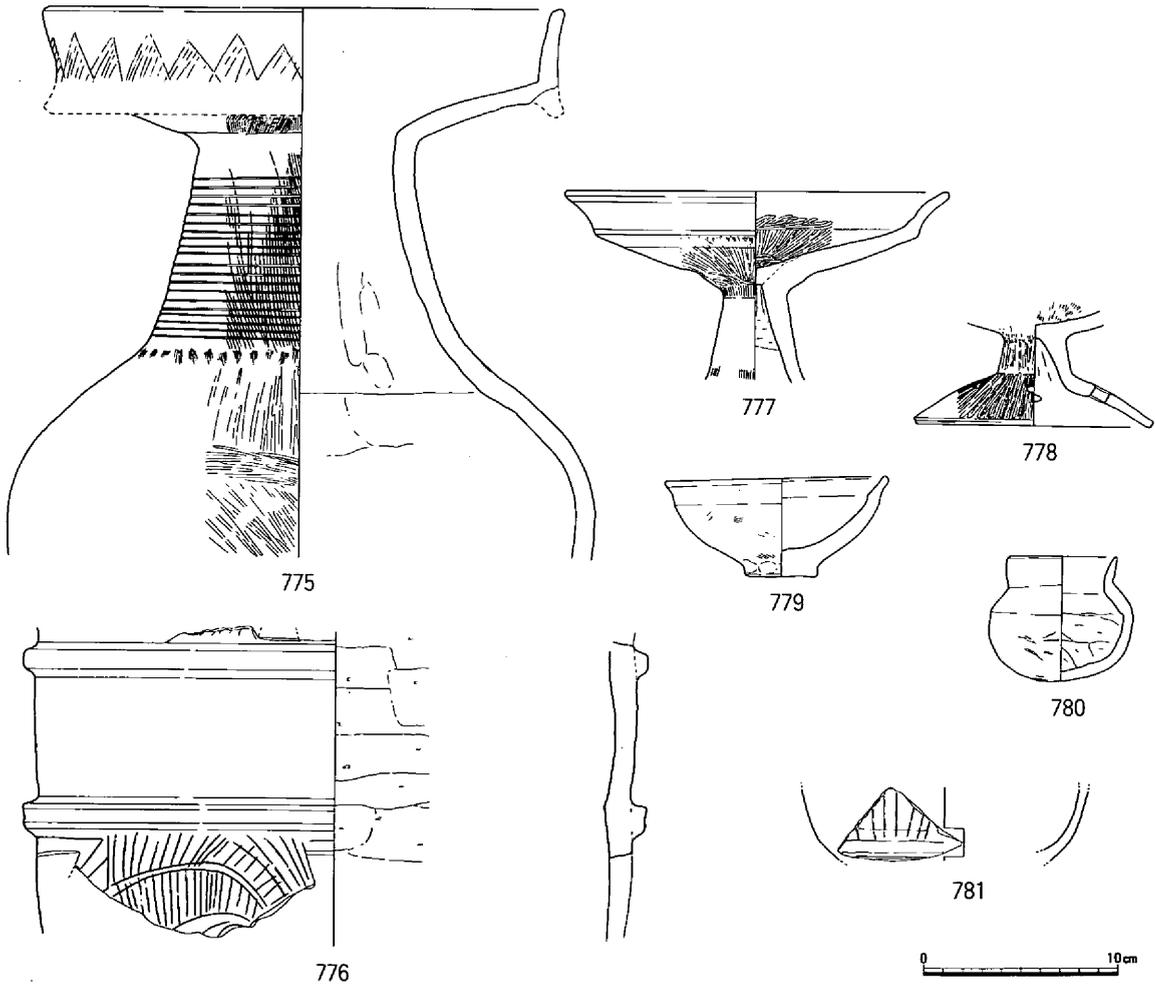
第123図 包含層出土遺物1 (弥生時代前期)



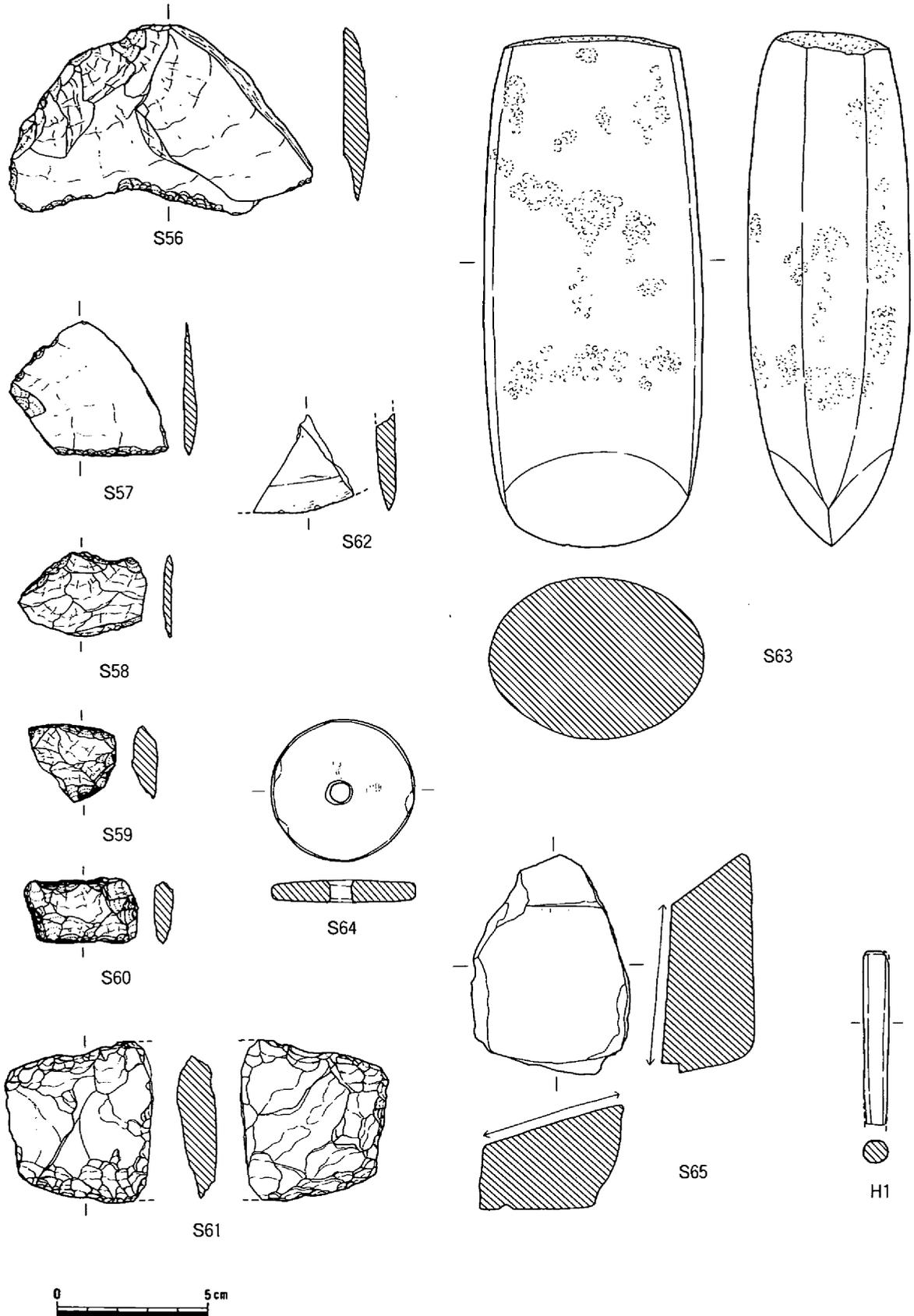
第124図 包含層出土遺物 2 〈弥生時代中期〉



第125図 包含層出土遺物 3 〈弥生時代中期〉



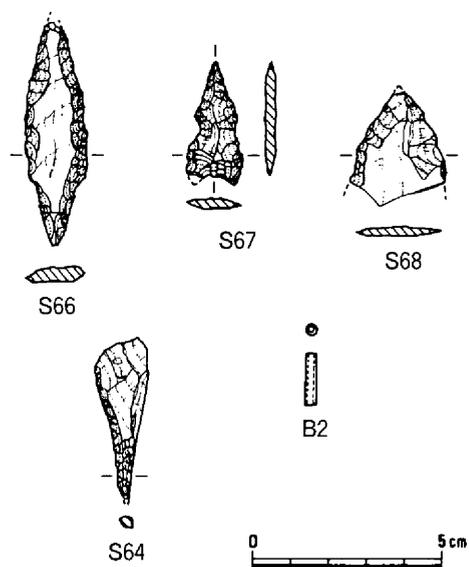
第126図 包含層出土遺物 4 〈弥生時代後期以降〉



第127図 包含層出土石製品1・骨角製品

と考えられる。766～772はいずれも完形近くまで復元できた土器である。

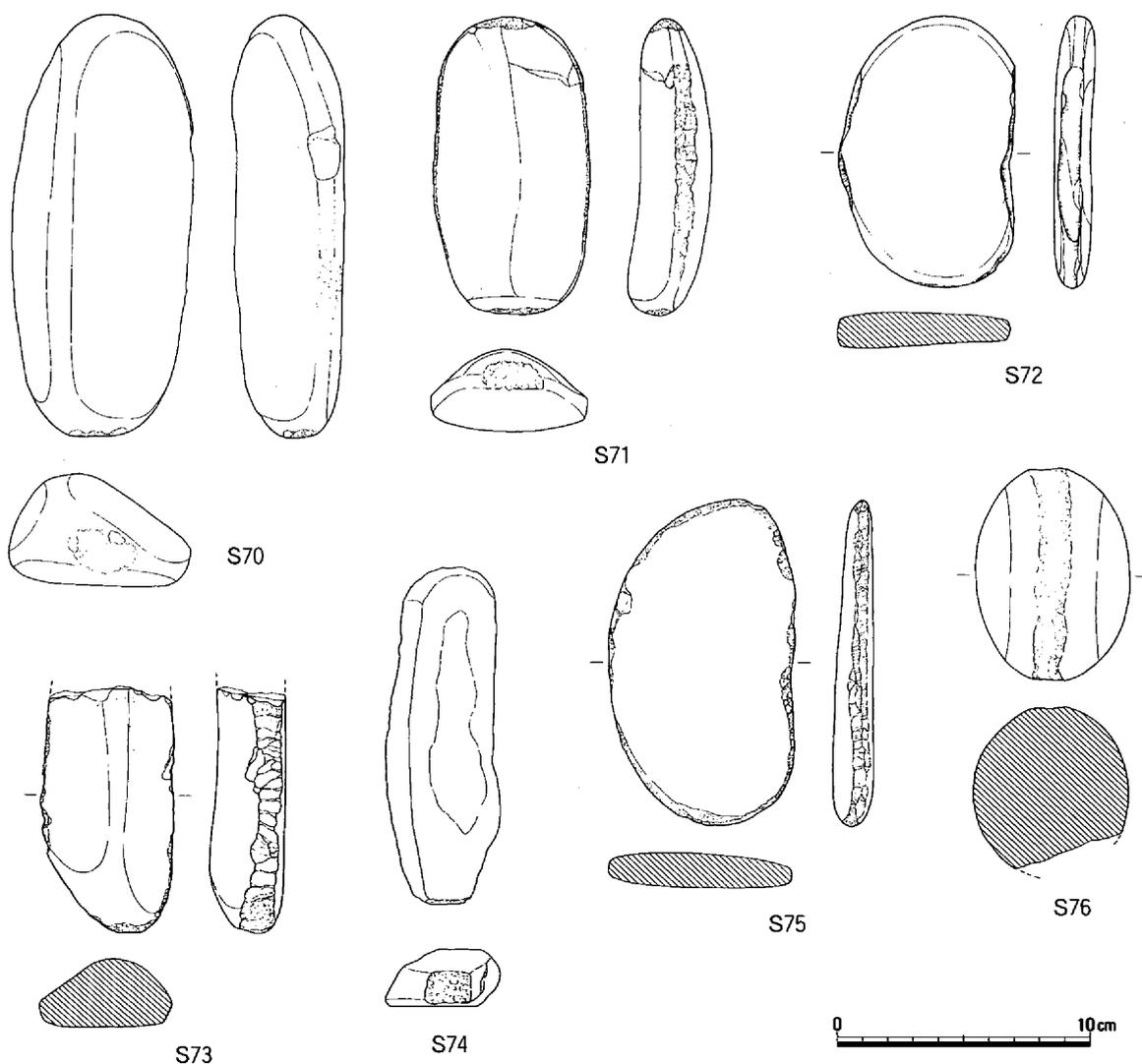
762・763・764は壺で、762と763とは同一個体と思えるほど似た装飾が施されている。765～770・



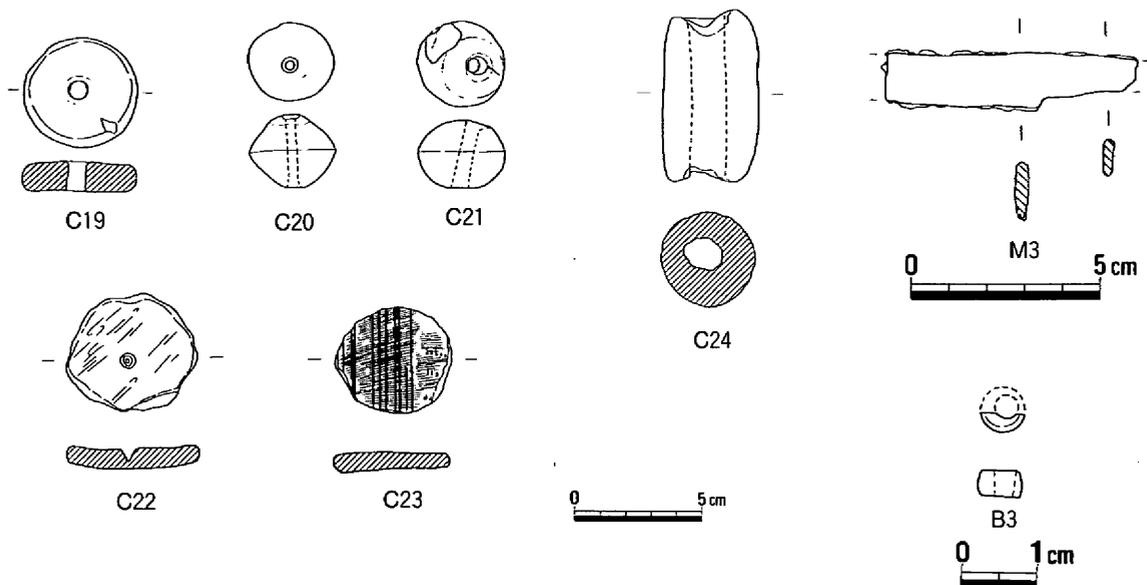
第128図 包含層出土石製品2

774は甕で、766は底部を穿孔する。771・772は高杯、773はほぼ完形の取手付き壺である。774が弥・中・Ⅱに相当する以外は弥・中・Ⅲと考えられる。

第126図は弥生時代後期以降の遺物を載せている。775～779は弥生時代後期の土器である。775は口縁部分が岡山大学考古学資料館に展示されていたが、包含層の頸部～胴部と接合したものである。776も岡山大学保管遺物で、津島遺跡出土とされる特殊器台形土器（註1）である。間帯と文様帯の一部が残り、文様帯は三角形の透かし孔が3つ観察できる。透かしの内、巴形は残存しているかどうか判断できなかった。780は表採だが古墳時代の土師器と思われる。781も表採で青磁の碗である。



第129図 包含層出土石製品3

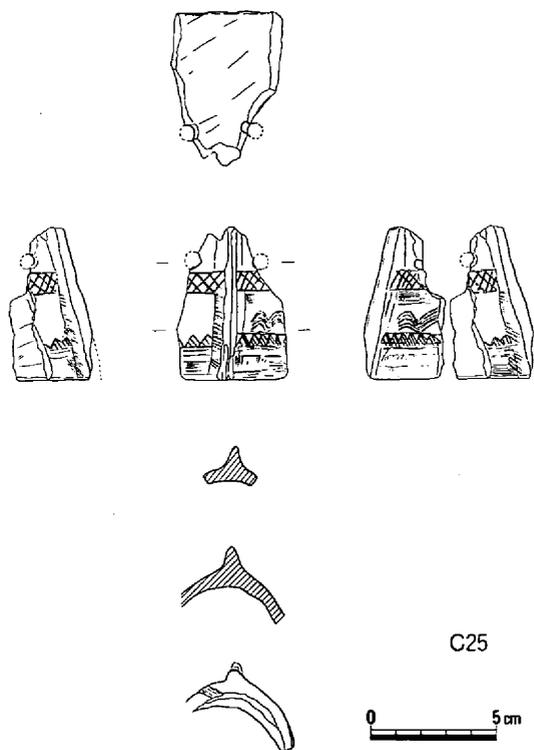


第130図 包含層出土土製品・鉄器・玉類

第127～129図は包含層出土の石製品と骨角器である。S56はスクレイパーで図示した裏側が摩滅している。S59・S60は楔形石器、S61は磨製石包丁の未製品である。S62は表採の磨製石包丁片である。S63の石斧、S64の石製紡錘車は岡山大学考古学資料館に展示されていたものである。第128図のS66・S67・S69は『岡山市史』に写真が掲載されている。S70～S75は敲石・播り石、S76は石錘である。

第130図は包含層出土土製品と鉄器などを掲載した。C19～C21は紡錘車、C22・C23は紡錘車の未製品と思われる。M3は先端と基部を欠損する刀子、B3は色調が青色を呈するガラス小玉である。

第131図は銅鐸形土製品（註2）である。半分以上が欠損すると思われるが、鱗の表現や文様が写実的なことが特徴といえよう。表面には2つの丸い穿孔と斜格子文の横帯、下辺に鋸歯文の横帯、側面に一部斜線が施される文様帯が表現されている。また、区画内に波状文が観察できる部分が存在する。鱗には文様は見られず、工具ナデと指ナデで調整される。



第131図 銅鐸形土製品

註

(註1) 宇垣匡雅・古市秀治・乗岡 実「集成2 特殊器台・特殊壺」『吉備の考古学的研究』上 1992年

(註2) 中野倫太郎「集成3 銅鐸・銅劍・銅戈・銅鉞」『吉備の考古学的研究』上 1992年

第5章 まとめ

北池地点はほぼ全体、南池地点は中央と東側を池の掘削による攪乱で失い、両地点とも残存が良好とは言えない状態であった。調査は岡山県内の考古学研究者が休日等の時間を割き、手弁当で献身的に実施されたものであった。このような条件のもと、弥生時代前期と中期の微高地、弥生時代後期から古墳時代の竪穴住居や土壌が検出されるなど、調査例の少なかった瀬戸内地域の集落の実体を明らかにする成果を上げたことは高く評価される。

ここでは当時の調査状況をふまえ、時代順に説明を加える。

縄文時代の遺物は、後期と考えられる遺物がわずかであるが南池6トレンチで確認されている。晩期の土器としてあげられる突帯文土器は、南池地点のスポーツの塔北東側にある南池北2A区、南池J区、竪穴住居9の下層、南池6・7トレンチで見られる。これらの出土層位については、西尾満雄氏(註1)の「縄文晩期の土器はしばしば弥生前期包含層の中から発見された。」と、『日本考古学協会昭和37年度大会』研究発表要旨(註2)の「弥生文化前期の生活拠点となった微高地では、前期の包含層下の粘土層中に微量の縄文晩期の遺物を出土する。」という2通りの記載が認められる。

弥生時代前期は、南池地点で微高地と低位部が確認されている。

弥生時代前期の土器の出土状態を見ると、南池北2A区、南池J区、竪穴住居9の下層が最も多く出土している。続いて南池北2区に想定される6・7トレンチが多く、さらに南池北2B・北2D区・北3B区、C区・C'区、第4カットで少量が見られる。出土量と調査区の位置からその分布を見ると、南池中央のスポーツの塔北東側に接した調査区を中心とした部分が最も濃い分布を示し、その北・東・南へ向かうほど薄くなる傾向にあると思われる。

また、当時の調査担当者によると、スポーツの塔から東へ向かって南池北2A区、竪穴住居9の下層が微高地であり、南池北3A区、北3B区、北3C区、第4カットは微高地から下がる包含層ということであった(註3)。

さらに、第2次調査時の資料によると、南池北3A区から北3B区、北3C区、北5A区にかけて前期の包含層の範囲が点線で描かれている。この範囲はほぼ南北方向の楕円形で示され、自然堤防をなしているごとくである、という注記がなされている(註4)。北5A区の土層断面では東側へ下がる線が表現されていて、この線が自然堤防の下がっていく部分を表しているものとも思われる。

このような遺物の出土状態と当時の調査見解から、弥生時代前期の微高地は少なくとも竪穴住居9の下層、北2A区を含んでいるものと思われるが、北3A区、北3B区、北3C区、北5A区については低位部の包含層(註3)と自然堤防上の包含層(註4)という2つの見方が存在している。

微高地以外にも、低位部の包含層も検出されている。南池地点出土の弥生時代前期遺物を紹介した藤田憲司氏の報告(註5)によると、掲載した遺物は「スポーツの塔に東接する南池内の弥生前期微高地に接した東北部にあたり、微高地から降下した弥生前期の湿地部分の出土資料」ということであった。また、層位については「上部に弥生末期～初期土師器を含む褐色土層が1m程堆積し、その下部に弥生中期の遺物を一部に含む青色砂質粘土層が30cm程認められ、さらにその下部の灰黒色粘土層約20cmが、主に弥生前期の包含層」と記されている。調査区の位置は具体的に述べられていない

が、位置と土層断面から第3次調査のL～N区付近を指している可能性がある。また、第3次調査の南池J区は第2次調査の北5A区の東に位置し、多くの弥生時代前期の遺物が検出されている。当時の調査担当者のお話によると、南池J区で弥生時代前期の土器が多く検出された黒色粘土層は微高地ではなく水性堆積の包含層であったということである(註3)。藤田憲司氏の報告と南池J区の状況から、微高地の東側にも大量の土器を含む包含層が広がっていたものと思われる。

弥生時代中期は、微高地と水路、河道が存在した。南池北2A・北2B区上層の北端からは北へ下がる落ち込みが検出され、さらに北2A区から第4カットへ向かう緩やかな下がりが存在し、それぞれから土器が出土したといわれている(註3)。また、第3次調査の断面図では、南池N区からS区にかけて河道が確認されている。このことから、弥生時代中期の微高地は北2A区より南に存在し、弥生時代前期同様東西に細長い形状である可能性が高いと言えよう。

また、第2次調査時の資料によると、第4カットから北3C区を経由して北2A区へ至る水路が描かれている(註4)。第4カット断面G-H、H-I、I-Jラインに見られる第4層下面の下がりがこの水路に当たるものと思われる。

弥生時代中期の遺物は、南池8トレンチと南池北4C区、北6区、J区で出土している。当時の調査見解によると、北2B区の上層が8トレンチの可能性があるとということ(註3)で、8トレンチ出土土器は北2B区の落ち込み出土遺物に相当すると思われる。

弥生時代後期になると、北池地点ではA～C区、O～Q区とN区で遺構が確認されたことから、池の北側を中心として微高地が存在するものと思われる。D区より南、N区より東では遺構は見られないが、地形はおそらく徐々に南東方向へ下がっていく可能性が高い。

南池地点では南東側の2区、13区、D区で竪穴住居や土壇が存在し、第3カットや竪穴住居9など中央西側へも竪穴住居が検出された。一方、N区からS区にかけての河道は埋没しているが遺構は認められない。西側の調査区では、3区から7区で明らかな遺構は4区の土器棺1で、そこより西では遺物の出土は見られるが遺構は確認されていない。東側は池の掘削が深く、池の東端まで削られていたので遺構の広がりとは不明である。南側は、B・C区北壁断面とC'～E区西壁断面から南へ下がりが想定されるため、微高地はこれらの調査区の北までと想定される。

古墳時代は、北池地点で井戸1が確認され、Q区などで遺物が散見される。南池地点では竪穴住居11が検出されたほか、2・10・17・E区で遺物が確認された。遺構の数が少ないが、竪穴住居11の残存状況から池の掘削によって古墳時代以降の遺構が削平された可能性が高い。このことから、両地点とも弥生時代後期とあまり変化のない範囲で集落が存在したものと思われる。

古代以降としては、北池のH区溝1が見られる程度であるが、南池北2A区や南池J区で遺物が存在することがあげられる。池の掘削により確認されなかった部分も多かったと思われる。

註

(註1) 西尾満雄「岡山市津島運動公園遺跡の発掘」『考古学研究』8-1(第29号)1961年6月

(註2) 鎌木義昌・近藤義郎・西川 宏・間壁忠彦・岡本明郎・高橋 護「7. 津島総合グラウンド遺跡の調査報告」『日本考古学協会昭和37年度大会研究発表要旨』日本考古学協会 1962年10月

(註3) 当時の調査参加者であった高橋 護氏のご教示による。

(註4) 当時の調査参加者であった春成秀爾氏のご教示と提供された資料による。

(註5) 藤田憲司「中部瀬戸内の弥生前期土器の様相」『倉敷考古館研究集報』17 1982年11月

付 載 武道館建設当初予定地と 北池・南池地点出土土器の胎土分析

岡山理科大学 白石 純

分析の目的

津島遺跡の武道館建設当初予定地⁽¹⁾の弥生時代前期の舟形土壙より、いわゆる「松菊里型土器」が出土している。そこで、この土器が同じ遺跡内出土の壺、甕、深鉢（突帯文）などと比較し、胎土に差異があるかどうか調べた。比較した土器は武道館建設当初予定地の舟形土壙および南池地点の竪穴住居9の下層、北2A区、J区より出土した土器である。

胎土分析は、複数の分析方法（蛍光X線分析法、実体顕微鏡観察法）を用いた。これは、複数の分析結果を相互に解析、比較することにより、胎土の特徴、生産地をより明確にできると考えられるからである。

蛍光X線分析法は、胎土中の成分量（元素の量）を測定する方法で、成分量の違いから胎土の差異を検討し、また実体顕微鏡による胎土観察は、胎土に含まれている砂粒の種類、量を調べる方法である。

分析結果

分析に供した試料は、第1表に示した29点の土器である。器種などの内訳は、松菊里型土器2点、深鉢（突帯文）3点、その他の壺・甕24点である。また、比較試料として津島遺跡の弥生時代前期水田の下層より採取した粘土を併せて分析した。

【蛍光X線分析法による結果】

この分析では、13の元素を測定し、このうちK（カリウム）、Ca（カルシウム）、Rb（ルビジウム）、Sr（ストロンチウム）の4元素に顕著な差がみられることから、これらの元素より胎土の比較を実施した。比較は、XY散布図を作成し検討した。

第1図（K-Ca）の散布図より壺、甕類の胎土が大きく二つに分類が可能である。一つはCa量が1.5%以上に分布するもの（A領域）と、Ca量が1.5%以下のもの（B領域）である。前者のA領域には2、7、9、11、27の土器が、後者のB領域には1、5、6、12、13、14、15、16、17、18、19、20、23、24、25、26の土器がそれぞれ分布している。そして「松菊里型土器」は、B領域の壺・甕（竪穴住居9の下層、北2A区、J区出土）の分布集中範囲の領域に分布した。この分布域には、前期水田下層採取の粘土も分布した。また突帯文の深鉢4、21、28の3点は、いずれも単独で分布した。第2図（Rb-Sr）の散布図でも同じ結果が得られた。

【実体顕微鏡観察による結果】

第1表に示したように、胎土に含まれる岩石、鉱物の種類・含有量を調べた。この結果より胎土中の砂粒から大きく四つに分類された。

I類：粒径3mm以下の石英、長石および1mm以下の角閃石を多量に含むもの。

II類：粒径3mm以下の石英、長石を多く含み、1mm以下の角閃石を少量か希に含むもの。

また素地に火山ガラスを含んでいる。量的には多いものから少ないものまでである。

III類：粒径3mm以下の石英、長石を多く含み、少量の雲母を含むもの。

IV類：粒径3mm以下の石英、長石を含み、少量の結晶片岩を含むもの。

まとめ

今回の蛍光X線分析と実体顕微鏡観察による両者の分析結果を踏まえて、総合的に検討しまとめとする。

蛍光X線分析でCa量が多いA領域には、砂粒観察で角閃石の量が多いI類のものが、B領域にはII類の土器がそれぞれ分布した。また、深鉢の突帯文が、蛍光X線分析ではやや特異な分布をしていたが、実体顕微鏡観察でも4、21がIII類に28はIV類に分類された。特に、28の突帯文には砂粒中に結晶片岩が含まれていることから他地域からの搬入品と推測される。

今回の主目的である「松菊里型土器」とその他の土器との比較では、まず遺跡内出土の壺や甕類がAとBの二つの領域にわかれ、遺跡内には複数の胎土の土器があることがわかった。そして、松菊里型土器は遺跡内出土土器のB領域に入り、津島遺跡周辺で採取した粘土と同じ胎土でもあった。この結果より、松菊里型土器は遺跡周辺の粘土を使用し制作されたことが十分に想定される。また突帯文土器は、少ない試料からの分析結果からではあるが、複数の胎土に分類され、他地域から持ち込まれた土器であると考えられる。試料の蓄積を行い再検討する必要がある。

この分析の機会を与えていただいた岡山県古代吉備文化財センターの職員の方々には、いろいろお世話になった。末筆ではありますが記して感謝いたします。

註

(1) 正岡睦夫・高畑知功・平井 勝「津島遺跡2－武道館建設当初予定地の発掘調査－」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告151 岡山県教育委員会 2000.

第1表 武道館当初建設予定地、南池地点出土土器胎土分析結果

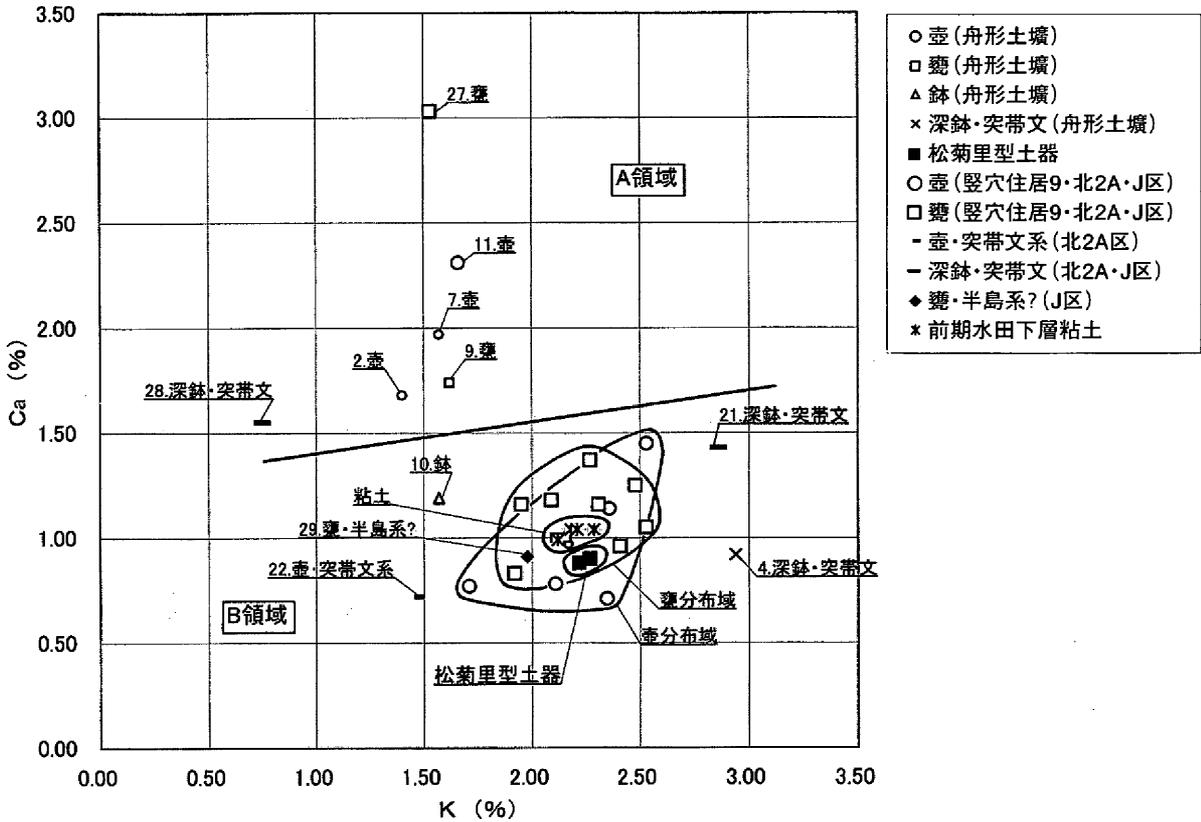
番号	掲載番号	遺構名	器種	単位%、ただしRb・Sr・Zrはppm																	
				Sr	Ti	Al	Fe	Mn	Mg	Ca	Na	K	P	Rb	Sr	Zr	石英	長石	雲母	角閃石	結晶片岩
1	253	舟形土塚4	壺	68.93	0.74	15.63	5.94	0.05	1.51	0.97	2.39	2.17	1.51	174	164	389	◎	○		×	
2	261	舟形土塚4	壺	66.92	0.73	17.98	6.02	0.07	1.8	1.68	3.17	1.4	0.08	133	309	208	◎	○		◎	
3	263	舟形土塚4	松菊里型土器	72.31	0.74	15.16	3.87	0.03	1.51	0.90	2.43	2.27	0.54	142	161	423	◎	○		×	△
4	287	舟形土塚4	深鉢・突帯文	69.77	0.65	17.02	3.73	0.04	1.52	0.92	2.45	2.94	0.63	206	118	559	◎	○	△		△
5	291	舟形土塚4	甕	70.10	0.71	15.60	5.78	0.06	1.54	1.00	2.16	2.11	0.73	162	186	363	◎	○		×	○
6	306	舟形土塚4	甕	70.81	0.85	16.00	5.06	0.07	1.59	1.00	1.85	2.16	0.47	172	125	392	◎	○		△	△
7	317	舟形土塚5	壺	65.33	0.71	21.21	2.96	0.05	1.69	1.97	2.88	1.57	1.43	120	337	173	◎	○		◎	△
8	323	舟形土塚5	松菊里型土器	72.30	0.62	16.47	1.95	0.02	1.48	0.88	2.56	2.22	1.36	147	127	242	◎	○			
9	327	舟形土塚5	甕	65.53	0.77	20.77	3.06	0.04	1.75	1.74	2.92	1.62	1.64	159	291	207	◎	○		○	△
10	336	舟形土塚5	鉢	69.81	0.89	16.34	4.79	0.04	1.58	1.19	2.18	1.57	1.42	116	176	269	◎	○		△	
11	393	竪穴住居9の下層	壺	65.38	0.70	20.17	3.48	0.09	1.77	2.31	2.74	1.66	1.49	185	427	246	◎	○	×	◎	△
12	414	竪穴住居9の下層	壺	67.41	0.6	19.18	2.78	0.04	1.53	1.14	2.31	2.36	2.36	222	196	264	◎	○	×		◎
13	437	竪穴住居9の下層	甕	71.63	0.63	12.95	5.12	0.07	1.55	1.37	2.61	2.27	1.54	178	248	322	◎	○		△	△
14	432	竪穴住居9の下層	甕	67.81	0.56	17.34	4.63	0.07	1.59	1.16	2.49	2.31	1.66	205	222	241	◎	○			○
15	438	竪穴住居9の下層	甕	68.58	0.64	18.39	3.74	0.03	1.50	1.05	2.21	2.53	1.13	214	148	263	◎	○			◎
16	183	北2A区	壺	65.78	0.52	18.15	3.22	0.08	1.50	1.45	2.31	2.53	3.89	194	297	263	◎	○		△	○
17	237	北2A区	壺	69.36	0.68	18.01	4.51	0.05	1.59	0.78	2.59	2.11	0.15	180	100	325	◎	○		×	△
18	245	北2A区	甕	63.06	0.75	16.32	6.49	0.09	1.54	1.25	2.55	2.48	3.16	239	258	311	◎	○			◎
19	252	北2A区	甕	68.62	0.85	14.39	6.34	0.08	1.60	0.96	2.19	2.41	2.04	188	165	376	◎	○		×	△
20	230	北2A区	甕	66.34	0.76	17.91	6.19	0.09	1.58	1.18	2.27	2.09	1.24	147	212	265	◎	○		△	○
21	221	北2A区	深鉢・突帯文	65.08	0.45	18.14	5.06	0.08	1.51	1.43	2.71	2.86	2.26	207	209	408	◎	○			
22	275	北2A区	壺・突帯文系	76.19	0.65	13.15	2.09	0.04	1.46	0.72	2.18	1.46	1.64	91	124	291	◎	○			○
23	333	J区	壺	71.72	0.69	14.85	5.47	0.06	1.44	0.77	1.65	1.71	1.42	128	122	260	◎	○			△
24	336	J区	壺	72.83	0.61	15.35	3.04	0.05	1.39	0.71	1.87	2.35	1.31	130	124	250	◎	○			○
25	実測番号C-233	J区	甕	73.94	0.64	14.95	2.98	0.04	1.50	0.83	2.02	1.92	1.01	119	124	249	◎	○			○
26	300	J区	甕	65.47	0.73	21.44	4.14	0.06	1.69	1.16	2.32	1.95	0.92	200	150	216	◎	○			◎
27	338	J区	壺	65.39	0.66	19.75	4.88	0.06	1.86	3.03	2.51	1.53	0.10	100	534	206	◎	○			
28	392	J区	深鉢・突帯文	64.11	1.37	19.96	5.95	0.10	1.67	1.55	2.54	0.75	1.68	80	234	296	◎	△			○
29	343	J区	壺・半島系?	71.17	0.62	16.19	3.43	0.06	1.51	0.91	2.69	1.98	1.21	148	154	283	◎	○		×	○
30		前期水田下層	粘土	62.38	1.08	19.76	6.06	0.11	2.06	1.04	2.99	2.18	0.1	164	148	230					
31		前期水田下層	粘土・砂(1:1)	67.96	0.78	17.14	6.00	0.09	1.89	0.99	2.75	2.12	0.1	149	124	200					
32		前期水田下層	粘土・砂(3:2)	69.57	0.73	15.69	5.04	0.08	1.88	1.04	3.42	2.21	0.17	141	144	163					
33		前期水田下層	粘土・砂(2:1)	65.18	0.95	18.46	6.79	0.10	2.01	1.04	2.91	2.29	0.13	184	150	231					

※1～10までは武道館建設当初予定地出土、11～29は南池地点出土。

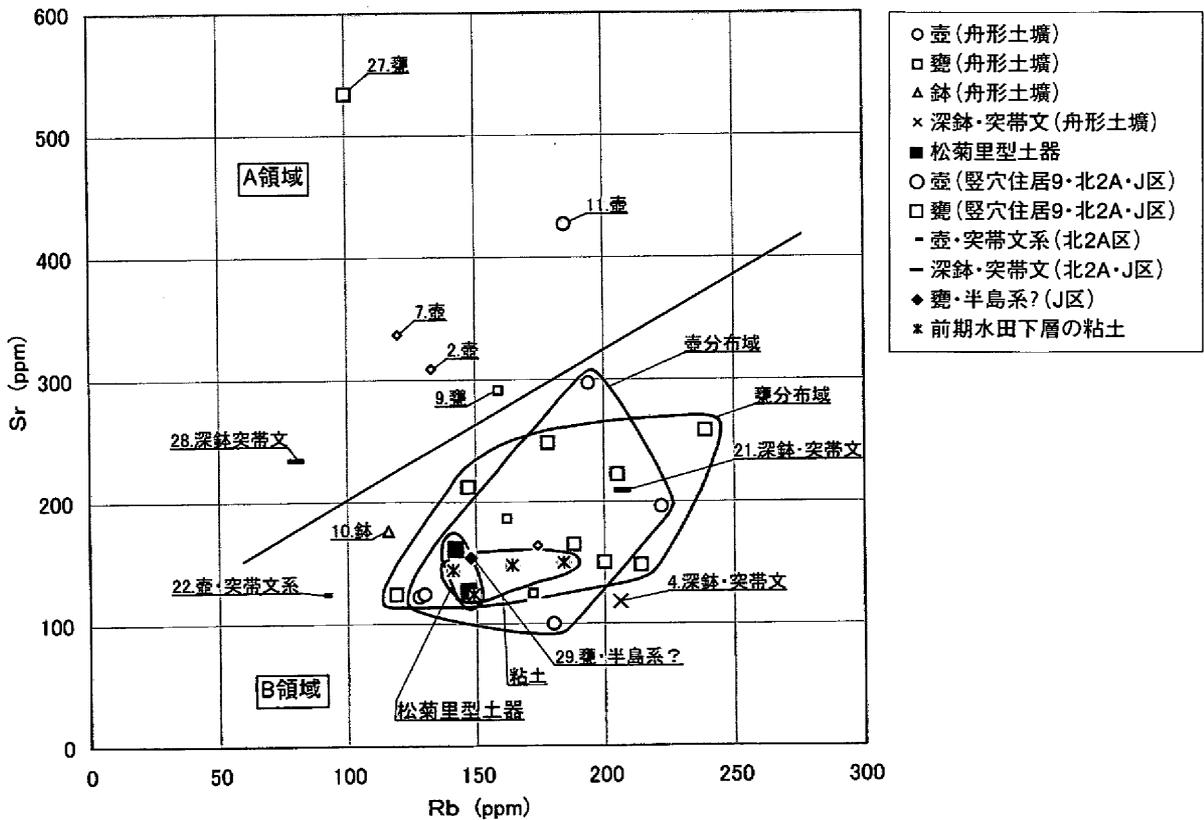
※資料番号25は実測したが掲載できなかった。

◎：多量、○：普通、△：少量、×：希に

第1図 津島遺跡出土土器の胎土分析 (K-Ca散布図)



第2図 津島遺跡出土土器の胎土分析 (Rb-Sr散布図)



観 察 表

表 2 土器観察表

※内外面の調整は省略した部分がある。 ※備考の「」は土器に記された注記。 ※器種の「壺」は壺形土器の略、甕・高杯・鉢も同様。

掲載 番号	調査区	遺構・ 層位名	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調	備 考
1	北池B区	土壇1	弥生	壺	18.7	38.9	9.8	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、頸部ヘラミガキ	にぶい橙 5YR7/4	「U小B P括」
2	北池B区	土壇1	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、肩部タテハケメ	口縁部ヨコナデ、肩部ヘラケズリ	にぶい橙 7.5YR7/4	
3	北池B区	土壇1	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、肩部ハケメ	口縁部ヨコナデ、肩部ヘラケズリ	にぶい黄橙 10YR7/3	
4	北池A区	土壇2	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、ナデ?	口縁部ヨコナデ	橙7.5YR6/6	
5	北池O区	土壇3	弥生	甕	13.0			頸部タテハケ後ナデ	口縁部ヨコナデ、ケズリ	黄褐10YR6/2	「U小-7P」
6	北池O区	土壇3	弥生	甕			3.4	底部タタキ	板状工具痕	にぶい橙 7.5YR6/4	
7	北池O区	土壇4	弥生	甕	17.8			口縁部工具ナデ、肩部ハケメ後ヨコナデ	口縁部工具によるナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	
8	北池O区	土壇4	弥生	台付鉢			12.2	胴部ケズリ後工具ナデ、一部ヘラミガキ、底部ナデ	胴部ケズリ、ナデ	にぶい橙 7.5YR7/3	「U小-P土-1」「U小O-P10」外面黒斑
9	北池C区	井戸1	土師器	甕				口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部ナデ	口縁部工具ヨコナデ、胴部ケズリ	橙7.5YR7/6	「U小C-P5」
10	北池C区	井戸1	土師器	甕				口縁部ヨコナデ、ハケメ	口縁部ヨコナデ、ナデ	橙7.5YR7/6	
11	北池C区	井戸1	土師器	鉢	8.6	9.9	2.0	口縁部ハケメ後ヨコナデ、穿孔1つ	胴部工具ナデ	橙5YR7/8	外面黒
12	北池C区	井戸1	土師器	鉢	6.5			口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ユビオサエ	橙7.5YR7/6	
13	北池H区	溝1	土師器	碗			6.3	底部ナデか?	剥落して調整不明	にぶい黄橙 10YR6/3	「U小H-1」
14	北池	第11pit	弥生	壺				口縁部ヨコナデ、沈線4条	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ	にぶい橙 7.5YR7/4	
15	北池	第11pit	弥生	高杯				脚柱部ハケメ後ヨコヘラミガキ、脚裾部タテヘラミガキ、穿孔2つ残	脚部剥落して調整不明	橙7.5YR7/6	
16	北池	3 pit	弥生	鉢	9.0	6.2		指頭形整、ナデ、タタキ痕	指頭形整、剥離で不明瞭	にぶい橙 7.5YR6/4	黒斑
17	北池B区	pit一括	弥生	甕	15.4	18.5	5.6	口縁部ヨコナデ、底面ハケメ	口縁部ヨコナデ、ナデ	にぶい橙 5YR6/4	「U小Bpit内」胴外黒、黒斑
18	北池	pit	弥生	高杯			22.6	沈線8条、穿孔4か所	脚裾部ハケメ、剥落	にぶい黄橙 10YR7/4	
19	北池Q区	土器2土器6	弥生	取手付壺			4.8	中央はヨコヘラミガキ、胴部上・下はタテヘラミガキ	胴部上はナデ、下はハケメ後ユビオサエ	橙5YR6/6	「U小Q土6」外面黒斑
20	北池Q区	土器2土器6	弥生	壺	13.9	28.3	8.8	頸部不明、胴部ハケメ後ヘラミガキ	頸部ナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい橙 7.5YR7/3	
21	北池Q区	土器5	弥生	甕?			5.9	ナナメ・タテハケメ(1単位3条組)	ケズリの後ナデ	にぶい黄橙 10YR6/3	「U小-Q土5」外面黒?
22	北池Q区		弥生	鉢	6.8	8.8	4.1	口縁部ヨコナデ、胴部上はナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい橙 7.5YR7/3	「U小Q」外面黒
23	北池Q区	土器4	弥生	鉢	14.8	8.7	4.1	口縁部ヨコナデ、ヨコヘラミガキ	剥落のため不明	黄橙7.5YR7/8	
24	北池Q区	土器1	土師器	甕	18.3	29.6		口縁部ヨコナデ、胴部タタキ後ハケメ	胴部ユビオサエ	にぶい黄橙 10YR7/2	「U小-Q土1」外面黒
25	南池	竪穴住居1	弥生	壺	17.5			頸部指頭押圧、頸部ハケメ後らせん状沈線	口縁部ヨコナデ、頸部指頭による押圧	灰黄2.5Y6/2	
26	南池	竪穴住居1	弥生	甕					不明	にぶい赤褐 5YR5/4	
27	南池	竪穴住居1	弥生	甕				口縁部擬凹線2条、ヨコナデ	剥落のため不明	にぶい黄橙 10YR7/2	
28	南池	竪穴住居1	弥生	甕				口縁部ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	橙7.5YR7/6	
29	南池	竪穴住居1	弥生	高杯				口縁部ナデか?	剥落のため不明	橙5YR7/8	
30	南池	竪穴住居1	土師器	高杯	16.5			口縁部ナデ、ユビオサエ	杯内底部ナデ	浅黄橙 7.5YR8/4	「U-h1黒褐」
31	南池2区	竪穴住居2	弥生	壺	19.7	34.0	6.7	頸部ハケ後沈線、底部ケズリ	頸部ユビオサエ、指でナデアゲ	にぶい橙 5YR7/4	「U-h2-①」
32	南池2区	竪穴住居2	弥生	壺	18.8			頸部タテハケメ後ヨコ沈線	口縁部ヨコヘラミガキか?	橙7.5YR7/6	「U大-2e-」 「U-h2①」 接合
33	南池2区	竪穴住居2	弥生	壺	16.6			頸部タテハケメ後沈線6条、鋸歯3個残	頸部上指頭押圧、下指頭ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	「U-h2-①」
34	南池2区	竪穴住居2	弥生	壺	25.3			口縁部ヨコナデ、頸部ヨコナデ・タテハケメ	口縁部ヨコナデ、沈線2本	橙7.5YR7/6	
35	南池2区	竪穴住居2	弥生	壺	15.0			口縁部ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	橙7.5YR6/6	「U-h2-①」
36	南池2区	竪穴住居2	弥生	壺	18.3			口縁部ヨコナデ、タテハケメ	口縁部剥落して不明	橙7.5YR6/6	「U-h2-①」
37	南池2区	竪穴住居2	弥生	甕	10.9	14.8	4.0	口縁部肩部ナデ、胴部ハケメ後ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラケズリ後ナデ	明褐灰 7.5YR7/2	胴部に黒斑 「U-h2-①」
38	南池2区	竪穴住居2	弥生	高杯	19.2	11.6	12.4	口縁部ヨコナデ	杯内部は荒いたテヘラミガキ	橙2.5YR6/6	「U-h2-①」
39	南池2区	竪穴住居2	弥生	高杯	16.8	8.8	11.5	口縁部~脚部タテヘラミガキ	口縁部タテヘラミガキ	橙5YR6/6	「U-h2-①」 外面黒斑
40	南池2区	竪穴住居2	弥生	高杯	14.6			脚柱部タテヘラミガキ、孔は4か所	杯内部ヘラミガキ、脚柱部ナデ	橙5YR7/6	「U-h2-①」
41	南池2区	竪穴住居2	弥生	高杯	10.9	8.0	19.5	ヘラミガキ、脚裾部の孔4か所	脚内部ヨコハケメ	橙2.5YR6/8	「U-2e-h2」
42	南池2区	竪穴住居2	弥生	脚付直口壺	6.7			口縁部擬凹線、脚部ヘラミガキ、穿孔4つ	口縁部~頸部ヨコナデ	明赤褐 2.5YR5/6	「U-h2-①」
43	南池2区	竪穴住居2	弥生	脚付直口壺	7.5	15.8	12.4	口縁部に沈線、タテヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、タテヘラミガキ	橙5YR6/6	「U-h2-①」
44	南池2区	竪穴住居2	弥生	鉢	20.9	14.9	9.4	口縁部ヨコナデ、底部剥落で不明	ヘラミガキ剥落	浅黄橙 10YR8/4	黒斑 「U-2e-h2-1面」 「U-h2炉面」 「U-2e-2住」

掲載番号	調査区	遺構・層位名	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	色調	備考
45	南池2区	竪穴住居2	弥生	鉢	13.8	12.0	6.0	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ後ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、剥落で不明	橙5YR7/8	「U-h2-①」黒斑
46	南池2区	竪穴住居2	弥生	鉢	16.3	13.6	4.5	胴部ハケメ後ヘラミガキ痕跡	口縁部ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙7.5YR6/3	「U-h2-①」
47	南池2区	竪穴住居2	弥生	鉢	14.7	6.5	4.9	口縁部ヨコナデ、剥落で不明	ハケメ後ヘラミガキ	橙7.5YR7/6	黒斑
48	南池2区	竪穴住居2	弥生	鉢?			2.8	ハケメ後ナデ?	ナデ?、ユビオサエ	にぶい橙7.5YR6/3	「U-2f-h2-1」
49	南池2区	竪穴住居2	弥生	鉢	11.7	6.8		ユビオサエ	ハケメ後中央部ナデアゲ	にぶい橙2.5YR6/4	「U-h2-①」
50	南池2区	竪穴住居2	弥生	甕	13.2	21.0	15.6	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	ヨコナデ、縦ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/2	「U-2f-h2-2面」黒斑
51	南池2区	竪穴住居2	弥生	高杯	17.9	10.2	12.1	口縁部擬凹線2条、脚柱部ヨコヘラミガキ	脚裾部ハケメ痕残る	橙5YR7/6	「U-h2-2面直上」
52	南池2区	竪穴住居2	弥生	高杯	(27.8)		19.1	脚柱部調整不明、脚裾部沈線	脚内部工具ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	「U-2f-h2-2面」
53	南池2区	竪穴住居2	弥生	高杯			16.3	穿孔3か所残	脚柱部絞り痕、脚裾部ハケメ	浅黄橙10YR8/3	「U-h2-2面」
54	南池2区	竪穴住居2	弥生	高杯			8.4	脚裾部に穿孔4つ	脚裾部ハケメ	橙5YR6/6	「U-2f-h2-2面」
55	南池2区	竪穴住居2	弥生	鉢	9.4	4.3	2.9	胴部ヨコヘラミガキ	タテヘラミガキ	にぶい橙5YR7/4	「U-2i-h2-2面」
56	南池2区	竪穴住居2	弥生	器台	15.6			杯部～脚柱部ヘラミガキ、穿孔(5つ)	杯内部ヨコナデ後ヘラミガキ(放射状)	橙2.5YR6/6	「U-h2-2面上」
57	南池2区	竪穴住居2	弥生	高杯	21.4			杯部全体的に剥落で不明	口縁部ヨコヘラミガキ	にぶい黄橙10YR7/4	「U大-2i-2住」
58	南池2区	竪穴住居2	弥生	高杯				タテヘラミガキ、工具痕	杯内部放射状ヘラミガキ	にぶい橙7.5YR6/3	「U」
59	南池2区	竪穴住居2	弥生	高杯	10.8			口縁部ヨコナデ、杯部ヘラミガキ?	口縁部ヨコナデ	橙5YR6/8	「U大-2f-2住」
60	南池2区	竪穴住居2	弥生	高杯			12.6	脚柱部、脚裾部タテヘラミガキ	脚裾部ヘラミガキ	橙5YR6/6	「U」
61	南池2区	竪穴住居2	弥生	高杯			13.1	脚裾部穿孔後ヘラミガキ	脚内部中央部しぼり痕、ハケメ	明褐灰7.5YR7/2	「U-Z」
62	南池2区	竪穴住居2	弥生	高杯			7.1	脚裾部穿孔3か所	脚内部ハケメ	橙5YR7/6	「U大-2e-2住」
63	南池2区	竪穴住居2	弥生	器台			23.3	ヘラミガキ後沈線4条、鋸歯文線刻、穿孔1	残りが悪く不明瞭	褐灰10YR6/1	「U-h2下 青灰1」
64	南池2区	竪穴住居2	弥生	鉢	7.8	7.3	3.9	口縁部ヨコナデ、肩～底部ヘラミガキ	ヨコヘラケズリ後ヘラミガキ	橙5YR7/6	「Uh2」
65	南池2区	竪穴住居2	弥生	鉢	19.9	8.1	3.0	工具痕跡	ナデ、指によるナデ	にぶい黄橙10YR7/3	「U-2e-h2上P」
66	南池2区	竪穴住居2	弥生	壺	15.2			口縁部ヨコナデ、頸部タテハケメ	口縁部ヨコナデ、頸部ヘラケズリ	にぶい橙7.5YR7/4	「U-h2-6床面」
67	南池2区	竪穴住居2	弥生	甕	18.6	35.6	9.1	口縁部に擬凹線、頸部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ	浅黄2.5Y7/3	「U-h2-6面炉」 「U-h2-床6面」など胴部に黒斑
68	南池2区	竪穴住居2	弥生	甕	18.6			口縁部ヨコナデ、肩部タテハケメ後ナデ	口縁部ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR6/3	胴部に黒斑
69	南池2区	竪穴住居2	弥生	鉢	16.7	18.4	5.0	口縁部ヨコナデ、ナデ、底部ハケ後ナデ	口縁部ヨコナデ、ユビオサエ	にぶい黄橙10YR7/2	「U-h2-6面上」 胴部に煤
70	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	(26.3)			口縁部ナデ、波状文、頸部タテハケメ後沈線(完結で18条)	口縁部ヨコナデ後タテヘラミガキ、頸部上ヨコヘラミガキ	にぶい橙7.5YR7/3	「U-h2-3」頸外面・口縁内面黒斑
71	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	24.5			頸部タテハケメ後分割らせん状沈線	口縁部タテヘラミガキ、頸部ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	
72	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	14.8			頸・胴部タテハケメ、沈線32条	頸部ナデ、胴部ナデ、ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/2	「U-h7-3」外面煤
73	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	17.9			口縁部ヨコナデ、頸部タテハケメ後沈線	口縁部ヨコヘラミガキ、頸部指頭押圧	にぶい黄橙10YR6/4	「U-h7-3」
74	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	12.0			頸部ハケ、タテヘラミガキ後らせん状沈線	口縁部ヨコナデ、頸部指頭押圧後ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	「U-h7-3」
75	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	22.0			口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ後ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、ヨコハケメ、頸部ナデ	灰黄2.5YR7/2	「U-h7-3」
76	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	15.0			口縁部ヨコナデ、頸部刺突あり	粘土帯の痕跡	にぶい黄橙10YR7/3	「U-h7-3」頸部外面に煤
77	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	14.8			口縁部ヨコナデ、頸部ナデ	口縁部、頸部ナデ	橙7.5YR6/6	「U-h7-3」
78	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺?			9.0	ハケメ後タテヘラミガキ	ヘラケズリ	褐灰10YR4/1	「U-h7-3(2)」
79	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	18.7			口縁部ヨコナデ、擬凹線	口縁部ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	「U-h7-3」内外面黒斑
80	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	16.1			胴部工具によるタテナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	橙5YR7/8	「U-h7-3下」と接合
81	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	14.4			肩部剥落して調整不明	口縁部ヨコナデ、肩部ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	「U-h7-3」口縁部外面煤
82	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	15.3			口縁部ヨコナデ、胴部タテハケメ	胴部荒いヘラケズリ	灰白10YR8/2	「U-h7-3」外面全体に煤
83	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	14.0			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	胴部ヘラケズリの後ヘラミガキ	にぶい黄橙10YR7/2	「U-h7-3」外面煤
84	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕			5.5	全体的に剥離	ヘラケズリ	灰黄2.5Y7/2	「U-h7-3」外面煤
85	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	13.8			肩部タテヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、肩部ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/2	「U-h7-3」口縁部外面煤
86	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	11.7			胴部タテハケメ後タテヘラミガキ	口縁部工具痕残るナデ	灰黄2.5Y6/2	「U-h7-3」
87	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	11.3			胴部タテハケメ後ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	灰褐7.5YR6/2	「U-h7-3」
88	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	10.1			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメの後ナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	灰黄2.5YR7/2	「U-h7-3(3)」外面煤?
89	南池2区	竪穴住居3	弥生	高杯	22.6			体部剥落のため不明	剥落のため不明瞭	にぶい黄橙10YR7/2	「U-h7-3」
90	南池2区	竪穴住居3	弥生	高杯	21.6			口縁部タテヘラミガキ、沈線	口縁部剥落のため不明瞭	にぶい橙5YR7/4	「U-h7-3」
91	南池2区	竪穴住居3	弥生	高杯	14.9	13.4	14.1	杯部ヨコ・ナメヘラミガキ	脚端ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/3	「U-h7-3」

観 察 表

掲載番号	調査区	遺構・層位名	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調	備 考
92	南池2区	竪穴住居3	弥生	高杯			17.0	脚部ハケの後ヘラミガキ、沈線4条	脚中央部絞り痕、剥落	にぶい橙 7.5YR7/4	「U-h7-3」
93	南池2区	竪穴住居3	弥生	高杯			19.1	脚柱部ハケメ後ヘラミガキ、沈線6条	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	「U-h7-3」
94	南池2区	竪穴住居3	弥生	鉢	18.6	8.0	3.8	口縁部ヨコハケメ	ユビオサエ、工具によるナデ	橙5YR7/6	「U-h7-3」
95	南池2区	竪穴住居3	弥生	鉢	13.7	6.3	2.0	胴部タテヘラミガキ	口縁部ヨコ後タテ反復ヘラミガキ	にぶい黄橙 2.5YR5/4	「U-h7-3」
96	南池2区	竪穴住居3	弥生	鉢	18.4	12.1	5.2	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ	ケズリ後ナデか?	にぶい赤褐 2.5YR5/4	「U-h7-3」 外面煤
97	南池2区	竪穴住居3	弥生	鉢	23.4	6.5	5.0	剥落して不明	剥離して不明	灰褐5YR6/2	「U-h7-3」
98	南池2区	竪穴住居3	弥生	鉢	47.6	27.2	10.1	胴部ハケメ後ヘラミガキ、底部ナデ	タテハケメの上をヨコヘラミガキ	灰黄褐 10YR6/2	「U-h7-3」 外面黒斑
99	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	19.0		5.4	口縁沈線4条、頭部ハケメ後らせん状沈線	口縁部ナデ、頭部指頭圧痕	にぶい橙 7.5YR6/4	「U-h7b-3」 外面煤
100	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	20.5			口縁部ヨコナデ、頭部沈線、貼り付け突帯	頭部ナデ、粘土接合痕	にぶい黄橙 10YR7/3	「U-h7b-3」 外面煤
101	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	13.4			口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	浅黄2.5YR7/3	「U-h7b-3」
102	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	17.4	35.3	8.5	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	「U-h7b-3」 黒斑
103	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	16.9			ヘラによる刺突文廻る、竹管文数か所	口縁部わずかにハケメがみられる	にぶい黄橙 10YR7/2	
104	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	20.4			頭部ハケメ上らせん状沈線7~8条	胴部ナデアゲ	灰黄2.5YR7/2	「U-h7b-3」
105	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	13.8			口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコヘラミガキ	灰黄2.5YR6/2	「U-h7f-3」 胴部に黒斑 注記なし
106	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	11.0			口縁部ヨコナデ、波状文、沈線1条	口縁部ヨコナデ	橙5YR7/6	
107	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	10.4	23.5	5.8	口縁部ヨコナデ、底面ヘラミガキ(穿孔有)	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	にぶい橙 7.5YR7/3	「U-h7b-3」 内外面に黒斑
108	南池2区	竪穴住居3	弥生	壺	13.0	16.1	8.1	口縁部ヨコナデ、胴部タテハケメ	口縁部ヨコナデ	灰白10YR8/2	「U-h7b-3」 黒斑
109	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	15.9	25.6	4.6	頭部ヨコナデ後ハケメ	口縁部ヨコナデ、内面ヘラケズリ	明褐灰 7.5YR7/2	「U-h7f-3」 外面全体煤
110	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	16.2	27.0	5.1	底部に指頭圧痕(指紋も認められる)	口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ	にぶい橙 7.5YR7/3	「U-h7b-3」 ほぼ全面煤
111	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	17.9			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	褐灰10YR6/1	「U-h7b-3」
112	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	13.9	20.5	4.7	口縁部ヨコナデ、胴部調整不明	口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ	灰褐7.5YR5/2	「U-h7b-3」
113	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	15.7	29.4	5.7	口縁部ヨコナデ、胴部タテヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	浅黄橙 7.5YR8/4	「U-h7b-3」
114	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	14.3	20.4	4.2	胴部荒いたテのヘラミガキ	口縁部ナデ、頭部ユビオサエ	にぶい黄橙 10YR7/3	「U-h7b-3」 頸部を除き煤
115	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	17.2			口縁部ヨコナデ、胴部横・縦ハケメ	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ	にぶい橙 5YR7/3	「U-h7b-3」 口縁部黒斑
116	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	15.0	17.1	4.5	口縁部ヨコナデ、胴部タテハケメ	胴部ヘラケズリ、ナデ	黄橙10YR8/4	「U-h7b-3」 煤
117	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	14.8			口縁部ヨコナデ、肩部ナデ	口縁部ヨコナデ、肩部ヘラケズリ	にぶい黄橙 10YR7/3	「U-h7b-3」
118	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕?			4.0	タテヘラミガキがわずかにみられる	わずかにヘラミガキ?	にぶい褐 7.5YR6/3	「U-h7b-3」 全体煤、黒斑
119	南池2区	竪穴住居3	弥生	高杯	32.3	21.5	20.5	口縁部から脚裾部ヘラミガキ	脚柱部ヘラケズリ	橙2.5YR6/6	「U-h7b-3」
120	南池2区	竪穴住居3	弥生	高杯	28.9	17.1	18.5	口縁部から脚裾部ヘラミガキ	脚裾部ヨコナデ	浅黄橙 7.5YR8/4	「U-h7b-3」 杯内面一部煤
121	南池2区	竪穴住居3	弥生	高杯	26.4	17.2	18.8	沈線4条、脚裾部透かし穴4個	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 5YR7/4	「U-h7b-3」 杯内面一部煤
122	南池2区	竪穴住居3	弥生	鉢	20.1	19.2	7.6	胴部タテヘラミガキ、底部ユビオサエ	口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ	浅黄2.5Y7/3	「U-h7b-3」 黒斑
123	南池2区	竪穴住居3	弥生	高杯			17.5	上段穿孔は下段(4か所)の中間3か所?	脚部中央絞り痕後ナデ、剥落	にぶい橙 5YR7/4	「U-h7b-3」
124	南池2区	竪穴住居3	弥生	高杯	15.1	14.6	13.6	脚裾部透かし穴5個、沈線(上4、下3条)	杯部放射状ヘラミガキ、ナデか?	にぶい橙 7.5YR7/3	「U-h7b-3」
125	南池2区	竪穴住居3	弥生	高杯	11.0			口縁部ヨコナデ、穿孔3か所	脚部ナデ、絞り痕	灰黄2.5Y6/2	「U-h7b-3」
126	南池2区	竪穴住居3	弥生	高杯			19.9	穿孔上4か所・下4か所、刺突文2段	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	「U-h7b-3」
127	南池2区	竪穴住居3	弥生	鉢	27.1			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ後ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ後ヨコヘラミガキ	灰黄2.5Y7/2	「U-h7b-3」
128	南池2区	竪穴住居3	弥生	鉢	15.8	12.1	5.4	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ	胴部指頭圧後ヘラミガキ?	黒7.5YR2/1	「U-h7b-3」
129	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕	13.0			口縁部ヨコナデ、胴部タテハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙 7.5YR6/3	
130	南池2区	竪穴住居3	弥生	甕			5.5	タテハケメ、底面ユビオサエ	タテヘラケズリ	にぶい黄橙 10YR7/2	「U-h7-3下」 内外面煤
131	南池2区	竪穴住居3	弥生	高杯	23.2			脚柱部タテヘラミガキ? 沈線2条	口縁部ヨコヘラミガキ	橙5YR6/6	
132	南池2区	竪穴住居3	弥生	高杯	14.0	12.9	13.9	口縁部~脚裾部ヘラミガキ、らせん状沈線	口縁部ヨコヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/3	「U-h7-3」 杯脚内煤?
133	南池2区	竪穴住居3	弥生	鉢	10.2	5.4	3.3	指押圧形整後全体をナデ	指押圧形整後全体をナデ	橙7.5YR7/6	注記なし 口縁内面黒斑
134	南池2区	竪穴住居3	弥生	製塩土器			4.9	全体ユビオサエ	全体ユビオサエ	にぶい橙 7.5YR7/3	「U-h7-3」
135	南池2区	竪穴住居4	弥生	甕				剥落して不明、ナデか?	剥落して不明	黒5YR1.7/1	床面出土、外面煤
136	南池2区	竪穴住居4	弥生	脚				ナデか?、指圧により形整	ヨコナデ	褐灰10YR4/1	床面出土
137	南池2区	竪穴住居5	弥生	甕				ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	「U-h13床」 床面出土
138	南池2区	竪穴住居5	弥生	高杯				ヨコナデ後タテの反復ヘラミガキ	ヘラミガキ	橙5YR6/6	「U-2d-h13床」 床面出土

掲載番号	調査区	遺構・層位名	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調	備 考
139	南池13区	竪穴住居6	弥生	甕				口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙 7.5YR7/4	「U-13-h9柱」
140	南池13区	竪穴住居6	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、タテハケメ	口縁部ヨコナデ、ヨコヘラミガキ	橙5YR7/6	
141	南池13区	竪穴住居6	弥生	甕				口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	
142	南池13区	竪穴住居6	弥生	甕				口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	灰白10YR8/2	
143	南池13区	竪穴住居6	弥生	甕				口縁部に凹線のようなもの、ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙 5YR6/4	
144	南池13区	竪穴住居6	弥生	高杯				脚柱~脚裾部ヘラミガキ、穿孔(致不明)	ナデ、工具痕あり	にぶい黄橙 10YR7/4	「U-13-h9D床?」
145	南池13区	竪穴住居6	弥生	高杯				杯~脚裾部ヘラミガキ、孔は2か所残存	杯内部剥落で不明、ヘラミガキ?	にぶい橙 7.5YR6/4	
146	南池13区	竪穴住居6	弥生	鉢	7.8			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、剥落	胴部ケズリ後ナデか?	にぶい黄橙 10YR7/2	
147	南池13区	竪穴住居6	弥生	鉢			4.9	ヨコナデ、胴部ヨコ・ナメヘラミガキ	ヨコナデ、胴部ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	「U-13-h9-D床? U-13-h9」(接合) 外面黒斑
148	南池13区	竪穴住居6	弥生	台付鉢			4.3	ハケ?ナデ?、ナデ、ユビオサエ後ナデ	タテ工具ナデ、脚内部荒くヘラミガキ	灰黄褐 10YR6/2	黒斑?煤?
149	南池13区	竪穴住居7	弥生	甕				口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	橙5YR7/6	
150	南池13区	竪穴住居7	弥生	高杯				剥落して調整不明	剥落して調整不明	橙7.5YR7/6	
151	南池13区	竪穴住居7	弥生	高杯				剥落して調整不明	ナデか?	橙7.5YR7/6	
152	南池13区	竪穴住居7	弥生	高杯				脚裾部タテヘラミガキ、穿孔5か所?	脚裾部ナデ、ハケメ	灰褐7.5YR5/1	「U-13-h10」
153	南池13区	竪穴住居8	弥生	甕				ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	
154	南池13区	竪穴住居8	弥生	鉢?				胴部ナデ、底部ユビオサエ	ナデ、内底部ユビオサエ	橙7.5YR7/6	「U-13-H11」
155	南池13区	竪穴住居8	弥生	鉢			3.0	底部ヘラミガキ、タタキ	内底部ヘラミガキ、ヘラケズリ	橙5YR6/6	
156	南池	竪穴住居9	弥生	高杯				杯部ハケメ後ヘラミガキ、穿孔4か所	脚部ユビオサエ後丁寧なナデ	橙5YR7/6	
157	南池	竪穴住居9	弥生	高杯				脚柱部タテのヘラミガキ(ハケ状?)	杯部ヘラミガキ、脚柱部絞り痕・ナデ	橙5YR6/6	
158	南池	竪穴住居9	弥生	鉢				口縁部ヨコナデ、工具ナデ、胴部ナデ	口縁部ヨコナデ、胴部工具ナデ?	にぶい黄橙 10YR7/4	内面黒斑
159	南池	竪穴住居9	弥生	鉢	39.9			胴部ヨコハケメ	胴部ハケメ後ヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	胴部外面に黒斑
160	南池	竪穴住居9	弥生	台付鉢	12.9	9	4.2	調整不明、底部ユビオサエ及びナデ	剥落して調整不明、ユビオサエか?	橙5YR6/6	
161	南池	竪穴住居9	弥生	鉢	10.8	6.4	5.1	胴部タテヘラミガキ	工具ナデ、ヨコ・ナメのヘラミガキ	にぶい橙 7.5YR7/4	
162	南池	竪穴住居9	弥生	鉢?			5	底部ユビオサエ後ナデ、底面ナデ	ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	
163	南池	竪穴住居10	弥生	壺				口縁部に擬凹線、ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラミガキ	にぶい橙 7.5YR7/3	
164	南池	竪穴住居10	弥生	甕				ヨコナデ	ナデ、ケズリか?	明褐灰 7.5YR7/2	
165	南池C・D区	竪穴住居11	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、肩部タテハケメ後ナデ	口縁部ナデ、肩部ケズリ	灰褐 7.5YR5/2	「UD-1-h8溝」
166	南池C・D区	竪穴住居11	弥生	甕	14.0			口縁部ヨコナデ、肩部タテハケメ	口縁部ヨコナデ、ナデ	明赤褐 5YR5/6	外面黒斑
167	南池C・D区	竪穴住居11	弥生	甕				剥落のため調整不明	剥落のため調整不明	明黄褐 10YR7/6	
168	南池D区	土壇1	弥生	甕	13.8			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	ケズリ	にぶい橙 7.5YR7/2	「U-D-P-24層」 外面煤
169	南池D区	土壇1	弥生	壺	21.6			口縁部ヨコナデ、凹線	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ	浅黄橙 7.5YR8/6	「U-D-P5層」
170	南池D区	土壇1	弥生	高杯	19.5	13.7	10.8	杯部多角形・ヨコヘラミガキ、穿孔2段3つずつ	杯部タテヘラミガキ、脚柱部ナデ、脚裾部ケズリ	橙5YR6/6	「U-8住2面上」 「U-D-P2層」 円盤充填
171	南池D区	土壇1	弥生	高杯	24.3			口縁部ヘラミガキ、脚柱部タテハケメ、沈線2	杯部タテ・放射状ヘラミガキ	灰褐7.5YR6/2	内面に煤
172	南池D区	土壇1	弥生	鉢	36.0			口縁部ヨコナデ、肩部ハケメ後ヘラミガキ	肩部ヨコヘラケズリ後タテヘラミガキ	灰黄褐 10YR6/2	「U-D-P6層」 外面黒斑
173	南池E区	土壇2	弥生	壺	13.6			口縁部ヨコナデ後鋸歯文、頸部ナデ後沈線	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ、頸部不明	にぶい橙 7.5YR7/4	
174	南池E区	土壇2	弥生	壺	18.6			剥落して調整不明(口縁部一部強いナデ)	剥落して調整不明	橙5YR7/6	「Uepit」
175	南池E区	土壇2	弥生	高杯	12.4			口縁部ヨコヘラミガキ、穿孔2か所残存	杯部ハケメの後ヘラミガキ、脚部ナデ	にぶい橙 7.5YR7/3	「U-E-pit」
176	南池H区	土壇3	弥生	甕	16.8	21.4	6.3	口縁部ナデ、胴部下はケズリ後工具ナデ	口縁部ハケメ、胴・底部ヘラケズリ	にぶい橙 7.5YR7/3	外面黒斑
177	南池H区	土壇3	弥生	甕	15.5	17.1	5.5	口縁部ヨコナデ、胴部・底部タテハケメ	口縁部ヨコナデ、胴・底部ヘラケズリ	にぶい黄橙 10YR7/2	「UGピット」 外面黒斑
178	南池H区	土壇3	弥生	手形器	18.4	6.6		タテ・ヨコ・ナメハケメ	上はハケメ、下はヨコヘラケズリ	浅黄2.5Y7/3	「U-Gピット」 外面黒斑
179	南池4区	土器棺1	弥生	壺			8.7	肩部調整不明、胴部ハケメ後ヘラミガキ	胴上ヨコヘラケズリ下タテヘラケズリ	褐灰10YR4/1	
180	南池北2A区		弥生	壺				口縁部ヨコヘラミガキ、沈線1条	口縁部ヨコヘラミガキ	橙5YR6/6	
181	南池北2A区	下部包含層	弥生	壺	14.9			口縁部ユビオサエ、中央沈線2条、間刺突	胴部上ユビオサエ・ナデ後ヘラミガキ	にぶい橙 7.5Y7/3	胴外面・口縁内面 黒斑
182	南池北2A区	黒粘土直上	弥生	壺	15.1			口縁部ヨコナデ、肩部ヨコヘラミガキ	ヨコヘラミガキ、ユビオサエ	灰褐7.5YR5/2	
183	南池北2A区		弥生	壺	13.3			剥落して調整不明	肩部ユビオサエ後ナデ	灰白10YR8/1	
184	南池北2A区	黒褐色砂層	弥生	壺?				口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	口縁部外面黒斑
185	南池北2A区	黒粘土直上	弥生	壺				口縁部ナデ後ヘラミガキ不明瞭	ナデ後ヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/2	

観 察 表

掲載 番号	調査区	遺構・ 層位名	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調	備 考
186	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	壺?				ユビオサエ後ヨコナデ	ハケ状工具によるナデ	にぶい橙 7.5YR7/3	
187	南池北2A 区	大量の土器	弥生	壺				ナデ及びヘラミガキ、工 具使用2条沈線	ユビオサエ後ヨコヘラ ミガキ	灰黄2.5Y7/2	外面黒斑
188	南池北2A 区	黒褐色層	弥生	壺				ヨコナデ、強いヘラ描綾 杉文	ナデ	黒2.5Y7/3	弥生式土器集成図 録記載
189	南池北2A 区	黒粘土	弥生	壺				ナナメヘラミガキ後強い ヘラ描文様	ヘラミガキか?丁寧な ナデか?	にぶい橙 7.5YR7/3	
190	南池北2A 区	淡黄砂層	弥生	壺				ナデ後文様	ナデ	にぶい橙 5YR6/4	
191	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	壺				ヘラ描沈線の綾杉文	ユビオサエ後ナデ	灰褐10YR4/1	
192	南池北2A 区		弥生	壺				ヘラミガキ、ヘラ描沈線 の弧文・直線	ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	外面黒斑
193	南池北2A 区	黒粘土層	弥生	壺?		11.3		胴部ナデ、底面ユビオサ エ・ナデ	胴部ナデ、底部ユビオ サエ後ナデ	浅黄橙 7.5YR8/3	内面少し黒い色調
194	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	壺?		9.5		ヨコ・ナナメヘラミガキ	ナデ後ナナメヘラミガ キ	灰白10YR7/1	
195	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	壺?		7.4		底部ユビオサエ、底面ナ デ後線刻	底部ナデ	にぶい橙 7.5YR7/3	
196	南池北2A 区	黒粘土	弥生	壺?		8.8		胴部丁寧なナデ、一部工 具痕残る	ナデ	にぶい橙 5YR6/4	内面煤
197	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	甕				口縁部タテハケメ、工具 によるナデ	ユビオサエ	灰褐7.5YR6/2	
198	南池北2A 区	大量の土器	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ナデ	口縁部ナデ、工具痕	褐灰7.5YR5/1	
199	南池北2A 区		弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ナデ	口縁部ユビオサエ後ヨ コナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	口縁部外面黒斑
200	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ヨコ ナデ	口縁部ヨコハケメ	灰褐7.5YR6/2	内面黒斑?201 と同?
201	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ヨコ ナデ	口縁部ナナメハケメ	にぶい褐 7.5YR6/3	外面煤・黒斑、内 面黒斑
202	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、段下工 具ナデ	ユビオサエ後ナデ	褐灰10YR6/1	
203	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	甕	22.5			沈線1条、タテ・ナナメ ナデ	口縁部ナデ、胴部ユビ オサエ後ナデ	橙5YR6/6	胴部外面煤、外面 黒斑
204	南池北2A 区		弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ナ デ、沈線1条	ユビオサエ後ナデ	にぶい橙 5YR6/4	
205	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	甕				口縁部工具ヨコナデ、胴 部ナナメナデ	口縁部工具ナデ、下は 調整不明	黄灰2.5Y6/1	外面煤か?
206	南池北2A 区	淡青砂上部	弥生	甕				口縁部ナデ、胴部工具に よるナデ	口縁部ユビオサエ後ナ デ	にぶい黄橙 10YR7/2	
207	南池北2A 区		弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ナデ	ユビオサエ後ナデ	橙2.5YR6/6	
208	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	甕				口縁部沈線1条、刻目	ユビオサエ後ヨコナデ	明褐灰 7.5YR7/2	
209	南池北2A 区	包含層直上 淡黄砂層	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ナ デ、刻目、沈線1条か?	ユビオサエ後ナデ	灰白10YR8/2	内・外面赤色顔料 橙(2.5YR6/6)
210	南池北2A 区	黒褐色砂	弥生	甕				口縁部、刻目2段	口縁部ナデ	灰褐10YR5/1	口縁部外面黒斑
211	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	甕	17.5			口縁部ユビオサエ後ヨコ ナデ、胴部ハケメ	口縁ヨコナデ・ユビオ サエ、胴部ナデ	灰褐7.5YR5/2	外面黒斑及び煤 か?
212	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、ナナメ ハケメ	口縁部ヨコナデ	灰黄褐 10YR6/2	外面黒斑
213	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	鉢				口縁部ヨコナデ、胴部ヨ コヘラミガキ	ユビオサエ後ヨコヘラ ミガキ	浅黄橙 7.5YR8/3	
214	南池北2A 区	青黒色粘土	弥生	鉢				ユビオサエ後ナデ、山形 文	ユビオサエ後ナデ	黄灰2.5Y6/1	
215	南池北2A 区	黒粘土	弥生	甕?		8.2		底部工具によるヨコナ デ、底面ヘラミガキ	胴部ナデ、底部少し強 いナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	
216	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	甕?		13.3		底部丁寧なナデ?、底面 ナデ(ヘラミガキ風)	ユビオサエ後ナデ	灰白10YR7/1	底部内面に黒斑
217	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	甕?		8		タテ工具ナデ及びヘラミ ガキか?	ユビオサエ後ナデ	灰褐7.5YR6/2	
218	南池北2A 区	黒粘土直上	弥生	甕?		8		底部剥落して調整不明	底部剥落して調整不明	にぶい褐 7.5YR6/3	内面煤か?
219	南池北2A 区	淡青砂上部	弥生	甕?		8		底部ナデ?、底面ナデ	調整不明	にぶい褐 7.5YR5/3	内面に炭化物
220	南池北2A 区	黒褐色砂	弥生	鉢	53			口縁部ヨコナデ、ユビオ サエ2段	胴部ヨコ・ナナメヘラ ミガキ	にぶい橙 5YR6/4	内面黒斑
221	南池北2A 区	淡黄砂層	縄文	深鉢				口縁部刻目、張り付け突 帯に刻目	口縁部ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	
222	南池北2A 区	黒色粘土層	縄文	深鉢				突帯、縦2条沈線間を列 点で埋める	ナデか?	褐灰10YR4/1	弥生式土器集成掲 載
223	南池北2A 区	黒色粘土層	縄文	深鉢				口縁部ヨコナデ、刻目	ナデ	灰褐7.5YR6/2	外面おこげか?黒 色物質、弥生式土 器集成掲載
224	南池北2A 区	黒色粘土層	縄文	深鉢	32.6			口縁部ヨコナデ、貼付突 帯後刻目2段、ナデ	口縁部ヨコナデ、ナデ か?調整不明	にぶい橙 7.5YR6/4	弥生式土器集成掲 載
225	南池北2A 区	黒色粘土層	縄文	浅鉢				口縁部ナデ、ヨコヘラミ ガキ、沈線	ヨコヘラミガキ	褐灰10YR4/1	
226	南池北2A 区	黒色粘土層	縄文	深鉢				口縁部ヨコナデ、刻目、 貼り付け突帯後刻目、 工具によるナデ	ナデ	灰褐7.5YR6/2	弥生式土器集成掲 載
227	南池北2A 区	下部包含層 抜	弥生	壺	6.1	9.7	4.7	口縁部ヨコナデ、頸部ヘ ラ描直線文3条、頸・胴 部ヨコヘラミガキ、胴部 ヘラ描直線文2条、刺突、 ヘラ描直線文1条、有軸 木葉文17個、底部ユビオ サエ?底面ナデ後ヘラミ ガキ?	口縁部ヨコナデ、工具 の跡?または紋り?、 胴部上は工具による?、 ケズリ後ナデ一部ユビオ サエ、下はユビオサエ 後ナデ	灰褐7.5YR5/2	完形品 胴部外 面、内面に黒斑、 弥生式土器集成掲 載

掲載番号	調査区	遺構・層位名	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調	備 考
228	南池北2A 堀	茶褐色砂質粘土	弥生	鉢	40.7			口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	浅黄橙 10YR8/3	
229	南池北2A 堀	溝の砂層	弥生	甕				胴部ヨコ・ナナメハケメ	ユビオサエ後ナデ	黄灰2.5Y6/1	外面黒斑
230	南池北2A 堀	下部包含層	弥生	甕				胴部ヨコ・ナナメナデ	口縁部工具ナデ、胴部ナデ	褐灰7.5YR5/1	
231	南池北2A 堀	下部包含層	弥生	甕	22.4			口縁部ナデ、胴部ナデ	口縁ヨコナデ、胴部ユビオサエ後ナデ	褐灰10YR6/1	
232	南池北2A 堀	包含層直上砂	弥生	甕?			8	底部タテハケメ、底面工具当たり痕	剥落して調整不明	黄灰2.5YR5/1	外面・内面黒斑
233	南池北2A 堀	下部包含層	弥生	甕?			11.4	タテ・ナナメハケメ、穿孔1個	ナデ	褐灰10YR5/1	
234	南池北2A 堀	包含層直上砂	弥生	甕?			8.1	工具によるナデ、底面ナデ?	ナデ後ヨコヘラミガキか?	橙5YR7/6	
235	南池北2A 堀	黒褐色包含層	弥生	壺	33.3			口縁部ナデ、沈線2条	口縁部ナデ後ヨコヘラミガキ	にぶい橙 7.5YR7/4	
236	南池北2A 堀	黒褐色包含層	弥生	壺				工具によるナデ	ヨコヘラミガキか?	浅黄橙 10YR8/3	
237	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	壺	13.2			不明瞭だがナデ?	ユビオサエ後ナデ	にぶい橙 7.5YR7/3	
238	南池北2A 堀	黒褐色包含層	弥生	壺	16.2			口縁部ナデ後ヘラミガキ、沈線1条か?	口縁部ユビオサエ後ナデ	灰黄褐 10YR6/2	
239	南池北2A 堀	黒粘土層	弥生	壺	14.2			段上ヨコケズリ	ユビオサエの後ナデ	浅黄橙 10YR8/3	
240	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	壺	15.3			ナデ後ヘラミガキ、穿孔1個残、沈線2~3本	ナデ後ヘラミガキ、貼り付け突帯	褐灰10YR6/1	
241	南池北2A 堀	淡黄砂層	弥生	壺				沈線1条、赤色顔料付着	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	
242	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	壺				丁寧なヨコナデ、山形沈線文	ユビオサエ後ナデ	褐灰10YR4/1	
243	南池北2A 堀	黒褐色包含層	弥生	甕	30.8			胴部ハケメが一部残るが円滑なナデ	胴部ユビオサエ後円滑なナデ	にぶい黄橙 10YR5/3	胴部外面・内面に黒斑
244	南池北2A 堀	茶褐色砂質粘土	弥生	甕	21.2			口縁部工具ナデ、刻目2段、胴部工具ナデ	口縁部ナデ、胴部ユビオサエ後ナデ	にぶい橙 7.5YR7/3	外面煤?、口縁内面黒斑?
245	南池北2A 堀	褐色粘砂下部	弥生	甕	20.9			口縁部ヨコナデ、刻目、胴部一部ヨコナデ	胴部ユビオサエ後ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部外面煤・内面黒斑
246	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	甕	22.2			胴部少し強めの工具ナデ	口縁部ヨコナデ、その下は調整不明	明赤褐 2.5YR5/6	口縁部内面黒斑
247	南池北2A 堀	黒褐色包含層	弥生	甕				口縁部ナデ後タテハケメ、胴部工具ナデ	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	
248	南池北2A 堀	黒褐色包含層	弥生	甕				ナデ?、工具による段	ユビオサエの後ナデ	にぶい黄橙 10YR6/3	
249	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	甕				口縁部ナデ、刻み目、ユビオサエ	ユビオサエ後ナデ	灰白10YR7/1	
250	南池北2A 堀	褐色粘砂下部	弥生	甕	22.3			工具による沈線1条、胴部ナデか?	口縁部ナデ、胴部ユビオサエ後ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	
251	南池北2A 堀	黒褐色包含層	弥生	甕	18.4			口縁部ユビオサエ後ナデ、沈線1条	胴部剥落して調整不明	にぶい黄橙 10YR7/2	
252	南池北2A 堀	黒褐色包含層	弥生	甕	21.5			口縁部ヨコナデ、胴部タテナデ、タテハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部丁寧なナデ	灰褐5YR4/2	外面煤
253	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	甕				口縁部ユビオサエ、胴部剥落だがナデか?	剥落して調整不明	にぶい黄橙 10YR7/4	
254	南池北2A 堀	溝の砂層	弥生	甕				タテハケメ、沈線1条が2段	ユビオサエ後ナナメハケメ	灰褐7.5YR6/4	外面黒斑
255	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	甕	22.5			口縁部ユビオサエ後ナデ、胴部丁寧なナデ	口縁ヨコナデ、胴部ユビオサエ後ナデ	灰白10YR7/1	
256	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ナデ、胴部丁寧なナデ	胴部剥落して調整不明	灰黄褐 10YR5/2	
257	南池北2A 堀	黒褐色包含層	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ナデ、刻目、沈線1条	口縁部ユビオサエ後ナデ	淡橙5YR8/3	
258	南池北2A 堀	横掘	弥生	甕	23.4			胴部ナデか?剥落して調整不明	胴部ユビオサエ後ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	外面煤?よごれ?
259	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	甕				一部工具によるナデ	ユビオサエ後ヨコナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	口縁部外面煤
260	南池北2A 堀	黒褐色包含層	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ナデか?	口縁部ナデか?	灰白10YR8/2	
261	南池北2A 堀	黒褐色包含層	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	口縁部外面煤、黒斑
262	南池北2A 堀	褐色粘砂下部	弥生	甕				胴部ナナメハケメ	胴部ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	
263	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	甕				口縁部ユビオサエ、胴部調整不明	口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	灰褐7.5YR6/2	外面煤
264	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	甕				胴部工具によるナデ	口縁部ヨコナデ	灰白10YR7/1	口縁部外面黒斑
265	南池北2A 堀	褐色粘砂下部	弥生	甕				口縁部ナデ、刻目、胴部ナデ	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ	灰黄2.5Y6/2	口縁部外面煤か?
266	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ナデ、工具当たり痕	工具によるナデ、ユビオサエ後ナデ	灰褐10YR4/1	外面煤、口縁部内面粗痕
267	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	甕				口縁部ナデ、刻目2段、胴部工具ナデ	口縁部ナデ、ユビオサエ後ナデ	にぶい橙 7.5YR6/3	
268	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ナデ、刻目2段	口縁部ナデ、ユビオサエ後ナデ	灰白10YR8/2	口縁部外面黒斑
269	南池北2A 堀	茶褐色砂質粘土	弥生	甕?			9	底部タテナデ、底面工具ナデ	ヨコ・ナナメナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	外面煤か?内面黒斑か?
270	南池北2A 堀	黒褐色包含層	弥生	甕?			8	底部ユビオサエ後ハケメ、底面ナデか?	ユビオサエ後ナデ	にぶい赤 5YR5/4	
271	南池北2A 堀	黒褐色包含層	弥生	甕?			7.9	底部ユビオサエ後ハケメ、底面ナデ	ユビオサエ後ナデ	にぶい橙 5YR6/4	内面炭化物付着?
272	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	蓋?	9			ナデ、2段の沈線	剥落して調整不明	にぶい黄橙 10YR6/3	
273	南池北2A 堀	青黒色粘土	弥生	蓋				ヨコナデ、沈線	ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	

観 察 表

掲載番号	調査区	遺構・層位名	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調	備 考
274	南池北2A 区2	青黒色粘土	弥生	鉢	31			口縁部ヨコナデ、段、胴部ヨコヘラミガキ?	胴部ヨコヘラミガキ	灰白10YR7/1	外面黒斑
275	南池北2A 区2	黒褐色包含層	弥生	壺				口縁部ナデ	口縁部ナデ、ユビオサエ後ナデ?	浅黄橙 7.5YR8/4	
276	南池北2A 区2	黒褐色包含層	縄文	深鉢				口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	口縁部外面煤、黒斑
277	南池北2A 区2	黒色粘土	縄文	深鉢				貼り付け突帯後刻目か?	ナデか?	褐灰7.5YR6/2	
278	南池北2B 区	植物層上砂層	弥生	壺				口縁部ヨコナデ	ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	
279	南池北2B 区	東端黒土層	弥生	壺				ナデ、重弧文	ユビオサエ後ナデ	灰黄2.5Y6/2	
280	南池北2B 区	I層	弥生	甕				口縁部ユビオサエの後ナデ、段の下をナデ	剥落して調整不明	赤橙10YR6/2	
281	南池北2D 区	黒色粘土	弥生	甕				胴部タテハケメか?	ユビオサエ後ナデ	灰黄褐 10YR6/2	口縁部内面植物絨 雑痕?
282	南池北2D 区	黒色粘土	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	胴部ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR6/3	外面煤
283	南池北2D 区	黒色粘土層	弥生	甕?		5.5		底部ヘラミガキ、底面ナデ	底部ユビオサエ後ナデ	灰白7.5YR8/2	内・外面黒斑
284	南池8トレ C区	上層	弥生	壺				調整不明	調整不明	暗灰N3	上下逆の可能性有
285	南池8トレ A区	上層青色粘土	弥生	壺				ヘラミガキ?、掘り出し突帯、刺突	剥落して調整不明	にぶい黄橙 10YR7/4	
286	南池8トレ C区	上層	弥生	甕				口縁部ヨコナデ	剥落して調整不明	浅黄橙 10YR8/3	
287	南池北3B 区		弥生	甕?		6.9		タテハケメ	剥落して調整不明	にぶい橙 5YR7/4	「U-北3B下黒褐」
288	南池C区	第3層	弥生	壺	15.5			肩部タテ、胴部ヨコヘラミガキか?	口縁部不明、胴部ユビオサエ	にぶい黄橙 10YR7/3	「U-C-3」 外面 黒斑か?
289	南池C区	第3層	弥生	甕				口縁部刻目、剥落して調整不明、沈線1条	口縁部不明、胴部ヨコナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	「U-C-3」
290	南池C区		弥生	壺				ヨコヘラミガキ	ヘラミガキか?	にぶい黄橙 10YR7/3	「U-C-?2」
291	南池C区	第3層	弥生	甕?		8.5		胴部タテハケメ、底面ケズリ	ケズリか?剥落して不明瞭	にぶい黄橙 10YR7/3	「U-C-3」 黒斑
292	南池C区		弥生	壺?		8.2		底部ユビオサエ、底面ナデ	剥落して調整不明	灰白10YR8/1	「U-C-3」 底面 黒斑か?
293	南池C区	第3層	縄文	深鉢				ナデ?沈線文	ナデ?	灰黄褐 10YR6/2	「U-C-3」
294	南池J区東		弥生	壺?				口縁部ヨコヘラミガキ	口縁部ヨコヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/2	
295	南池J区東	黒土	弥生	甕	29.6			口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	口縁部ユビオサエ後ナデ	灰白2.5YR7/1	内面初痕
296	南池J区東	黒土	弥生	甕	22.7			口縁部ヨコナデ、沈線2条、胴部ハケメ	ユビオサエ後ナデか?	褐灰7.5YR5/2	外面煤
297	南池J区東	黒土	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ナデ	胴部ユビオサエ後ナデ	灰黄褐 10YR6/2	外面煤
298	南池J区東	青色粘土	弥生	甕				口縁部工具ヨコナデ、胴部ナデ	口縁部工具によるヨコナデ	灰褐10YR4/1	口縁部角張る
299	南池J区東	黒土	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	灰褐10YR5/1	外面煤
300	南池J区東	黒土	弥生	甕				口縁部ナデ、胴部ナメハケメ	口縁部工具ナデ、胴部ナデ	褐灰10YR5/1	
301	南池J区東	黒土	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	外面煤
302	南池J区東	黒土	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	褐灰7.5YR4/1	外面煤
303	南池J区東	黒土	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、胴部ナメハケメ	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	外面煤
304	南池J区東	黒土	弥生	甕				胴部ヨコヘラミガキ	口縁部ナデ、胴部ナデ後ヘラミガキ	灰褐7.5YR5/1	
305	南池J区東	黒土	弥生	甕				剥落して調整不明	剥落して調整不明	明褐灰 7.5YR7/2	
306	南池J区東	黒土	弥生	甕?				丁寧なナデ	ユビオサエ後ナデ	褐灰7.5YR4/1	内外面黒斑
307	南池J区東	黒土	弥生	甕?		8.9		底部工具によるタテナデ	剥落しているがナデか?	橙5YR7/6	
308	南池J区西	青色砂層	弥生	壺	15.4			頸部ヨコ・ナメヘラミガキ	頸部剥落して調整不明	にぶい橙 7.5YR7/4	
309	南池J区西	青砂	弥生	壺				上はタテ、下はヨコヘラミガキ	ヨコヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/2	
310	南池J区西	青砂	弥生	壺				沈線約3条の山形文?	ナデか?	にぶい黄橙 10YR7/2	外面黒斑
311	南池J区西	青砂	弥生	壺				沈線3条の山形文が1個と1/4残存	ユビオサエ後ナデか?	灰白10YR7/1	
312	南池J区西	青砂	弥生	壺				肩部ヨコヘラミガキ	ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	
313	南池J区西	青砂	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、胴部工具ナデ	ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	外面煤
314	南池J区西	青砂	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、胴部タテ・ナメナデ	ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	
315	南池J区西	青砂	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、沈線2条、胴部不明	胴部ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	胴部内面黒斑
316	南池J区西	青砂	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後工具によるナデ	口縁部ヨコナデ、ユビオサエ後ナデ	灰褐7.5YR6/2	内面黒斑か?
317	南池J区西	青砂	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、胴部タテナデ	ユビオサエ後ナデ	灰黄褐 10YR6/2	外面煤
318	南池J区西	青砂	弥生	甕				胴部ヨコ・ナメヘラミガキ	ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	外面煤か?
319	南池J区西	青砂	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	工具によるナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	
320	南池J区西	青砂	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	工具によるナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	

土器観察表

掲載番号	調査区	遺構・層位名	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調	備 考
321	南池J区西	青砂	弥生	甕				剥落して調整不明、刻目あり	ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	
322	南池J区西	青砂	弥生	蓋				工具によるナデ、ハケメ残存	ユビオサエ後工具ナデ	褐灰10YR6/1	
323	南池J区西	青砂	弥生	蓋				胴部タテハケメ、口縁部ヨコナデ	ユビオサエ後ナデ、ヨコナデ	灰白7.5YR8/2	
324	南池J区西	青砂	弥生	蓋				ユビオサエ後ナデ	ユビオサエ後ナデ	灰褐10YR6/1	内面黒斑
325	南池J区西	青砂	弥生	壺?			8.7	剥落して調整不明、ヘラミガキか?	剥落して調整不明、ヘラミガキか?	にぶい黄橙 10YR7/2	外面底面黒斑
326	南池J区西	青砂	弥生	壺?				底部工具の当り痕、底面ナデ	ユビオサエ後ナデか?	灰褐7.5YR6/2	外面底部、黒斑
327	南池J区西	青砂	弥生	壺?			9.8	胴部ヨコ・ナナメのヘラミガキ	ユビオサエ・ナデ後ヨコヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/3	外面黒斑 底面初痕
328	南池J区西	青砂	弥生	甕?			7.6	工具によるナデ	胴部タテヘラミガキ	にぶい橙 7.5YR7/3	内面炭化物
329	南池J区西	青砂	弥生	甕?			7.6	工具によるタテナデ	上はタテ、下はヨコヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/3	底面・断面に初痕
330	南池J区西	青砂	弥生	甕?			8	底面ユビオサエ後ナデ	底部ユビオサエ後ナデ	灰白7.5YR8/2	
331	南池J区西	青砂	弥生	甕?			8	底面ナデ	剥落して調整不明	にぶい橙 7.5YR6/4	底面初痕3個程
332	南池J区西	黒土(壁)	弥生	甕?			7.9	ナナメナデ、ユビオサエ	ナデ	灰白10YR7/1	外面黒斑
333	南池J区南	青砂	弥生	壺	15.2			胴部ヘラミガキか?、沈線3-4条	胴部ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	
334	南池J区南	青砂	弥生	壺				工具によるナデ	口縁部ヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部に記号?
335	南池J区南	青砂	弥生	壺				ヨコヘラミガキ、補修痕?	口縁部ナデ後ヨコヘラミガキ	褐灰10YR6/1	
336	南池J区南	青砂	弥生	壺				肩部~胴部ヨコヘラミガキ	指頭圧痕・工具痕後ヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/2	
337	南池J区南	青砂	弥生	壺				ヨコヘラミガキ、半円形の線刻文	ナデ、ヨコヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR6/4	内面黒斑?
338	南池J区南	青砂	弥生	甕	23.4			口縁部ヨコナデ、胴部ナデ?	胴部ユビオサエ後工具ナデ	灰黄褐 10YR6/2	外面煤
339	南池J区南	青砂	弥生	鉢				ヨコヘラミガキ、沈線	ヨコヘラミガキ	黄灰2.5Y5/1	内面黒斑
340	南池J区南	青砂	弥生	甕				口縁部ナデ、2条程の沈線か?	口縁部ヨコナデか?	にぶい褐 7.5YR5/3	
341	南池J区南	青砂	弥生	甕	23.4			2条の沈線、胴部タテ・ナナメハケメ	胴部ユビオサエ後ナデ	褐灰10YR6/1	外面煤、内面黒斑
342	南池J区南	青砂	弥生	甕	17.7			口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	胴部ユビオサエ後ナデ	灰褐7.5YR4/2	外面煤、内面黒斑
343	南池J区南	青砂	弥生	甕	17.9			刻目?剥落して不明	胴部ユビオサエ及びナデ	灰褐7.5YR5/2	
344	南池J区南	青砂	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	にぶい黄褐 10YR5/3	外面煤
345	南池J区南	青砂	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ナデ	口縁部ナデ、一部強いナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	外面煤
346	南池J区南	青砂	弥生	甕?			8	底部ナデか?剥落して調整不明	底部ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	内面煤
347	南池J区南	黒色粘土	弥生	壺				横ヘラミガキ、沈線4条	ヨコヘラミガキ	灰黄2.5Y7/2	外縁接合痕跡明瞭
348	南池J区南	黒色粘土	弥生	壺	15	31.6	8.5	口縁部ヨコナデ、胴部剥落して調整不明、底部ユビオサエ	胴部上はユビオサエ後ナデ、下は調整不明	にぶい黄橙 10YR7/2	胴部外面に黒斑、赤色顔料塗布か?
349	南池J区南	黒粘土	弥生	壺	13.5			口縁部ユビオサエ後工具によるナデ	口縁部ヨコヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/2	
350	南池J区南	黒色粘土	弥生	壺	7.7	11	5.3	口縁部ユビオサエ、ヨコナデ、胴部上はタテヘラミガキ後線刻文、中央は刻目目、下はヨコヘラミガキ後線刻文	口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、胴部中央にヨコヘラミガキが少しみられる、下は工具によるナデ及びナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	完形品 胴部内外面黒斑、胴部外面に初痕2個 弥生式土器集成掲載
351	南池J区南	黒色粘土	弥生	壺	20			工具によるナデ	ヨコハケメ	にぶい黄橙 10YR7/2	
352	南池J区南	黒色粘土	弥生	壺	16			口縁部ヨコヘラミガキ	口縁部ヨコヘラミガキ	褐灰10YR6/1	
353	南池J区南	黒色粘土	弥生	壺?				口縁部ヨコ・ナナメヘラミガキ	口縁部ヨコ・ナナメヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR6/3	外面煤か?、内面黒斑
354	南池J区南	黒色粘土	弥生	壺				口縁部ヨコナデ、ユビオサエあり	口縁部摩耗している	浅黄橙 7.5YR8/4	
355	南池J区南	黒色粘土	弥生	壺				口縁部ヨコのヘラミガキ	口縁部ヨコのヘラミガキ	灰黄褐 10YR5/2	
356	南池J区南	黒色粘土	弥生	壺				口縁部ヨコナデ、摩耗している	口縁部ヨコナデ、ヨコヘラミガキ	明褐灰 7.5YR7/2	
357	南池J区南	黒粘土	弥生	壺				口縁部ヨコナデ、沈線2条	口縁部ヨコナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	
358	南池J区南	黒粘土	弥生	壺			7.9	剥落して調整不明	ヨコ・ナナメヘラミガキ	明褐灰 7.5YR7/2	底内面一部黒斑
359	南池J区南	黒色砂粒	弥生	壺				山形文か、ナデ	ユビオサエ後ナデ	灰白10YR7/1	
360	南池J区南	黒色砂粒	弥生	壺				ナデ後重弧文線刻	ユビオサエ後ナデ	にぶい褐 7.5YR6/3	
361	南池J区南	黒色粘土	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	外面煤
362	南池J区南	黒色砂粒	弥生	甕				胴部ヨコ・ナナメヘラミガキ	ユビオサエ後ナデか?	褐灰10YR6/1	外面煤
363	南池J区南	黒粘土	弥生	甕	24.3			口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	剥落して調整不明	にぶい褐 7.5YR6/3	
364	南池J区南	黒色粘土	弥生	甕				口縁部ナデか?沈線1条	ユビオサエ後ナデか?	黒褐10YR3/1	外面煤・黒斑
365	南池J区南	黒粘土	弥生	甕				胴部ヨコ・ナナメハケメ	口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	外面煤
366	南池J区南	黒粘土	弥生	甕	19.4			胴部剥落して調整不明、沈線2条	肩部~胴部ユビオサエ後ナデ	灰褐7.5YR5/2	内面煤(炭化物)
367	南池J区南	黒粘土	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	にぶい褐 7.5YR5/3	外面煤
368	南池J区南	黒粘土	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、胴部工具ナデ	にぶい橙 5YR6/4	

観 察 表

掲載番号	調査区	遺構・層位名	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調	備 考
369	南池J区	黒色粘土	弥生	甕				摩耗している	摩耗している	橙7.5YR7/6	黒色粘土
370	南池J区	黒色粘土	弥生	甕				刻目、沈線2条間に楕円形の刺突	口縁部ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	外面黒斑
371	南池J区	黒色粘土層	弥生	甕	23.4			胴部タテ・ヨコ・ナナメナデ	ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	外面煤
372	南池J区	黒色粘土	弥生	甕	18.5			胴部タテナデか? 工具痕?	ユビオサエ後ナデか?	灰黄褐10YR6/2	外面煤
373	南池J区	黒粘土	弥生	甕	26.2			口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	口縁部ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	外面煤
374	南池J区	黒色粘土	弥生	甕				胴部不明瞭だがハケメか?	胴部ユビオサエの後ナデ	褐灰10YR6/1	
375	南池J区	黒粘土	弥生	甕				刻目、工具の当たり痕、ナデ	口縁部ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	外面煤
376	南池J区	黒粘土	弥生	甕				刺突	ユビオサエ後ナデ	灰褐10YR6/2	外面煤
377	南池J区	黒色粘土	弥生	甕				工具によるナデ	ナデ	灰褐7.5YR6/2	
378	南池J区	黒粘土	弥生	鉢				口縁部ヨコナデ、胴部ナデ後ヘラミガキ	胴部ナデ後ヨコヘラミガキ	灰褐10YR5/1	
379	南池J区	黒粘土	弥生	蓋				ヨコナデ	ユビオサエ後ナデ	灰褐7.5YR5/2	
380	南池J区	黒粘土	弥生	蓋				ナデ後ヨコヘラミガキ	ユビオサエ後ヨコヘラミガキ	灰黄褐10YR6/1	煤
381	南池J区	黒色粘土	弥生	壺?			11.5	底部工具によるナデ	剥落して調整不明、ナデか?	にぶい黄橙10YR7/2	
382	南池J区	黒粘土	弥生	壺?			9.1	底部タテハケメ、底面ナデか?	底部ユビオサエ後ナデか?	黄灰2.5Y6/1	
383	南池J区	黒粘土	弥生	壺?			9	底部ユビオサエ後ハケメ、沈線2条	ナデか? 剥落して調整不明	にぶい橙7.5YR6/4	蓋か?
384	南池J区		弥生	壺?			8.9	ユビオサエ、底面ヘラミガキ	摩耗が激しく不明瞭、一部ヘラミガキ	にぶい黄橙10YR7/2	黒色粘土 底部のみ残存
385	南池J区		弥生	壺?			6.2	ナデ	ナデ	橙7.5YR7/6	黒色粘土 底部のみ残存
386	南池J区	黒粘土	弥生	甕?			6.7	胴部ナデ、底面ナデか?	調整不明	灰褐7.5YR5/2	胴部内面煤
387	南池J区	黒色粘土	弥生	甕?			8	底部工具によるナデ、底面ナデ	工具によるヨコナデ	明赤褐5Y5/6	底面に粉痕
388	南池J区	黒粘土	弥生	甕?			6.6	工具によるナデか? 底面ナデ	ナデ	浅黄橙7.5YR8/3	黒斑
389	南池J区		弥生	甕?			6.1	摩耗している	工具によるナデ	にぶい黄橙10YR7/3	
390	南池J区	黒色粘土	弥生	甕?				底面ユビオサエ後ナデ	ナデ、ユビオサエ	橙5YR6/6	底面穿孔1個、黒斑?
391	南池J区	黒色粘土	縄文	深鉢				沈線1条、刻目	口縁部ヨコナデ、刻目	灰黄褐10YR6/2	外面煤
392	南池J区	黒粘土	縄文	深鉢				口縁部ヨコナデ	口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	褐灰7.5YR4/1	口縁部外面煤
393	南池住9下層	黒褐色包含層	弥生	壺	15.3			口縁部ヨコナデ、頸部～胴部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ	灰黄2.5YR7/2	胴部内面に黒斑
394	南池住9下層	2区青色砂層	弥生	壺	14.5			肩部は剥落して調整不明	肩部ユビオサエ及びナデ	にぶい橙7.5YR7/4	
395	南池住9下層	2区青色砂層	弥生	壺	17.2			口縁部ヨコヘラミガキ	ユビオサエ後ヘラミガキ	灰白10YR8/2	
396	南池住9下層		弥生	壺	15.4			タテハケメ、工具によるナデ	剥落して調整不明	にぶい橙7.5YR6/4	
397	南池住9下層	褐色砂	弥生	壺	19.4			口縁部ユビオサエ後ナデ	ユビオサエ後ヨコヘラミガキ	橙5YR6/6	
398	南池住9下層	2区青色砂層	弥生	壺	14.2			口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	灰白10YR8/1	
399	南池住9下層	青色砂層	弥生	壺				沈線文、丁寧なナデ	頸部ユビオサエ後ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	
400	南池住9下層	黒褐色	弥生	壺				ナデ及びヨコ・ナナメヘラミガキ	ユビオサエ	にぶい黄橙10YR7/3	
401	南池住9下層	黒土層下部	弥生	壺				口縁部ヨコナデ、沈線1条	口縁部ヨコナデ、ヨコヘラミガキ	にぶい黄橙10YR7/2	
402	南池住9下層	東端砂層中	弥生	壺				口縁部ナデ、ユビオサエ	工具によるナデか?	灰白10YR8/2	
403	南池住9下層	2区	弥生	壺				口縁部ユビオサエの後ナデ	ヨコ・ナナメヘラミガキ	にぶい黄橙10YR6/3	
404	南池住9下層	1区砂層	弥生	壺				口縁部ナデ、沈線1条、ユビオサエ	口縁部ヘラミガキ風のナデ?	にぶい橙7.5YR7/3	
405	南池住9下層	黒土	弥生	壺				口縁部ヨコナデ後ヘラミガキか?	口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ?	灰褐10YR5/1	
406	南池住9下層	黒褐色	弥生	壺				ヨコヘラミガキ	ヘラミガキ	褐灰10YR4/1	
407	南池住9下層	1区東端砂層	弥生	壺				ナデ、工具によるナデ	ユビオサエ後ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	
408	南池住9下層	1区東端砂層	弥生	壺				ナデ、工具によるナデ、段	ユビオサエ後ナデ	橙5YR7/6	
409	南池住9下層	1区北壁下層	弥生	壺				ヨコ・ナナメヘラミガキ、沈線3条	ユビオサエ後ヨコナデ	灰黄褐10YR6/2	
410	南池住9下層	2区青色砂層	弥生	壺				ナデ後ヘラミガキ、沈線1条	ナデ、一部ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	
411	南池住9下層	2区青色砂層	弥生	壺				ナデ、段下に沈線4条	ナデ、ユビオサエ後ヨコナデ	浅黄橙10YR8/3	
412	南池住9下層	黒褐色包含層	弥生	壺				ヘラミガキ、沈線3条	ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	胴部一部残存 黒斑
413	南池住9下層	2区青色砂層	弥生	壺				ナデ後ヘラミガキ? 胴部上沈線2条、下2条	ユビオサエ後ナデ、工具当たり痕	にぶい褐7.5YR6/3	
414	南池住9下層	2区青色砂層	弥生	壺				丁寧なナデ、段下に沈線文	ユビオサエ後ナデ	灰白10YR8/2	
415	南池住9下層	北側下層	弥生	壺				ヘラミガキ、沈線4条	不明	にぶい黄橙10YR7/3	
416	南池住9下層	黒褐色	弥生	壺				沈線1条後ヨコヘラミガキ?	ユビオサエ後ナデ	にぶい橙5YR6/4	

土器観察表

掲載番号	調査区	遺構・層位名	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調	備 考
417	南池住9下層	1区黒土上部	弥生	壺				ナデ、斜格子文	ユビオサエ後ナデ	にぶい橙 7.5YR7/3	
418	南池住9下層	住居址黒褐色	弥生	壺				ナデ後ヘラミガキ、綾杉文	ユビオサエ後ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	
419	南池住9下層	黒土層下部	弥生	壺				ヘラミガキ、斜めのヘラ描きによる文様	ヨコ・ナナメヘラミガキ	にぶい橙 5YR6/4	
420	南池住9下層	黒褐色包含層	弥生	壺				円滑なヘラミガキ後一部ナデ	ヨコヘラミガキが一部みられる	にぶい赤褐 2.5YR5/4	木葉文
421	南池住9下層	黒褐色包含層	弥生	壺				木葉文、平行線文4条	極細のナデ	灰褐7.5YR5/2	
422	南池住9下層	1区黒下部	弥生	壺				ナデ後沈線による弧文	丁寧なナデ	灰白10YR8/2	
423	南池住9下層	黒土上部	弥生	壺				ナデの後沈線2本及び弧文	ナデか?	にぶい黄橙 10YR7/2	
424	南池住9下層	黒褐色包含層	弥生	壺				ナデ後木葉文	剥落して調整不明	にぶい橙 7.5YR7/4	
425	南池住9下層	北側下層	弥生	壺				段、木葉文	ナデ	にぶい橙 5YR7/4	
426	南池住9下層	黒褐色	弥生	甕	19.7			肩部剥落して調整不明	胴部ユビオサエ後ナデ	褐灰10YR6/1	外面煤
427	南池住9下層	北壁トレ下層	弥生	甕	21.3			胴部タテハケメ及びナデ	胴部ユビオサエ	にぶい橙 5YR6/4	
428	南池住9下層	黒土上部Ⅲ	弥生	甕				口縁部ナデ、胴部工具によるナデ	口縁部ナデ	にぶい黄橙 10YR6/3	口縁部外面黒斑
429	南池住9下層	青色砂粒	弥生	甕?				肩部工具によるナデ	口縁部ユビオサエ後ナデ	灰白10YR8/2	
430	南池住9下層	黒褐色包含層	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ナデ	口縁部ユビオサエ後ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	
431	南池住9下層	2区青色砂粒	弥生	甕				胴部タテハケメ	口縁部ナデ、胴部調整不明	にぶい橙 7.5YR7/4	
432	南池住9下層	黒褐色包含層	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	ユビオサエ後ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	
433	南池住9下層	北壁トレ下層	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ヘラミガキ	口縁部ユビオサエ後ヘラミガキ	明赤褐5YR5/6	
434	南池住9下層	2区青色砂粒	弥生	甕				口縁部ナデ	ユビオサエ及びナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	
435	南池住9下層	北壁トレ下層	弥生	甕	21			口縁部ヨコナデ、胴部タテ・ナナメハケメ	ユビオサエ後ナデ	灰黄橙 10YR5/2	外面黒斑及び煤
436	南池住9下層	1区黒土上部	弥生	甕	21.8			口縁部ヨコナデ、胴部ナナメハケメ	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 5YR6/4	
437	南池住9下層	黒褐色包含層	弥生	甕	21.2			口縁部ナデ、刻み目、胴部ナデか?	胴部ユビオサエ後ナデ	橙5YR6/6	
438	南池住9下層	黒粘土質	弥生	甕	22.7			口縁部ユビオサエ後ナデ、胴部ハケメ	口縁部ユビオサエ後ナデ、胴部不明	灰白10YR7/1	外面黒斑
439	南池住9下層	1区黒土上部	弥生	甕				タテナデ?	工具によるナデ	浅黄橙 10YR8/3	
440	南池住9下層	1区黒下部	弥生	甕				口縁部ナデ、刻み目	口縁部ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	
441	南池住9下層	黒褐色包含層	弥生	甕				胴部工具ナデ	ユビオサエ後ナデ	灰褐10YR5/1	
442	南池住9下層	1区北壁トレンチ	弥生	甕				胴部ナナメハケメ	口縁部ヨコナデ	橙2.5YR6/6	
443	南池住9下層	黒褐色	弥生	甕				口縁部ナデ、刻み目	口縁部ナデ、ユビオサエか?	にぶい黄橙 10YR7/4	
444	南池住9下層	1区黒土上部	弥生	甕				タテハケメ	ユビオサエ後ナデ	灰黄褐 10YR6/2	
445	南池住9下層	黒褐色	弥生	甕				口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、ユビオサエ	浅黄橙 7.5YR8/3	
446	南池住9下層	黒褐色	弥生	甕				口縁部ナデ	口縁部ナデ	灰白10YR8/2	
447	南池住9下層	黒褐色	弥生	甕				口縁部ユビオサエ後ナデ	口縁部ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	
448	南池住9下層	1区黒土上部	弥生	甕	18.5			口縁部ユビオサエ後ナデ	口縁部ユビオサエ後ナデ	灰白10YR8/2	
449	南池住9下層	1区黒土上部	弥生	甕				ユビオサエ後ナデ、沈線1条	口縁部ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	
450	南池住9下層	黒褐色	弥生	甕				刺突・沈線	ユビオサエ後ナデ	にぶい褐 7.5YR6/3	
451	南池住9下層	黒褐色	弥生	甕				胴部ナデ、刻み目	胴部ユビオサエ後ナデ	にぶい褐 7.5YR5/3	
452	南池住9下層		弥生	甕				口縁部ヨコナデ、刻み目、ナデ	ユビオサエ後ナデ	橙5YR6/6	黒斑
453	南池住9下層	北壁トレ下層	弥生	甕				ナデ、刻み目	ユビオサエ後ナデ	褐灰10YR6/1	外面黒斑及びふきこぼれ
454	南池住9下層	2区青色砂粒	弥生	蓋				ナデ?後ヘラ描の木葉文	ヨコのヘラミガキ?	にぶい黄橙 10YR7/2	
455	南池住9下層	青色砂粒	弥生	蓋				ヘラミガキ後丁寧なナデ	丁寧なナデ、一部ユビオサエ	灰白10YR7/1	内面煤及び黒斑
456	南池住9下層	1区黒下部	弥生	鉢	20.2			胴部ヘラミガキ	タテ・ヨコヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/2	外面黒斑
457	南池住9下層	上部褐色砂	弥生	高杯?				口縁部ナデ後ヨコヘラミガキ	口縁部ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	外面黒斑
458	南池住9下層	1区黒土下部	弥生	鉢?				口縁部ヨコナデ	工具ナデ?	浅黄橙 7.5YR8/3	
459	南池住9下層	黒褐色	縄文	深鉢				口縁部ナデ、貼り付け突帯で刻み目	工具によるナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	
460	南池住9下層	1区黒下部	縄文	深鉢				口縁部ナデ、貼り付け突帯で刻み目	口縁部ナデ後ヨコヘラミガキ	灰白10YR8/2	外面黒斑
461	南池住9下層	黒褐色包含層	縄文	深鉢				ヨコナデ後沈線	工具によるナデ	にぶい褐 7.5YR6/3	
462	南池住9下層	黒褐色包含層	弥生	壺			8.7	胴部下はヨコヘラミガキ	剥落して調整不明	灰褐7.5YR6/2	

観 察 表

掲載 番号	調査区	遺構・ 層位名	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調	備 考
463	南池住9下層	黒褐色包含層	弥生	壺			9.3	剥落して調整不明	剥落して調整不明	にぶい橙 7.5YR6/4	
464	南池住9下層	2区青色砂粒	弥生	壺?			6.7	底面工具によるナデ	工具によるナデ	明褐色 7.5YR7/2	
465	南池住9下層	2区青色砂粒	弥生	壺?			9	ナナメヘラミガキ	ヨコ・ナナメナデ	にぶい橙 5YR6/4	
466	南池住9下層	床面上	弥生	壺?			7.9	タテ・ヨコ・ナナメヘラミガキ	ナデ後ヨコ・ナナメヘラミガキ	橙2.5YR6/6	
467	南池住9下層	1区黒土下部	弥生	壺?			8.5	底面ユビオサエ後ナデ	ナデ、ユビオサエ	灰褐10YR4/1	
468	南池住9下層	2区青色砂粒	弥生	壺?				ヨコヘラミガキ	丁寧なナデ	にぶい褐 7.5YR6/3	底面粗痕あり
469	南池住9下層	2区青色砂粒	弥生	壺?			8	ヨコヘラミガキか?、底面ナデ	剥落して調整不明	にぶい橙 2.5YR7/3	
470	南池住9下層	黒粘土質	弥生	壺?			8	ユビオサエ後ヘラミガキ	工具痕あり、ナデ	灰白10YR8/2	底面外面黒斑
471	南池住9下層	黒褐色包含層	弥生	壺?			10	ヨコヘラミガキ	ナデか?	にぶい橙 2.5YR6/4	底部に黒斑
472	南池住9下層	2区青色砂粒	弥生	壺?				底面ユビオサエ後ナデ	ユビオサエ及びナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	
473	南池住9下層	2区青色砂粒	弥生	甕?			8	底部タテハケメ	ナデ	にぶい橙 7.5YR7/3	
474	南池住9下層	1区黒土下部	弥生	甕?			10	ユビオサエ後タテハケメ	ナデか?	にぶい褐 7.5YR5/3	
475	南池住9下層	1区黒土上部	弥生	甕?			7.3	ハケメが少しみられる	ナデと思われるが不明	にぶい橙 5YR6/4	
476	南池住9下層	2区青色砂粒	弥生	甕?				底部ユビオサエ及び工具ナデ	ユビオサエ及びナデ	にぶい褐 7.5YR6/3	
477	南池住9下層	黒褐色	弥生	甕?			8.4	底面繊維痕?	剥落して調整不明	灰白10YR7/1	
478	南池住9下層	1区 黒下部	弥生	甕?			7	工具による当たりがみられる	剥落して調整不明	にぶい黄橙 10YR7/2	
479	南池住9下層	1区 黒土	弥生	甕?			6.8	ナデ、底面ユビオサエ	ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	
480	南池6トレ	黒褐色包含層	弥生	壺				ヨコヘラミガキ、削りだし突帯	口縁部ヨコヘラミガキ	にぶい橙 7.5YR7/4	
481	南池6トレ	黒褐色包含層	弥生	壺	17.2			ヨコ・ナナメのヘラミガキ	ヨコのヘラミガキ	にぶい橙 7.5YR6/4	
482	南池6トレ	壁のpit	弥生	壺				ヨコヘラミガキ	タテ・ヨコヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/3	胴部黒斑
483	南池6トレ	褐色砂	弥生	壺				ヨコのヘラミガキ、段下沈線3条	不定のナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	胴部黒斑
484	南池6トレ		弥生	壺				ヘラミガキの上を沈線	ナデか	にぶい黄橙 10YR7/3	
485	南池6トレ	黒褐色粘土	弥生	壺				ヨコナデ、刺突	ナデ	浅黄橙 7.5YR8/6	
486	南池6トレ	壁のpit	弥生	壺				ヘラミガキ、木葉文	指頭による押圧の後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	胴部黒斑
487	南池6トレ	壁のpit	弥生	壺				調整不明	調整不明	灰黄橙 10YR6/2	
488	南池6トレ	砂質包含層	弥生	壺?				赤色顔料による線	調整不明	にぶい黄橙 10YR7/3	
489	南池6トレ	黒褐色包含層	弥生	甕				口縁部ユビオサエの後ナデ	剥落で調整不明	にぶい黄橙 7.5YR7/3	
490	南池6トレ	黒褐色包含層	弥生	壺				口縁部ナデ	剥落で調整不明	橙7.5YR7/6	
491	南池6トレ	黒褐色包含層	弥生	甕				口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	褐色10YR4/1	
492	南池6トレ	黒褐色包含層	弥生	甕				口縁部刺突、ヨコナデ	剥落して調整不明	にぶい黄橙 10YR7/4	
493	南池6トレ	砂質包含層	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、ハケメ(ナナメ)	口縁部ヨコナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	
494	南池6トレ	壁のpit	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、胴部不明	剥落で調整不明	にぶい褐 7.5YR5/4	
495	南池6トレ	壁のpit	弥生	甕				口縁部ヨコナデ?ハケメ	剥落で調整不明	にぶい黄橙 10YR7/2	
496	南池6トレ	砂質包含層	弥生	甕				口縁部ヨコナデ	剥落で調整不明	にぶい黄橙 10YR7/2	黒斑
497	南池6トレ	黒褐色包含層	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	胴部剥落して調整不明	明赤褐 2.5YR5/8	
498	南池6トレ	砂質包含層	弥生	甕				口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	にぶい褐 7.5YR5/4	
499	南池6トレ	黒褐色包含層	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、ナデ?	胴部剥落して調整不明	橙5YR6/6	
500	南池6トレ	黒褐色包含層	弥生	甕				ユビオサエの後ナデ	剥落で調整不明	浅黄橙 7.5YR8/3	
501	南池6トレ	黒褐色包含層	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	不定のナデ	灰褐7.5YR5/2	
502	南池6トレ	黒褐色包含層	弥生	甕				口縁部にヨコナデ	ヨコナデか?	にぶい黄橙 10YR6/3	
503	南池6トレ	黒褐色粘土	弥生	甕				口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	灰褐7.5YR4/2	
504	南池6トレ	黒褐色包含層	弥生	甕?				口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	にぶい黄橙 10YR6/3	上下逆の可能性
505	南池6トレ	黒褐色包含層	弥生	蓋				ナデ	調整不明	灰白7.5YR8/2	
506	南池6トレ	黒褐色包含層	弥生	蓋				ハケメ、工具によるヨコナデ	ナデか?剥落して調整不明	橙5YR6/6	
507	南池6トレ		弥生	蓋			7.4	ヘラミガキか?底部指頭による押圧	ハケメの後ナデ	橙7.5YR7/6	煤
508	南池6トレ	上部攪乱層	弥生	壺?			12.8	ハケメ	調整不明	橙5YR6/6	
509	南池6トレ	黒褐色包含層	弥生	壺?			8.0	タテハケメか?	剥落で調整不明	にぶい黄橙 10YR7/2	

掲載番号	調査区	遺構・層位名	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調	備 考
510	南池6トレ		弥生	甕?			6.5	剥落して調整不明	ユビオサエ	にぶい黄橙 10YR6/3	底面葉脈痕跡
511	南池6トレ	砂質包含層	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	黄灰2.5Y5/1	
512	南池6トレ		縄文	浅鉢				右上がり縄文帯	ナデ	にぶい黄橙10 YR7/3	
513	南池6トレ		縄文	浅鉢				口縁部ヨコナデ、沈線5 条	口縁部ヨコナデ、沈線 1条	にぶい黄橙 10YR7/3	
514	南池6トレ	砂質包含層	弥生	深鉢				沈線2条	調整不明	にぶい黄橙 10YR7/3	
515	南池6トレ	黒褐色包含 層	縄文	深鉢				貼り付け突帯	剥落して調整不明	灰褐7.5YR5/1	
516	南池6トレ	黒褐色包含 層	縄文	深鉢				口縁部ヨコナデ、貼り付 け突帯	口縁部ヨコナデ	灰白2.5Y7/1	
517	南池6トレ	黒褐色粘土 層	縄文	深鉢				剥落して調整不明、突帯 あり	剥落して調整不明	褐灰7.5YR5/1	
518	南池6トレ	黒褐色包含 層	縄文	鉢	10.6			剥落して調整不明	口縁部に刺突、胴部ユ ビオサエ	にぶい黄橙 10YR6/4	
519	南池6トレ	黒褐色粘土 層	縄文?	鉢?				口縁部ヘラミガキ	口縁部ヘラミガキ	橙7.5YR7/6	弥生前期高杯か?
520	南池7トレ	1区	弥生	壺				口縁部ヨコヘラミガキ	ヨコヘラミガキ	橙2.5YR6/6	
521	南池7トレ		弥生	壺	13.6			口縁部ヨコナデ、頸部ヘ ラミガキ	口縁部ヨコナデ、頸部 ヘラミガキ	にぶい橙 7.5YR7/4	
522	南池7トレ	黒褐色包含 層	弥生	壺?				調整不明	調整不明	橙5YR6/6	
523	南池7トレ	砂層	弥生	壺				貼り付け突帯、刺突	ハケメ (1.3cm幅に8 本)	にぶい橙 7.5YR6/4	
524	南池7トレ	青色砂層	弥生	甕	22.0			口縁部ヨコナデ、胴部ナ デ	口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ	灰黄2.5Y7/2	
525	南池7トレ	青色砂層	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、胴部ハ ケメ	口縁部ヨコナデ、胴部 ユビオサエ	にぶい黄橙 10YR7/3	粘土紐の痕跡
526	南池7トレ		弥生	甕				口縁部ヨコナデ、刺突	胴部左の強いナデ	灰白10YR8/2	
527	南池7トレ	青色砂層下 部	弥生	甕	20.8			口縁部ヨコナデ、胴部ナ デ	口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ	灰黄2.5Y7/6	
528	南池7トレ	青色砂層	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、胴部沈 線2条	胴部ナデ、ユビオサエ	灰白2.5Y8/2	
529	南池7トレ	黒褐色包含 層	弥生	甕	19.4			口縁部ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/3	
530	南池7トレ	青色砂層	弥生	甕				ナデ、指頭による押圧	ナデ	にぶい黄橙 10YR6/3	
531	南池7トレ	黒色粘土上 面	弥生	甕				沈線、ナデ	剥落して調整不明	にぶい橙 7.5YR6/4	
532	南池7トレ 1区	黒褐色包含 層	弥生	壺?			7.9	底部から底面ヘラミガキ	ヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	底部に黒斑
533	南池7トレ 1区	青色砂層下 部	弥生	壺?			8.8	ナデ、底部ユビオサエ	ハケメ後ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	黒斑
534	南池7トレ 1区		弥生	壺?			9.0	ナデ、底部ユビオサエ	ナデ	橙7.5YR7/6	底部に黒斑
535	南池7トレ 1区		弥生	壺?			11.2	底部ヨコヘラミガキ	底部押圧後ヘラミガキ	浅黄2.5Y7/3	
536	南池7トレ 1区	青色砂層下 部	弥生	甕?			9.1	ハケメ	ハケメ、ユビオサエ	灰黄2.5Y7/5	
537	南池7トレ 1区	青色砂層	弥生	甕?			9.0	底部に沈線4条	調整不明	にぶい黄橙 10YR6/3	蓋か?
538	南池7トレ 1区	青色砂層下 部	弥生	高杯				ヨコヘラミガキ	ナデ	灰白10YR8/2	
539	南池4カッ ト	(ハ) (ホ)	弥生	壺	16.9			口縁部ヨコナデ、ヨコヘ ラミガキ	ヨコヘラミガキ	にぶい橙 7.5YR6/4	外面煤
540	南池4カッ ト	(ハ) (ホ)	弥生	甕				剥落して調整不明、刺突 あり	口縁部ヨコナデ、ナデ あり	灰黄褐 10YR4/2	
541	南池4カッ ト		弥生	甕				口縁部ヨコナデ、胴部ナ デ	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	[U-4カットE隅]
542	南池4カッ ト		弥生	甕				口縁部ヨコナデ、胴部ナ デ	口縁部ヨコナデ、胴部 ナデ	明赤褐 2.5YR5/6	[U-4カット(ハ) (ホ)]
543	南池4カッ ト	(ハ) (ホ)	縄文	深鉢				口縁部ナデ、線刻	口縁部ナデ、ヨコハケ メ	灰褐7.5YR5/2	
544	南池4カッ ト	(ハ) (ホ)	弥生	壺?			9.6	剥落して調整不明	剥落して調整不明	にぶい黄橙 10YR7/4	底部外面黒斑
545	南池4カッ ト	(ハ) (ホ)	弥生	甕?			8.0	剥落して調整不明	剥落して調整不明	にぶい黄橙 10YR7/3	底面に黒斑
546	南池8トレ A区	上層青色粘 土	弥生	壺	12.1			凹線4条、頸~胴部上は タテハケメ	胴部下タテハケメ後ヨ コナデ	灰白10YR7/1	口縁部・胴部外面 に黒斑
547	南池8トレ A区	上層青色粘 土	弥生	壺	11.4			口縁部ヨコナデ、胴部ハ ケメ	頸部ユビオサエ、胴部 ハケメ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	
548	南池8トレ A区	下層	弥生	壺	6.8	26.6	6	ヨコヘラミガキ、下はタ テヘラミガキ	中央部はケズリ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	胴部に黒斑
549	南池8トレ A区		弥生	甕	19.4			凹線4条、胴部上ハケメ、 下タテヘラミガキ	胴部上ハケメ、下ユビ オサエ及びナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	胴部外面煤、ふき こぼれ
550	南池8トレ A区		弥生	甕	15.6			口縁部凹線4条竹管文 (上下2段18個)	胴部下はタテの板状工 具ナデ	灰白10YR7/1	胴部黒斑
551	南池8トレ A区		弥生	甕	14.9			凹線2~3条、胴部上ハケ メ後ナデ	胴部ユビオサエ後ハケ メ	にぶい黄橙 10YR7/2	外面全体に煤
552	南池8トレ A区	上層青色粘 土	弥生	甕	14			口縁部凹線5条、胴部タ テハケメ	口縁ヨコナデ、胴部ユ ビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	口縁外面初痕、 外面黒斑
553	南池8トレ A区	上層青色粘 土	弥生	高杯	12.7			口縁部ヨコナデ、凹線8 条、杯部ヘラミガキ	杯部板状工具ナデ、脚 柱部ヘラケズリ	灰黄褐 10YR6/2	
554	南池8トレ A区		弥生	高杯	26.0			口縁部ヨコナデ、凹線、 ヘラミガキ(六角形)	口縁部ヨコナデ、ヘラ ミガキ	にぶい黄橙 10YR7/3	
555	南池8トレ A区		弥生	台付 鉢	25			口縁部ヨコナデ、竹管文 (上下16組5か所)、棒状 浮文5個組5か所、胴部 ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、凹線 1条、胴部ユビオサエ 後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	

観 察 表

掲載番号	調査区	遺構・層位名	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調	備 考
556	南池8トレA区	上層	弥生	鉢	24.7			口縁部凹線4条、円形竹管文、棒状浮文6本	口縁部ヨコナデ、ハケメの後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	
557	南池北4C区		弥生	壺	11.4			口縁・頸部ヨコナデの後竹管文	口縁部～頸部ヨコナデ	にぶい黄橙 7.5YR7/3	[北4C青灰粘]
558	南池北6区		弥生	壺				口縁部ヨコナデ、貼り付け突帯4条	口縁部ヨコナデ、ナデか?	灰黄褐 10YR6/2	
559	南池北2C区	表土、褐粘砂	弥生	壺	17.4			肩部ヨコ・ナメヘラミガキ	口縁部ナデ、肩部ヘラケズリ	にぶい黄橙 7.5YR6/4	
560	南池北2C区	表土、褐粘砂	弥生	壺	7.9			口縁部ヨコナデ、肩部タテヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、ナデ後ヨコヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/3	
561	南池北2B区	I層	弥生	高杯			14	脚柱部タテハケメ後ヨコヘラミガキ	脚柱部工具ナデ、脚裾部ハケメ	にぶい黄橙 10YR7/2	脚部外面黒斑
562	南池北4B区		弥生	製塩土器			5.8	ユビオサエ、ナデ	ユビオサエ、ナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	[U-北4B-2]
563	南池北6区	褐色砂質粘土	弥生	鉢				口縁部剥落して調整不明、胴部ハケメ	胴部ヨコケズリ後一部ヘラミガキ	にぶい黄橙 7.5YR7/3	口縁部外面に煤か
564	南池3カッ卜	黒褐色土層中	弥生	高杯	18.0	8.1	10.3	脚裾部タテハケメ後ヘラミガキ	杯部タテヘラミガキか?	橙5YR6/6	[U大] 断面図に出土位置
565	南池J区西	黒土(壁)	弥生	壺	21.2			口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ	口縁部ユビオサエ後ヨコナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	内面黒斑
566	南池J区南	表土	弥生	壺	18.5			頸部沈線3条のみ残存	ヨコハケメ後タテヘラミガキ	橙5YR6/6	
567	南池J区東	褐色土中	弥生	甕	15.8			口縁部ヨコナデ、凹線3条ほど	胴部上はユビオサエ後ナデ	褐灰10YR5/1	胴部外面煤、内面黒斑
568	南池J区東		弥生	甕				口縁部ヨコナデ、沈線3条	口縁部ヨコナデ	橙2.5YR6/6	
569	南池J区東		弥生	甕				口縁部ヨコナデ、一部その上から工具ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	にぶい黄橙 7.5YR7/3	
570	南池J区東		弥生	甕			5.1	タテハケメ、底面ナデ後ハケメ	ケズリ後ハケメ	灰褐10YR6/1	
571	南池J区東	黒土	弥生	甕?			4.1	工具によるナデ後ヘラミガキ	ユビナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	内面黒斑?
572	南池1区		弥生	甕				口縁部横挿沈線あり	ナデか?	7.5YR7/4	[U1h2]
573	南池1区		弥生	甕				口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙 7.5YR6/4	[U-1-h2面上] 胴外面煤
574	南池1区		弥生	高杯				杯部横ヘラミガキ	剥落のため不明	橙5YR7/6	[U1h2]
575	南池1区		弥生	高杯				鋸歯文あり、タテヘラミガキ	ヨコナデ	にぶい黄橙 7.5YR7/4	[U1暗灰砂]
576	南池2区	竪穴住居3下	弥生	甕	14.3			胴部タタギの痕跡後タテハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙 10YR7/2	[U-2a-7住居下 黄褐砂]
577	南池2区		弥生	甕	13.7			頸部ハケメの上からヨコヘラミガキ?	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙 10YR6/3	[U-2F-青灰色粘土下部]
578	南池2区		弥生	甕	13.6			口縁部に擬凹線、頸部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙 7.5YR6/3	[U-2F-青灰色粘土下部]
579	南池2区		弥生	甕	14.8			口縁部ヨコナデ、肩部タテハケメ	口縁部ナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙 7.5YR7/3	
580	南池2区	住居掘込内	弥生	甕	16.0			口縁部ヨコナデ、ヨコヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙 10YR6/3	[U大-2e]
581	南池2区		弥生	甕	14.9			胴部ハケメか?	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	橙7.5YR6/6	胴部に黒斑
582	南池2区	竪穴住居3下	弥生	鉢	20.7			口縁部工具ナデ?	ヘラケズリ、上をヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/2	
583	南池2区		弥生	高杯	19.0			口縁部ヨコナデ、杯・脚柱部ナデ、穿孔3つ	杯部放射状ヘラミガキ	橙2.5YR6/6	蓋に転用 口縁部内面煤
584	南池2区		弥生	高杯	16.6			杯部ヘラケズリ後ハケメ、ナデ	杯部放射状ヘラミガキ	にぶい黄橙 5YR7/4	[U-2f 青灰粘土]
585	南池2区		弥生	高杯			11.4	タテヘラミガキ、沈線	ハケメ、ヨコナデ	にぶい黄橙 7.5YR7/4	
586	南池2区	竪穴住居3下	弥生	高杯				ヘラミガキ、脚柱部ヨコナデ、竹管文	杯内部ヘラミガキか?	にぶい黄橙 7.5YR7/4	
587	南池2区		土師器	高杯			11.3	脚柱部タテハケメ後ナデ	脚中央部しぼり痕	浅黄橙 7.5YR8/6	[U2黒褐]
588	南池2区		弥生	台付鉢	7.2			タテヘラミガキ	ヘラミガキ、脚部調整不明	にぶい黄橙 10YR7/4	
589	南池2区		弥生	鉢	5.5			口縁部工具ナデ?、胴部ハケメ	ユビオサエ・ヘラケズリ	にぶい黄橙 7.5YR7/4	[U-2C]
590	南池2区		弥生	台付鉢			3.4	タタキ?、ユビオサエ	ナデ、脚内部ユビオサエ	橙5YR6/6	[U-2b]
591	南池2区		弥生	製塩土器			4.1	ユビオサエ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	[U-2F-青灰色粘土下部]
592	南池2区		弥生	鉢	23.4			口縁部に擬凹線、ヨコナデ	ヨコヘラミガキ	浅黄橙 7.5YR8/6	
593	南池2区	竪穴住居3下	弥生	鉢	23.8			口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ	ヘラケズリ後ハケメ上ヘラミガキ	黒褐10YR3/1	
594	南池2区		土師器	鉢	52.0			口縁部ヨコナデ、胴部タテハケメ	胴部ヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	
595	南池4区		弥生	壺	16.4	29.3	6.4	胴部下は工具の単位が太くなり工具ナデ?	口縁部～頸部ナデ、胴部ケズリ	にぶい黄橙 5YR7/4	山陽学園保管、胴外面煤
596	南池4区		弥生	壺	16.5	28.9	7.1	口縁部工具ヨコナデ、鋸歯文7つ、沈線12条	口縁部工具ヨコナデ、頸部ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	
597	南池4区		弥生	壺	14.7			口縁部に擬凹線、ヨコナデ	口縁部ヨコナデ・ヘラミガキか?	にぶい黄橙 10YR7/2	[U4-3]
598	南池4区		弥生	壺	17.0			胴部工具ナデかヘラミガキ	頸部ヨコヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	山陽学園保管、口縁部外面・頸部内面煤
599	南池4区		弥生	甕	13.2			口縁部ヨコナデ、肩部～胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙 10YR7/2	[U4-2] 外面煤
600	南池4区		弥生	甕	12.7	17.5	4.6	口縁部ヨコナデ	口縁部剥落のため不明	灰赤2.5YR6/2	[U4-2] 黒斑
601	南池4区		弥生	甕	16.8			肩部ハケ後ヘラミガキか?	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙 5YR6/4	外面煤
602	南池4区		弥生	甕	15.3			口縁部に擬凹線、頸部ヨコナデ	胴部ユビオサエ、ヘラケズリ	にぶい黄橙 7.5YR7/3	[U4-3] 外面煤

掲載番号	調査区	遺構・層位名	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調	備 考
603	南池4区		弥生	甕	16.8			口縁部ヨコナデ、胴部タテハケメ	ヨコナデ、ヘラケズリ	にぶい橙 5YR6/3	【U4-(4F)、U4-1】外面煤
604	南池4区		弥生	甕	14.0			口縁下ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ナデ、ヘラケズリ	にぶい橙 7.5YR7/3	【U4-3】
605	南池4区		弥生	甕	17.8	18.9	7.7	口縁部ヨコナデ、胴部～底部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	浅黄橙 7.5YR8/6	外面黒斑
606	南池4区		弥生	高杯	19.6			口縁部反復ヘラミガキ、杯部ヘラミガキ	口縁部ヘラミガキ、杯部ヘラミガキ	にぶい橙 7.5YR7/3	山陽学園保管
607	南池4区		弥生	高杯			16.4	脚柱部タテヘラミガキか?	脚柱部ヨコハケメ	にぶい橙 5YR6/4	山陽学園保管
608	南池4区		弥生	高杯	30.4			口縁部ヘラミガキ、杯部ヨコヘラミガキ	杯部タテヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/3	【U4-3】内・外面に黒斑
609	南池4区		弥生	高杯	11.0	8.0	8.9	杯部ヨコ・ナメヘラミガキ、脚柱部指頭による押圧	口縁部ヨコハケメの後タテヘラミガキ	橙7.5YR7/6	杯内部黒斑 杯部と脚部で異なる粘土使用
610	南池4区		弥生	高杯			14.1	剥落しているため調整不明	粘土を補充した痕跡	橙5YR6/6	
611	南池4区		弥生	鉢	43.6			口縁部ヨコナデ、肩部・胴部ハケメ	胴部下はヘラケズリ後タテヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/3	外面黒斑
612	南池4区		弥生	鉢	29.4		7.6	胴部ハケメ後ヘラミガキ	胴部ヨコヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	山陽学園保管、【U4-B】【U4-3】黒斑
613	南池4区		弥生	鉢	30.7			胴部ハケメ後ヘラミガキ	胴部ヨコヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	【U4-かん】内面に黒斑
614	南池4区		弥生	鉢	15.0	10.2	5.0	胴部ハケメの上をヘラミガキ	口縁部工具によるナデ	灰黄褐 10YR6/2	【U4-(4F)】外面煤
615	南池4区		弥生	鉢?	20.0			口縁部ヨコナデ、胴部ヨコハケメ	ハケメ後ナデ、ヘラケズリ	にぶい黄橙 10YR7/3	黒斑
616	南池4区		弥生	台付鉢	11.3	7.2	4.4	脚部指頭による押圧	脚内部に指頭による押圧	橙5YR6/6	
617	北池4区		弥生	高杯	18.7			ヨコヘラミガキ	剥落して調整不明	橙7.5YR7/6	【U小4】
618	北池4区		弥生	高杯	15.4			剥落して調整不明	剥落して調整不明	にぶい橙 7.5YR7/4	【U小4】
619	北池4区		弥生	高杯	8.7			ナデ、刺突文	ナデ	橙7.5YR7/6	【U小4】
620	北池4区		弥生	鉢	7.7	7.2	2.8	口縁部ヨコナデ、胴部調整不明	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	【U小4】内面黒い物質
621	北池4区		弥生	鉢	18.5	14.1	7.7	ハケメの後ナデか?	剥落して調整不明(ヘラミガキか?)	にぶい橙 7.5YR7/3	
622	南池5区		弥生	甕	15.3			剥落して調整不明	剥落して調整不明	にぶい黄橙 10YR6/4	【U5-2B】
623	南池5区		弥生	高杯			17.0	脚柱部ハケメ、脚柱部ハケメ後ヘラミガキ	杯部ヘラミガキ?脚柱部ハケメ	にぶい橙 5YR7/4	山陽学園保管
624	南池5区		弥生	壺			7.9	胴部タテ・ナメハケメ	胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙 10YR7/3	【U5-2B】底部外面黒斑
625	南池6区		弥生	壺	19.2			口縁部擬凹線、頸部タテハケメ後沈線	頸部指頭押圧後タテヘラミガキ	灰褐10YR4/1	
626	南池6区		弥生	壺	21.7			口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ	口縁部ヨコヘラミガキ	明赤褐 2.5YR5/6	【U-6 暗褐】
627	南池6区		弥生	甕	21.5			口縁部ヨコナデ、擬凹線、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	にぶい黄橙 10YR7/4	
628	南池7区		弥生	甕			7.0	胴部タタキか?後細かいハケメ	胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙 10YR7/2	外面煤
629	南池9区		弥生	壺	13.8			口縁部擬凹線2条、頸部工具痕	頸部タテナデか?	灰黄2.5Y7/2	【U9-3】
630	南池9区		弥生	壺	14.3			胴部ハケメ後ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	浅黄2.5Y7/3	【U-9 青砂K】外面煤、内外面黒斑
631	南池9区		弥生	甕	15.0			口縁部ヨコナデ、ナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	橙7.5YR7/6	【U9-1】
632	南池9区		弥生	高杯			9.4	剥落して調整不明、脚部4か所	剥落して調整不明	橙2.5YR6/8	
633	南池9区		弥生	鉢	15.3	7.0	4.8	ナデと思われる	ナデと思われる	にぶい黄橙 10YR7/3	
634	南池10区		弥生	壺	18.8	36.1	7.6	頸部タテハケメ後沈線18条、胴部ヘラミガキ	口縁部ヨコヘラミガキ、胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙 10YR7/3	
635	南池10区	東	弥生	壺	14.3	18.5	6.5	口縁部ヨコナデ、タテのハケメ	胴部ヘラケズリ	灰褐黄 10YR6/2	胴部黒斑か?
636	南池10区	東	弥生	壺	12.9			剥落して調整不明	剥落して調整不明	橙7.5YR6/6	【U】
637	南池10区	東	弥生	甕	15.0			摩耗のため調整不明	胴部ヘラケズリ	にぶい橙 7.5YR7/4	【U10東褐粘砂6】胴部焼成後穿孔2か所
638	南池10区	東	弥生	甕	10.1			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	胴部ヘラケズリ後ナデ?	にぶい橙 7.5YR7/3	【U-10-7】【U-10E-北3】
639	南池10区	東	弥生	甕	12.5			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	胴部上はユビオサエ	にぶい黄橙 10YR7/3	【U-10E-北】
640	南池10区	東	弥生	甕	13.8			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ(剥落)	一部ユビオサエ、胴部ヘラケズリ	灰白10YR8/2	【U10E】【U-10 褐】外面黒斑
641	南池10区		弥生	甕	12.2	13.0	4.7	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい橙 7.5YR7/4	【U 10E】
642	南池10区		弥生	甕	13.9			胴部一部ハケメがみられる	剥落して調整不明	にぶい黄橙 10YR7/3	【U10-1】外面黒斑
643	南池10区		弥生	甕	15.1			口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	
644	南池10区	東	弥生	甕	15.0			口縁部ヨコナデ、胴部調整不明	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい橙 7.5YR7/3	【U-10E-北3】黒斑?
645	南池10区	東	弥生	甕	13.8			口縁部ヨコナデ、胴部下ハケメ後ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、ナデ	橙5YR6/6	【U-10E-北】
646	南池10区	東	弥生	甕	15.0			口縁部ヨコナデ、胴部下ハケメ後ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、ナデ	橙5YR6/6	【U-10E-北3】
647	南池10区	東	弥生	高杯	22.9			脚部ハケメ後ヘラミガキ、穿孔4か所	口縁部杯部ヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/3	杯部内外面黒斑
648	南池10区		弥生	高杯			10.4	剥落して調整不明、ナデか?	剥落して調整不明、ナデか?	にぶい橙 7.5YR7/4	

観 察 表

掲載番号	調査区	遺構・層位名	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調	備 考
649	南池10区		弥生	高杯			14.3	脚柱部沈線6条、穿孔3か所	脚柱部絞り痕、ナデ	橙7.5YR6/6	
650	南池10区		弥生	高杯				脚柱部穿孔3か所、脚裾部2か所残存	脚柱部工具によるタテナデ	にぶい橙7.5YR7/4	
651	南池10区	東	土師器	高杯	13.0	9.9	9.9	剥落して調整不明	剥落して調整不明	橙5YR7/6	
652	南池10区	東	弥生	鉢	18.0	6.7	0.6	胴部剥落して調整不明	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ	灰褐10YR6/1	「U10E」
653	南池10区		弥生	鉢	13.2	6.9	3.3	ナデか? 底部ユビオサエ	タテの細かいハケメ	にぶい橙7.5YR7/4	山陽学園保管
654	南池10区		弥生	鉢			5.2	剥落して調整不明	剥落して調整不明	橙5YR7/6	
655	南池10区		弥生	蓋	12.0	5.8	4.5	ユビオサエの後ヨコナデ、ナデ	剥落して調整不明	にぶい黄橙10YR7/4	山陽学園保管、上下逆?
656	南池10区		弥生	甕?			4.8	胴部タテハケメ	ヘラケズリ	褐灰10YR4/1	「U10-1」
657	南池10区		弥生	甕?			5.0	剥落で不明 (ヘラミガキ?)	剥落で不明 (ナデ?)	褐灰10YR4/1	
658	南池11区		弥生	甕	14.2			口縁部ヨコナデ、肩部ナデ	口縁部ヨコナデ、肩部ヘラケズリ	橙2.5YR6/8	外面黒斑
659	南池11区		弥生	高杯				杯部・脚部タテヘラミガキ	剥落して調整不明	にぶい橙7.5YR7/3	「U-11-黒褐」
660	南池12区		弥生	高杯			11.6	脚部タテヘラミガキ、穿孔4つ	脚部ナデ、絞り痕	橙7.5YR6/6	
661	南池13区		土師器	壺	25.9			全体的に剥落 (ヨコナデ?)	全体的に剥落 (ヨコナデ?)	にぶい橙7.5YR6/4	「U-13C暗褐上」
662	南池13区		弥生	製塩土器			5.0	剥落のため調整不明	剥落のため調整不明	にぶい橙5YR6/4	
663	南池15区		弥生	壺	19.0			胴部ハケメの後タテヘラミガキ	胴部ヘラケズリ後ナデ	にぶい黄橙10YR7/4	外面黒斑
664	南池15区		弥生	甕	16.3			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい橙7.5YR7/3	
665	南池15区		弥生	高杯	19.2			口縁部ヨコナデ、杯部ヨコヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、杯部ヘラミガキ	橙5YR6/8	「U15」外面黒?
666	南池15区		弥生	鉢	17.6	11.6	4.2	胴部剥落して調整不明	胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	
667	南池15区		弥生	鉢	11.4	8.0	3.5	ヘラミガキ	タテヘラミガキ	にぶい黄橙10YR7/4	「U15」
668	南池15区		弥生	鉢	37.3	19.7	9.2	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ	胴部ケズリの後ヘラミガキ?	橙5YR6/6	「U15」口縁部黒斑?
669	南池16区		弥生	壺	17.2			頸部ハケメの後沈線、胴部ハケメ後ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、頸部ヘラケズリの後ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	「U大16区 1961.4.17」 「U16」胴部外面黒斑
670	南池17区		弥生	高杯	23.1			口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	にぶい黄橙10YR7/3	山陽学園保管
671	南池17区		弥生	高杯			14.5	脚部タテヘラミガキ、穿孔1か所	脚部絞り痕、剥落して調整不明	にぶい黄橙10YR7/3	
672	南池17区		弥生	台付鉢	3.0	17.7	9.0	胴部ハケメ後ヘラミガキ、底部工具痕	口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ	にぶい橙7.5YR7/3	山陽学園保管 「U10-U17-1」
673	南池18区		弥生	壺			8.0	頸部タテハケメの後らせん状沈線17~18条 (剥落)	石こうのため調整不明、厚みも不明	にぶい黄橙10YR7/3	山陽学園保管 「U18-2」外面黒斑
674	南池18区?		弥生	鉢	15.8	8.2	5.6	胴部ハケメの後ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ	にぶい橙7.5YR7/4	外面黒斑
675	南池17区		須恵器	杯身	12.1			底体部上はナデ、下はヘラケズリ	ヨコナデ	青灰5PB6/1	
676	南池19区		弥生	壺	16.0			口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ	胴部ヘラケズリの後ヘラミガキ	灰黄2.5Y7/2	
677	南池20区	青灰粘質砂層	弥生	壺	17.4			口縁部ヨコナデ、胴部タテヘラミガキ	胴部ヘラケズリ後ヨコハケメ	にぶい橙7.5YR7/4	「U-20青灰砂」
678	南池20区	黄褐色土層	弥生	壺	17.0		11.2	口縁部ヨコナデ、胴部タテヘラミガキ	ケズリ後胴部工具ナデか?	にぶい黄橙10YR7/4	「U-20」外面黒斑
679	南池20区	黄褐色土層	弥生	甕	14.6	20.0	5.2	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ後ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	「U-20」全面炭
680	南池20区	黄褐色土層	弥生	甕	10.0	27.0	5.8	底面穿孔 (外から内へ)	ケズリか?	褐灰7.5YR4/1	竪穴住居10出土?
681	南池20区	黄褐色土層	弥生	鉢	48.0	20.5	16.0	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ	灰黄褐10YR5/2	
682	南池B区		弥生	壺	21.3			頸部タテハケメ後沈線、胴部タテヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ	にぶい黄2.5Y6/3	
683	南池B区		弥生	甕	16.0			口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	にぶい赤褐5YR5/4	「U大B1」
684	南池B区		弥生	甕	17.4			口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	橙5YR6/6	「UB」
685	南池B区	pit内	弥生	甕	14.0			口縁部ヨコナデ、タテハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	「UB2P」
686	南池B区	pit内	弥生	甕	15.8			口縁部ヨコナデ、タテハケメ	口縁部ヨコナデ、ナデ	灰黄2.5Y7/2	「UB2P」
687	南池B区		弥生	甕	15.4			口縁部ヨコナデ、胴部調整不明	胴部ヘラケズリ後ナデ	にぶい赤褐5YR5/3	「U-B-3」
688	南池B区		弥生	甕	17.4			口縁部ヨコナデ、ハケメ	口縁部ヨコナデ	灰黄2.5Y7/2	「U-B-3」内外面炭
689	南池B区		弥生	甕	14.8			口縁部ヨコナデ、肩部タテハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	灰黄褐10YR6/2	「U-B-3」口縁内面炭
690	南池A区	第3層	弥生	甕	14.0			頸部工具ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい黄橙10YR7/3	「U-A-3」外面炭
691	南池B区		弥生	高杯	12.7			タテヘラミガキ	タテ・ナデヘラミガキ	にぶい橙7.5YR7/4	「U大B1」
692	南池B区		弥生	高杯			10.4	タテヘラミガキ、穿孔3つ残 (4?)	脚裾部ヨコハケメ	にぶい橙7.5YR7/3	「UB3」
693	南池B区	pit内	弥生	台付鉢			10.6?	調整不明瞭、穿孔2つ残	脚部ヨコハケメ	褐灰10YR4/1	「UB2P」
694	南池B区	pit内	弥生	台付鉢?			4.0	胴部ヘラミガキ、底部ユビオサエ	ナデ	浅黄橙7.5YR8/4	「UB2P」「グラウンドB・2層ピット内」記載の荷札つき

掲載番号	調査区	遺構・層位名	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	色調	備考
695	南池B区		弥生	鉢				口縁部ヨコナデ、胴部タテハケメ	胴部ケズリ後ヨコハラミガキ	浅黄 2.5YR7/3	「UB2」内面煤?
696	南池B区		弥生	器台	10.3			ヘラミガキ後らせん状沈線(上3条のみ完結)	頸部上ヨコハラケズリ、下は絞り目	にぶい橙 7.5YR7/4	「UB2」
697	南池C区		弥生	甕	13.0			胴部ハケメ後ヘラミガキ、刺突7つ	胴部上はナデ後ユビオサエ	浅黄橙 10YR8/4	「U-C-2」外面黒斑
698	南池C区		弥生	壺	10.1			竹管文4か所のみ残存	口縁部ヨコナデ	浅黄橙 7.5YR8/4	「U-C-2」
699	南池C'区	pit	弥生	甕				肩部タテハケメ後ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、工具痕	にぶい黄橙 10YR7/2	「UC'ピット」
700	南池C'区	pit	弥生	甕				口縁部ヨコナデ、肩部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ、肩部ケズリ	にぶい黄橙 10YR7/2	「U-C'ピット」
701	南池C'区	pit	弥生	高杯			9.8	脚柱部ヘラミガキ(一部ヘラケズリ残)	脚裾部ハケメ、工具ナデ	橙5YR6/6	「UC'青灰土ピット」
702	南池C'区	pit	弥生	台付直口壺				銅歯文の後ヘラミガキ、竹管文	ヘラミガキ、工具ナデ?	にぶい橙 7.5YR7/4	「UC'ピット」
703	南池C'区		弥生	壺	19.0			口縁部ヨコナデ、擬凹線3条、ハケメ	口縁部ヨコナデ、ヘラミガキ	灰黄2.5Y7/2	「U大C'1」口縁内面黒斑
704	南池C'区		弥生	甕	17.9			口縁部ヨコナデ、胴部調整不明	胴部ケズリ	にぶい橙 7.5YR7/3	「U-C'」外面煤か?
705	南池C'区		弥生	甕	16.7			口縁部ヨコナデ、肩部調整不明	口縁部ヨコナデ、肩部ヘラケズリ?	にぶい橙 7.5YR7/4	「U-C-1」口縁部外面煤
706	南池C'区		弥生	甕	14.0			口縁部ヨコナデ、肩部タテハケメ	口縁部ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	「U-C-1」
707	南池C'区		弥生	甕	15.0			口縁部ヨコナデ、肩部タテハケメ	口縁部ヨコナデ、肩部ケズリ	橙5YR7/6	「U-C」
708	南池C'区		弥生	甕	12.0			口縁部ヨコナデ、胴部調整不明	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	にぶい橙 7.5YR6/4	「U大C'1」
709	南池C'区		弥生	甕	11.0	13.0	3.3	胴部ハケメ後一部ナデ	胴部ナデか?底部工具強く当たる	にぶい黄橙 10YR7/3	「U-C'-1R1」胴外・底面煤
710	南池C'・D区		弥生	器台?	29.9			口縁部ヨコナデ、刻目	タテヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/2	「U-C'・D2」
711	南池C'・D区		弥生	壺	15.4			口縁部工具ヨコナデ、頸部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、頸部ナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	「U-C'D-2」口縁部一部煤
712	南池D区	第2層	弥生	甕	17.0			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	「U-C'・D-2」外面煤
713	南池C'D区		弥生	甕	17.0			口縁部ヨコナデ、肩部タテハケメ	胴部ケズリ後ナデ	灰褐5YR5/2	「UC'-D2」外面煤
714	南池C'D区		弥生	甕	15.6			肩部タテハケメ	口縁部工具によるヨコナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	「U-C'・D-2」外面煤
715	南池C'D区		弥生	高杯			20.6	脚裾部タテヘラミガキ	脚裾部ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	「U-D第2層 C'と3層との境」 「U-C'D-2・3間」
716	南池D区	住居11混入?	弥生	高杯	12.7			完結沈線4条以上、穿孔5つ以上(6つ?)	脚部ヨコハケメ、中央に絞り痕	橙5YR6/6	「U-D-h8床」
717	南池C'・D区		弥生	鉢	18.0			口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ?	胴部タテヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/2	「UC'D2」
718	南池D区		弥生	台付鉢			5.0	杯部・脚部ヘラミガキ	杯部放射状ヘラミガキ	橙2.5YR6/6	「U-D-1F」
719	南池E区		弥生	甕	15.6		5.8	胴部ハケメの後タテヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ	にぶい橙 7.5YR7/4	「U-E-3」外面胴部煤か?
720	南池E区		弥生	高杯			13.7	脚部ヘラミガキ、らせん状沈線	剥落して調整不明	橙5YR6/6	「U-E-3」
721	南池E区		土師器	高杯	19.5			口縁部ヨコナデ、杯部ナデ	口縁部ナデ、工具によるナデ	にぶい橙 7.5YR7/3	「U-E-1」
722	南池F区		弥生	甕	20.0	32.5	7.0	胴部上ハケメ後ナデ、下タテヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、肩部ユビオサエ	にぶい黄橙 10YR7/3	「U-F」外・内面黒斑
723	南池F区		弥生	甕	14.3	24.4	5.2	胴部ハケメの後ナデ	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	灰黄褐 10Y R5/2	「UF」煤
724	南池F区		弥生	甕	12.6	16.7	4.6	口縁部ヨコナデ、胴部タテ・ヨコハケメ	胴部ヘラケズリの後ナデ?	灰褐7.5YR6/2	
725	南池F区		弥生	高杯			16.2	脚部ハケメ後ヘラミガキ	杯部細かいヘラミガキ	橙5YR6/6	「U-F-3」
726	南池F区		弥生	鉢	7.9	8.5	3.1	胴部タテハケメ後ヘラミガキ?	胴部ユビオサエ後ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	「U-F-3」
727	南池F区		弥生	鉢	17.5	12.8	6.9	胴部剥落して調整不明	胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ	橙2.5YR7/8	
728	南池F区		弥生	製塩土器				ナデアゲ、ユビオサエ	ナデ	にぶい橙 7.5YR7/3	「UF」
729	南池F区		弥生	蓋	11.9			ユビオサエ、タテハケメ	ヨコハケメ、絞り痕	にぶい黄橙 10YR7/2	「U-F」
730	南池北2A 掘2		土師器	高杯	19.8			ヨコナデ、ヘラケズリ後粗いヘラミガキ	ヨコナデ	橙7.5YR7/6	
731	南池J区		須恵器	蓋				天井部ヘラケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	黄灰2.5Y5/1	
732	南池J区	黒粘土	須恵器	杯身	13.5			ヨコナデ	ヨコナデ	褐灰10YR4/1	外面黒斑
733	南池J区	黒粘土	須恵器	杯身	16.2			ヨコナデ	ヨコナデ	灰白10YR8/2	
734	南池J区		土師器	碗			5.8	底部工具によるナデ、底面ヨコナデ	底部ヨコナデ	浅黄橙 10YR8/4	
735	南池J区	黒粘土	土師器	蓋	19.6			ヨコナデ、ナデ	ナデ	にぶい橙 5YR6/4	内面粗痕
736	南池J区東		須恵器	脚部				高台ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ後仕上げナデ?	灰白2.5Y7/2	
737	南池J区	黒粘土	土師器	高杯				ヨコナデ後ヘラミガキ、沈線1条	ヨコナデ、一部ヘラミガキがある	橙2.5YR6/6	
738	南池J区		土師器	杯身			7	底部工具によるナデ、底面ナデ	底部ヨコナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	
739	南池J区	黒粘土	土師器	台付鉢			11.6	ヨコナデ、沈線1条	ナデ	橙2.5YR6/6	
740	南池J区	黒粘土	土師器	杯身	15.8			ヨコナデ後ヨコハラミガキ	ヨコナデ後ヨコハラミガキ	にぶい褐 7.5YR5/3	

観 察 表

掲載番号	調査区	道構・層位名	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外 面	内 面	色 調	備 考
741	南池J区	黒粘土	土師器	甕				口縁部ナナメハケメ	口縁部工具によるナデ、ナデ	にぶい褐7.5YR5/3	
742	南池J区	黒粘土	土師器	甕	12.9			ハケメ (約2cm幅に14本)	ユビオサエ後ナデ	明赤褐2.5YR5/6	
743	南池J区	黒粘土	土師器	甕?				タテ・ヨコナデ	ユビオサエ後指ナデ	灰褐5YR5/2	
744	南池J区	黒褐土	土師器					ユビオサエ後ナデ	ユビオサエ後ナデ	にぶい褐7.5YR6/4	
745			弥生	壺	40.2			口縁部ナデ、頸部・胴部ヘラミガキ	胴部ヘラミガキ後ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	【U大】 胴部外面黒斑
746			弥生	壺	13.4			沈線あり、胴部ナデ	胴部押圧後ナデ	にぶい橙7.5YR7/4	瀬戸内考研保管
747			弥生	壺	15.4			口縁部ヨコナデ、沈線? 段?	口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ	橙5YR6/6	岡大保管
748			弥生	壺	13.7			口縁部ユビオサエ後ナデ、肩部凹滑なナデ	ユビオサエ後ナデ	灰白10YR7/1	瀬戸内考研保管
749	北・南池		弥生	壺	24.9			口縁部ハケメの上にヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、粘土ひもの痕跡あり	にぶい黄橙10YR7/2	瀬戸内考研保管
750			弥生	壺				ヘラ描沈線の弧文	ヨコヘラミガキ	灰白2.5YR7/1	岡大保管
751			弥生	壺				ヘラ描沈線の文様	剥落して不明	橙2.5YR6/6	瀬戸内考研保管
752			弥生	壺				ヘラ描沈線の直線文	ナデ?	橙7.5YR6/6	瀬戸内考研保管
753			弥生	甕				ヨコ工具によるナデ	口縁部ユビオサエ後ナデ	にぶい橙7.5YR6/4	瀬戸内考研保管、内面煤
754			弥生	甕				口縁部ヨコナデ、ユビオサエ残る	口縁部ヨコナデ	にぶい橙7.5YR6/4	岡大保管「U」
755			弥生	甕				口縁部ヨコナデ、段あり	口縁部ヨコナデ、ユビオサエ	橙5YR6/6	岡大保管「U」
756			弥生	甕				胴部ハケメ後ナデ、沈線1条	口縁部ヨコナデ、胴部調整不明	浅黄橙10YR8/3	岡大保管
757			弥生	甕	24.1			口縁部・胴部工具ナデ	口縁部工具ナデ	浅黄橙10YR8/3	瀬戸内考研保管
758			弥生	甕	20.8	21.6	8.0	胴部～底部工具ナデ	口縁部ヨコナデ、ユビオサエ	褐灰10YR5/1	瀬戸内考研保管
759			弥生	甕				口縁部刻目あり、剥落して調整不明	剥落して調整不明	にぶい橙7.5YR6/4	岡大保管「U」
760			弥生	甕	18.6			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、他不明	褐灰10YR4/1	瀬戸内考研保管
761			弥生	甕	19.6			口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	灰黄褐10YR6/2	瀬戸内考研保管
762			弥生	壺	35.1			円形竹管文、棒状浮文(6本)、頸部ハケメ	口縁部ヨコナデ、波状文	浅黄橙7.5YR8/4	瀬戸内考研保管
763			弥生	壺	25.4			竹管文1列3個、棒状浮文5か所5本ずつ	口縁部ヨコナデ、波状文	にぶい黄橙10YR7/3	瀬戸内考研保管
764			弥生	壺	10.7	28.1	7.1	胴部上はタテハケメ、下はヘラミガキ	胴部中央は工具によるナデ?	にぶい褐7.5YR6/3	胴部上黒斑、下に煤
765			弥生	甕	24.2			口縁部ヨコナデ、肩部ナデ	押圧、ナデ	にぶい黄橙10YR7/3	瀬戸内考研保管
766			弥生	甕	13.2	29.1	6	胴部上はハケメ、下はヘラミガキ	中央工具痕、下はヘラケズリ	灰黄2.5Y7/2	胴部外面黒斑・内面煤、内面煤
767			弥生	甕	13.8	28.9	6.3	肩部ハケメ、胴部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部上はユビオサエ	橙5YR7/6	内外面煤、外面底部黒斑
768			弥生	甕	13.6	28	5.6	口縁ヨコナデ、凹線3条、胴部上ハケメ、下はタテミガキ、底部・底面ナデ	胴部上ユビオサエ・ナデ、下ヘラケズリ、底部ユビオサエ・ナデ	にぶい黄橙10YR7/2	変形品、外面全体煤、口縁部内面黒斑、瀬戸考保管
769			弥生	甕	12.7	24.1	4.8	口縁部ヨコナデ、凹線2条、胴部上はタテハケメ、下はタテミガキ 底面ナデ	口縁部ヨコナデ、ナデ、胴部上はユビオサエの後ナデ、下はヘラケズリ	灰白2.5YR7/1	外面胴部全体・内面底部に煤、瀬戸内考研保管
770			弥生	甕	12.6	26.9	5	口縁部ヨコナデ、胴部タテハケメ、凹線3条、下はタテミガキ底面ナデ	口縁部ヨコナデ、ユビオサエの後ナデ、胴部上はハケメ、下はヘラケズリ	灰白2.5YR7/1	胴部外面煤、内面炭化物、瀬戸内考研保管
771			弥生	高環	18.8	17.8	9.9	凹線3条、杯部～脚柱部ヘラミガキ、沈線4条・4条・3条、脚裾部透かし穴7個	口縁部ヨコナデ、杯部ヘラミガキ、脚柱部ナデ?、脚裾部ヘラケズリ、ヨコナデ	にぶい黄橙10YR7/2	瀬戸内考研保管
772			弥生	高環	17.8	15.7	10.1	凹線3条、杯部多角形状ミガキ、ユビオサエ、沈線12条、脚裾部沈線3条	口縁部ヨコナデ、脚柱部ナデ?、脚裾部ヘラケズリ	灰褐10YR6/1	外面黒斑、瀬戸内考研保管
773			弥生	取手付壺	7.3	16.0	4.5	口縁部凹線、胴部下はタテヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ後ナデ	褐灰10YR5/1	外面底部黒斑、岡大保管
774	P?		弥生	甕				口縁部ナデ、胴部ハケメ	口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ	にぶい赤褐5YR5/4	【U2P】
775			弥生	壺	27.7			頸部タテハケメの後沈線20条、胴部貝殻刺突、ハケメ後ヘラミガキ	頸部に指ナデ若干認め、胴部ヨコヘラケズリ	にぶい褐7.5YR6/3	【津島グランド②】、岡大保管
776			弥生	特殊器台				間帯・突帯ヨコナデ、透し穴三角3つ残	ヨコヘラケズリ	にぶい橙7.5YR7/4	伝津島出土、岡大保管
777		堅穴住居3?	弥生	高杯	20.0			口縁部ナデ、杯部上はヨコハケメ後ヘラミガキ	口縁部ナデ、ヨコヘラミガキ、杯部放射状ヘラミガキ	にぶい黄橙10YR7/3	【U-h7-3】 口縁部内外面黒斑、岡大保管
778			弥生	高杯			12.0	タテヘラミガキ	脚柱部ナデ	橙5YR6/6	岡大保管
779			弥生	鉢	11.4	5.4	3.5	胴部ハケメ後ヘラミガキ	胴部工具ナデ後ヘラミガキ	明褐灰7.5YR7/2	瀬戸内考研保管
780			土師器	壺	5.8	6.4		口縁部ナデ、胴部ナデか?	口縁部ナデか?、胴部ケズリ	橙7.5YR7/6	【U表】、岡大保管
781		表面採集	青磁	碗				蓮花文の細いもの	下が指押さえ、上がハケメ	灰5Y6/1	瀬戸内考研保管

表3 土製品一覧表

番号	調査区	遺構・層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	色調	備考
C1	南池	竪穴住居1	瓢形土製品	(39.0)	(44.0)		14.3	橙 (7.5YR7/6)	
C2	南池13区	竪穴住居6	土錘	33.0	36.0	(15.0)	17.6	にぶい黄橙 (10YR6/4)	
C3	南池C・D区	竪穴住居11	棒形土製品	(53.0)			10.3	にぶい橙 (7.5YR7/4)	「h8床」
C4	南池北2A区	黒色粘土	紡錘車	41.5	(23.5)	10.3	9.6	灰黄 (2.5Y6/2)	
C5	南池C区		紡錘車	54.5		17.0	53.1	にぶい黄橙 (10YR7/2)	孔径7.0mm
C6	南池C'区		紡錘車	56.0		16.5	54.1	にぶい黄橙 (10YR6/4)	孔径7.0mm
C7	南池北4C区		紡錘車	54.0	51.0	5.0	17.2	にぶい橙 (7.5YR7/3)	「U北4C青灰粘」
C8	南池北2A区	下部包含層	紡錘車	38.0	40.0	39.0	67.9	にぶい橙 (5YR6/4)	黒斑、『岡山市史』p48 第13図
C9	南池北2A区	下部包含層	土錘	80.0	47.0	46.0	165.9	にぶい橙 (7.5YR7/4)	
C10	南池北2A区	下部包含層	土錘	90.0	49.0	48.0	182.5	にぶい橙 (7.5YR7/3)	黒斑、『岡山市史』p48 第13図
C11	南池J区東	黒土か?	土錘	68.0	39.0	41.0		浅黄 (2.5Y7/3)	
C12	南池J区	黒色粘土	土錘	57.0	40.0	39.0		浅黄 (2.5Y7/3)	
C13	南池2区		土錘	82.0	35.0	35.0	79.3	淡黄 (2.5Y8/3)	
C14	南池2区		土錘	(69.0)	33.0	(34.0)	58.9	淡黄 (2.5Y8/3)	「U-2b」
C15	南池2区		土錘	(47.0)	35.0	(32.0)	24.6	灰白 (10YR8/2)	「U7住南柱穴」
C16	南池J区	黒色粘土層	土錘	58.0	43.0	47.0		灰黄 (2.5Y7/2)	
C17	南池J区	黒色粘土層	土錘	(44.0)	15.0	17.0		明褐灰 (5YR7/2)	
C18	北池H区?		土錘	54.0	14.0		10.6	にぶい黄橙 (10YR7/2)	孔径4.0mm
C19			紡錘車	44.0		12.0	29.1	灰白 (10YR8/2)	孔径8.0mm
C20			紡錘車	33.5		29.0	24.8	灰白 (10YR8/2)	孔径4.0mm
C21	南池9区?		土錘	34.5		27.0	29.1	にぶい黄橙 (10YR6/4)	孔径6.0mm
C22			紡錘車	51.0	46.0	8.0	24.2	黄灰 (2.5Y5/1)	
C23			円盤	42.0	45.0	8.0	18.6	黄灰 (2.5Y6/1)	紡錘車未製品?
C24			土錘	69.0	38.0	38.0	86.5	にぶい黄橙 (10YR7/2)	
C25			銅鐸形土製品	(61.0)	(43.0)	16.0		にぶい黄橙 (10YR7/2)	外面植物繊維痕

※C1～3、5～7、13～15、18～25は岡山大学保管遺物、その他は瀬戸内考古学研究所保管

表4 石製品一覽表

番号	器種	調査区	出土地点・層位	材質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
S1	石錘	北池B区	土壌3	砂岩	103	102	49.5	694	
S2	石錘	北池B区	土壌3		99	92	39	593.3	
S3	打製石包丁	南池2区	竪穴住居2	サヌカイト	42.5	90.5	14	56.7	
S4	石匙	南池北2A区	下部包含層	サヌカイト	61	41	9	20	
S5	石鏃	南池北2A区	表土(褐色粘土)	サヌカイト	40.5	18	4	3.2	
S6	石錐	南池北2A区	(大量の土器)	サヌカイト	25	18.5	3.3	1.5	
S7	石鏃?	南池北2A区	(大量の土器)	サヌカイト	55.5	31.5	15	27.5	
S8	石斧?	南池北2A区	下部包含層	ホルンフェルス	36.5	47.5	20.5	40.6	
S9	石斧	南池北2A区	下部包含層	変輝緑岩	76.5	76.5	49.5	447.1	【岡山市史】p49掲載
S10	スクレイパー	南池北2A拡張区	下部包含層 (黒色粘土)	サヌカイト	89	46.5	15	60	【岡山市史】p46掲載
S11	スクレイパー	南池北2A拡張2区	横掘	サヌカイト	94.5	58	12	57.6	側縁潰した後研磨
S12	スクレイパー?	南池北2A拡張2区	褐色粘砂下部	サヌカイト	50	33.5	8.5	18.4	
S13	スクレイパー	南池北2B区	植物層上の砂層	サヌカイト	36.5	36	6	7	
S14	石鏃	南池北2A拡張2区	茶褐色砂質粘土	サヌカイト	26	19	2.6	1	
S15	石鏃	南池北2A拡張2区	茶褐色砂質粘土	サヌカイト	26	16.5	2.9	0.9	
S16	石鏃	南池北2A拡張区	黒褐色包含層	サヌカイト	21	20.5	4.5	2	
S17	石錐	南池北2A拡張2区	褐色粘砂下部	サヌカイト	49.5	15.5	6.5	5.8	
S18	石錐	南池北2A拡張2区	茶褐色砂質粘土	サヌカイト	51.5	20	8	5.4	
S19	石錐	南池北2A拡張2区	黒褐色包含層	サヌカイト	18	6.5	3.5	0.5	
S20	打製石包丁	南池北4B区		サヌカイト	83	43	11.5	43.1	
S21	スクレイパー	南池北4C区		サヌカイト	45	39	7.5	8.9	
S22	砥石	南池北4C区		頁岩	53.5	12	34	26.5	
S23	砥石	南池北4C区			92	76	35	239	
S24	打製石包丁	南池4区?		サヌカイト	63.5	52	9.5	25.4	
S25	打製石包丁	南池6区?	黄褐色土層	サヌカイト	41.5	41.5	6	14	
S26	石包丁未製品	南池C区?		変輝緑岩	130.5	89.5	34	465.6	
S27	砥石	南池C区?			114	33	102	269.3	
S28	調整のある剥片	南池C'区?		サヌカイト	66.5	46.5	9	20.8	
S29	播り石	南池C'区?			102	67	24.5	241.2	
S30	スクレイパー?	南池D区?			63.5	38	11	30.5	石包丁転用
S31	敲石	南池F区?			96	55	34	188.5	
S32	石錘	南池4カット			116	92	45	661.7	
S33	石錐?	南池?P区?		サヌカイト	25.5	25.5	4.7	3.3	
S34	磨製石包丁	南池6トレンチC1区	褐色砂層		55.5	55.5	7.4	25.9	【岡山市史】p46掲載
S35	打製石包丁	南池6トレンチC1区	黒褐色包含層	サヌカイト	31	25.5	5	4.2	
S36	スクレイパー	南池6トレンチC2区	黒褐色~黒粘土	サヌカイト	48	38.5	5	7.8	石包丁転用?珪酸付着 か摩滅?
S37	スクレイパー	南池6トレンチC2区	褐色砂	サヌカイト	69	67	9.5	48.5	
S38	スクレイパー	南池6トレンチC2区	黒褐色包含層	サヌカイト	56	36	9.5	21.3	
S39	スクレイパー?	南池6トレンチC2区	黒褐色包含層	サヌカイト	62.5	43	6.4	15.1	
S40	石鏃	南池6トレンチC2区	黒褐色包含層	サヌカイト	19.5	16.5	3.5	0.7	
S41	石鏃	南池6トレンチC2区	黒褐色包含層	サヌカイト	21	14	2.7	0.5	
S42	石鏃	南池6トレンチC2区	黒褐色土	サヌカイト	20	12	3	0.7	
S43	石鏃	南池6トレンチC2区	黒褐色~黒粘土	サヌカイト	37	22.5	7	5.2	

番号	器種	調査区	出土地点・層位	材質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
S44	石錐	南池6トレンチC1区	褐色砂層	サヌカイト	18	16	6	1.3	
S45	石錐	南池6トレンチC1区	褐色砂層	サヌカイト	19	9	4	1	
S46	石錐	南池6トレンチC2区	黒褐色包含層	サヌカイト	21.5	7.5	4.3	0.8	使用の為摩滅
S47	スクレイパー	南池8トレンチA区	上層青色粘土	サヌカイト	70	44	6.3	17.4	
S48	スクレイパー	南池8トレンチC区	土層	サヌカイト	71	34	9	19.1	
S49	石斧未製品	南池J区	黒色粘土層	サヌカイト	192	92.5	67	2016	風化で調整不明瞭
S50	石斧未製品	南池J区	黒色粘土層		79.5	54	46	265.4	
S51	石包丁未製品		竪穴住居9下層	古銅輝石安山岩	75	50	14	72.5	
S52	スクレイパー		竪穴住居9下層	サヌカイト	69.5	45.5	11	36.3	
S53	スクレイパー?		竪穴住居9下層	サヌカイト	34.5	38.5	5.5	8.4	
S54	石鋏		竪穴住居9下層	サヌカイト	92	73.5	20.5	113.8	
S55	調整のある剥片		竪穴住居9下層	サヌカイト	91.5	59.5	22	129.9	
S56	スクレイパー			サヌカイト	101	65	10.5	54.9	岡大保管
S57	スクレイパー			サヌカイト	52	46	5	11	岡大保管
S58	調整のある剥片			サヌカイト	42.5	28.5	3.5	4.5	岡大保管
S59	楔形石器				28.5	26.5	8	7	岡大保管
S60	楔形石器			サヌカイト	37.5	22	7	8.7	岡大保管
S61	磨製石包丁未製品			頁岩	49	55	14	48.9	岡大保管
S62	磨製石包丁			ホルンフェルス (半花崗岩)	33.5	33	6.3	6.2	瀬戸内考研保管
S63	太型蛤刃石斧			玢岩	175	74	55	1275	岡大保管
S64	石製紡錘車			黒色片岩	48.3	6.3	7	31.2	岡大保管
S65	砥石				74.5	54	36	187.4	岡大保管
S66	石鏃			サヌカイト	59.5	16.5	5	5.1	『岡山市史』p47掲載
S67	石鏃			サヌカイト	32.5	15	2.9	1.1	『岡山市史』p47掲載
S68	石鏃			サヌカイト	30.5	25.5	3.8	2.1	瀬戸内考研保管
S69	石錐			サヌカイト	42.5	14	4.7	2.4	『岡山市史』p47掲載
S70	敲石				170.5	73	45	789.7	岡大保管
S71	敲石				120	63.5	33	312	岡大保管
S72	敲石			流紋岩	109.5	69.5	15	176.9	岡大保管
S73	敲石			流紋岩	99.5	54	30	249.4	岡大保管
S74	敲石				135.5	46.5	23	206.6	岡大保管
S75	敲石			流紋岩	131	73.5	15.5	229.4	岡大保管
S76	石錘				85.5	61	66	470.9	岡大保管

※『岡山市史』掲載遺物は瀬戸内考古学研究所保管。

表5 金属製品一覧表

番号	調査区	出土地点・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考
M1	南池2区	竪穴住居3B	刀子	(2.2)	1.4	0.2	岡大保管
M2	南池13区	竪穴住居6		(2.9)	(0.6)	(0.5)	岡大保管
M3		包含層	刀子	(6.7)	1.3	0.3	岡大保管

表6 玉類・骨角製品一覧表

掲載番号	調査区	出土地点	出土層位	器種	材質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
B1	南池	竪穴住居9下層	黒土中前後期の境	管玉	凝灰岩?	21	7	2.4	1.5	完形
B2	南池?		表面	管玉	碧玉	14	3	1.5	0.2	完形
B3		11pit		小玉	ガラス	5.5	2.8	3.3	0.04	半分残存
H1				棒状製品		59	9	9	6.5	下端欠損

表7 新旧遺構名称対照表

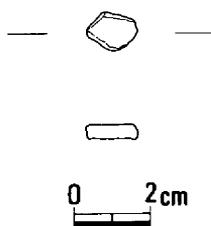
調査地点	新遺構名	旧遺構名	位置図	個別図	遺物との照合	備考
北池B区	土壙1	4pit	あり	なし	あり	
北池A区	土壙2	pit6	あり	平面、断面	あり	
北池O区	土壙3	7pit	あり	平面、断面	あり	
北池O区	土壙4	10pit	あり	平面、断面	あり	土器が調査区出土と接合
北池C区	井戸1	pit5	あり	平面、断面	あり	
北池A区	柱穴列1	柱穴列	あり	平面、断面	なし	柱穴2本のみ
北池H区	溝1	溝	あり	断面	あり	北側肩口のみ検出か
北池O区	土壙5	9pit	あり	平面、断面	なし	土層不明
北池	土壙6	第2貯蔵ピット	なし	平面、断面	なし	炭化米出土
北池	土壙7	第3貯蔵ピット	なし	平面、断面	なし	炭化米出土
南池	竪穴住居1	第1住居	あり	断面	あり	平面図不明
南池2区	竪穴住居2	第2住居	あり	平面、断面	あり	
南池2区	竪穴住居3	第7住居	あり	平面	あり(7,7b)	柱穴内の壺が行方不明
南池2区	竪穴住居4	第14住居	あり	なし	あり	住居か?
南池2・11区	竪穴住居5	第13住居	あり	なし	あり	住居か?
南池13区	竪穴住居6	第9住居	あり	平面、断面	あり	
南池13区	竪穴住居7	第10住居	あり	平面	あり	住居6より新
南池13区	竪穴住居8	第11住居	あり	略断面図のみ	あり	
南池	竪穴住居9	第3住居	なし	なし	あり	床面、下層から弥生前期土器多数出土
南池	竪穴住居10	第15住居	なし	なし	あり	南池20区に所在する?
南池C'~D区	竪穴住居11	第8住居	あり	平面、断面	あり	
南池第3カット	竪穴住居12	第4住居	なし	断面	なし	第3カットで切られる
南池第3カット	竪穴住居13	第5住居	なし	断面	なし	第3カットで切られる
南池D区	土壙1	D区pit	あり	平面、断面	あり	
南池	土壙2	E区pit	なし	平面、断面	あり	
南池H区	土壙3	H区Gpit	なし	なし	あり	写真から想定
南池4区	土器箱1	第2壺箱	あり	なし	あり	
南池B区	土壙4	B区pit	なし	平面	なし	B区北壁に接するが断面図にない

補遺編 武道館建設当初予定地出土遺物

ここで掲載した遺物は、1968（昭和43）年から1969（昭和44）年の武道館建設当初予定地において実施された発掘調査で出土したもので、現在山陽学園に保管されている。

遺物に関する注記には、遺物の出土地点はT 2 W30の土壙墓、出土日時は1968年の9月と記載されている。調査に参加された西川 宏氏によると、武道館建設当初予定地の調査区T IIのW35～W40中間で検出された2基の土壙の内、南側の土壙から出土した遺物であるという。また、この遺物は土壙底部から単独で発見され、土壙内に他の遺物は見られなかったということである。遺物が出土した土壙は、武道館建設当初予定地の発掘調査報告書『津島遺跡2』（註1）では33ページに掲載された土壙墓2を指しているものと考えられる。土壙墓2は古代の遺構と記載されている（註1）。

遺物は緑釉陶器の小片である。断面はほとんど平坦だがわずかに湾曲する形状を呈し、厚さは3～3.5mmを測る。表面の両面には濃緑色の釉薬が残る。素地は土師質で、色調は灰黄色を呈する。素地の胎土は精良で、砂粒が少ないものである。小片のため器種は不明であるが、両面に施釉していることから碗か皿の可能性が高い。時期は古代に属すると思われる。なお、緑釉陶器は北方下沼・横田・中溝・地蔵遺跡（註2）、北方藪ノ内遺跡（註3）、津島江道遺跡（註4）でも出土が見られる。



山陽学園保管武道館建設当初予定地出土遺物

註

- (註1) 平井 勝編『津島遺跡2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告151 2000年
 (註2) 岡田 博編『北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地蔵遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告126 岡山県教育委員会 1998年
 (註3) 高田恭一郎編『北方地蔵遺跡2・北方藪ノ内遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告149 岡山県教育委員会 2000年
 (註4) 高畑知功「津島江道遺跡」『岡山県埋蔵文化財報告18』岡山県教育委員会 1988年



1. 南池調査風景 1961年3～4月（東～南東から）（難波撮影）



2. 南池調査風景 1961年3～4月（北西～西から）（難波撮影）



1. 北池土壙 2
(近藤撮影)



2. 北池土壙 3
(近藤撮影)



3. 北池土壙 4
(近藤撮影)

1. 北池井戸 1
(南から)
(近藤撮影)



2. 北池柱穴列 1
(東から)
(近藤撮影)



3. 南池竪穴住居 2
第 1 面遺物出土状況
(近藤撮影)





1. 竪穴住居 2
第 2 面遺物出土状況
(難波撮影)



2. 竪穴住居 2
(東から)
(近藤撮影)



3. 南池竪穴住居 3・
4・5 検出状況
(東から)
(近藤撮影)

1. 竪穴住居3
(東から)
(近藤撮影)



2. 竪穴住居3柱穴内
遺物検出状況
(西から)
(難波撮影)



3. 作業風景
(竪穴住居3実測)
(難波撮影)





1. 南池豎穴住居6・7
(北西から)
(近藤撮影)



2. 南池豎穴住居11
(南西から)
(近藤撮影)



3. 豎穴住居11
の柱穴と土壇1
(近藤撮影)

1. 南池C'、D、E区
調査風景（南から）
（近藤撮影）



2. 南池C'区
遺物検出状況
（近藤撮影）



3. 南池10区
遺物検出状況
（近藤撮影）



図版 8



11



12



17



18



20



24



31



33



37



39



43



42



45



47



46



50



51



56



58



60



70



72



83



91



94



96

图版 10



98



102



100



101



107



108



109



110



112



114



115



116



120



121



124



126



125



122

图版 12



133



132



156



158



160



173



172



178



188



190



197



203



213



220



221



222



224



223



228



225



235



231

図版 14



240



244



243



252



255



258



266内面



274



280



284



296



308



312



311



329



316



318



329内面



316内面



327底面



323



336



338



344



343



361

図版 16



348



358



349



371



372



388



393



394



397



426



435



427



437



438



440



453



455



459



456



468

図版 18



546



549



553



555



761



758



768



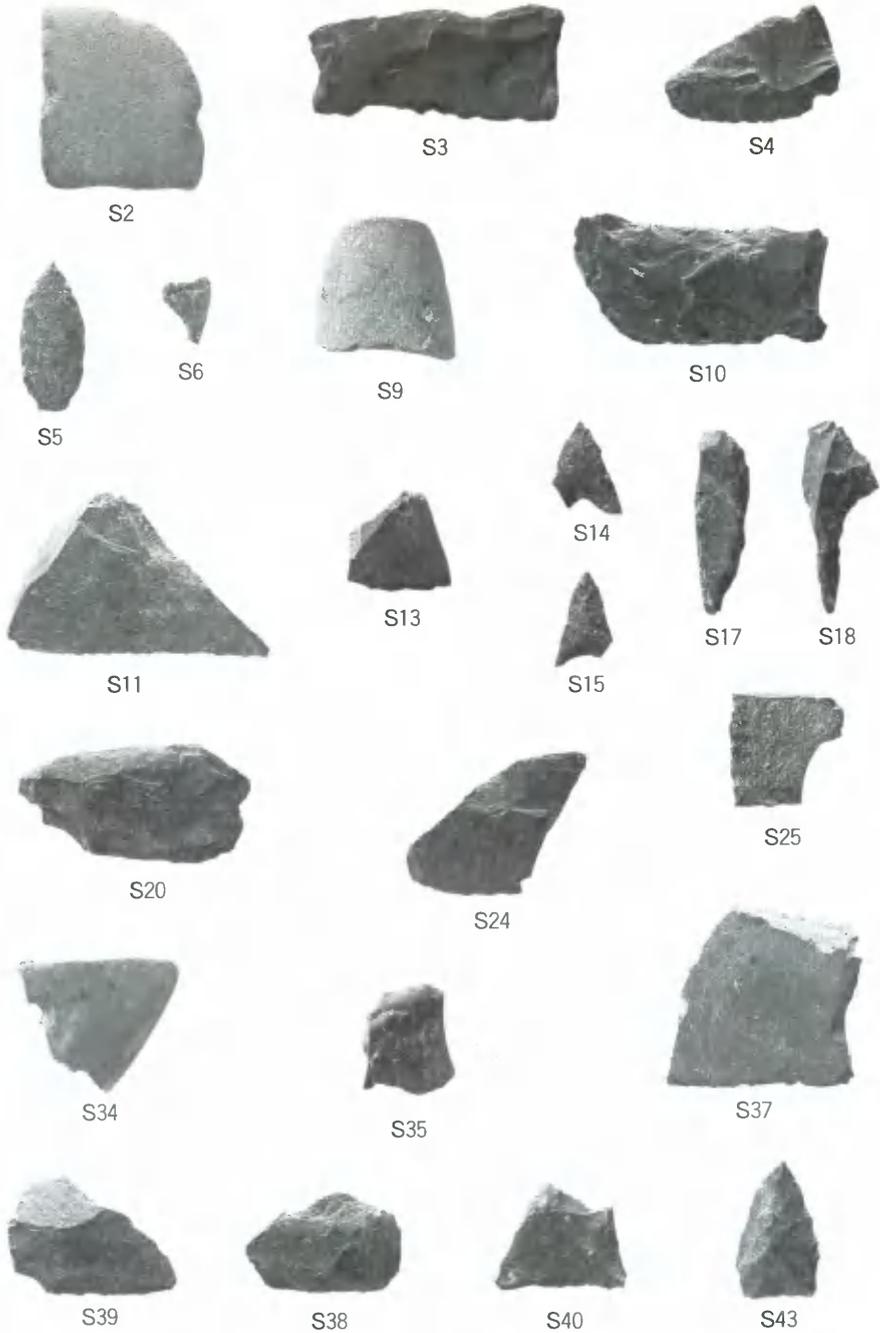
771



776



C25



図版 20



S40



S42



S41



S45



S46



S49



S50



S51



S52



S56



S62



S64



S63



S69



S67



S66



C1



C7



B1



B2



C4



C12



C22



B3

調査区・包含層出土石製品・土製品

報告書抄録

ふりがな	つしまいせき							
書名	津島遺跡3							
副書名	北池・南池地点の発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ番号	160							
編著者名	氏平昭則・正岡陸夫・松本和男・白石 純							
編集機関	岡山県古代吉備文化財センター							
所在地	〒701-0136 岡山県岡山市西花尻1325-3					TEL086-293-3211		
発行機関	岡山県教育委員会							
所在地	〒700-8570 岡山県岡山市内山下2-4-6					TEL086-224-2111		
発行年月日	2001年 3月 31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
つしまいせき 津島遺跡	おかやまけん 岡山県 おかやまし 岡山市いずみ町	33201		34度 42分 34秒	133度 55分 14秒	196003、06 ~07、10、 19610311~ 0425、 19621225~ 19630113、 19630321~ 0331	北池 220m ² 南池 585m ²	北池、南池 掘削に伴う 発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
津島遺跡	集落跡	弥生時代	竪穴住居 土壇 土器棺 包含層 旧河道	10軒 7基 1基	縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 青磁 備前焼 石器・石製品 土製品 鉄器	弥生時代前期の包含層 から木葉文を施した 完形の壺が出土		
		古墳時代	竪穴住居 井戸	1軒 1基		弥生時代~古墳時代の 微高地を確認		
		古代~中世	溝	1条				
		時期不明	竪穴住居 土壇 柱穴列	2軒 4基 1基				

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 160

津島遺跡 3

北池・南池地点の発掘調査

平成13年3月28日 印刷

平成13年3月31日 発行

編集 岡山県古代吉備文化財センター
岡山市西花尻1325-3

発行 岡山県教育委員会
岡山市内山下2-4-6

印刷 岡山県農協印刷株式会社
岡山市富町2-5-7